

年報の発刊にあたって

令和元年度は、独立行政法人国立文化財機構の第4期5ヵ年中期計画（2016～2020年度）の第4年度にあたります。今期中期計画では、東京文化財研究所の社会的使命として、①我が国の文化財研究を、有形・無形文化財等を対象に、基礎的なものから先端的、実践的なものまで総合的に行い、その成果を国内外に発信して、我が国の文化財研究の拠点としての役割を果たす、②文化財担当者の研修、地方公共団体への専門的な助言を行い文化財保護に貢献する、③保存科学・修復技術に関する我が国の中核としての役割を果たす、④世界の文化遺産保護に関する国際的な研究交流、保護事業への協力、専門家の養成、情報の収集と活用等を実施し、文化遺産保護における国際協力の拠点としての役割を担う、ことと定めています。

この使命を全うするため、当研究所に置かれた4研究部門のうち、文化財情報資料部では美術工芸品等に関する基礎的な研究業務に加え、有形・無形の文化財に関する様々な情報の収集と発信に関する調査研究に力点を置いて業務を推進しています。無形文化遺産部では、従来の伝統的な音楽や演劇、芸能、工芸技術といった無形文化財や民俗芸能、風俗・慣習等に加え、民俗技術などの無形民俗文化財の調査研究を進めるとともに、音声・映像による記録を作成し、文化財の保存に必要な用具や資材の生産技術等に関する保存技術についても調査研究を進めています。また、保存科学研究センターでは、文化財の保存に関する科学的な調査研究、修復のための材料・技術に関する実践的な基礎研究を行うとともに、国立文化財機構における保存修復業務に関する一体的な研究環境の構築を推進しています。さらに、文化遺産国際協力センターでは、アジア地域を中心とした諸国からの要請に基づいて文化財専門家養成や保存修復に関する技術移転等、相手国の実情に応じた

共同研究や研修事業を行うなど、文化の力による国際貢献に力を注いでいます。おかげ様で各部門の研究業務が順調に進展しているといえます。

さて、東日本大震災から早くも9年、熊本地震から4年が経ちました。平成26年度から国立文化財機構本部が中心となって開始した文化財防災ネットワークの構築のための検討が続いています。当研究所といたしましては近年の自然災害等の教訓を活かすべく、これまでの救援活動を分析し被災文化財の救援に関する技術や知識などの情報を取りまとめるとともに、無形文化遺産も含めて予防や減災の観点も取り入れた文化財の保存方法に関する研究も進めています。

ところで、世界各国からの要請も強い国際的な文化遺産保護支援に関する調査研究活動を行うにあたっては、国内の関係機関や関連分野の専門家との協力体制を充実・発展させることが肝要です。その意味で、「文化遺産国際協力コンソーシアム」（2006（平成18）年創設）の存在は大きく、その活動がさらに広まることが囑望されており、事務局運営を文化庁より任されている当研究所としてもその活動に積極的に関わって行きたいと考えています。

今後とも、より効率的かつ効果的な組織運営を心がけながら、当研究所が文化財保護に関する総合的な調査研究の拠点施設としてさらに発展するよう努力してまいりますので、皆様の御支援、御協力をお願い致します。

2020（令和2）年9月

独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所
所長 齊藤孝正

1. 機構 5

| | |
|------------------|----|
| 1. 組織図 | 7 |
| 2. 組織の概要と職員 | 8 |
| (1) 研究支援推進部 | 8 |
| (2) 文化財情報資料部 | 9 |
| (3) 無形文化遺産部 | 10 |
| (4) 保存科学研究センター | 11 |
| (5) 文化遺産国際協力センター | 13 |
| (6) 特任研究員 | 13 |

2. 年度計画及びプロジェクト報告 15

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 年度計画(平成31年度)とプロジェクトとの対応 | 17 |
| 2. プロジェクト報告 | 32 |
| ① 有形・無形の文化財に関する調査研究事業 | 35 |
| ② 保存修復に関する調査研究事業 | 41 |
| ③ 国際協力・交流等に関する事業 | 48 |
| ④ 情報収集・成果公開に関する事業 | 53 |
| ⑤ 刊行物に関する事業 | 67 |
| ⑥ 指導助言・研修等に関する事業 | 71 |

3. 外部資金等による研究活動 77

| | |
|---------------------------------|-----|
| 1. 科学研究費助成事業 | 81 |
| 2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究 | 109 |
| 3. その他の調査研究 | 132 |
| 4. 成果公開 | 134 |

4. 個人の研究業績 139

5. 研究交流 167

| | |
|---------------|-----|
| 1. 職員の海外渡航 | 169 |
| 2. 招へい研究員等 | 176 |
| 3. 海外研究者等の来訪 | 177 |
| 4. 主要来訪者、施設見学 | 178 |

6. 資料 179

| | |
|---------------------|-----|
| 1. 主な所蔵資料 | 181 |
| 1. 図書資料 | 181 |
| 2. その他 | 182 |
| 2. 研究所関係資料 | 183 |
| 1. 設立の経緯 | 183 |
| 2. 年代別重要事項 | 183 |
| 3. 歴代所長(昭和5年～令和元年度) | 186 |
| 4. 名誉研究員 | 187 |
| 5. 令和元年度予算等 | 188 |
| 3. 東京文化財研究所関係事業索引 | 193 |

1. 機構

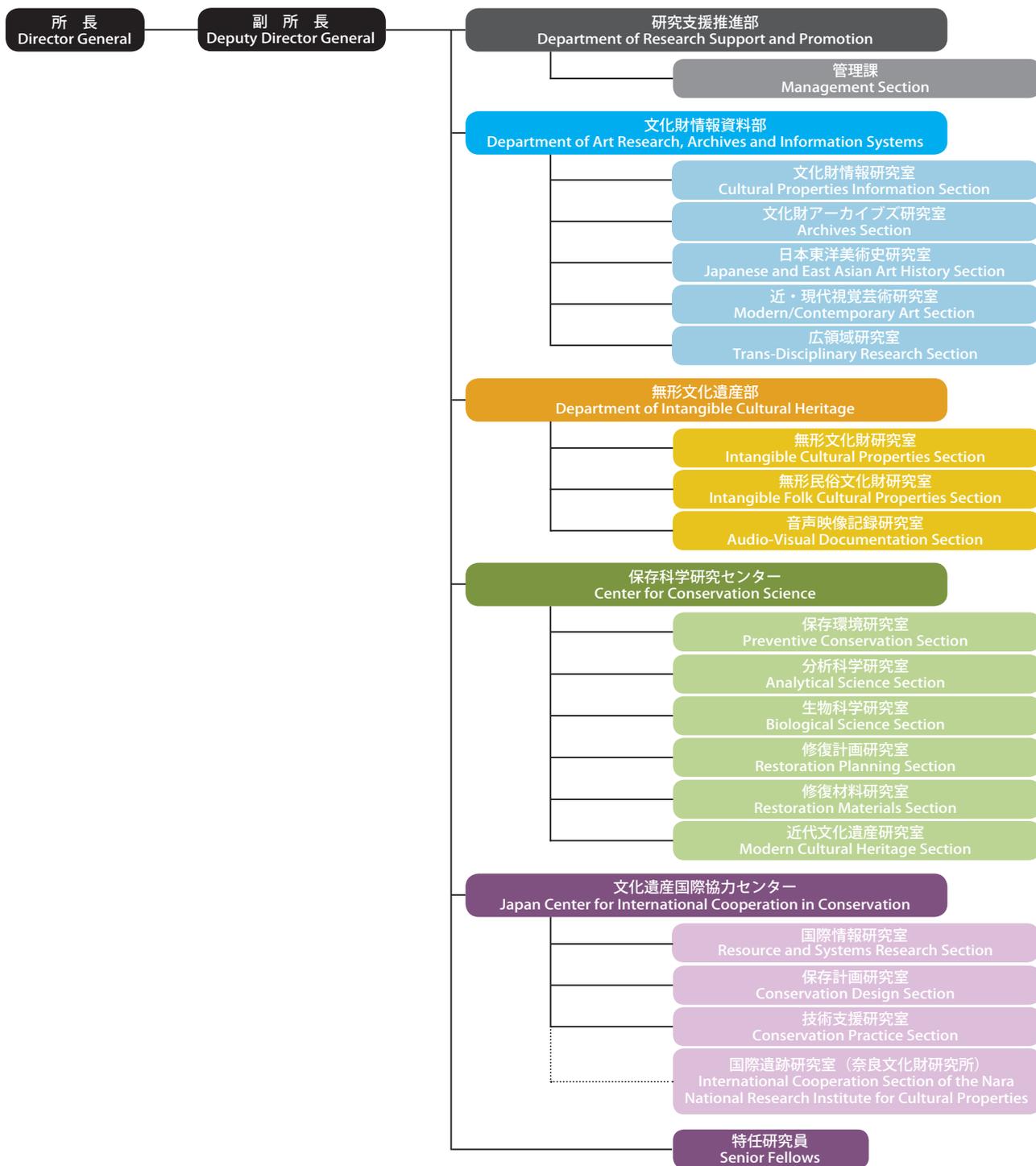
| | |
|------------------|----|
| 1. 組織図 | 7 |
| 2. 組織の概要と職員 | 8 |
| (1) 研究支援推進部 | 8 |
| (2) 文化財情報資料部 | 9 |
| (3) 無形文化遺産部 | 10 |
| (4) 保存科学研究センター | 11 |
| (5) 文化遺産国際協力センター | 13 |
| (6) 特任研究員 | 13 |

1. 組織図

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage

Tokyo National Research Institute for Cultural Properties



2. 組織の概要と職員

所長 齊藤 孝正 (日本陶磁史)、副所長 山梨 絵美子 (日本近代絵画史)

(1) 研究支援推進部

〈組織概要〉

研究支援推進部は、東京文化財研究所の事務部門として、管理課に総務係、企画渉外係、財務係、契約係を置き、総務、人事、他機関との渉外、国際交流、財務管理、会計、施設管理等の業務を通じ研究支援を行っている。

本年度も継続して、各係内の担当業務の整理を行うなど合理化を検討・実施し、各研究部門との連携を深め、研究所の円滑な運営に努めた。

総務係

東京文化財研究所における業務方法書の変更、中期計画及び年度計画の取りまとめ、事業年度の業務実績についての評価委員会の評価に関する事務を行っている。また、情報公開に関する事務、秘書業務に関する事務、文書の授受・発送に関する事務、文化庁等の他機関、法人本部及び各施設並びに所内の連絡調整に関する事務、人事管理に関する事務（アソシエイトフェロー、有期雇用職員、客員研究員、調査・研究アシスタントの任免に関する事務を含む）、共済組合に関する事務、栄典及び叙勲に関する事務等を行っている。

企画渉外係

海外渡航に関する事務、研修及び国際研究集会等の実施に関する事務、国際交流等に係る政府機関及び関係団体との連絡調整に関する事務等を行っている。また、外部資金に関する事務、在外日本古美術品修復協力事業に関する事務、寄付金の受入、研究所視察及び見学の受入と対応、所蔵の写真、出版物等の使用許可に関する事務、規程の制定・改廃に関する事務等を行っている。

財務係

財務諸表の作成に関する事務、決算報告書の作成に関する事務、監事及び会計監査人の監査に関する事務、予算・決算に関する事務、資金管理及び出納に関する事務等を行っている。

契約係

物品及び役務の調達、契約の執行に関する事務、給与計算及び給与の支払いに関する事務、諸謝金及び、旅費の執行に関する事務、物品、建物及び設備等の管理に関する事務等を行っている。

| | | | |
|----------|----------|-------|-----------|
| 研究支援推進部長 | 川島美奈子 *1 | 財務係長 | 日高信二 |
| 管理課長 | 安達佳弘 | 事務補佐員 | 前田桐里 *9 |
| 室長 | 日高信二 | 事務補佐員 | 町田沙織 *10 |
| 総務係長 | 安川政和 *2 | 事務補佐員 | 岸 薫美 *11 |
| | 井上裕介 *3 | 契約係長 | 大島大輔 *13 |
| 事務補佐員 | 岡崎瑠美 *4 | 事務補佐員 | 坂田茉莉衣 *12 |
| 事務補佐員 | 勝田こと | 事務補佐員 | 小河みづほ *14 |
| 事務補佐員 | 並木沙保里 | 事務補佐員 | 木村諒子 |
| 事務補佐員 | 佐々木彩乃 *5 | 事務補佐員 | 安藤 遥 |
| 企画渉外係長 | 三本松俊徳 | 事務補佐員 | 福田里美 |
| 任期付専門職員 | 小田切真梨 *6 | 事務補佐員 | 辻 光紗 *15 |
| | 廣原大樹 *7 | 事務補佐員 | 三宅真保 *10 |
| 事務補佐員 | 石川絵梨子 | 事務補佐員 | 田中亜純 *8 |
| 事務補佐員 | 松澤和恵 *8 | 事務補佐員 | 高山尚美 *16 |

* 1 平成 31 年 4 月 1 日付文化庁より異動

* 2 令和 元 年 7 月 1 日付機構本部へ配置換

* 3 令和 元 年 7 月 1 日付機構本部より配置換

* 4 平成 31 年 4 月 1 日付採用

* 5 令和 2 年 2 月 29 日付退職

* 6 令和 2 年 1 月 17 日付退職

* 7 令和 2 年 1 月 1 日付採用

* 8 令和 元 年 12 月 1 日付採用

* 9 令和元年6月30日付退職
* 10 令和元年9月30日付退職
* 11 令和元年7月16日付採用
* 12 令和元年10月1日付配置換

* 13 令和2年3月31日付東京大学へ異動
* 14 令和2年3月31日付退職
* 15 令和元年6月1日付採用
* 16 令和元年11月18日付採用

(2) 文化財情報資料部

〈組織概要〉

文化財情報資料部は、文化財に関する調査研究を実施するとともに、調査研究の成果・情報についてのアーカイブ化を進め、適した情報インフラストラクチャを整備し、研究の成果・情報の適宜公開を行う。また国内外の研究機関との研究交流を実施する。調査研究においては、1) 黒田清輝(1866-1924)の遺言により造られた黒田記念館に設置された美術研究所以来の黒田周辺の作家等との交流を中心とした近現代作品の研究を進めるとともに、2) 日本及び東アジアの美術に関する調査研究を行い、美術史研究に資する良質な資料や情報を作成・提供する。また、3) 時代や地域などにとらわれない横断的な広領域にわたるテーマを設定し、人文学のほか、自然科学的研究手法の応用を進め、多角的な視点から研究を進める。併せて、黒田記念館における作品と研究成果の展示について当部が担当する。4) 研究情報のアーカイブ化においては、文献資料、過去の調査記録等のデジタル化を推進し、研究のための閲覧促進を目的とする画像データベースを作成・運用する。画像資料にとどまらず文献資料及び研究情報を付加した文化財の専門的アーカイブを構築する。5) 研究成果の公開の一環として、『美術研究』(年3冊)、『日本美術年鑑』(年1冊)ほかの公刊、オープンレクチャーを開催する。所内各部門の研究情報の共有化のために総合研究会を企画・開催し、各年度の研究や事業を総括した年報編集の事務を取り扱う。6) 研究情報発信のため、所内広報委員会の情報システム部会ならびにアーカイブ委員会下にあるアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を運用・管理し、ウェブサイト及び外部公開データベースの充実を図る。さらに、資料閲覧室で架蔵図書等の諸資料の公開閲覧を担う。

文化財情報研究室

情報システムセキュリティの確保に留意しつつ、調査研究及びウェブを活用した成果公開のための情報基盤の整備を行うとともに、文化財情報データベースを拡充する。また、ウェブサイトの構築・運用を通じて研究成果公開を行う。さらに、文化財情報及び情報技術の文化財保護への活用について研究を行う。

画像情報室：光学理論やデジタル技術を応用した最先端の画像形成技術を開発・駆使し、視覚的な研究情報を提示する。

文化財アーカイブズ研究室

文化財に関する画像や図書等の情報・資料を収集・整理し、文化財情報統合アーカイブを作成し、全所的にとりまとめて公開する。

資料閲覧室：受け入れた文化財関連の図書や定期刊行物、展覧会カタログ、写真資料などを整理し、月・水・金曜日に一般の利用者に公開するほか、各種の書誌や研究情報のデータベースを作成する。また、所蔵資料のデジタル化と目録作成を進め、提供する。

日本東洋美術史研究室

江戸時代までの日本と東アジアの美術を研究する。また、美術の価値形成の多様性を解明するため、美術史研究のための資料学的な基盤を整備する。

近・現代視覚芸術研究室

明治以降の日本美術を研究する。近現代美術に関わる研究資料を収集・整理し、研究手法を開発するとともに、現代美術の動向を調査・研究する。

広領域研究室

美術のジャンルや時代、地域を横断する課題に取り組み、文化財に関わる諸分野と連携して、広い視野から文化財を研究し、その材料・技法・制作過程等を明らかにする。

| | | | | | |
|---------------|-------|--------------|-------|-------|----------------|
| 文化財情報資料部長 | 塩谷 純 | (日本近代絵画史) *1 | 研究補佐員 | 田村彩子 | (資料保存) *6 |
| 文化財情報研究室長 | 二神葉子 | (考古科学) | 研究補佐員 | 逢坂裕紀子 | (都市社会学) *7 |
| 文化財アーカイブズ研究室長 | 江村知子 | (日本絵画史) | 研究補佐員 | 安岡みのり | (ウェブ作成) |
| 日本東洋美術史研究室長 | 小林達朗 | (日本中世絵画史) | 研究補佐員 | 丸山 礼 | (ウェブ作成) *5 |
| 近・現代視覚芸術研究室長 | 塩谷 純 | (日本近代絵画史) *2 | 研究補佐員 | 尾野田純衣 | (美術資料) |
| 広領域研究室長 | 小林公治 | (物質文化史) | 客員研究員 | 三上 豊 | (近現代美術) |
| 主任研究員 | 小野真由美 | (日本近世絵画史) | 客員研究員 | 丸川雄三 | (情報学) |
| 研究員 | 安永拓世 | (日本近世絵画史) | 客員研究員 | 中野照男 | (東洋絵画史) |
| 研究員 | 橘川英規 | (美術資料) | 客員研究員 | 田中 潤 | (近代史料) *6 |
| 研究員 | 小山田智寛 | (美学・情報学) | 客員研究員 | 片山まび | (東洋陶磁史) |
| 研究員 | 米沢 玲 | (仏教美術史) | 客員研究員 | 田中 淳 | (日本近代絵画史) |
| 専門職員 | 城野誠治 | (画像情報・文化財写真) | 客員研究員 | 齋藤達也 | (フランス近代美術) |
| アソシエイトフェロー | 三島大暉 | (図書館情報学) *3 | 客員研究員 | 永崎研宣 | (人文情報学・仏教学) |
| アソシエイトフェロー | 野城今日子 | (日本近現代彫刻史) | 客員研究員 | 津田徹英 | (日本彫刻史) |
| 研究補佐員 | 手呂内孝憲 | (日本近代絵画史) *4 | 客員研究員 | 田所 泰 | (日本近代美術史) |
| 研究補佐員 | 阿部朋絵 | (美術資料) *8 | 兼務 | 久保田裕道 | (無形文化遺産部) |
| 研究補佐員 | 細川民子 | (美術資料) *5 | 兼務 | 西 和彦 | (文化遺産国際協力センター) |
| 研究補佐員 | 谷口每子 | (画像形成) | 兼務 | 早川典子 | (保存科学研究センター) |
| 研究補佐員 | 寺崎直子 | (日本絵画史) | 併任 | 皿井 舞 | (東京国立博物館) |
| 研究補佐員 | 大前美由希 | (現代美術) *6 | | | |

* 1 平成 31 年 4 月 1 日付昇任

* 2 平成 31 年 4 月 1 日付兼務

* 3 令和 2 年 1 月 10 日付退職

* 4 令和 元年 10 月 1 日付採用、令和 2 年 3 月 31 日付退職

* 5 令和 2 年 3 月 31 日付退職

* 6 平成 31 年 4 月 1 日付採用

* 7 令和 元年 6 月 30 日付退職

* 8 令和 元年 10 月 1 日付採用

(3) 無形文化遺産部

〈組織概要〉

無形文化遺産部は、無形文化財（伝統的工芸技術、古典芸能）、無形民俗文化財（風俗慣習、民俗芸能、民俗技術）及び文化財保存技術という、日本における無形文化遺産の全体を対象として、その保存継承に資する基礎的な調査研究を実施している。内容は多岐にわたっており、保護対象の確定や適切な保護手法の確立のためには、無形文化遺産を構成する諸要素の専門的な調査・研究が重要である。また、人によって伝承されるために、年代や社会情勢の変化に伴って変容する要素も大きい。このため、文献的研究の蓄積に加えて、伝承の実態に即した調査研究を実施している。

重要な保護手法である音声・映像による記録については、その作成の実施とともに新たな手法開発についての研究を行っている。無形文化遺産保護にとって、音声・映像記録は、記録保存的役割はもちろんのこと、その伝承ツールとしても重要な意味を持つ。このため、無形文化遺産部では、他機関では行うことのできない希少演目等の記録保存事業を実施すると同時に、既存の記録活用のために、デジタルアーカイブ構築に向けての研究を行っている。

このほかに、無形文化遺産分野についてアジアを中心に海外との研究交流も実施している。

無形文化財研究室

古典芸能、伝統的工芸技術などの無形文化財、及び文化財保存技術について、伝承実態の調査や技法技術の変遷の研究など、その保護に資するための基礎的調査研究を行っている。

無形民俗文化財研究室

風俗慣習、民俗芸能、及び民俗技術などの無形民俗文化財について、その保護に資するための基礎的調査研究を、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等の実地調査に基づいて行っている。また、映像記録作成、公開事業等、現実的な問題について全国の関係者との協議を実施し、その対策の検討も行って

いる。

音声・映像記録研究室

無形文化遺産に関する記録のアーカイブ化、記録作成手法について研究を行っている。また無形文化財、無形民俗文化財の現状を把握し、後世へ継承するために、それらの音声・映像記録を作成している。

| | | | |
|-------------|--------------------|-------|----------------|
| 無形文化遺産部長 | 山梨絵美子 (日本近代絵画史) *1 | 客員研究員 | 原田一敏 (工芸技術) |
| 無形文化財研究室長 | 前原恵美 (古典芸能) | 客員研究員 | 荒川正明 (工芸技術) *4 |
| 無形民俗文化財研究室長 | 久保田裕道 (民俗芸能) | 客員研究員 | 俵木 悟 (民俗芸能) |
| 音声映像記録研究室長 | 石村 智 (文化遺産学) | 客員研究員 | 松山直子 (工芸技術) |
| 主任研究員 | 菊池理予 (工芸技術) *2 | 客員研究員 | 今岡謙太郎 (古典芸能) |
| 主任研究員 | 今石みぎわ (民俗学) | 客員研究員 | 永井美和子 (修復技術) |
| | (文化財防災ネットワーク推進事業) | 客員研究員 | 大西秀紀 (古典芸能) |
| アソシエイトフェロー | 佐野真規 (映像アーカイブ) | 客員研究員 | 鎌田紗弓 (古典芸能) |
| 研究補佐員 | 半戸 文 (近代史) *3 | 客員研究員 | 菊池健策 (民俗学) |
| 研究補佐員 | 牛村仁美 (工芸技術) | 客員研究員 | 宮澤京子 (文化財映像学) |
| 研究補佐員 | 金 昭賢 (古典芸能) | 客員研究員 | 森下愛子 (工芸技術) |
| 客員研究員 | 星野厚子 (古典芸能) | 客員研究員 | 宮田繁幸 (民俗芸能) |
| 客員研究員 | 齊藤裕嗣 (古典芸能・民俗芸能) | 客員研究員 | 神野知恵 (民俗芸能) |
| 客員研究員 | 山崎 剛 (工芸技術) | 客員研究員 | 赤井紀美 (近代演劇) |
| 客員研究員 | 谷垣内和子 (古典芸能) | 客員研究員 | 橋本かおる (古典芸能) |
| 客員研究員 | 伊藤 純 (民俗学) | | |

* 1 平成 31 年 4 月 1 日付兼務

* 2 令和 2 年 3 月 31 日付文化庁へ異動

* 3 令和 元 年 8 月 31 日付退職

* 4 令和 2 年 3 月 31 日付退職

(4) 保存科学研究センター

〈組織概要〉

保存科学研究センターは、文化財の保存科学・修復技術に関する調査・研究を行うナショナルセンターとしての役割を担っている。科学的な方法を用いて、文化財を取り巻く環境の調査や文化財の材料及び構造に関する調査を行い、文化財の保存や理解に役立つ知見の集積・発信を行っている。また、文化財の置かれた環境履歴を調査し、適切な修復材料・技術の改良・開発、評価及びメンテナンス手法に関する研究を行っている。得られた研究成果は紀要『保存科学』を通じて、すみやかに公開している(ウェブにてフリーアクセスコンテンツ)。これらの知見をもとに、「文化財の虫菌害に関する調査・助言」「文化財の材質・構造に関する調査・助言」「美術館・博物館等の環境調査と援助・助言」「文化財の修復及び整備に関する調査・助言」の4項目について、地方公共団体に対して協力を行い、地域の文化財保護の質的向上に寄与している。また、国立文化財機構内の2研究所・4博物館に加え、2018(平成30)年7月に設立された文化財活用センターの保存修復担当の研究員を保存科学研究センターの併任とし、文化財の構造・材質調査や文化財の保存管理上の課題解決等について、相互に連携して、随時取り組む体制を構築している。

保存環境研究室

博物館・美術館など展示・収蔵施設における文化財の安全な保存環境の確立のため、温度湿度、光、空気汚染物質などが文化財に与える影響を調べ、劣化を予防する研究を行っている。劣化因子の測定方法の基準化を図るとともに、各施設の担当者と連携し、現場での環境モニタリングや、改善のための実証研究も行っている。LED・有機ELなどの新しい光源の展示・収蔵環境に及ぼす影響や照明効果などに関する研究に重点を置いている。

分析科学研究室

様々な科学的分析手法によって文化財の構造・材質を調査し、劣化状態を含む文化財の物理的・化学的な特徴を明らかにする研究を行っている。X線や光を使った非破壊的な手法を中心に、各種小型可搬型機器を

用いた調査方法の開発とその応用によって、文化財の構造・制作技法のみならず美術史・工芸史・考古学等との連携により制作年代・生産地研究などへ視野を拡げ、文化財の総合研究を実現、牽引している。

生物科学研究室

昆虫やカビなど、生物による文化財の劣化機構の解明とその防除方法に関する調査研究を行っている。博物館や美術館などの展示・収蔵環境にある文化財、歴史的建造物や古墳などの屋外にある文化財の生物が原因となる劣化現象の発生原因と解決方法について調査研究を行うとともに、生物が発生・繁殖することによる観覧者や作業員などの人体への影響も視野に入れた対策の開発に力を入れている。

修復計画研究室

文化財の持つ本質的な価値をできるだけ改変することなく次の世代へと伝えていくために、その文化財を構成する材料の特性を確認し、それが置かれている環境を調査し、適切な修復と保存の方針を策定していくための研究を行っている。

修復材料研究室

膠や漆などの伝統的材料、近代になり開発され使用されてきたものなど、従来文化財修復に使用されてきた修復材料の評価と改良を行うとともに、新しい修復材料の開発評価、及び修復への適用方法の検討を行っている。併せて、安全な文化財修復を実現するために、文化財の伝統的製作技法や材料製作に関する調査研究を行っている。

近代文化遺産研究室

工場・橋梁などの大型建造物、航空機、鉄道車両などの機械器具、フィルムや洋紙などの工業製品など、日本の近代化を担ってきた文化遺産に関して、保存修復のための情報収集、技術・材料の調査及び開発を行い、次世代に適切に伝えていくための保存手法・保存計画のあり方等を研究している。

| | | | | | |
|------------------|-------|-------------------|-------|-------|-------------|
| 保存科学研究センター長 | 佐野千絵 | (保存環境学)*1 | 客員研究員 | 本多貴之 | (高分子分析) |
| 保存科学研究センター副センター長 | 早川泰弘 | (分析化学) | 客員研究員 | 山内泰樹 | (視覚情報処理) |
| 保存環境研究室長 | 佐野千絵 | (保存環境学)*1 | 客員研究員 | 山本記子 | (装潢修理技術) |
| 分析科学研究室長 | 犬塚将英 | (物理計測) | 客員研究員 | 貴田啓子 | (保存科学) |
| 生物科学研究室長 | 佐藤嘉則 | (微生物生態学) | 客員研究員 | 岡田 健 | (文化財学) |
| 修復計画研究室長 | 朽津信明 | (地質学) | 客員研究員 | 古田嶋智子 | (保存科学) |
| 修復材料研究室長 | 早川典子 | (高分子化学) | 客員研究員 | 片山葉子 | (環境微生物学) |
| 近代文化遺産研究室長 | 早川泰弘 | (分析化学)*2 | 客員研究員 | 宇高健太郎 | (東洋絵画材料) |
| 研究員 | 倉島玲央 | (有機化学) | 客員研究員 | 苅田重賀 | (航空史) |
| 研究員 | 水谷悦子 | (環境工学)*3 | 客員研究員 | 簡 佑丞 | (土木史) |
| アソシエイトフェロー | 石田真弥 | (建築史)*1 | 連携併任 | 富坂 賢 | (東京国立博物館) |
| アソシエイトフェロー | 小峰幸夫 | (応用昆虫学) | 連携併任 | 荒木臣紀 | (東京国立博物館) |
| アソシエイトフェロー | 嶋原由美 | (油彩画保存修復)*4 | 連携併任 | 和田 浩 | (東京国立博物館) |
| アソシエイトフェロー | 藤井佑果 | (東洋絵画修復) | 連携併任 | 土屋裕子 | (東京国立博物館) |
| アソシエイトフェロー | 林 美木子 | (文化財防災ネットワーク推進事業) | 連携併任 | 瀬谷 愛 | (東京国立博物館) |
| 研究補佐員 | 相馬静乃 | (保存科学)*3 | 連携併任 | 横山 梓 | (東京国立博物館) |
| 研究補佐員 | 山府木碧 | (漆工品保存修復) | 連携併任 | 大原嘉豊 | (京都国立博物館) |
| 研究補佐員 | 柳沼由可子 | (考古学)*1 | 連携併任 | 福士雄也 | (京都国立博物館) |
| 研究補佐員 | 鳥海秀実 | (絵画保存修復) | 連携併任 | 降幡順子 | (京都国立博物館) |
| 研究補佐員 | 岡部迪子 | (保存科学) | 連携併任 | 鳥越俊行 | (奈良国立博物館) |
| 研究補佐員 | 中村 舞 | (保存科学)*5 | 連携併任 | 木川りか | (九州国立博物館) |
| 事務補佐員 | 小安友利恵 | | 連携併任 | 志賀智史 | (九州国立博物館) |
| 客員研究員 | 酒井清文 | (酵素工学) | 連携併任 | 秋山純子 | (九州国立博物館) |
| 客員研究員 | 藤井義久 | (木材科学) | 連携併任 | 高妻洋成 | (奈良文化財研究所) |
| 客員研究員 | 堤 一郎 | (産業技術史)*1 | 連携併任 | 脇谷草一郎 | (奈良文化財研究所) |
| 客員研究員 | 北原博幸 | (建築環境学) | 連携併任 | 田村朋美 | (奈良文化財研究所) |
| 客員研究員 | 大場詩野子 | (油画修復) | 連携併任 | 松田和貴 | (奈良文化財研究所) |
| 客員研究員 | 吉澤 望 | (建築環境工学) | 連携併任 | 吉田直人 | (文化財活用センター) |
| 客員研究員 | 小堀信幸 | (船舶)*1 | 連携併任 | 間 澗 創 | (文化財活用センター) |

*1 令和2年3月31日付退職

*2 平成31年4月1日付兼務

*3 平成31年4月1日付採用

*4 令和元年5月31日付退職

(5) 文化遺産国際協力センター

〈組織概要〉

文化遺産国際協力センターは、文化遺産の保存修復及び調査研究の分野においてわが国が国際協力を推進するためのナショナルセンターとしての役割を担っており、国内外の教育研究機関や民間団体等とも連携しながら、世界各地で積極的な協力活動を実施している。その活動内容は、文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信、文化遺産保護国際協力事業の実施、文化遺産の保存修復に関する技術移転・人材育成協力等、多岐にわたっている。

国際情報研究室

国際社会における文化遺産に関する理念や法制度等、文化遺産の保護制度や施策に関して、国際動向や国際協力等の情報を収集・分析している。また、研究協議会等を通じて情報発信している。

保存計画研究室

アジア諸国等の文化遺産の保存・管理・整備・活用に関し、現地政府機関等と協力しながら、調査研究及び計画立案、さらには事業実施にあたっての技術的助言等を行っている。また、紛争や自然災害時における被災文化遺産の救済や復興活動にも協力している。

技術支援研究室

文化遺産の修復手法や材料及び技術に関する調査研究や人材育成への協力など、技術移転を通じて諸外国への支援を行っている。

| | | | | | |
|---------------|--------------|--------------|------------|-------|------------------|
| 文化遺産国際協力センター長 | 友田正彦 | (建築学) | アソシエイトフェロー | 五嶋千雪 | (現代美術) |
| 国際情報研究室長 | 西和彦 | (建築学) | アソシエイトフェロー | 牛窪彩絢 | (宗教学)*5 |
| 保存計画研究室長 | 金井健 | (建築学)*1 | アソシエイトフェロー | 浅田なつみ | (建築学) |
| 技術支援研究室長 | 加藤雅人 | (製紙科学) | アソシエイトフェロー | 堀まなみ | (紙保存修復)*6 |
| 研究員 | 前川佳文 | (壁画保存修復) | アソシエイトフェロー | 片渕奈美香 | (染織品保存科学)*7 |
| 研究員 | 安倍雅史 | (考古学) | 研究補佐員 | 橋本広美 | (保存科学)*8 |
| アソシエイトフェロー | 小田桃子 | (東洋絵画保存修復)*2 | 事務補佐員 | 石田智香子 | |
| アソシエイトフェロー | ヴァルエリフベルナ | (建築学)*3 | 事務補佐員 | 岡崎未来 | |
| アソシエイトフェロー | マルティネスアレハンドロ | (建築学)*4 | 事務補佐員 | 廣野都未 | *5 |
| アソシエイトフェロー | 松保小夜子 | (文化政策) | 客員研究員 | 石井美恵 | (染織修復・染織品保存科学)*8 |
| アソシエイトフェロー | 牧野真理子 | (考古学) | 客員研究員 | 大河原典子 | (日本画) |
| アソシエイトフェロー | 後藤里架 | (保存修復) | 客員研究員 | 杉山恵助 | (東洋絵画修復) |
| アソシエイトフェロー | 境野飛鳥 | (保護制度) | 客員研究員 | 山田大樹 | (地域計画) |
| アソシエイトフェロー | 間舎裕生 | (考古学) | 兼務 | 二神葉子 | (文化財情報資料部) |
| アソシエイトフェロー | 五木田まきは | (文化資源学) | 兼務 | 石村智 | (無形文化遺産部) |

*1 平成31年4月1日付文化庁より異動

*2 令和2年1月15日付退職

*3 令和元年8月1日付採用

*4 令和元年9月30日付退職

*5 平成31年4月1日付採用

*6 令和元年5月1日付採用、令和元年9月30日付退職

*7 令和元年12月1日付採用

*8 令和2年3月31日付退職

(6) 特任研究員

川野邊渉 (高分子化学)
 高桑いづみ (古典芸能)
 飯島満 (古典芸能)
 中山俊介 (船舶工学)

2. 年度計画及びプロジェクト報告

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 年度計画(平成31年度)とプロジェクトとの対応 | 17 |
| 2. プロジェクト報告 | 32 |
| ①有形・無形の文化財に関する調査研究事業 | 35 |
| ②保存修復に関する調査研究事業 | 41 |
| ③国際協力・交流等に関する事業 | 48 |
| ④情報収集・成果公開に関する事業 | 53 |
| ⑤刊行物に関する事業 | 67 |
| ⑥指導助言・研修等に関する事業 | 68 |

1. 年度計画(平成31年度)とプロジェクトとの対応

凡 例

- (1) 本項では、「平成31年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画」から、東京及び奈良文化財研究所に関連する「2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施」以下を掲載し、運営費交付金による各プロジェクトとの対応関係を表した。
- (2) 年度計画の各項目に対応するプロジェクトは、項目の文末に示した。なお、プロジェクトの略号については、第2章 2. プロジェクト報告 32～33頁を参照されたい。

平成31年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画

独立行政法人通則法(平成十一年法律第百三号)第三十一条の規定により、平成28年3月31日付け27受庁財第3634号で認可を受けた独立行政法人国立文化財機構中期計画に基づき、平成31年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信(略)

2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

① 有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究

1) 我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究

ア 国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と研究会を開催する。その他機関との連携も図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。 [シ01](#)

イ 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究及び光学調査を進め、研究の基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。 [シ02](#)

ウ 近現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向付けに大きく関わった欧米等の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。その事業のひとつとして日本美術家人名データベースの作成を進める。 [シ03](#)

エ 美術作品を中心とする有形文化財についてのより深い理解を得ることを目的として、螺鈿や漆器等を主な対象として、その表現・技術・材料について自然科学や伝統技術、また歴史学等の隣接諸分野とも連携した多角的調査研究を実施するとともに、新たな研究手法の検討・開発に取り組む。

シ04

2) 建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究

法隆寺古材調査を中心とする古代建築の調査研究を推進する。また、近世・近代を中心とした我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存を行っている各自治体等への協力を行う。

3) 歴史資料・書跡資料に関する調査研究

近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、仁和寺等の資料について公表に向けて整理研究を行う。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

【評価軸】

- ・我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。
- ・有形文化財の保存修復等に寄与しているか。

②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究

1) 重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等 △01 △03

無形文化財等の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。記録作成に関しては、これまで継続してきた講談等の演芸に加え、邦楽分野についても範囲を広げ実施する。

調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座等を通して公表する。

また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。

2) 重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等 △02

我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形の民俗文化財、及び文化財の保存技術のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。特に災害下における伝承の復興や、後継者不足等により継承の危機にある伝承を重点的に調査研究の対象とする。

さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努めるとともにネットワーク構築を図る。

3) 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 △05

日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行う等、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。ユネスコ無形文化遺産保護条約に関する調査研究を進める。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

【評価軸】

- ・無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。

③ 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究

1) 史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究

我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。

ア 遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料の収集・調査・整理等を行う。また、近世等の遺跡の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。

イ 近世の庭園に関する研究集会「庭園の歴史に関する研究（仮称）」を開催する。また、近世庭園調査を行うとともに、庭園に関する基礎資料の収集・整理を進める。

2) 古代日本の都城遺跡に関する調査研究

国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。

ア 古代都城の解明のため、平城宮跡東院地区及び東区朝堂院地区、平城京跡、東大寺塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。

イ 出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。

ウ 飛鳥時代の壁画古墳について東アジアを主とする古墳、壁画、天文図等の事例との比較研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、寺院出土の金属製遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の出土部材の研究を行う。

エ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（鞏義市黄冶窯跡・白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、北票喇嘛洞墓地出土の陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。

3) 重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究

文化的景観及びその保護に関する景観の調査及び保護に関する調査研究の成果をまとめる。また、文化的景観の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、前年度に開催した研究集会の成果をまとめ、報告書を刊行する。

4) 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究

我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。

ア 全国の遺跡のうち官衙・古代寺院を中心とした資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。

イ 古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。

5) 水中文化遺産に関する調査研究

国内の水中文化遺産の調査に取り組むとともに、主に海外の水中文化遺産に関する調査研究及び保存活用の事例を調査し、今後の取組に資する。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

【評価軸】

- ・記念物の保存・活用に寄与しているか。
- ・古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。
- ・文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。

- ・埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

①文化財の調査手法に関する研究開発の推進

1) デジタル画像の形成方法等の研究開発 シ05

さまざまな光源を用いた高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するための調査・研究を行い、その成果を公開する。その一環として、ガラス乾板等の過去に撮影された写真原版からの画像の取得手法に関する調査研究を行う。

2) 埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発

埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査、地質の検証、遺構・遺物の計測についての手法及び資料の製作技法や形態に基づく資料分析、一般にむけてのAR・VR、ゲーム等の利用を含めた成果を活用する方法について研究を進める。

3) 年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発

出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、年輪データの蓄積を進める。また、マイクロフォーカスX線CTを用いた非破壊調査手法の活用や、年輪年代学的手法による同一材推定の応用等、分析方法の研究開発を進め、これらの研究成果を公表する。

4) 動植物遺存体の分析方法の研究開発

平城宮跡・藤原宮跡等から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法について基礎的な研究を行う。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

【評価軸】

- ・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与しているか。

②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究

1) 生物被害の予防と対策に関する調査研究 ホ01

歴史的建造物、古墳環境等生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、遺伝子等を指標とした簡易・迅速な生物モニタリング手法を用いた実践研究を発展させるとともに、虫菌害被害を受けた文化財に対して薬剤を用いない環境低負荷型の防除方法の普及を行う。

2) 文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 ホ02

白色LED照明の展示物への影響についてこれまでの研究成果をまとめ、蛍光灯からの切り替えを助ける普及教材を作成する。さらに、温湿度解析の事例研究を進め、博物館内の汚染物質として防腐剤も含む化学物質について汚染事例を収集し、改善方法を検討する。

3) 可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 ホ03

複数の可搬型機器を活用して、絵画・工芸品・建造物等に関する高精度な材質・構造・状態調査を行う。これまでに調査した絵画作品の調査報告書を刊行する。さらに、文化財の劣化によって生じた生成物の分析を行い、劣化要因の特定と対策法の検討を行う。

4) 屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 ホ04

屋外に所在する石造・木質文化財及び自然史資料を対象に、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行うことから、特にそれぞれの価値を人々に有効に伝えて行く具体的な方法について検討を進める。

5) 文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 **ホ05**

美術工芸品及び建造物等の修復においてこれまでに使用されてきた伝統材料及び今後使用が想定される新しい修復材料と新規修復方法について、調査研究と評価を行う。30年度までの成果をもとに、海外から研究者を招聘し、国内の最先端の事例も含めて文化財修復に関する研究会を行う。また、昨年度の文化財修復に関する研究会報告書の刊行を行う。

6) 考古遺物の保存処理法に関する調査研究

種々の材料調査分析法を総合的に活用して出土遺物の材質、構造及び劣化状態に関する診断調査を行い、保存処理法の開発に資する基礎的なデータを収集する。特に、鉄製遺物の効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の保存処理における薬剤含浸・固化工程を効率化する新手法を開発するための基礎研究を行う。

7) 遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究

環境制御による劣化抑制の成否について検証するため、平城宮跡遺構展示館等をフィールドとして、遺構の劣化の進行速度と周辺的环境についてモニタリング調査を行う。石造文化財等多孔質材料の劣化要因である塩析出及び乾湿繰り返しが材料の劣化に及ぼす影響に関する基礎研究を行う。さらに、埋蔵環境における金属製品の腐食プロセスを解明するため、金属腐食実験を行い、環境因子と劣化の関係を定量的に評価する。

8) 建造物の彩色に関する調査研究

建造物彩色等の材料調査を行い、使用されている材料の同定と彩色技法の調査研究を行う。復元された平城宮跡大極殿において、建造物塗装彩色の経年変化に関する研究を行うため、環境調査並びに大極殿塗装彩色及び暴露試験用塗装彩色手板の色彩測定を行う。

9) 近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 **ホ06**

近代文化遺産の特徴である煉瓦・石・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化や保存手法に関する基礎的調査研究を行う。31年度は複数の材料から構成される建造物の内部造作を対象として、保存・修復の理念と手法を検証、評価する。

10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究

ア 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。

ホ p.47

イ 壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な石室内の熱水分環境について調査研究を行う。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

【評価軸】

- ・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。

(3) 文化遺産保護に関する国際協働

① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

1) 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信

海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。

ア 世界遺産委員会をはじめとするユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、国内外において文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化遺産保護施策の検討の用に供する。**コ01**

イ 英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。

2) 文化遺産保護協力事業の推進

国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。

ア 文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。

(ア) カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。□02 □03

(イ) 西アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究を実施する。特にイラン・アルメニア等において文化遺産保護協力事業を実施する。□02

(ウ) 上記各事業と連携しつつ、文化遺産の保護に関する研究会の開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。□03

3) 文化遺産の保存・修復に関する人材育成等

文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。

ア 国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化遺産保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹、漆及び漆文化遺産等についての保存修復の講義と実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果をもとに修復を行う。また、国際研修「紙の保存と修復」の共催等、政府間機関文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）に協力する。□04 □05

イ ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が実施する研修への協力を行う。□05

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・文化遺産保護の国際協働に関する取組状況

（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の参加者の満足度、諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、以下の事業を行う。

- ・同地域における無形文化遺産保護分野の研究についての総合的情報収集、及びその成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実
- ・アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集
- ・同地域における無形文化遺産保護及び無形文化遺産の保護に関する条約への研究を通じた貢献方策について検討するための研究者フォーラムの実施
- ・同地域における無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究の実施
- ・アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究
- ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数）

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

① 文化財情報基盤の整備・充実

文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。

- 1) 文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。特に全国遺跡報告総覧を充実させる。シ06

2) 被災文化財関連情報に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。シ06

3) 文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。シ06

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・ 図書、雑誌等の公開に関する取組状況
(資料閲覧室・図書資料室の開室日数、利用者数、文化財に関する資料・図書等の総件数)
- ・ 文化財に関するデータベースの公開件数(前中期目標の期間の実績以上)
- ・ (関連指標) データベースのデータ件数
- ・ (関連指標) データベース等へのアクセス件数

② 調査研究成果の発信

文化財に関する調査研究成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイト充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。

1) 定期刊行物の刊行 シ07 △04 ホ07

- ・ 『東京文化財研究所年報』
- ・ 『東京文化財研究所概要』
- ・ 『東文研ニュース』
- ・ 『美術研究』(年3冊)
- ・ 『日本美術年鑑』
- ・ 『無形文化遺産研究報告』
- ・ 『無形民俗文化財研究協議会報告書』
- ・ 『保存科学』
- ・ 『奈良文化財研究所紀要』
- ・ 『奈良文化財研究所概要』
- ・ 『奈文研ニュース』
- ・ 『埋蔵文化財ニュース』

2) 公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 シ08

- ・ 公開講座(オープンレクチャー)
- ・ 公開講演会
- ・ 現地説明会

3) ウェブサイトの充実・東文研総合検索システム シ05

- ・ 東京文化財研究所刊行物一覧
- ・ 学術情報リポジトリ
- ・ なぶんけんブログ(探検!奈文研、コラム作寶樓等)

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・ 定期刊行物等の刊行件数(前中期目標の期間の実績の年度平均以上)
- ・ 講演会等の開催回数(前中期目標の期間の実績の年度平均以上)
- ・ (関連指標) 講演会等の来場者数
- ・ (関連指標) 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

③ 展示公開施設の充実

平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、日本博関連展示を行う。

1) 特別展・企画展

(平城宮跡資料館)

- ・ 企画展「高御座」(4月27日～6月2日)

- ・奈良国立博物館・奈良文化財研究所合同企画 夏の子ども展示「ならのみやこのしょくぶつえん」(仮)(7月20日～9月1日)
- ・特別展「地下の正倉院展」(10月12日～11月24日)
- ・企画展「発掘速報展」(2020年2月1日～3月31日)

(飛鳥資料館)

- ・特別展「骨ものがたりー環境考古学の研究室のお仕事」(4月23日～6月23日)
 - ・企画展「第9回写真コンテスト作品展「あすかの古墳」(仮)」(7月19日～9月1日)
 - ・特別展「日本人と自然ー飛鳥の景観と歴史(仮)」(10月11日～12月1日)
 - ・企画展「飛鳥の考古学2019」(2020年1月24日～3月15日)
- 2) 定期的に勉強会や研修を開催し、平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに、解説ボランティアとの連絡会議等を通じて、より効果的かつ効率的な制度運用を行う。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

① 文化財に関する研修の実施

- 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと協力して行う。
- 2) 研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。 **ホ08**

② 文化財に関する協力・助言等

国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

- 1) 文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。 **シ ム ホ**
- 2) 蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
- 3) 地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。

③ 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。

- 1) 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力
 - ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備・公開、管理事業への協力
 - ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力
 - ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力
 - ・国土交通省の平城宮いざない館展示室4（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力
- 2) NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力

④ 連携大学院教育の推進

連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

- 1) 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進
 - ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学) **ホ** p.75
 - ・京都大学大学院：共生文明学(文化・地域環境論)
 - ・奈良女子大学大学院：比較文化学(文化史論)

⑤文化財等の防災・救援等への寄与

1) 体制づくり

地域の多様な文化資源の保護を目的として、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行う。

- ・文化遺産防災ネットワーク推進会議や文化遺産防災ネットワーク有識者会議を開催する。
- ・機構各施設が地区分担を行い、自治体や博物館等施設、史料ネット等へのヒアリング、情報交換会の開催、調査の実施及び会議への参加等を通じて地域文化財防災ネットワーク構築を促進する。
- ・災害発生時の迅速な救援活動を実現するため、地域間連携・組織間連携のガイドライン策定を行う。

2) 調査研究等の実施

ア 文化財等の防災・救援の技術的課題に関する調査研究を行い、情報の発信を行う。

- ・全国の文化財防災の先進事例や地方指定等文化財情報に関する情報を収集・整理し、共有化を図る。
- ・国及び地方指定等文化財に関する全国文化財等データベースのデータ収集、全国文化財保護条例データベースの補完を進め、活用の方法を検討する。
- ・自然史標本リストの共有システムのモデルケースを提示し、歴史災害痕跡のデータベース等の運用・活用を進め、地域文化遺産リストに関する地図作成作業等の成果を公開し、広く文化財全般の防災ネットワーク構築に寄与する。
- ・文化財が被災した自然災害に関する事例集を作成し、公開する。

イ 保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境等に関する研究を実施し、指針の策定を目指す。

- ・けいはんなオープンイノベーションセンターの施設を利用し、収蔵庫機能の維持管理等を行いつつ関西地区における文化財防災の拠点としての活用について研究を行う。
- ・自然災害により被災した様々な状態の被災資料に関する劣化診断・応急処置等の方法や安定的保管のための保存環境に関する研究を行う。

ウ 無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。

- ・無形文化遺産総合データベースのデータ収集と公開を進め、これを活用して無形文化遺産の防災に寄与する。
- ・無形文化遺産の動態記録作成等を通じて、災害発生後の継承と無形文化遺産が地域の復興に果たす役割等に関する研究を実施する。

3) 人材育成・事業啓発活動等の実施

- ・本事業での取組についてウェブサイト・パンフレット等を作成・更新して国内外への情報公開に努める。
- ・被災資料の応急処置等に関わる動画を作成し、公開する。
- ・文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動として、シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。
- ・国際研修・シンポジウム等の実施・参加を通して、諸外国の防災の取組や被災文化財の保全処置方法に関する新たな知見の入手に努めるとともに、我が国の経験を活かして諸外国の文化財防災に貢献する。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・研修の実施件数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
- ・研修の受講者数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
- ・研修成果の活用状況（中期目標期間にアンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。）
- ・専門的・技術的な援助・助言の取組状況（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 業務改善の取組

(1) 組織体制の見直し

- ・国際業務の推進体制の整備の一環として、2019年ICOM 京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、機構内における組織体制を整備する。
- ・情報セキュリティの確保・維持の重要性に鑑み、本部情報担当部門の検討を継続し、設置する。

(2) 人件費管理の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

(3) 契約・調達方法の適正化

- ・契約監視委員会を実施する。
- ・施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。

(4) 共同調達等の取組の推進

周辺の他機関を含めた共同調達について、有用性が確認された以下の案件について引き続き実施する。

上野地区 再生 PPC 用紙、トイレトペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、複写機賃貸借、
トイレ洗浄機器等賃貸借

京都地区 再生 PPC 用紙、トイレトペーパー

九州地区 再生 PPC 用紙、トイレトペーパー、ガソリン

(5) 一般管理費等の削減

① 機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化

機構のネットワークの統合を検討し、業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。

② 計画的なアウトソーシング

以下の業務の外部委託を継続して実施する。

(東京国立博物館)

- ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
- ・資料館業務の一部
- ・施設内店舗業務

(京都国立博物館)

- ・警備業務、清掃業務、設備保全業務の一部
- ・会場運営業務
- ・代表電話対応及び受付業務

(奈良国立博物館)

- ・建物設備の運転・管理業務
- ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務

(九州国立博物館)

- ・建物設備の運転・管理業務等
- ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務

(東京文化財研究所・奈良文化財研究所)

- ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

③ 使用資源の減少

- ・省エネルギー
光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。
- ・廃棄物減量化
使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。
- ・リサイクルの推進
廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。

2. 業務の電子化

機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行い、政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。

3. 予算執行の効率化

収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし、引き続き効率的な予算執行に努める。

III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 自己収入拡大への取組

(1) 博物館の入場料の見直しを検討する。

(2) 機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。

(3) 保有資産の有効利用の推進

(博物館4施設)

- ① 講座・講演会等を開催する。
- ② 講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
- ③ 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

(文化財研究所2施設)

セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・展示事業等収入額 (前中期目標の期間の実績の年度平均以上)
- ・(関連指標) その他寄附金等収入額

2. 固定的経費の節減

固定的経費の節減のため、II 1.(5) 一般管理費等の削減に関する事項に取り組む。

3. 決算情報・セグメント情報の充実等

独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。

IV 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

1. 予算

別紙のとおり

2. 収支計画

別紙のとおり

3. 資金計画

別紙のとおり

V その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 内部統制

内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。

2. その他

(1) 自己評価

運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

(2) 情報セキュリティ対策

情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。

また、自己点検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。

3. 施設設備に関する計画

別紙のとおり施設設備に関する計画に沿った整備を推進する。

4. 人事に関する計画

(1) 中長期的な人事計画の策定を検討する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。

- (2) 職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度を導入する。
- (3) 性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。
- (4) 女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。
- (5) 職員のキャリアパスの形成のため、職位に応じた研修の実施を企画・立案する。
- (6) 働き方改革関連法の施行に対応した取り組みを実施する。

平成31年度 予算

(単位：百万円)

| 区 分 | 国立博物館等 | 文化財研究所等 | 合 計 |
|-------------|--------|---------|--------|
| 収 入 | | | |
| 運営費交付金 | 6,155 | 2,438 | 8,593 |
| 施設整備費補助金 | 994 | 0 | 994 |
| 展示事業等収入 | 1,853 | 78 | 1,931 |
| 受託収入 | 74 | 531 | 605 |
| その他寄附金等 | 581 | 68 | 649 |
| 計 | 9,657 | 3,115 | 12,772 |
| 支 出 | | | |
| 管理経費 | 1,401 | 411 | 1,812 |
| うち人件費 | 615 | 212 | 827 |
| うち一般管理費 | 786 | 199 | 985 |
| 業務経費 | 6,607 | 2,105 | 8,712 |
| うち人件費 | 1,843 | 1,055 | 2,898 |
| うち収集保管事業費 | 1,560 | 0 | 1,560 |
| うち展覧事業費 | 2,405 | 0 | 2,405 |
| うち教育普及事業費 | 296 | 0 | 296 |
| うち博物館研究事業費 | 311 | 0 | 311 |
| うち博物館支援事業費 | 192 | 0 | 192 |
| うち基礎研究事業費 | 0 | 427 | 427 |
| うち応用研究事業費 | 0 | 170 | 170 |
| うち国際遺産保護事業費 | 0 | 135 | 135 |
| うち情報公開事業費 | 0 | 302 | 302 |
| うち研修協力事業費 | 0 | 16 | 16 |
| 施設整備費 | 994 | 0 | 994 |
| 受託事業費 | 74 | 531 | 605 |
| その他寄附金等 | 581 | 68 | 649 |
| 計 | 9,657 | 3,115 | 12,772 |

平成31年度 収支計画

(単位：百万円)

| 区 分 | 国立博物館等 | 文化財研究所等 | 合 計 |
|-----------------|--------|---------|-------|
| 費用の部 | 7,043 | 2,780 | 9,823 |
| 経常経費 | 7,043 | 2,780 | 9,823 |
| 管理経費 | 1,271 | 342 | 1,613 |
| うち人件費 | 620 | 213 | 833 |
| うち一般管理費 | 651 | 129 | 780 |
| 事業経費 | 5,222 | 2,305 | 7,527 |
| うち人件費 | 1,938 | 1,073 | 3,011 |
| うち収集保管事業費 | 499 | 0 | 499 |
| うち展覧事業費 | 2,060 | 0 | 2,060 |
| うち教育普及事業費 | 242 | 0 | 242 |
| うち博物館研究事業費 | 255 | 0 | 255 |
| うち博物館支援事業費 | 154 | 0 | 154 |
| うち基礎研究事業費 | 0 | 269 | 269 |
| うち応用研究事業費 | 0 | 107 | 107 |
| うち国際遺産保護事業費 | 0 | 91 | 91 |
| うち情報公開事業費 | 0 | 205 | 205 |
| うち研修協力事業費 | 0 | 29 | 29 |
| うち受託事業費 | 74 | 531 | 605 |
| 減価償却費 | 550 | 133 | 683 |
| 財務費用 | 0 | 0 | 0 |
| 臨時損失 | 0 | 0 | 0 |
| 収益の部 | 7,043 | 2,780 | 9,823 |
| 運営費交付金収益 | 4,205 | 1,970 | 6,175 |
| 展示事業等の収入 | 1,853 | 78 | 1,931 |
| 受託収入 | 74 | 531 | 605 |
| その他寄附金等 | 361 | 68 | 429 |
| 資産見返負債戻入 | 550 | 133 | 683 |
| 財務収益 | 0 | 0 | 0 |
| 臨時利益 | 0 | 0 | 0 |
| 純利益 | 0 | 0 | 0 |
| 目的積立金取崩額 | 0 | 0 | 0 |
| 総利益 | 0 | 0 | 0 |

平成31年度 資金計画

(単位：百万円)

| 区 分 | 国立博物館等 | 文化財研究所等 | 合 計 |
|-------------|--------|---------|--------|
| 資金支出 | 9,657 | 3,115 | 12,772 |
| 業務活動による支出 | 6,494 | 2,646 | 9,140 |
| 投資活動による支出 | 3,146 | 458 | 3,604 |
| 財務活動による支出 | 17 | 11 | 28 |
| 資金収入 | 9,657 | 3,115 | 12,772 |
| 業務活動による収入 | 8,663 | 3,115 | 11,778 |
| 運営費交付金による収入 | 6,155 | 2,438 | 8,593 |
| 展示事業等による収入 | 1,853 | 78 | 1,931 |
| 受託収入 | 74 | 531 | 605 |
| その他寄附金等 | 581 | 68 | 649 |
| 投資活動による収入 | 994 | 0 | 994 |
| 施設整備費による収入 | 994 | 0 | 994 |
| 財務活動による収入 | 0 | 0 | 0 |

施設整備に関する計画

(単位：百万円)

| 施設設備の内容 | 予 定 額 | 財 源 |
|---------------------|-------|-------|
| ・東京国立博物館 仮設収蔵庫整備 | 994 | 施設整備費 |
| | 994 | |
| | 994 | |

2. プロジェクト報告

凡 例

- (1) プロジェクトは、年度計画との対応(17頁～31頁)に従って、以下の①～⑥の分類項目ごとに各部・センターごとに配列し、プロジェクトの略番と頁を記した。
略番で用いられている担当部門の略号は、シ：文化財情報資料部、ム：無形文化遺産部、ホ：保存科学研究センター、コ：文化遺産国際協力センター、広：広報委員会 である。
- (2) 各プロジェクト報告の掲載頁では、表題の右側に上記略番を記すとともに、頁左上にプロジェクトの担当部門を示した。
なお、ウェブ公開版では、担当部門をシンボルカラー（文化財情報資料部：青、無形文化遺産部：黄、保存科学研究センター：緑、文化遺産国際協力センター：紫）で色分けしている。
- (3) 年度計画との対応一覧への逆引きのため、右上に年度計画の記号を記した。
- (4) また、各プロジェクト報告の掲載頁では、プロジェクトの目的、成果とその公表（論文、報告、発表、刊行物）及び研究組織の各項目を立てて内容をまとめた。なお、研究組織で○がついている職員はプロジェクトリーダーである。

① 有形・無形の文化財に関する調査研究事業

| 略番 | プロジェクト名 | (年度計画の記号) | 頁 |
|------|----------------------------------|--------------|----|
| シ 01 | 文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究 | 2-(1)-①-1)-ア | 35 |
| シ 02 | 日本東洋美術史の資料学的研究 | 2-(1)-①-1)-イ | 36 |
| シ 03 | 近・現代美術に関する調査研究と資料集成 | 2-(1)-①-1)-ウ | 37 |
| シ 04 | 美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開 | 2-(1)-①-1)-エ | 38 |
| ム 01 | 無形文化財の保存・継承に関する調査研究 | 2-(1)-②-1) | 39 |
| ム 02 | 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 | 2-(1)-②-2) | 40 |

② 保存修復に関する調査研究事業

| 略番 | プロジェクト名 | (年度計画の記号) | 頁 |
|------|---|-------------|----|
| ホ 01 | 文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究 | 2-(2)-②-1) | 41 |
| ホ 02 | 保存と活用のための展示環境の研究 | 2-(2)-②-2) | 42 |
| ホ 03 | 文化財の材質・構造・状態調査に関する研究 | 2-(2)-②-3) | 43 |
| ホ 04 | 屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究 | 2-(2)-②-4) | 44 |
| ホ 05 | 文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究 | 2-(2)-②-5) | 45 |
| ホ 06 | 近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究 | 2-(2)-②-9) | 46 |
| ホ 一 | 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 2-(2)-②-10) | 47 |

③ 国際協力・交流等に関する事業

| 略番 | プロジェクト名 | (年度計画の記号) | 頁 |
|------|-----------------------|-------------------|----|
| ム 05 | 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集 | 2-(1)-②-3) | 48 |
| コ 02 | アジア諸国等文化遺産保存修復協力 | 2-(3)-①-2)-ア-ア(イ) | 49 |
| コ 03 | 保存修復技術の国際的応用に関する研究 | 2-(3)-①-2)-ア-ウ) | 50 |
| コ 04 | 在外日本古美術品保存修復協力事業 | 2-(3)-①-3)-ア | 51 |
| コ 05 | 国際研修 | 2-(3)-①-3)-ア、イ | 52 |

④ 情報収集・成果公開に関する事業

| 略番 | プロジェクト名 | (年度計画の記号) | 頁 |
|-----|-----------------------------|-----------------------|----|
| シ05 | 文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 | 2-(2)-①-1)、2-(4)-②-3) | 53 |
| シ06 | 専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充 | 2-(4)-①-1)2)3) | 55 |
| シ08 | 平成31年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開) | 2-(4)-②-2) | 56 |
| ム03 | 無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 | 2-(1)-②-1) | 57 |
| コ01 | 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 | 2-(3)-①-1)-ア | 58 |
| — | プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等 | | 59 |

⑤ 刊行物に関する事業

| 略番 | プロジェクト名 | (年度計画の記号) | 頁 |
|-----|-------------------------------|------------|----|
| シ07 | 平成30年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』 | 2-(4)-②-1) | 67 |
| ム04 | 無形文化遺産部出版関係事業 | 2-(4)-②-1) | 67 |
| ホ07 | 『保存科学』第59号の出版 | 2-(4)-②-1) | 67 |
| 広— | 『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』 | | 68 |
| — | プロジェクトの一環として刊行された刊行物 | | 68 |

⑥ 指導助言・研修等に関する事業

| 略番 | プロジェクト名 | (年度計画の記号) | 頁 |
|-----|-----------------------|------------|----|
| ホ08 | 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 | 2-(5)-①-1) | 71 |
| シ— | 文化財の収集・保管に関する指導助言 | 2-(5)-②-1) | 71 |
| ム— | 無形文化遺産に関する助言 | 2-(5)-②-1) | 72 |
| ホ— | 文化財の虫菌害に関する調査・助言 | 2-(5)-②-1) | 72 |
| ホ— | 文化財の修復及び整備に関する調査・助言 | 2-(5)-②-1) | 73 |
| ホ— | 文化財の材質・構造に関する調査・助言 | 2-(5)-②-1) | 74 |
| ホ— | 美術館・博物館等の環境調査と援助・助言 | 2-(5)-②-1) | 74 |
| ホ— | 東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進 | 2-(5)-④-1) | 75 |

文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

目的 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。併せて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

成果 1. 調査研究の成果の公開と、研究情報の国際発信

- ・平成30年度に引き続き、当研究所刊行の論文等を国立情報学研究所が運営する学術機関リポジトリデータベース (IRDB) を通じて公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』の3タイトル115件を令和元年度に新たに追加し、合計13タイトル3,631件の論文・刊行物のフルテキストを搭載・公開した。
- ・ゲッティ研究所のゲッティ・リサーチポータルに当研究所の刊行物及び明治・大正・昭和初期のカタログ(全文データ)を提供し、搭載件数は1,392件となった。今後も提供データを増やしていくための調整・協議と作業を進めた。
- ・展覧会カタログ所載記事・論文のデータを「東京文化財研究所美術文献目録」として、世界最大の共同書誌目録データベースであるOCLCのセントラル・インデックスに情報を提供し、令和元年度は2016(平成28)年の文献情報2,948件を追加した。

2. 国内外の関連機関との協働研究・協議

- ・京都府所蔵資料のデジタル化作業を継続的に進め、京都府担当者と公開活用についての協議を行った。
- ・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議を行い、日本美術に関する講演を行った。
- ・資料の特性により様々な形態・プラットフォームでオープンアクセス資料を増やしてインターネット上で広く国内外に提供するとともに、成果発表を行った。



セインズベリー日本藝術研究所での講演



パブリックドメイン資料についてのシンポジウムにおける発表

発表・江村知子：「日本絵画にみる四季の表現」セインズベリー日本藝術研究所 19.11.21

- ・橘川英規、江村知子、小山田智寛：「東京文化財研究所のパブリックドメイン資料：文化財を知り、守り伝えるための資料蓄積と研究支援」、シンポジウム「デジタル知識基盤におけるパブリックドメイン資料の利用条件をめぐって」 20.1.17

研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、早川典子(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、西和彦(文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣(客員研究員)

日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

目 的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これに係る国内外の研究交流を推進する。

- 成 果**
1. 美術史研究のためのコンテンツ(年紀資料集成)を作成するため1999(平成11)年以降の展覧会図録から年紀のある作品の資料を順次収集し、データベースソフトウェア FileMaker を使用して入力を行い、新たに500件を追加した。
 2. 本プロジェクトに係る研究会を外部の研究者を交え、行った。
 3. 平成30年度に引き続き、仏教美術等の光学的手法による東京国立博物館との共同研究を実施した。同博物館所蔵の平安仏画(准胝観音像、准胝仏母像)につき、可視光のみならず、近赤外線、蛍光、蛍光X線、透過X線などによる多角的光学調査を行った。
 4. 幕末期の日本製伏彩色螺鈿を対象に、2020(令和2)年1月12日~18日にタイ・バンコク都内のワット・ラーチャプラディット、国立図書館、ワット・ポー等において作品の熟覧調査及び写真撮影を実施した。また、1911(明治44)年にタイに渡り、現地の漆芸分野で技師及び教育者として活躍した三木栄が使用していた、蒔絵道具の道具箱の調査を行った。



ワット・ラーチャプラディット 扉部材の調査

- 論 文**・水野裕史：「雪村周継と臨済宗幻住派」『美術研究』428 pp.1-18 19.1
 ・安永拓世：「伝祇園南海筆「山水図巻」(東京国立博物館蔵)について」『美術研究』428 pp.19-48 19.9
 ・相澤正彦：「静嘉堂文庫美術館本「春日宮曼荼羅」の画風をめぐって」『美術研究』429 pp.1-18 20.1
 ・米沢玲：「研究ノート 二幅の不動明王画像一禅林寺本と高貴寺本一」『美術研究』430 pp.27-40 20.3
 ・山本聡美：「研究資料 「妙法蓮華経变相図」(静嘉堂文庫蔵)にみる南宋時代寧波の信仰と社会」『美術研究』430 pp.49-58 20.3
- 発 表**・津田徹英：「資料紹介 東京文化財研究所架蔵 平子鐸嶺自筆ノート類について一その収載内容とノート類のもつ意義一」令和元年度第2回文化財情報資料部研究会 19.5.31
 ・江村知子：「河原の風景一ライブツイヒ民族学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」について一」美術史学会東支部例会 19.10.6
 ・小野真由美：「至高の気品一土佐光起撰『本朝画法大伝』の意義、そして意図するもの一」美術史学会東支部例会 19.11.23

研究組織 ○小林達朗、小野真由美、塩谷純、二神葉子、城野誠治、小林公治、江村知子、安永拓世、橘川英規、米沢玲、(以上、文化財情報資料部)、早川泰弘(保存科学研究センター)、津田徹英(客員研究員)

近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

- 目的** 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者、及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。
- 成果** ○画家森田恒友の書誌を作成、福島県立美術館・埼玉県立近代美術館で開催の「森田恒友展」図録(11月)に掲載した。
○仙台城址の「伊達政宗騎馬像」で知られる彫刻家小室達作品・資料調査をしばたの郷土館で行い、その成果を部内研究会で口頭発表した(8月26日)。
○彫刻家三木宗策のアトリエ及び資料調査を、郡山市立美術館の中山恵理氏他と行った。
○近代女性画家に関する研究として、栗原玉葉筆「聴鶯図」及び石川丹麗筆「華水汲図」についての作品解説を『紫陽花』創刊号(6月)、2号(12月)に発表した。
○美術評論家鷹見明彦の資料調査を遺族宅で行い、鷹見が撮影した画廊の展示風景写真の整理に着手した。
○平成29年度に行ったカリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館でのヨシダ・ヨシエ旧蔵資料調査に基づき、『美術研究』430号にその報告を掲載した。
○久米美術館との共同研究として、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を進め、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡を翻刻、その成果を部内研究会で口頭発表した(12月10日)。



(左)《伊達政宗騎馬像》等身大雛形制作過程画像、(右)等身大雛形完成画像(画像提供:しばたの郷土館)

- 論文**・橘川英規:「日本戦後美術に関する「アーカイブズ」の整理・活用のあり方—UCLA図書館所蔵ヨシダ・ヨシエ旧蔵資料を例に」『美術研究』430 pp.41-48 20.3
- 発表**・野城今日子:「彫刻家・小室達 基礎研究」文化財情報資料部研究会 19.8.26
・塩谷純・伊藤史湖:「黒田清輝・久米桂一郎の書簡を読む」文化財情報資料部研究会 19.12.10

- 研究組織** ○塩谷純、橘川英規、城野誠治、野城今日子(以上、文化財情報資料部)、山梨絵美子(副所長)、三上豊、丸川雄三、田中淳、齋藤達也、田所泰、田中潤(以上、客員研究員)

美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開(シ04)

目 的 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのように関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多視点的に分析し、その関係の解明を目指すものである。こうした研究の実施により、美術「作品」に対するより深い理解の醸成が期待されるであろう。

成 果 ○螺鈿及び漆器類に関わる調査研究等

- ・2019(平成31)年4月16日・同(令和元)年7月2日・9月6日、東京国立博物館にて唐代琴、南蛮漆器等の調査、7月11日、文化庁分室にて工芸部門調査官立ち会いで同所蔵蒔絵棚の調査、8月14日、サントリー美術館において南蛮漆器や蒔絵棚の調査、9月5日、大阪府岬町理智院、尼崎市寶樹院にてそれぞれ漆塗厨子の調査、2020(令和2)年1月22-23日に知覧博物館ほか南薩摩地域で保存科学研究センターと琉球漆器の共同調査を行った。

○研究成果公開

- ・6月22~23日、文化財保存修復学会第41回大会(帝京大学)にて、個人蔵漆器の研究成果を保存科学研究センターと共同で、「琉球漆器 朱漆楼閣山水人物箔絵盆の科学的調査」としてポスター発表。甲賀市水口所在十字形洋剣の研究成果を第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019 ICFAセッション(共同発表者永井晃子氏、9月3日)、第53回オープンレクチャー(11月1日)、水口町郷土史会(同月9日)にて講演・報告した。またこの成果については各種報道で広く周知された。9月24日開催の第6回文化財情報資料部研究会において小林公治が「南蛮漆器成立の経緯とその年代—キリスト教聖龕を中心とする検討—」を、12月24日の第8回文化財情報資料部研究会にて林佳美氏が「日本中世のガラスを探る」と題し発表し、12月に韓国国立中央博物館が刊行した『保存と復元の世界 螺鈿漆器』に論文を寄稿した。

○研究データの整備と公開

- ・『美術研究』バックナンバーデータについて検索情報を追加整備し、利用者の検索に対する便宜促進と情報流通を図った。また、155号以前を対象とした検索用キーワードの抽出作業を開始した。東芝国際交流財団からの助成を受け、小山真由美著『南蛮漆器考』(2019年中央公論美術出版刊)の英訳事業を進めた。また、柳沢孝撮影スライドフィルムのDB化作業を継続して実施した。

- 論 文**・小林公治：「東アジア螺鈿史の観点から見た高麗螺鈿の成立」『美術資料』95 pp.43-195 19.6
 ・神谷嘉美：「南蛮漆器を中心とした平時絵技法と材料に関する検討」『美術研究』429 pp.43-64 20.1ほか一件
- 報 告**・山府木碧、倉島玲央、犬塚将英、早川泰弘、小林公治：「琉球漆器 朱漆楼閣山水人物箔絵盆の科学的調査」文化財保存修復学会第41回大会研究発表要旨集 pp.166-167 19.6
- 発 表**・山府木碧、倉島玲央、犬塚将英、早川泰弘、小林公治：「琉球漆器 朱漆楼閣山水人物箔絵盆の科学的調査」第41回文化財保存修復学会大会 19.6.22
 ・KOBAYASHI Koji and NAGAI Akiko：「The Minakuchi Rapier, European Sword produced in Japan」第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019 ICFAセッション 19.9.3 ほか3件

研究組織 ○小林公治、小林達朗、二神葉子、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、野城今日子(以上、文化財情報資料部)、佐野千絵、早川泰弘(以上、保存科学研究センター)、中野照男、田所泰(以上、客員研究員)

無形文化財の保存・継承に関する調査研究(Δ01)

目的 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

成果 1. 無形文化財に関する調査研究

- ア) 芸能分野：古典芸能（歌舞伎・文楽・三味線音楽ほか）に関する調査研究・日本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術の調査研究
- イ) 工芸分野：靱皮繊維の製作技術に関する調査（福島県からむし工芸博物館）、及び絹糸製作技術調査（岡谷蚕糸博物館）

2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成

- ア) 諸芸：講談及び落語（正本芝居噺）の実演記録を作成（一龍斎貞水師8席・神田松鯉師6席・林家正雀師4席）
- イ) 平家：復元曲の実演記録を作成（菊央雄司氏ほかによる復元曲1曲）
- ウ) 宮園節：伝承曲の実演記録を作成（宮園千碌氏ほかによる古典曲1曲、新曲1曲）



実演記録〈平家〉第三回収録の様子

3. 研究調査に基づく成果の公表

- 第13回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「染色技術を支える草津のわざ 青花紙一花からつくる青色一」（東京文化財研究所、2月6日）

論文・前原恵美：「邦楽調査掛による常磐津節五線譜化の考察」『無形文化遺産研究報告』14 pp.51-78 20.3

- ・菊池理予ほか：「文化財の視点からみたトロロアオイ生産技術の現状—茨城県小美玉市の実例を通じて—」『無形文化遺産研究報告』14 pp.79-100 20.3

報告・前原恵美・橋本かおる：「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告3」『無形文化遺産研究報告』14 pp.23-50 20.3

- ・菊池理予ほか：「都道府県史から見る近世日本染色技術の伝播（中間報告）」『無形文化遺産研究報告』14 pp.101-138 20.3

発表・前原恵美：武蔵野大学能楽資料センター主催関連講座「芸能を支えるもう一つの技—楽器製作をめぐって」 19.7.25

- ・前原恵美・橋本かおる ほか：東洋音楽学会東日本支部第113回定例研究会「もう一つの及川コレクション—及川尊雄氏収集紙媒体資料—について」（共立女子大学） 20.2.1

刊行物・「日本の芸能を支える技Ⅴ 調べ緒 山下雄治」 20.2

研究組織 ○前原恵美、菊池理予、久保田裕道、石村智、佐野真規（以上、無形文化遺産部）、早川典子（保存科学研究センター）、飯島満（特任研究員）、橋本かおる（客員研究員）

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(△02)

目的 風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集・保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。また選定保存技術については、国により選定された技術及び未選定の技術について情報を収集し、そのなかで重要なものについては現地調査・記録作成を行う。

成果 1. 風俗慣習の調査として正月儀礼等について、民俗芸能の調査としてシシ系芸能や風流系芸能等について、民俗技術の調査として製茶技術、和船の製作技術や箕の製作技術等について、伝承や保護の実態についての現地調査や資料収集を行い、現状把握とともに現地関係者とのネットワークを構築した。



諸鈍シバヤ（鹿児島県）調査

2. 災害被災地における民俗芸能、風俗慣習の調査として、福島県浪江町苅宿の神楽、宮城県女川町の獅子舞等に関して調査を行い、資料収集・記録保存を行った。また無形文化遺産総合データベース・アーカイブスの構築とデータ収集を行った。
3. 第14回無形民俗文化財研究協議会を「無形文化遺産の新たな活用を求めて」をテーマに東京文化財研究所において開催し、172名の参加を得た。4件の事例報告をもとにコメンテーター2名を含めた総合討議を行った。成果は『第14回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。また日本博参画事業として日本芸術文化振興会及び東京国立博物館とともに「東京シシマイコレクション」と題した獅子舞の公開イベント及びフォーラムを開催した。
4. 選定保存技術については、滋賀県指定選定保存技術「曳山金工品修理技術」の調査研究を進め、その成果を『曳山金工品修理技術報告書』にまとめた。

論文・今石みぎわ：「塩と砂糖—白い結晶への憧憬—」『日本の食文化5 酒と調味料、保存食』吉川弘文館 pp.110-139 19.4

・久保田裕道：「Intangible Cultural Heritage contributing to Japanese Post-disaster Rehabilitation」『Intangible Heritage Studies』4(2) Intangible Heritage Association (韓国) pp.7-17 19.11

刊行物・東京文化財研究所編『第14回無形民俗文化財研究協議会』20.3

・今石みぎわ編『船大工那須清一と長良川の鵜舟をつくる』東京文化財研究所 20.3

・東京文化財研究所編『曳山金工品修理技術報告書』 20.3

研究組織 ○久保田裕道、石村智、菊池理予、今石みぎわ(以上、無形文化遺産部)

文化財の生物劣化の現象説明と対策に関する研究(ホ01)

目 的 文化財の生物劣化現象は、自然災害あるいは日常の管理において生物の発育を促進する因子が存在すると起こるが、その因子の動態は文化財を取り巻く保存環境と複雑かつ密接に関連している。本研究では、この機序を理解するため保存環境と生物劣化現象について記述を重視した事例調査研究を行うとともに、適切で効果的な対処方法について検討することを目的としている。

成 果

1. 歴史的木造建造物における環境低負荷型の殺虫処理方法である湿度制御温風殺虫処理について、日光山中禅寺鐘楼で行われた現地処理後の害虫モニタリング調査を実施し、成果を論文や国際会議等で発信した。また、湿度制御温風殺虫処理に関する専門家会合も行った。
2. 文化財害虫の簡易・迅速モニタリング手法の開発のため、文化財害虫の遺伝子解析とデータベースの構築を進めた。虫糞等からの同定手法構築に向けた基礎研究も実施し、遺伝子抽出手法を標準化した。
3. 古墳壁画の微生物劣化機構解明に関する研究で、これまで対象となっていなかった健全な壁画の微生物群集解析を行い、研究成果を学術雑誌にまとめた。
4. 油彩画表面に発育したカビの各種顔料上での発育特性について調査研究を行った成果について学術雑誌を通じて報告した。
5. 浮遊菌を簡易・迅速に測定できる新たな機器（リアルタイム浮遊菌数測定器）を用いて、収蔵庫等の保存環境での浮遊菌の実態を把握するため生態解析を取り入れた調査研究を実施し、成果を学会で報告した。



第2回湿度制御温風殺虫処理法に関する専門家研究集会の様子

論 文・佐藤嘉則ほか：「虎塚古墳の壁画剥落片の微生物群集構造解析」『保存科学』59 pp.9-21 20.3
 ・小峰幸夫ほか：「湿度制御温風処理における殺虫効果判定法の開発」『保存科学』59 pp.1-8 20.3

報 告・佐藤嘉則：「文化財の微生物被害」『かびと生活』12(1) pp.17-21 19.6
 ・相馬静乃ほか：「油絵具に使用される基本的な材料のカビ抵抗性試験」『保存科学』59 pp.61-71 20.3
 ・佐藤嘉則ほか：「平等院阿弥陀如来坐像胎内月輪および保存箱の生物被害防除対策」『鳳翔学叢』16 20.3

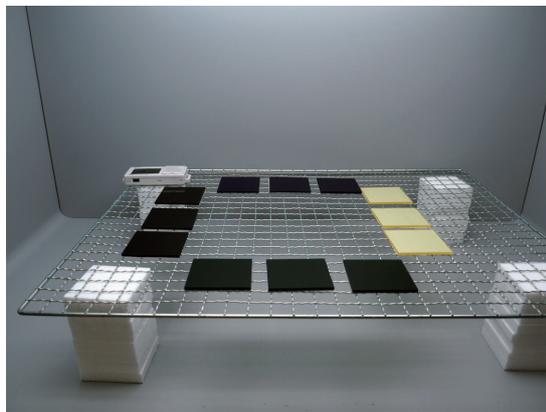
発 表・Fujii,Y.ほか：「Application of humidified warm-air treatment to entire historic wooden buildings at Nikko World Heritage site to control insect attack」IPM for Cultural Heritage 4th international conference Stockholm 19.5.23
 ・小峰幸夫ほか：「湿度制御温風処理における殺虫効果の検証」文化財保存修復学会第41回大会 19.6.23
 ・中村孝道ほか：「リアルタイム浮遊菌数測定と生態解析によって室内浮遊菌の実態に迫る」日本微生物生態学会第33回大会 19.9.11 ほか3件

刊行物・佐藤嘉則：「第2節第12項 屋外環境にある文化財の微生物制御」『最新の抗菌・防臭・空気質制御技術』テクノシステム 19.7.14

研究組織 ○佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、早川典子、朽津信明、佐野千絵（以上、保存科学研究センター）、片山葉子、藤井義久、北原博幸（以上、客員研究員）、間渕創（保存科学研究センター併任、文化財活用センター）

保存と活用のための展示環境の研究(ホ02)

- 目 的** 白色LED照明下における展示物の視認性の特徴について科学的検証を進め、また温湿度環境への影響について調査を行う。さらに、展示ケース内汚染物質軽減方法の検討と清浄化マニュアルの普及を行う。
- 成 果**
1. 博物館における化学物質汚染による文化財影響への理解促進と空気清浄化技術の普及を目的に、当研究所ウェブサイト『美術館・博物館のための空気清浄化の手引き(平成31年3月)』を掲載した。反響は大きく、いくつかの博物館から、基礎的な問い合わせではなく、より専門的な質問が寄せられるようになり、当期の目的を達成できた。
 2. 白色LEDの美術館等への導入にあたり、学芸員が参考にできる技術指針を日本照明学会美術館・博物館照明技術指針作成委員会(委員長:佐野千絵)と協働してまとめた原案について、学会での査読を実施中である。
 3. 白色光による文化財への影響を考えるうえで基礎的な指標となっている損傷度曲線について、根拠論文の採取データ数が少なく再現実験が必要と上記の委員会で考えられたことから、各波長による損傷度を把握するため、各種材料の変退色度 ΔE と曝露時間との応答性について基礎的な試験を開始した。令和元年度は基準光源であるD65光源を用いて、JIS木綿布、JIS絹布、新聞紙(新聞社より取り寄せ)に対して曝露試験を行い、データを採取した。
 4. これまでの研究成果を生かし、文化遺産国際協力センターの事業に協力し、イラン国立博物館の館内環境に関して、来日した研究者と、昨年度に実施した窒素酸化物、硫黄酸化物、アンモニア、有機酸、揮発性有機化合物の調査結果について討論し、今後の監視方法について意見交換した。機材の入手が難しいイラン国内においては、金属試験片による監視が有効という結論で一致した。
 5. 2020(令和2)年2月3日「保存環境に関する研究会—保存環境調査研究、この30年」を実施した。有意義であった(100%)と高評価であった(参加者 所外105名、アンケート回収率83%)。



曝露試験の様子

- 報 告**・佐野千絵:「保存環境調査研究、この30年—失敗から学ぶ環境制御」 保存環境に関する研究会 東京文化財研究所 20.2.3
- 発 表**・佐野千絵ほか:「有機酸発生源探索のための簡易調査法の試案」 文化財保存修復学会第41回大会 19.6.23
- 刊行物**・『美術館・博物館のための空気清浄化の手引き(平成31年3月)』ウェブ版を公開 19.4

研究組織 ○佐野千絵、水谷悦子、相馬静乃、小安友里恵(以上、保存科学研究センター)、吉田直人(保存科学研究センター併任、文化財活用センター)

文化財の材質・構造・状態調査に関する研究(ホ03)

目的 各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査方法を確立し、日本絵画における顔料の変遷についての研究を進めるとともに、金工品等における黄銅(真鍮)材料の利用実態を明らかにする。新たに可搬型X線回折装置を導入し、各種文化財の保存状態等に関する調査研究を進める。

- 成果**
1. 可搬型分析装置を用いたその場分析
 - ・可搬型蛍光X線分析装置による材料調査として、絵画、工芸品などの調査を実施した。日本絵画の調査においては、平安仏画の背景の彩色や、室町期絵画の白色顔料の利用実態などについて新知見を得た。
 - ・構成元素の含有率が既知である金箔の試料を用いて、可搬型蛍光X線分析装置及び据置型蛍光X線分析装置から得られる分析データの精度や確度に関する定量的な評価を実施した。
 - ・令和元年度に導入した可搬型ハイパースペクトルカメラの実用化に向けて、撮影条件や設置方法に関する基礎実験を行った。
 2. 工芸品等に用いられている金属製装飾部分の腐食をもたらす、保存箱などから発せられる化学物質量を分析するためのサンプリングバッグ法の改良を行った。
 3. 研究成果発表
 - ・これまでに得られた調査結果などをまとめて、論文2件、学会発表3件の研究成果発表を行った。また、これまでに調査を実施した絵画作品に関する光学調査報告書を刊行した。



サンプリングバッグ法による桐箱から発せられる化学物質量の測定

- 論文**・早川泰弘ほか：「綿貫観音山古墳出土金属製品の材料調査」『保存科学』59 pp.133-151 20.3
- 発表**・古田嶋智子ほか：「桐箱やキリ材からの有機酸の放散と金属に及ぼす影響」第41回文化財保存修復学会大会 19.6.23
- ・早川泰弘ほか：「国宝 日月四季山水図の蛍光X線分析」日本文化財科学会第36回大会 19.6.1-2
 - ・犬塚将英ほか：「煉瓦造窯の保存と活用に関する調査－愛知県常滑市の事例－」日本文化財科学会第36回大会 19.6.1-2
- 刊行物**・『国宝 日月四季山水図 光学調査報告書』 19.10

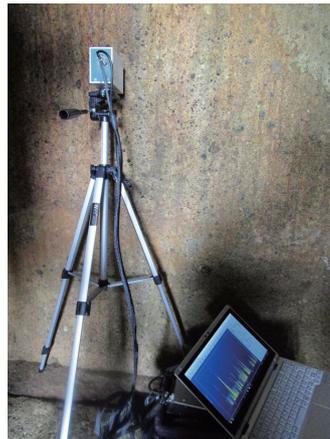
研究組織 ○犬塚将英、早川泰弘、佐藤嘉則、小峰幸夫(以上、保存科学研究センター)、城野誠治(文化財情報資料部)、岡田健、古田嶋智子(以上、客員研究員)

屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究(ホ04)

目的 屋外に所在する石造・木質文化財を対象に、覆屋の機能・遺構の露出展示に関する課題として、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石塔など石造文化財の災害事例及び災害対策に関する基礎的調査を行う。また、現在一時保管場所での長期的な保管を余儀なくされている被災文化財に関して、その保存・修復方法に関する研究を進める。

成果 屋外に位置する各種の文化財の劣化状況、保存環境、保存対策について、以下の通り調査研究を進めた。

1. 和歌山県指定史跡・一遍上人名号碑建立之地において江戸時代に行われた、地震で被災した石碑の修復について解明した。
2. 熊本地震で被災した古墳や、豪雨災害で被災した山都町の通潤橋など、被災文化財について、適切な修復方針の策定に寄与した。
3. 平野塚穴山古墳や南下古墳群などの古墳を調査し、壁面に汚れが沈着した原因について解明を進めている。
4. 臼杵市の風連鍾乳洞、南城市の玉泉洞、由良町の戸津井鍾乳洞など、各地の鍾乳洞で起きている、「照明をLEDに替えたら緑色生物が目立つようになった」という問題について、照度や照明の波長特性、二酸化炭素濃度などの調査を行い、緑色生物が洞窟内で繁茂しやすい条件について特定を進めている。



平野塚穴山古墳における沈着物の調査

- 論文**・朽津信明ほか：「新宮市万歳の一遍上人名号碑の補修史に関する三次元計測に基づく検討」『保存科学』59 pp.23-34 20.3
- ・「資料保存施設としての経塚の保存科学的評価」『保存科学』59 pp.35-50 20.3
 - ・朽津信明ほか：「新宮市万歳の一遍上人名号碑と江戸時代に行われたその補修について」日本文化財科学会第36回大会 19.6.1
- 発表**・朽津信明ほか：「天草市アンモナイト館における緑色生物の制御」文化財保存修復学会第41回大会 19.6.23
- ・朽津信明ほか：「過去の写真と現状の三次元計測に基づく荒島石の侵蝕速度の検証」日本応用地質学会2019年度研究発表会 19.10.24-25

研究組織 ○朽津信明、柳沼由可子(以上、保存科学研究センター)、前川佳文(文化遺産国際協力センター)

文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究(ホ05)

目的 美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。伝統的に使用されており、科学的な解明が必要とされる材料についての化学的調査を行い、修復現場での明確な適用を検討する。伝統的な技法についての記録やその効果についての科学的解明を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。

成果 1. 文化財の伝統材料と修復材料に関する調査

・古絵画の基底材に関する調査

東京国立博物館との共同研究で絵画基底材料としての絹糸の形状と組織に関する基礎データを収集した。また、自然布に関して、FT-IR とデジタルマイクロスコープによる観察での識別を目的に基礎データを収集した。

・漆に関する調査

日本の漆技法に関して、特に従来全く研究されていないタンパク質を利用した変わり塗りについて現地調査と試料採取を行った。これらの分析と劣化に関する調査を令和2年度以降進める予定である。また、関連する天然塗料についてもその劣化状態の調査と保存環境に関する研究を行った。

2. 文化財の修復技法に関する研究

・文化財修復処置に関する研修と研究会の開催

10月8日～10日に「文化財修復処置に関するワークショップーゲルやエマルジョンを使用したクリーニング方法ー」をイタリアの保存科学者パオロ・クレモネージ氏を招聘して開催した。参加者は20人であった(応募者60人)。また、10月11日に「文化財修復処置に関する研究会ークリーニングとゲルの利用についてー」を開催した。参加者は84人であった。

・平成30年度の「文化財修復の現状と諸問題に関する研究会」の内容と関連する資料を掲載した報告書を刊行した。



ワークショップ実技指導風景

論文・内田優花ほか:「紙に付着した天然ゴム系粘着テープ除去方法の検討」『文化財保存修復学会誌』62 pp.1-13

発表・早川典子ほか:「画絹の物性に及ぼす断面形状・殺蛹方法の影響ー大和文華館所蔵作品調査データ含めてー」文化財保存修復学会第41回大会 19.6.22 ほか7件

刊行物・『文化財修復の現状と諸問題に関する研究会報告書』20.3.31

研究組織 ○早川典子、佐藤嘉則、倉島玲央、藤井佑果、岡部迪子、山府木碧(以上、保存科学研究センター)、安永拓世(文化財情報資料部)、菊池理予(無形文化遺産部)、本多貴之、酒井清文、貴田啓子(以上、客員研究員)

近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究(ホ06)

目 的 近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物等従来の文化財とは、規模、材質、製造方法等に大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型建造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両等の保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

成 果

1. 近代の建造物（洋館）の内部造作の保存修復に関する研究
近代の建造物（洋館）に付属する内部造作の保存修復に関する現状の課題を踏まえ、国内に所在する約35件（函館区公会堂、豊平館等）の現地調査を行い、実態把握と事例調査を行った。
2. 近代文化遺産の保存活用に関して地方自治体が組織する調査検討の委員会への参画
全国各地の自治体が組織する近代文化遺産の保存活用に関する調査検討委員会に委嘱を受けて参加し、近代文化遺産の保存と修復に関する調査、助言を行った。
3. 産業考古学会2019全国大会において論文の寄稿と発表
2019（令和元）年11月に開催された産業考古学会2019全国大会（中間市大会）において「煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性」と題する論文の提出及び発表を実施、煉瓦造建造物の修理に関する提言を行った。
4. 報告書の刊行
平成30年度に実施したコンクリート造建造物の保存と修復に関する研究内容を報告書に取りまとめた。また、同年に実施した「台湾における近代文化遺産活用の最前線」も報告書に取りまとめて刊行した。

報 告・石田真弥ほか：「煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性」『産業考古学会2019年度全国大会（中間市大会）研究発表講演論文集』 pp.30-33 19.11

・石田真弥：「コンクリート造建造物の保存と修復に関する事例集」『未来につなぐ人類の技 19 コンクリート造建造物の保存と修復』 pp.83-113 20.2

・石田真弥：「近代文化遺産としての森林軌道（第1回）」『洋上アルプス』291 p.3 19.6

・石田真弥：「近代文化遺産としての森林軌道（第2回）」『洋上アルプス』292 p.3 19.7

発 表・石田真弥ほか：「煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性」『産業考古学会2019全国大会（中間市大会）』 19.11

刊行物・『未来につなぐ人類の技 19 コンクリート造建造物の保存と修復』 20.2

・『台湾における近代文化遺産活用の最前線』 20.3

研究組織 ○早川泰弘、中山俊介、石田真弥、鳥海秀実（以上、保存科学研究センター）、簡佑丞、苅田重賀、小堀信幸、堤一郎（以上、客員研究員）、鈴木一義（国立科学博物館）

文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力(ホ)

目的 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。また、キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究を行う。

成果 1. 高松塚古墳壁画に関しては、令和元年度も修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量調査、温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存空間の維持に努めた。また見学通路のガラス窓内部での結露リスクを検討するため、一般公開時前後の周辺の温度湿度及びガラス窓・壁の表面温度の監視を開始した。

修復作業に関連する調査研究としては、粗鬆化した漆喰部分への補填方法の検討を行い、材料を検討した上、実作業を行った。加えて、今後の保存修復方法についての現場協議を重ねた。

2. キトラ古墳壁画に関しては、「四神の館」における保管及び公開の環境について調査協力し、年間4回の集中メンテナンスに立会い、状況の改善を検討した。さらに、今までの修理記録についてデータベースの作成を行った。また、現状は泥に覆われているが、「辰」「巳」「申」に該当すると推定される漆喰片について、昨年度のX線透過撮影結果を踏まえ、詳細な撮影検討を行った。また、修復作業の報告書作成の準備として各資料の確認とデータ整理を開始した。さらに、キトラ古墳壁画の調査に関連して、法隆寺金堂壁画の分光調査を行った。



修復作業風景

論文・犬塚将英ほか：「X線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査」『保存科学』59 pp.103-114 20.3

発表・佐藤嘉則ほか：「高松塚・キトラ両古墳壁画の微生物汚れを除去する酵素」文化財保存修復学会第41回大会 19.6.23

刊行物・『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書2 特別史跡高松塚古墳生物調査報告—高松塚古墳石室解体事業にともなう生物調査—』598p 同成社 19.9.30

・佐藤嘉則ほか：「第32章 高松塚・キトラ古墳壁画の微生物汚損の酵素処理」『酵素トランスデューサーと酵素技術展開』シーエムシー出版 pp.300-304 20.3

研究組織 ○佐野千絵、早川泰弘、佐藤嘉則、朽津信明、犬塚将英、早川典子、倉島玲央、小峰幸夫、鴨原由美、藤井佑果(以上、保存科学研究センター)、川野邊渉(特任研究員)、宇高健太郎、大場詩野子(以上、客員研究員)

無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集(△05)

目的 無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

成果 1. 韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流では、2019(令和元)年7月1日～19日に前原恵美・無形文化財研究室長を韓国国立無形遺産院に派遣し、同院の研究員と共に無形文化遺産、特に伝統音楽の楽器製作技術の継承に関する共同調査を実施した。本調査の成果は韓国国立無形遺産院における成果発表会で発表した(7月18日)。また9月17日～10月4日に、韓国国立無形遺産院の姜敬恵学芸研究士を受け入れ、民俗技術、特に伝統農耕技術に関する共同調査を静岡県静岡市井川及び宮崎県椎葉村等で実施した。その成果は成果発表会で発表された(10月4日)。



韓国国立無形遺産院との交流事業における焼畑農耕技術の調査の様子(宮崎県椎葉村)

2. 無形文化遺産の国際的な動向に関する調査研究では、ユネスコ無形文化遺産条約第14回政府間委員会(開催国コロンビア:12月9日～14日)に2名のスタッフ(石村・二神)を派遣し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行うとともに、日本政府代表団に専門的な助言を行った。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第14号において報告した。また、ユネスコ無形文化遺産保護条約に関連した用語を解説した『無形文化遺産用語集』を2020(令和2)年3月に刊行した。
3. アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)への協力では、国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」(於東京国立博物館:2019(令和元)年11月28日～29日)に1名のスタッフ(石村)が出席した。また本研究所との共催事業として開催された国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」(於東京文化財研究所:12月17日～18日)の運営に全面的に協力した。

報告・二神葉子:「無形文化遺産の保護に関する第14回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』14 pp.1-22 20.3

発表・石村智:国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」パネリスト 19.11.28-29

・石村智:国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」Session 1,2(司会)、Session 3(パネリスト) 19.12.17-18

刊行物・『無形文化遺産用語集』 20.3

研究組織 ○石村智、前原恵美、半戸文、金昭賢(以上、無形文化遺産部)、二神葉子(文化財情報資料部)、宮田繁幸、松山直子、神野知恵(以上、客員研究員)

アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (コ02)

目 的

東南アジア、西アジア及びその周辺地域における文化遺産の保存活用に関する調査研究の実施並びに当該地域で行われる文化遺産の保存修復事業への協力を通じて、我が国が有する文化遺産保護に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成 果

1. カンボジア アンコール・タネイ寺院遺跡保存整備事業に対する支援等
 - ア) 東門の修復に向けた散乱石材の調査及び排水経路の検討 (2019 (令和元) 年5月19日～6月29日)、修復工事の実施に関するアンコール・シエムレアプ地域保存整備機構との事前協議及び準備作業 (2019 (令和元) 年8月10日～16日)、東門の修復工事の実施、屋根及び壁体の解体、3Dスキャンによる現状記録 (2019 (令和元) 年9月7日～11月15日)、東門の基礎構造の調査、基礎盛土の土質試験 (2019 (令和元) 年12月1日～21日)、基礎外装の解体、基礎盛土の土質試験及び基礎石材の強度試験 (2020 (令和2) 年2月25日～3月19日)
 - イ) アンコール遺跡及びプレアヴィヒア寺院遺跡保存国際調整委員会技術会合への参加及び事業報告 (2019 (令和元) 年6月11日～12日、9月18日、12月10日～11日)
 - ウ) 国際研究会・シンポジウム「メコンがつなぐ文化多様性－東南アジア文化遺産研究の現在－」(早稲田大学文化財総合調査研究所)における報告 (2020 (令和2) 年1月22日～23日)
 2. イラン 文化遺産手工芸観光庁及び文化遺産観光研究所との協力事業
 - 博物館の環境管理に関する専門家研修の実施 (2019 (令和元) 年11月25日～29日)
 3. アルメニア エチミアジン大聖堂博物館及び歴史文化遺産科学研究センターとの協力事業
- 論 文 染織文化遺産に関する保存修復研修の実施 (2019 (令和元) 年10月7日～17日)

- ・ VAR Elif Berna: "Towards the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple: Restoration of the East Gate" Mekong cultural diversity beyond borders - Proceedings for the International Seminar & Symposium on Southeast Asian cultural heritage studies today -, Institute for Cultural Heritage, Waseda University, 20.3

発 表 間舎裕生ほか: 「アルメニア共和国における染織文化財保護の国際協力」『文化財保存修復学会誌』63 20.3

- ・ MARTINEZ Alejandro et al.: "Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei Temple: Conservation of the East Gate" The 32nd Technical Session of ICC-Angkor 19.6.11
- ・ VAR Elif Berna et al.: "Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei: Restoration Works on the East Gate" The 33rd Technical Session of ICC-Angkor 19.12.10

刊行物 友田正彦「東南アジアにおける東京文化財研究所の文化遺産国際協力」国際研究会・シンポジウム「メコンがつなぐ文化多様性－東南アジア文化遺産研究の現在－」 20.1.24

- ・ 『アルメニアにおける染織文化遺産保存修復ワークショップ2017-2019事業報告』東京文化財研究所 19.12.1
- ・ "Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor-Progress Report of 2019" APSARA/TNRICP, 20.3
- ・ 『大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係』東京文化財研究所 20.3
- ・ 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 令和元年度成果報告書』東京文化財研究所 20.3

研究組織

○金井健、友田正彦、安倍雅史、マルティネス・アレハンドロ(9月まで)、間舎裕生、浅田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ(8月から)、岡崎未来(以上、文化遺産国際協力センター)、佐野千絵、小峰幸夫(以上、保存科学研究センター)、石井美恵、山田大樹(以上、客員研究員)、呂俊民(前客員研究員)、大石岳史、桑野玲子、大坪正英(以上、東京大学)

保存修復技術の国際的応用に関する研究 (コ03)

目 的 文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

- 成 果**
- トルコ・カッパドキアにおける壁画の保存管理に関する研修の実施 (2019(令和元)年6月8日～18日)
 - ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁及び壁画の保存に向けた調査と修復方法の研究
 - 煉瓦造寺院 (Me-taw-ya 寺院) の外壁調査と保存修復方法の研究 (2019(令和元)年7月10日～30日)
 - 壁画 (Lokahteikpan 寺院) の保存修復に係る人材育成事業 (2019(令和元)年7月10日～30日)
 - 考古国立博物館局バガン支局職員を対象にしたワークショップ (2019(令和元)年7月15日～27日)
- ◆ワークショップテーマ
- 煉瓦造寺院外壁の保存修復
 - 地震被災箇所の応急処置
 - 壁画保存修復
- ミャンマー宗教文化省との技術協力内容に関する合同会議 (2020(令和2)年1月21日～7月24日)
 - バガン王朝期における壁画の図像に関する民俗学的調査 (2019(令和元)年7月11日～16日) (2020(令和2)年1月16日～24日)
 - ミャンマー・バガン遺跡における壁画の虫害調査 (2020(令和2)年1月27日～30日)



バガン支局若手職員を対象にしたワークショップ

- 発 表**・Yoshifumi Maekawa: "The field course - Challenges and Issues to Wall Painting Conservation" Cappadocia University, Turkey 19.6.15
- ・嶋原由美、前川佳文 「ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究—バガン王朝と復興期における壁画の比較研究—」 文化財保存修復学会第41回大会 19.6.22
- 刊行物**・Yoshifumi Maekawa, Daniela Murphy: "Current and future project reports of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties" Bagan branch of the Department of Archaeology, National Museum and Library, Myanmar 20.1.23
- ・Capacity Building Report -Mission N°5- ; study, risk assessment and intervention proposal of the wall paintings decorating the southern wall of Lokahteikpan, 令和元年度成果報告書 東京文化財研究所 20.3

研究組織 ○加藤雅人、前川佳文、牛窪彩絢(以上、文化遺産国際協力センター)、小峰幸夫(保存科学研究センター)

在外日本古美術品保存修復協力事業 (コ04)

目的 日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、日本の文化財の保存修復専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、本事業では海外で所蔵されている日本文化財のうち絵画作品及び漆工芸品の保存修復に関する助言等の協力を行う。また本格的な修復が必要な作品に関しては日本で修復して返還する。さらに、特殊な条件にある海外作品に関して、その保存修復方法の研究を行い、結果を公開、共有する。

成果 1. 作品修復

- ア) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 鈴木其一筆「八橋図・檜図」6曲1双屏風
 イ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 曾我蕭白筆「太公望図・林和靖図」掛軸2幅
 ウ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 雲谷等顔筆「煙寺晚鐘図・平沙落雁図」掛軸2幅
 以上3件、修復完了、返還済み
 エ) ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア (オーストラリア) 所蔵 「親鸞聖人絵伝」、掛軸4幅、修復中

2. 作品調査

モントリオール美術館 (カナダ)、2019 (令和元) 年6月10日～14日

3. 作品修復のための材料技法に関する基礎研究、調査

4. 成果公開

国際集会「日本絵画の修復」(International Forum “Restoration of Japanese Painting”) を開催し、プロジェクト紹介及び修復事例を講演、展示した。(「国際研修コ05」及び受託「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」との共同事業)
 講演：2019 (令和元) 年7月29日
 展示：同年7月29日～8月25日



絵画作品修復

- 発表**・小田桃子ほか：「ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア所蔵 佐々木泉玄筆『般若図』(絹本着色 掛軸装) 修復事例報告」文化財保存修復学会第41回大会 19.6.22
 ・TOMODA Masahiko: “The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas”, International Forum “Restoration of Japanese Painting”, Manggha Museum of Japanese Art and Technology, Krakow (Poland), 19.7.29
- 刊行物**・『平成27年度在外日本古美術品保存修復協力事業 般若図 No.2015-5 修復報告』東京文化財研究所 20.1

研究組織 ○加藤雅人、友田正彦、小田桃子、堀まなみ、片渕奈美香 (以上、文化遺産国際協力センター)、江村知子 (文化財情報資料部)、三本松俊徳、小田切真梨、廣原大樹 (以上、研究支援推進部)、大河原典子、杉山恵助 (以上、客員研究員)

国際研修(コ05)

目 的 近年日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。そこで、国内外において国際及び各国の機関と共催、あるいは協力を得て、研修等を開催することで、保存修復関係者への技術移転、情報共有を行う。

- 成 果**
1. 国際研修「日本絵画の修復」(International Forum “Restoration of Japanese Painting”)
 (「在外日本古美術品保存修復協力事業コ04」及び受託「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」との共同事業)
 期日：2019(令和元)年7月29日～30日
 主催：東京文化財研究所、日本美術技術博物館Manggha、文化庁
 会場：日本美術技術博物館Manggha(ポーランド・クラクフ)
 2. ワークショップ「染織品の保存と修復(Workshops on the Conservation of the Japanese Textiles)」
 主催：東京文化財研究所、国立台湾師範大学 会場：国立台湾師範大学(台湾・台北)
 ア) 基礎編「日本の染織品文化財」 イ) 応用編「日本の染織品の修復」
 期日：2019(令和元)年8月14日～16日 期日：2019(令和元)年8月19日～23日
 参加者：11名 参加者：6名
 3. 国際研修「紙の保存と修復(International Course on Conservation of Japanese Paper)」
 期日：2019(令和元)年9月9日～27日
 主催：東京文化財研究所、ICCROM
 会場：東京文化財研究所他国内
 参加者：10名
 4. 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復(Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina)」
 期日：2019(令和元)年10月30日～11月13日
 主催：東京文化財研究所、ICCROM、INAH
 会場：CNCPC-INAH(メキシコ・メキシコシティ)
 参加者：9名
 5. ワークショップ「漆工品の保存と修復(Workshop on Conservation and Restoration of Urushi Objects)」
 期日：2019(令和元)年12月2日～6日
 主催：東京文化財研究所
 会場：ケルン市博物館東洋美術館(ドイツ・ケルン)
 参加者：6名

刊行物・『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2019』東京文化財研究所 203

・『ワークショップ「染織品の保存と修復」2019』東京文化財研究所 203

・『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2019』東京文化財研究所 203

研究組織 ○加藤雅人、友田正彦、後藤里架、五木田まきは(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池理予(無形文化遺産部)、三本松俊徳、小田切真梨、石川絵梨子(以上、研究支援推進部)、石井美恵、杉山恵助(以上、客員研究員)

文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

目的 東京文化財研究所で行われている調査研究に関する情報及び国内外の文化財に関するさまざまな情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、それらの情報の効果的な公開の手法に関する調査研究を行う。

- 成果**
1. デジタル画像の形成方法の研究開発
 - ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトの一環として、東京文化財研究所内外において、重要文化財准胝観音像（東京国立博物館所蔵）、国宝十二天像（京都国立博物館所蔵）など多数の文化財の光学的調査を実施、一部は成果報告書を編纂した。また、調査研究の成果を論文等で発表した。
 - イ) 『春日権現験記絵巻七・巻八 光学調査報告書』を2020（令和2）年2月10日付で刊行した。
 - ウ) ガラス乾板に記録された色情報に関する予備調査として、広島市立大学、沖縄県立博物館・美術館等での聞き取り調査を実施した。
 2. 文化財情報に関する調査研究

文化財情報研究室で構築したウェブデータベースとその構築過程、及び運用についてまとめ、成果を論文や学会等で発表した。
 3. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信
 - ア) 文化財情報の適切な発信のための情報の扱いに関する調査研究を進め、学会や論文を通じて発表した。
 - イ) 展示収蔵施設の学芸員、自治体の文化財担当者などの実務家を対象に、2019（令和元）年12月2日、「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」を開催した。
 - ウ) 研究成果を紹介するパネルをエントランスロビーで展示した。令和元年度は保存科学研究センターの「高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画の保存修復」であった。
 4. 調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実
 - ア) ネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を実施、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換を行いセキュリティ水準の維持・向上に努めた。また、職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、「情報システム部会研修会」を1回開催した。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティ関連業務は、各部・センターの情報システム部会員と連携して実施している。
 - イ) 所内一所外間を接続するL3スイッチを更新し、セキュリティレベルの向上を図った。また、オプティカル・ディスク・アーカイブ (ODA) を導入、デジタルデータの保存性を高めた。

ウェブサイトアクセスランキング

| | | | |
|---|-----------------|----|-------------------|
| 1 | 東京文化財研究所トップ | 6 | 『保存科学』 |
| 2 | ガラス乾板データベース | 7 | 『日本美術年鑑』所載美術界年史彙報 |
| 3 | 書画家人名データベース | 8 | 黒田清輝日記トップページ |
| 4 | 『日本美術年鑑』所載物故者記事 | 9 | 久野健寄贈資料 |
| 5 | 黒田清輝日記（日付別） | 10 | 年記資料集成 |

(令和元年度 上位10位まで)

ウェブサイトの主な更新履歴

| 年月日 | 更新内容 | 関係部局 |
|--------|-----------------------------------|--------------|
| 19.4.8 | 国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために」開催 | 文化遺産国際協力センター |

| | | |
|----------|--|--------------|
| 19.4.10 | ワークショップ「染織品の保存と修復」2019 開催 | 文化遺産国際協力センター |
| 19.4.26 | ワークショップ「漆工品の保存と修復」2019 開催 | 文化遺産国際協力センター |
| 19.5.8 | 売立目録デジタルアーカイブ 公開 | 保存科学研究センター |
| 19.5.8 | 報告書『日本における染織文化財の保存』公開 | 東京文化財研究所 |
| 19.5.10 | 【日本博】東京シシマイコレクション2020 プレイベント 開催 | 無形文化遺産部 |
| 19.6.6 | 文化財修復処置に関するワークショップーゲルやエマルジョンを使用したクリーニング方法ー開催 | 保存科学研究センター |
| 19.6.12 | 国際集会「日本絵画の修復」開催 | 文化遺産国際協力センター |
| 19.6.12 | エントランスロビーパネル展示「高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画の保存修復」 | 保存科学研究センター |
| 19.8.15 | 文化財修復処置に関する研究会ークリーニングとゲルの利用についてー開催 | 保存科学研究センター |
| 19.8.20 | 東京国立博物館・東京文化財研究所の共同研究による国宝平安仏画ウェブコンテンツ 公開 | 文化財情報資料部 |
| 19.10.1 | 第53回オープンレクチャー かたちからの道、かたちへの道 開催 | 文化財情報資料部 |
| 19.10.16 | 無形文化遺産国際研究者フォーラム(12月17日・18日) 開催 | 無形文化遺産部 |
| 19.11.17 | Getty・リサーチ・ポータルでの日本の美術展覧会カタログ 公開 | 文化財情報資料部 |
| 19.11.1 | 文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー 開催 | 文化財情報資料部 |
| 19.12.13 | シシマイフォーラム2020 開催 | 無形文化遺産部 |
| 19.12.18 | 「東京シシマイコレクション」ウェブサイト 開設 | 無形文化遺産部 |
| 20.1.8 | 第13回公開学術講座「染織技術を支える草津のわざ 青花紙ー花からつくる青色ー」開催 | 無形文化遺産部 |
| 20.1.15 | 文化財修復処置に関するワークショップーナノセルロースの利用についてー開催 | 保存科学研究センター |
| 20.2.3 | 国際研修「紙の保存と修復」2020 開催 | 文化遺産国際協力センター |
| 20.2.14 | 国際研修「世界遺産のための遺産影響評価に関する研修」開催 | 文化遺産国際協力センター |

(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

論文・小山田智寛：「文化財データベースの作成とその意義について」『美術研究』429 東京文化財研究所 pp.65-74 20.1 ほかに4件

発表・OYAMADA, Tomohiro, et al.: Two solutions for orthographical variants problem 2019 CIDOC annual conference (第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019) 19.9.3 ほかに3件

刊行物・『春日権現験記絵巻七・巻八 光学調査報告書』 20.2

研究組織 ○二神葉子、江村知子、塩谷純、小林公治、小林達朗、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、城野誠治、三島大暉、逢坂裕紀子、谷口每子、安岡みのり、丸山礼、手呂内孝憲(以上、文化財情報資料部)

広報委員(情報システム部会)：佐野千絵(保存科学研究センター長) 各部署情報システム部会員：安達佳弘、大島大輔(以上、研究支援推進部)、小野真由美(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)、倉島玲央(以上、保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)

広報委員(年報部会)：山梨絵美子(副所長) 各部署年報部会員：安川政和、井上裕介、三本松俊徳(以上、研究支援推進部)、小林公治(文化財情報資料部)、久保田裕道、前原恵美(無形文化遺産部)、倉島玲央、中山俊介(保存科学研究センター)、友田正彦、安倍雅史(文化遺産国際協力センター)

専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充(シ06)

目 的 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。併せてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

- 成 果**
1. 当研究所2階の資料閲覧室を運営、週3回開室し、国内外の研究者等へ図書・雑誌・写真・デジタルコンテンツ等を利用に供した。
 2. アーカイブズ・ワーキンググループ協議会の開催
全所的文化財情報を発信するため、4半期ごとにアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を開催した(2019(令和元)年5月13日、8月6日、10月18日、2020(令和2)年3月31日、第4回のみメールによる協議)。各部門の担当者とともに成果公開のための情報の標準化を進めた。
 3. 刊行物アーカイブズ・システムを運用・評価し、継続的・安定的な研究情報の蓄積・公開を推進し、図書館システムの運用を行い、情報の標準化に努めた。
 4. 明治・大正期刊行の貴重書、写真資料のデジタル化推進
 - ・当研究所及び東京美術倶楽部所蔵の売立目録について、データ入力とシステム改良を行い、売立目録デジタルアーカイブを完成させ、2019(令和元)年5月より公開を開始し、国内外からの利用者に提供した。さらに2020(令和2)年2月25日に関連研究会を開催し、成果公開を行い、今後の課題や発展性を共有する機会とした。
 - ・当研究所の所蔵する写真資料、近現代の美術作品カード(絵葉書資料)等のデータ入力を進め、公開のための準備を行った。
 5. ゲッティ研究所が構築している語彙データベースとの連携のため、当研究所が蓄積してきた美術家情報、その整備について報告した。
 6. 美術資料のデータ化と成果公開
永青文庫所蔵「洋人奏楽図屏風」(重要文化財)に関するデジタルコンテンツ等を作成し、2020(令和2)年1月より所内公開を開始した。

閲覧室事業の運営

1. 年度内資料受け入れ数
和漢書1,853件、洋書777件、展覧会図録・報告書等1,355件、雑誌2,720件(合計6,705件)
2. 年度内閲覧室利用状況
公開日総数125日・年間利用者合計988人※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休室10日(20.2-3)

- 発 表**・Hideki KIKKAWA: Japanese Artists: Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (Tobunken), International Terminology Working Group Meeting, 20.2.6
- ・山口隆介「仏像研究における売立目録の活用と公開の意義」・山下真由美「土方稻嶺展(於鳥取県立博物館)での売立目録の活用と展開」・月村紀乃「工芸研究における売立目録デジタルアーカイブの活用方法とその事例」・安永拓世「売立目録デジタルアーカイブから浮かび上がる近世絵画の諸問題」、研究会「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望—売立目録の新たな活用を目指して—」20.2.25

研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治、細川民子、寺崎直子、尾野田純衣、大前美由希、田村彩子、阿部朋絵、鈴木良太(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、早川典子(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、西和彦(文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣、片山まび(以上、客員研究員)

平成31年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

目的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

- 成果**
- 2019（令和元）年11月1日、2日の2日間にわたり、専門家はもとより広く一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。研究所内部より2名、外部より2名の講演を行った。それぞれの講演テーマは次の通りである。
 - ・米沢玲（文化財情報資料部研究員）「大徳寺伝来五百羅漢図と『禅苑清規』一描かれた僧院生活一」
 - ・原浩史（慶應義塾志木高等学校教諭）「広隆寺講堂阿弥陀如来坐像のかたちと込められた願いー願主「永原御息所」の人物像を起点としてー」
 - ・小林公治（文化財情報資料部広領域研究室長）「日本唯一の伝世洋剣、水口レイピアの調査と研究」
 - ・田中真奈子（昭和女子大学歴史文化学科）「Spring-8による刀剣研究最前線：制作技術の解明に向けて」
 - 外部からの聴講者は11月1日が96人、2日は55人の参加を得た。参加者からのアンケート結果では、11月1日の67名の回答者のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ88.8%、11月2日の52名の回答者のうち「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせて90.4%の回答を得ることができた。



オープンレクチャーの様子

研究組織 ○小林達朗、塩谷純、二神葉子、小林公治、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小田智寛、米沢玲、三島大暉、野城今日子（以上、文化財情報資料部）、山梨絵美子（副所長）

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (ム03)

- 目 的** 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。
- 成 果**
1. 映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi 8、DVCを中心に媒体変換を行った。
 2. 音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡のオープンリールテープ録音についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
 3. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
 4. 無形文化遺産関連の音声映像資料52点（作成DVD20点・作成BD32点）を所蔵資料として新たに登録した。
- 報 告**・飯島満・石村智：「資料紹介：東京文化財研究所で実施した講談実演記録の一覧(2002-2020年)」『無形文化遺産研究報告』14 pp.187-191 20.3
- 研究組織** ○石村智、飯島満、半戸文、牛村仁美、金昭賢（以上、無形文化遺産部）、飯島満（特任研究員）、大西秀紀、宮澤京子（以上、客員研究員）

文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (コ01)

目的 文化遺産の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワーク構築を推進する。

- 成果**
1. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の国際会議やシンポジウム等に出席した。収集した情報は整理して蓄積するとともに、下記の世界遺産研究協議会開催を始めとして、様々な機会を捉えて関係自治体等関係者に対して情報の周知を図った。
 - ・2019(令和元)年6月30日～7月10日 第43回世界遺産委員会(バクー)
 - ・2019(令和元)年10月28日～11月1日 第31回国際文化財保存修復研究センター総会及び第92/93回理事会(ローマ)
 2. 文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、『各国の文化財保護法令シリーズ[24] 中国』を刊行した。
 3. 上記の成果について広く共有を図るため、「世界遺産研究協議会」を開催し、関係自治体等に対して得られた情報・知見の周知を図った。



第43回世界遺産委員会の様子



『各国の文化財保護法令シリーズ [24] 中国』

- 発表**・境野飛鳥：「第43回世界遺産委員会の報告」世界遺産研究協議会 19.9.20
 ・西和彦：「HIA 参考指針、および「価値の属性」についての考え方」世界遺産研究協議会 19.9.20
- 刊行物**・『各国の文化財保護法令シリーズ [24] 中国』東京文化財研究所 20.3
 ・『世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か』』東京文化財研究所 20.3

研究組織 ○西和彦、境野飛鳥、橋本広美、石田智香子（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（文化財情報資料部）、石村智（無形文化遺産部）

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

文化財情報資料部

文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー（シ05の一部として実施）

文化財目録は、文化財に関する最も重要な情報の一つであり、展示や貸出の計画立案など活用のための基礎情報ともなる。また、視覚的な情報である写真も、目録と併せて保存・管理することで、文化財及び関連する情報の適切な保存や活用を可能とする。標記のセミナーでは、展示施設や自治体、修理技術者や研究者など、文化財の記録作成を必要とする実務者への関連の情報提供を行った。

日 時：2019（令和元）年12月2日（月） 13：00～18：00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：東京文化財研究所

参加者：124名

報 告：・二神葉子（東京文化財研究所） 趣旨説明「文化財の記録作成、データベース化の意義」
・小山田智寛（東京文化財研究所） 「文化財情報のデータベース化およびその活用について」
・城野誠治（東京文化財研究所） 「文化財情報の記録－文化財の写真について－」

無形文化遺産部

第13回無形文化遺産部公開学術講座（ム01の一部として実施）

無形文化遺産部では、無形文化財ならびに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、毎年、公開学術講座を行っている。今年は、「染織技術を支える草津のわざ 青花紙－花からつくる青色－」を2020（令和2）年2月6日に開催した。本講座は、平成28-29年度にかけて滋賀県草津市と共同で行った青花紙製作技術の調査の成果を中心に、調査から2年が経過した現状の報告も交えて開催した。

日 時：2020（令和2）年2月6日（木） 10：30～17：00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：90名

内 容：【講演】

菊池理予（無形文化遺産部）

「青花紙利用の現状

－染織技術者への聞き取り調査を通じて－」

岡田裕美（草津市立草津宿街道交流館）

「草津市と青花紙－青花紙製作技術の保護に向けて－」

石村智（無形文化遺産部）

「文化遺産としての青花紙」

【座談会】「染織材料としての青花紙」 司会：菊池理予（無形文化遺産部）

鈴田滋人（重要無形文化財保持者/木版摺更紗）

岡田裕美（草津市立草津宿街道交流館）

石村智（無形文化遺産部）

【特別上映】

『青花紙製作技術の工程記録』（2018年制作：東京文化財研究所）

青花紙の記録映画『草津市の花 青花 伝承の青花紙』（1999年制作：草津市他）



東京シシマイコレクション（ム02の一部として実施）

日本博参画事業として、日本芸術文化振興会との共催で「東京シシマイコレクション」を開催した。5月には東京国立博物館を含む三者共催で「東京シシマイコレクション2020 プレー東日本大震災から復活したシシマイ」と題した上演イベントを東京国立博物館前庭で開催。多数の外国人見学者も含め、2日間で約2,200名の集客を得た。また1月には「東京シシマイコレクション／シシマイフォーラム2020」と題して伝承者と研究者らでシシマイについて語るイベントを開催、約100名の参加があった。また関連して「東京シシマイコレクション」のウェブサイトを開設。5月に表慶館内で撮影した出演芸能のプロモーション映像を公開している。また5月にはパンフレット、1月には冊子を作成し配布した。

「東京シシマイコレクション2020 プレー東日本大震災から復活したシシマイ」

日 時：2019（令和元）年5月11日（土）～12日（日）
 会 場：東京国立博物館前庭
 出 演：槻沢芸能保存会（岩手県陸前高田市横田町）
 竹浦獅子振り保存会・鷲神熊野神社氏子総代会
 （宮城県牡鹿郡女川町）
 福田十二神楽保存会（福島県相馬郡新地町）
 主 催：東京文化財研究所・東京国立博物館
 日本芸術文化振興会
 協 力：一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン
 株式会社ドウ・クリエーション
 縦系横系合同会社



「東京シシマイコレクション／シシマイフォーラム2020」

日 時：2020（令和2）年1月18日（土）
 会 場：東京文化財研究所セミナー室
 出演・内容：
 第1部 【シシマイを知る】レクチャー
 久保田裕道（東京文化財研究所）
 【地域のシシマイ文化～伝承者から】プレゼンテーション
 渋谷正斗（山形県長井市）
 戸崎敬・近藤竜也（長野県飯田市）
 大島信彦（富山県高岡市）
 島袋拓也・大城王希（沖縄県宜野座村）
 第2部 【シシマイを語る】トークセッション
 高平大輔（映像クリエイター）
 菊地和博（東北文教大学短期大学特任教授）
 鈴木涼太郎（獨協大学准教授）
 森善之（写真家/『ジャパングラフ』編集長）
 司会：小岩秀太郎（縦系横系合同会社）
 第3部 【シシマイに魅入る】ロビーでの鑑賞・交流



主 催：東京文化財研究所・日本芸術文化振興会
 協 力：縦系横系合同会社

第2回湿度制御温風殺虫処理法に関する専門家研究集会(ホ01の一部として実施)

湿度制御温風殺虫処理法に関する専門家研究集会では、国内で2例目となった日光中禅寺鐘楼での現地処理の成果を報告したうえで、本法に関する専門家からの意見を頂きながら、この新しい殺虫処理法について社会実装を見据えた実現可能性を探っていくことを目的として開催した。

日時：2019(令和元)年5月9日(木) 14:00~17:00

会場：東京文化財研究所 地下会議室

講演：木川りか(九州国立博物館)

「日光山輪王寺本堂のオオナガシバンムシの被害と日光の歴史的建造物の広域虫害調査結果」

藤井義久(京都大学、客員研究員)「日光中禅寺鐘楼での湿度制御温風殺虫処理」

討議：田中禎彦、森井順之(以上、文化庁)、小暮道樹、長修、原田正彦、野村牧人、手塚茂幸、廣田浩一(以上、(公財)日光社寺文化財保存会)、福岡憲((公財)文化財建造物保存技術協会)、中麿輝美(日光二荒山神社)、稲葉久雄(日光東照宮)、三浦定俊((公財)文化財虫歯害研究所)、園田直子、日高真吾(以上、国立民族学博物館)、藤原裕子(京都大学大学院農学研究科)、石川毅、福田達也(以上、石川工務店)、北原博幸(トータルシステム研究所)、佐野千絵、犬塚将英、小峰幸夫、佐藤嘉則(以上、東京文化財研究所)

文化財修復処置に関するワークショップ—ゲルを使用した修復処置—
(ホ05の一部として実施)

日本では、近代の文化財を中心に、従来の材料とは異なる多様な材料から成る文化財の保存修復を行うことが増加している。このような作品の処置の際に、従来の処置技術では対応が困難な事例が多く見受けられるようになってきている。特に、水にセンシティブな文化財の場合には、少量の水を制御して用いたいというニーズが高まっている。欧米では、このような場合、オリジナルの物質に負担が少なくコントロールのしやすい材料と方法の研究が進められており、今回、日本に初めてパオロ・クレモネージ氏を講師として招聘しワークショップを開催した。

クレモネージ氏はイタリアを中心に活躍される保存科学者で、ゲルやエマルジョンを使用したクリーニングをはじめとした修復処置について長年研究されている。多くの論文や著書のご発表の他、イタリアおよびヨーロッパ13カ国にてクリーニング材料・手法のワークショップも開催実績がある。今回の東京文化財研究所におけるワークショップでは、クリーニングに関する基本的かつ科学的な講義と、ゲルやエマルジョンを用いた実践的な内容とを連携させた3日間のプログラムを行った。

日時：2019(令和元)年10月8日(火)-10日(木)

会場：東京文化財研究所 地下会議室

| | | | | |
|-------------|-----------------|----|---|--|
| 10/8 (火) | 9:00~ 12:00 | 理論 | 水および水分環境(1) —水に関する基礎知識— | pH、酸・塩基と緩衝剤。塩とキレート剤。分類と作用の仕方、有効性と制限、相互作用。 |
| | 13:00~ 17:00 | 実技 | 処置を行う表面の観察:顕微鏡および紫外線蛍光による観察;接触角、pH、導電率の測定。表面分析結果にもとづき、緩衝剤を添加した洗浄水溶液を単体もしくはゲルの形態で調整。表面の予備的なドライ・クリーニング。 | |
| 10/9 (水) | 9:00~ 12:00 | 理論 | 水および水分環境(2) —ゲルの使い方— | 界面活性剤。ゲル化剤。分類と作用の仕方。有効性と制限、相互作用。繊細な表面に水分を使用する方法。 |
| | 13:00~ 17:00 | 実技 | 対象作品への洗浄水溶液の適用、およびフィルム状物質の除去(ワニス、保護層、補彩や加筆の媒剤、無機物/鉱物質) | |

| | | | | |
|--------------|-----------------|----|--|--|
| 10/10 (木) | 9:00～ 12:00 | 理論 | 溶剤の使い方と極性について | 無極性有機溶剤:炭化水素とシロキサン。テ ィーズ相関図による溶解プロセスの解説。安 全性と有毒性。水処理前の一時的な表面保護、 マクロ・エマルジョン、パーティクル・エマ ルジョン(ピッカリング・エマルジョン) |
| | 13:00～ 17:00 | 実技 | 様々な種類のエマルジョン作成。繊細な表面を水処理するための一時的な表面保護。 | |

参加者 午前の部：56名、午後の部：21名

文化遺産国際協力センター

世界遺産研究協議会「戦略的 OUV 選択論」(④コ01の一部として実施)

コ01プロジェクトで行っている諸研究のうち、世界遺産に関する制度と最新の動向についての情報を提供するため、平成30年度に引き続き研究協議会を開催し、外部研究者を含む5名の発表を行った。今回は、世界遺産委員会で行われた議論等についての報告に加え、世界遺産の保全に関して様々な資産で課題となっている遺産影響評価について、各地での取り組み等の報告を通じて、その実際と今後の方向性について知る機会を提供した。

日 時：2019(令和元)年9月20日(金) 13:00～20:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：103名

発表者及び題名：・境野飛鳥(東京文化財研究所)

「第43回世界遺産委員会の報告」

・西和彦(東京文化財研究所)

「HIA参考指針、および「価値の属性」についての考え方」

・三好玄(大阪府教育庁)

「百舌鳥・古市古墳群における緩衝地帯の保全—都市部に所在する資産としての取組み—」

・正田実知彦(福岡県)

「世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群遺産影響評価運用マニュアルについて」

・佐藤嘉広(岩手県)「「平泉」における遺産影響評価の事例と課題」

全体討論

懇談会・ミニプレゼンテーション：

・中田健一(大田市教育委員会)

「世界遺産登録のインパクトと保存活用—石見銀山の事例—」

・松島吉信(富山県)

「防災遺産・立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組み」

文化遺産国際協力センター

国際シンポジウム「アラビア半島の考古学—オーストリア隊と日本隊の最新の成果から—」 (コ02の一部として実施)

ウィーン大学のマルタ・ルチアニ教授を招聘し、アラビア半島の考古学に関する国際シンポジウムを開催した。ルチアニ教授は発掘中のクレイヤ遺跡について基調講演を行った。クレイヤ遺跡はアラビア半島北西部に位置する大遺跡で、旧約聖書に登場するメディアン族の遺跡と言われ、近年、ウィーン大学によって発掘調査が行われている。ほかにも、アラブ・イスラーム学院、東京文化財研究所、早稲田大学、金沢大学に所属する研究者が、アラビア半島地域における考古学や歴史、文化に関する調査・研究について報告を行った。

日 時：2020 (令和2) 年1月31日 (金) 13:00~17:00

会 場：東京文化財研究所 会議室

主 催：東京文化財研究所

金沢大学

国際文化資源学研究センター課題ユニット「遊牧民と古代文明」

超然プロジェクト「古代文明の学際研究の世界的拠点形成」

科学研究費基盤研究S「中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究」

参加者：26名

講 演：・マルタ・ルチアニ (ウィーン大学)

「Novel Perspectives on the Archaeology of Desert Settlements in North Arabia」

・藤井純夫 (金沢大学)

「Transition in Burial Practice and the Formation Process of Tribal Society in NW Arabia: New Insight from Archaeological Investigations at Wadi Muharraq and Wadi Ghubai Sites」

・安倍雅史 (東京文化財研究所)

「Reconsidering the Date of Riffa Type Burial Mounds in Early Dilmun: New Radiocarbon Data from Wadi al Sail, Bahrain」

・長谷川奏 (早稲田大学)

「Viewpoints on the Reconstruction of the Early Islamic Daily Life at the Hijaz Region: Archaeological Research at al-Hawra', Red Sea Coast, Saudi Arabia」

・徳永里砂 (アラブ・イスラーム学院)

「Distant and Local Inland Networks in al-Hijaz to the Early Islamic Period: Epigraphic Surveys in the Hinterland of al-Hawra'」

文化遺産国際協力センター

国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために—歴史教育を通じた戦後イラクの復興への挑戦—」 (CO2の一部として実施)

シュメール地方 (南イラク) のメソポタミア文明遺産を現地の教員や若者がどのように認識しているのか、また彼らがどのような教育支援を期待しているのかといった声に耳を傾け、戦後イラクの復興における歴史遺産の保護や文化資源を活用した人材育成への日本人の関わり方を論じた。

日 時：2019 (平成31) 年4月13日 (土) 10:00~17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：特定非営利活動法人メソポタミア考古学教育研究所 (JIEAM)、東京文化財研究所

後 援：外務省、駐日イラク共和国大使館

「日・イラク外交関係樹立80周年記念」関連イベント

参加者：約80名

講 演：・小泉龍人 (JIAEM) 「メソポタミア文明遺産の現状と課題」

・安倍雅史 (東京文化財研究所) 「東京文化財研究所による西アジア文化遺産保護支援事業」

・小口裕通 (国士舘大学イラク古代文化研究所) 「日本の研究機関によるイラク調査の意義と成果」

・増渕麻里耶 (京都造形芸術大学芸術学部) 「文化財保護のための教育と人材育成の重要性」

・ナイーム・アルシュウェイリー (ズィー・カール大学人間教育学部) 「教員から見た南イラクの教育現場の実状と課題」

・イマード・ダワード (ズィー・カール大学人間教育学部) 「ズィー・カール大学の学生たちの教育支援に対する要望」

・榊原智之 (JIAEM、(株)エル・コーエイ) 「考古学教育支援の在り方について」

国際シンポジウム「博物館とその周辺のエジプト学研究の最前線」(CO2の一部として実施)

2019(令和元)年9月1日～7日の第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019との連動企画として開催した国際シンポジウム。日本の研究者、学生、一般を対象に、世界の博物館・美術館のコレクション研究を中心とする美術史、また考古学や保存修復学を中心とするエジプト学の研究の最前線について、日本国内及び海外の代表的な専門家が講演を行った。

日 時：2019(令和元)年9月10日(火) 09:30～16:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：東京文化財研究所、CIPEG(国際博物館会議エジプト学国際委員会)日本委員会、金沢大学新学術創成研究機構、古代オリエント博物館、中部大学

参加者：41名

プログラム：・Sakuji Yoshimura (Higashi Nippon International University / Waseda University)

「Conserving the Second Boat of Khufu」

・Kyoko Yamahana (Tokai University)

「The First Papyrus Restoration Project in Japan: Educating Students to Become Papyrus Conservators」

・Hourig Sourouzian (The Colossi of Memnon and Amenhotep III Temple Project)

「An Open Air Museum for Monumental Sculpture within the Temple of Amenhotep III to Keep in situ the Splendid Heritage of the Great King」

・Regine Schultz (The Roemer and Pelizaeus Museum, Hildesheim)

「From Pi-Ramesse to Hermopolis and from Egypt to Hildesheim and Back」

・Vincent Rondt (Musée du Louvre, Paris)

「Not Everybody Knows that Mariette's Serapeum Dig Represent Some 10 per cent of the Louvre Museum Collection of Ancient Egyptian Objects」

・Tine Bagh (Ny Carlsberg Glyptotek, Copenhagen)

「Amenemhat III: His 'Labyrinth' and Beyond」

・Betsy Bryan (The Johns Hopkins University, Baltimore)

「The King and the Image of God: Joining a Statue of Amenhotep III in London and Cairo」

・Mohamed Gamal Rashed (Damietta University, Damietta)

「Unpublished Statues from the Karnak Cachette at the Egyptian Museum: Tracing the Genealogy of Some Priestly Families」

・Melinda Hartwig (Michael C. Carlos Museum, Emory University, Atlanta)

「Researching the Sensusret Collection」

・Tomoaki Nakano (Chubu University)

「The Egyptian Collection at Kyoto University for the Next Hundred Years」

・Gabriele Pieke (Reiss-Engelhorn-Museen, Mannheim)

「Egypt in Manheim: An Old Collection with New Visions」

・Christian Loeben (Museum August Kestner, Hannover)

「Hanover: The Second Largest Amarna Collection in Germany – Past – Present – Future」

・Christian Greco (Museo Egizio, Turin)

「Digital Revolution and Humanism」

総合研究会(④シ)

総合研究会は、各研究部・センターの研究者がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。令和元年度は下記のスケジュールで開催した。

- ・第1回 2019(令和元)年5月14日(火)
発表者：金井健(文化遺産国際協力センター)
「建造物にみる文化財保護のいま、これから—文化財建造物保存の理念と実際—」
- ・第2回 2019(令和元)年6月4日(火)
発表者：佐野真規(無形文化遺産部)「無形文化遺産の映像記録をめぐる課題」
- ・第3回 2020(令和2)年1月7日(火)
発表者：江村知子(文化財情報資料部)
「日本美術の記録と評価についての研究—「田中一松資料」の保存活用」
- ・第4回 2020(令和2)年2月4日(火)
発表者：水谷悦子(保存科学研究センター)
「環境工学と文化財保存-組積造の塩類風化研究を一例に」

文化財情報資料部研究会(④シ)

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。平成31(令和元)年度の開催内容は下記の通り。(肩書は発表時のもの)

- 4月23日(火) 黒川公二(佐倉市立美術館)「美術評論家 鷹見明彦の活動とその資料について」
- 5月31日(金) 津田徹英(青山学院大学)「資料紹介 東京文化財研究所架蔵 平子鐸嶺自筆ノート類について—その収載内容とノート類のもつ意義—」 コメントーター：田中修二(大分大学)
- 6月25日(火) 三島大暉(文化財情報資料部)「Linked Dataを用いた地域文化遺産情報の集約」 コメントーター：村田良二(東京国立博物館)
- 7月23日(火) 研究会「戦後日本美術アーカイブズの研究活用に向けて—松澤宥アーカイブを例に」
橘川英規(文化財情報資料部)「1950年代、60年代の松澤宥宛書簡—その整理と活用」
木内真由美(長野県信濃美術館)「松澤宥アトリエ「プサイの部屋」の調査・記録報告」
宮田有香(国立国際美術館)「松澤宥アーカイブ(東京文化財研究所—時預かり資料)—内科画廊
関連資料を通じて考える利用の可能性」
細谷修平(美術・メディア研究者、映像作家)「映像メディアのデジタル化と保存—松澤資料を例に」
討議
- 8月26日(月) 野城今日子(文化財情報資料部)「彫刻家 小室達 基礎研究」 コメントーター：小玉敏(しばたの郷土館)、田中修二(大分大学)、戸張泰子(台東区立朝倉彫塑館)
- 9月24日(火) 小林公治(文化財情報資料部)「南蛮漆器成立の経緯とその年代—キリスト教聖龕を中心とする検討—」 コメントーター：武田恵理(修復家)
- 12月10日(火) 塩谷純(東京文化財研究所)・伊藤史湖(久米美術館)「黒田清輝・久米桂一郎の書簡を読む」
- 12月24日(火) 林佳美(東海大学)「日本中世のガラスを探る—2018・2019年度の調査をもとに—」 コメントーター：井上暁子(ガラス工芸史研究者)
- 1月25日(火) 依田徹(遠山記念館)「明治文化と井上馨」

2月28日(木)研究会

「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望—売立目録の新たな活用を目指して—」
(以下の別項に詳述)

文化財情報資料部

売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望—売立目録の新たな活用を目指して— (文化財情報資料部研究会の一部として実施)

東京文化財研究所は、明治から昭和に発行された約2,500冊の売立目録（オークションカタログ）を所蔵し、長年、閲覧に供してきたが、保存状態が悪い目録も多いため、戦前の目録についてのみ、2015（平成27）年から東京美術倶楽部と共同でデジタル化を行い、2019（令和元）年5月に売立目録デジタルアーカイブとして公開を開始した。本研究会では、その公開に関連して、さまざまな分野における売立目録デジタルアーカイブの活用事例を発表することで、今後の展望や利点をはじめ、問題点や注意点について考える場を提供した。

日 時：2020（令和2）年2月25日（火） 13：30～17：30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：東京文化財研究所

参加者：47名

発表者：山口隆介（奈良国立博物館主任研究員）「仏像研究における売立目録の活用と公開の意義」

山下真由美（細見美術館学芸員）「土方稻嶺展（於鳥取県立博物館）での売立目録の活用と展開」

月村紀乃（ふくやま美術館学芸員）「工芸研究における売立目録デジタルアーカイブの活用方法とその事例」

安永拓世（東京文化財研究所研究員）「売立目録デジタルアーカイブから浮かび上がる近世絵画の諸問題」

ディスカッション・質疑応答（上記4名・会場参加者）

文化財情報資料部

東文研 総合検索（シ05の一環として実施）

東京文化財研究所が所蔵する図書や雑誌、展覧会カタログ、画像等の資料、東京文化財研究所の定期刊行物、国内外の美術関係文献等について、メタデータを横断的に検索することが可能なウェブデータベースで、デジタルデータを公開する「研究資料データベース」も含め、28件のデータベース、約129万件のデータを検索対象とする。検索画面は日英両言語に対応している。当研究所の定期刊行物については、本文のPDFデータを閲覧することも可能である。なお、日本国外における美術展覧会・映画祭開催情報、及び日本国外で出版された書籍情報に関しては、英国セインズベリー日本藝術研究所が採録した情報を受け入れている。
www.tobunken.go.jp/archives/

文化財情報資料部

研究資料データベース（シ05の一環として実施）

東京文化財研究所が作成、収集した研究資料の画像データやテキストデータを検索・閲覧することができるウェブデータベース。現在、18件のデータベース、9万件弱のデータを公開しており、すべてのデータベースを横断的に検索可能で、一部を除き「東文研 総合検索」からの横断検索にも対応している。

平成30年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』(シ07)

日本美術年鑑

2018

東京文化財研究所

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成30年版は、B5判、459ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

『美術研究』

1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論説、研究ノート、書評、展覧会評、研究資料・図版解説等を掲載している。令和元年度は428号、429号、430号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

美術研究

無形文化遺産部

2-(4)-②-1)

無形文化遺産部出版関係事業(△04)



『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第14回にあたる令和元年度は「無形文化遺産の新たな活用を求めて」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



保存科学研究センター

2-(4)-②-1)

『保存科学』第59号の出版(ホ07)



『保存科学』第59号

佐野千絵、稲葉政満(東京藝術大学大学院美術研究科教授)、間瀬創(文化財活用センター保存担当研究員)、友田正彦、早川泰弘の5名からなる編集委員会を編成、投稿された13件全ての原稿に対して、査読委員による査読を実施、報文3件、報告7件、資料1件、計11件の掲載を決定した。

<https://www.tobunken.go.jp/~ccr/pdf/59/MOKUZI59.html>

『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』

『東京文化財研究所概要』は研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2ヶ国語により簡潔に紹介している。令和元年度の概要はA4判37ページ。



『TOBUNKENNEWS』はウェブサイトに公開した毎月の「活動報告」から、紙媒体に適した記事を精選し、文化財保存に関するコラム、刊行物紹介等とともに掲載している。A4判。令和元年度はNo.70（7月刊、52ページ）、71（11月刊、48ページ）、72（2020年3月刊、36ページ）を刊行した。

『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』はそれぞれ、各部・センターからの部会員で構成される東京文化財研究所広報委員会の概要部会、ニュース部会が作成し、編集事務はいずれも研究支援推進部企画渉外係が担当している。

プロジェクトの一環として刊行された刊行物

『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵

巻七・巻八 光学調査報告書

東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館と共同で2003（平成15）年から実施してきた、鎌倉時代を代表する絵巻物「春日権現験記絵」全20巻のうち、巻七・巻八を対象とした光学調査報告書である。高精細画像と蛍光X線分析による彩色材料調査結果を併せて収録した。2020年2月刊行、207ページ（縦組）+XFR79ページ（横組）。

（④シ05の一環として実施）



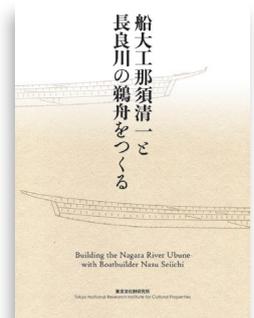
パンフレット『日本の芸能を支える技』V 調べ緒：山下雄治

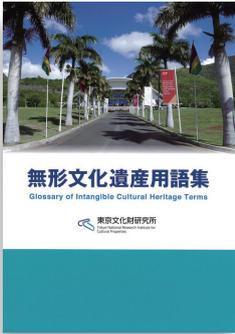
2017（平成29）年より継続的に行っている、楽器を中心とした文化財保存技術の調査と並行して、楽器製作者とその技術に焦点を当てたパンフレットを順次刊行している。2020年2月刊行、8ページ。（①ム01の一環として実施）

『船大工那須清一と長良川の鵜舟をつくる』

2017（平成29）年に岐阜県立森林文化アカデミーと共同で行った「鵜舟プロジェクト」の報告書である。アメリカ人船大工ダグラス・ブルックス氏らとともに長良川鵜舟に用いる鵜舟の造船技術の記録を作成し、船大工道具一覧とともに報告書にまとめた。2020年3月刊行、132ページ。

（①ム02の一環として実施）





『無形文化遺産用語集』

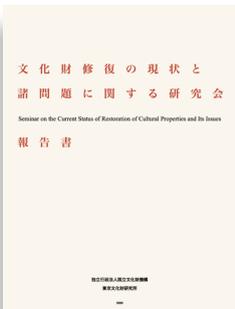
ユネスコ無形文化遺産保護条約に関連した用語について、英語とその和訳、定義をまとめた用語集。近年の政府間委員会における決議や議論、関連事項についての解説も付している。同条約の用語には独特な語法のものも多いため、この用語集が同条約の理解の一助となれば幸いである。日本語、2020年3月刊行、125ページ。

(②ム05の一環として実施)

『国宝日月四季山水図 光学調査報告書』

真言宗御室派大本山 天野山金剛寺が所蔵する「日月四季山水図」は、2018（平成30）年に国宝に指定された六曲一双屏風である。光学調査により、他の日本絵画でほとんど類例のない白色顔料の利用形態が見出された。本報告書では、その調査結果を詳細に公開するために、カラー・近赤外・蛍光写真及び蛍光エックス線分析結果を収録した。2019年10月刊行、128ページ。

(②ホ03の一環として実施)



『文化財修復の現状と諸問題に関する研究会報告書』

近年、文化財に対する注目が増しており、活用も積極的に推進されているが、それに伴い、修復対象とされる文化財も増加している。その中で、従来の修復方法や修復に対する概念では対応できなくなってきている事例が多くなってきている。

このような現状を踏まえ、2018（平成30）年11月22日に、「文化財修復の現状と諸問題に関する研究会」を開催し、現在の修復の概況に関して共有した上で、修復の際に認識される問題点を文化財各分野の専門の先生方からご紹介いただいた。

2020年3月刊行、137ページ。

(②ホ05の一環として実施)

『未来につなぐ人類の技19—コンクリート造建造物の保存と修復』

本書は、近代文化遺産研究室が令和元年度に実施した「コンクリート造建造物の保存と修復に関する研究」の成果を取りまとめた報告書である。文化財所有者・修復技術者等が、保存と修復の実務で利用することを念頭において、国内の学識経験者と行政担当者の論考を加え、同室が実施した事例調査の分析結果をまとめた事例集を収めている。2020年2月刊行、125ページ。

(②ホ06の一環として実施)



『国際シンポジウム

「台湾における近代文化遺産活用の最前線」

本書は平成30年度に実施した国際シンポジウム「台湾における近代文化遺産活用の最前線」において、国内及び台湾から招聘した近代文化遺産保護の関係者や学識者による近代文化遺産保護と活用に関する講演及び総合討議の内容をまとめたもの。

2020年3月刊行、146ページ。

(②ホ06の一環として実施)



『世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か』』

本冊子は、2019（令和元）年9月20日に開催された『世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か』』の講演内容を書き起こしたものである。巻末に講演内容に関連した世界遺産関連用語を掲載している。日本語、2020年3月刊行、127ページ。

（コ01の一環として実施）

『アルメニアにおける染織文化遺産保存修復ワークショップ 2017-2019事業報告』

2017（平成29）～2019（令和元）年にアルメニア共和国において実施した、染織文化遺産保存修復の技術移転・人材育成ワークショップに関する事業報告書。東京文化財研究所が2011（平成23）年より実施してきた同国との協力事業を含めたこれまでの経緯、事業概要、ワークショップの内容を収録。日本語とアルメニア語による本文、巻頭に英語要約文を掲載、2019年12月刊行、34ページ。

（コ02の一環として実施）



『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 令和元年度成果報告書』

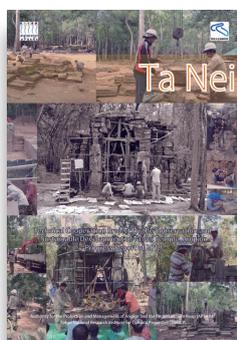
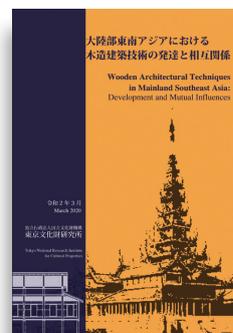
令和元年度に運営費交付金事業「アジア諸国等文化遺産保存修復協力」として実施した、カンボジア、アルメニア、イランの各国を対象とした調査研究及び研修ならびに主催研究会の概要と事業成果、関連資料等を収録。日本語、2020年3月刊行、53ページ。

（コ02の一環として実施）

『大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係』

2018（平成30）年12月に東京文化財研究所において開催した研究会の議事録。現存する木造建築遺構から読み取れる技術的な特徴や、その発展過程における域内相互、さらには域外との関係性をテーマに、カンボジア、タイ、ミャンマーの三か国に焦点を当てて行った報告及び討議の内容を収録。日本語・英語併記、2020年3月刊行、91ページ。

（コ02の一環として実施）



『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report 2019-』

2019（令和元）年に東京文化財研究所がアンコール・シエムリアプ地域保存整備機構（APSARA）と共同で実施した、カンボジアのタネイ寺院遺跡における保存整備事業に関する報告書。同遺跡東門の修復における事前準備、石材整理、解体、考古発掘、三次元計測、地質試験など諸調査の内容を収録。英語、2020年3月刊行、94ページ、APSARAと連名による刊行。

（コ02の一環として実施）

博物館・美術館等保存担当学芸員研修(ホ08)

- 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。
- 2) 研修の体系を完成させるとともに、研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

1. 第36回博物館・美術館等保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと共催で実施した(7月8日～19日、受講者31名)。
2. 研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行った。参加者から有益と評価された。
3. 令和元年度に実施した第35回博物館・美術館等保存担当学芸員研修受講者の所属長あてに、研修成果の活用実績やカリキュラム、応募手続き等に関する要望を問うアンケート調査を行った。



研修の様子

研究組織 ○佐野千絵、小安友利恵、小峰幸夫(以上、保存科学研究センター)、吉田直人、間渕創(保存科学研究センター併任、文化財活用センター)

文化財の収集・保管に関する指導助言(シ)

令和元年度は以下の組織等において指導助言を行った(24件)。

1. 豊川市桜ヶ丘ミュージアムの特別展「島田卓二、黒田清輝とその周辺」への協力・助言
2. 内子町教育委員会自治・学習課での黒田清輝「重岡薫五郎肖像画」調査への協力・助言
3. 国立アイヌ民族博物館の積層式書架に係る仕様策定に関する助言(仕様策定委員)
4. 国立新美術館のアートライブラリー委託業者選定に関する助言(外部審査員)
5. 八尾市史編纂のための文化財調査に関する協力・助言
6. 岡山県立美術館の文化財調査に関する協力・助言
7. 九州国立博物館の文化財調査に関する協力・助言
8. 中之島香雪美術館の文化財調査に関する協力・助言
- 9~24以下、所蔵作品調査に関する協力・助言

イギリス・イーストアングリア大学セインズベリー視覚芸術センター、ドイツ・ライプツィヒ民族学博物館、ドイツ・ハイデルベルク民族学博物館、ドイツ・ハンブルク美術工芸博物館、韓国国立中央博物館、ドイツ・ケルン東洋美術館、逸翁美術館、和歌山県立博物館、和歌山市立博物館、野崎家塩業歴史館、奈良国立博物館、サントリー美術館、甲賀市水口歴史民俗資料館、南蛮文化館、茨木市文化財資料館、大分県埋蔵文化財センター

無形文化遺産に関する助言(ム)

無形文化遺産の保存・伝承・活用に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言等を実施した。

- ・文化庁への文化審議会無形文化遺産部会における助言
- ・文化庁への伝統文化親子教室事業に関する助言
- ・文化庁への無形民俗文化財に関する助言
- ・山梨県への文化財保護審議会における助言
- ・神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会における助言
- ・千葉県への博物館資料審査委員会における助言
- ・東京都への民俗芸能大会実行委員会における助言
- ・島根県への古代文化センターにおける助言
- ・静岡市への文化財保護審議会における助言
- ・武蔵野市への文化財保護委員会における助言
- ・京都市への京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議における助言
- ・箱根町への箱根湯立獅子舞調査に関する助言
- ・公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言
- ・公益社団法人全日本郷土芸能協会への「世界無形文化遺産フェスティバル」招聘団体選考に関する助言
- ・一般財団法人日本青年館への第68回全国民俗芸能大会企画に関する助言
- ・岐阜市・関市にて長良川鶺鴒総合調査専門委員会における助言
- ・徳島県への阿波晩茶製造技術調査委員会における助言
- ・愛媛県西条市への石鎚黒茶製造技術調査委員会における助言
- ・文化庁への伝統工芸用具・原材料に関する調査事業専門家委員としての助言
- ・滋賀県草津市への青花紙保存継承懇話会専門家委員としての助言
- ・文化庁への工芸技術記録映画製作監修委員会における映像内容の助言
- ・文化ファッション研究機構への運営委員会における助言
- ・文部科学省への教科用図書検定調査審議会第6部会音楽小委員会における審議
- ・文化庁への調査員(非常勤)としての文化財保存技術調査と報告・助言
- ・文化庁への伝統芸能用具・原材料に関する調査委員会における調査・助言

文化財の虫菌害に関する調査・助言(ホ)

目的 これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。

成果 主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復関係機関等であった。

対応件数は41件あり、その中には派遣依頼等を受けて現地にて調査したもの、研究所にて分析試験等を実施したものなど、より詳細な調査が必要な事案もあった。

相談内容は、保存公開施設内における虫害やカビの発生に関する事、殺虫・殺菌処理に使用する薬剤に関する事などの一般的な相談案件ほか、歴史的木造建造物の虫害対策、空調の無い貴重書庫での虫菌害対策、古墳石室内の微生物被害対策など、より解決が困難な相談案件も多くあった。

台風19号に伴う水損文化財の生物被害とその初期対応や浸水した収蔵庫の微生物汚染状況の把握など緊急性を伴う相談案件にも対応した。

現場の対応と併せて、啓発・普及活動の一環で生物被害に関する研修講師を8件担当した。その際に生物科学研究室で作成した啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った。

研究組織 ○佐藤嘉則、小峰幸夫、佐野千絵 (以上、保存科学研究センター)

文化財の修復及び整備に関する調査・助言(ホ)

目的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

成果 1. 令和元年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、国宝白杵磨崖仏、国宝平等院鳳凰堂、特別史跡キトラ古墳壁画、特別史跡王塚古墳、史跡端島炭鉱跡、史跡竹原古墳、史跡桜京古墳、史跡屋形古墳群、史跡薬師堂石仏附阿弥陀堂石仏、史跡観音堂石仏、史跡原城跡、史跡土佐藩主山内家墓所、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡葦山反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡出島和蘭商館跡、史跡徳島藩主徳島家墓所、重要文化財氷川丸、重要文化財日本丸、重要文化財近代教科書関係資料、重要文化財通潤橋、重要文化財熊野磨崖仏、重要文化財巖島神社大鳥居、重要文化財碓氷第17隧道、重要文化財二条城杉戸絵、重要文化財法隆寺金堂外陣旧壁画(土壁)、重要文化財琉球芸術調査写真(鎌倉芳太郎撮影)、重要文化財上杉神社明冠服類・服飾類、特別天然記念物秋芳洞、天然記念物風連鍾乳洞、天然記念物郷村断層、熊本県内被災古墳。

2. 地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

首里城、白浜町指定梵音寺釈迦如来坐像、東京都「第5福竜丸」、公益財団法人船の科学館本館収蔵品展示室内保存環境、愛媛県指定史跡難波奥谷古墳、富山市大山恐竜足跡化石群、一般財団法人航空協会航空関連紙資料、日本民藝館所蔵厨子甕資料。



西日本豪雨で石室が一部流出した愛媛県指定史跡・難波奥谷古墳

研究組織 ○朽津信明、早川典子、倉島玲央、佐野千絵 (以上、保存科学研究センター)、中山俊介 (特任研究員)、加藤雅人 (文化遺産国際協力センター)

文化財の材質・構造に関する調査・助言(ホ)

目的 様々な文化財資料について、その材質や構造を明らかにするために、科学的調査を実施する。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施する。

成果 令和元年度は、蛍光X線分析による材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先は以下の通りである。

1. 材質調査

- ・金工品(文化庁)
- ・陶磁器(文化庁)
- ・漆工品(徳川美術館)
- ・経典(平等院)
- ・建造物彩色(平等院)
- ・絵画(東大資料編纂所)
- ・絵画(絵金蔵)
- ・出土金工品(群馬県)
- ・絵画(根津美術館)
- ・山車の装飾部材(那須烏山市)
- ・絵画(宇和島伊達文化保存会)
- ・木彫像(平等院)
- ・漆工品(佐野美術館)
- ・一等水準点(国土地理院)
- ・絵画(三の丸尚蔵館)
- ・金箔・蒔絵粉(中尊寺)

2. 構造調査

- ・絵画(根津美術館)
- ・山車の装飾部材(那須烏山市)
- ・絵画(個人蔵)
- ・木彫像(文化庁)



山車に使われている装飾部材の構造調査

以上、調査・助言件数 20件

研究組織 ○犬塚将英、早川泰弘(以上、保存科学研究センター)

美術館・博物館等の環境調査と援助・助言(ホ)

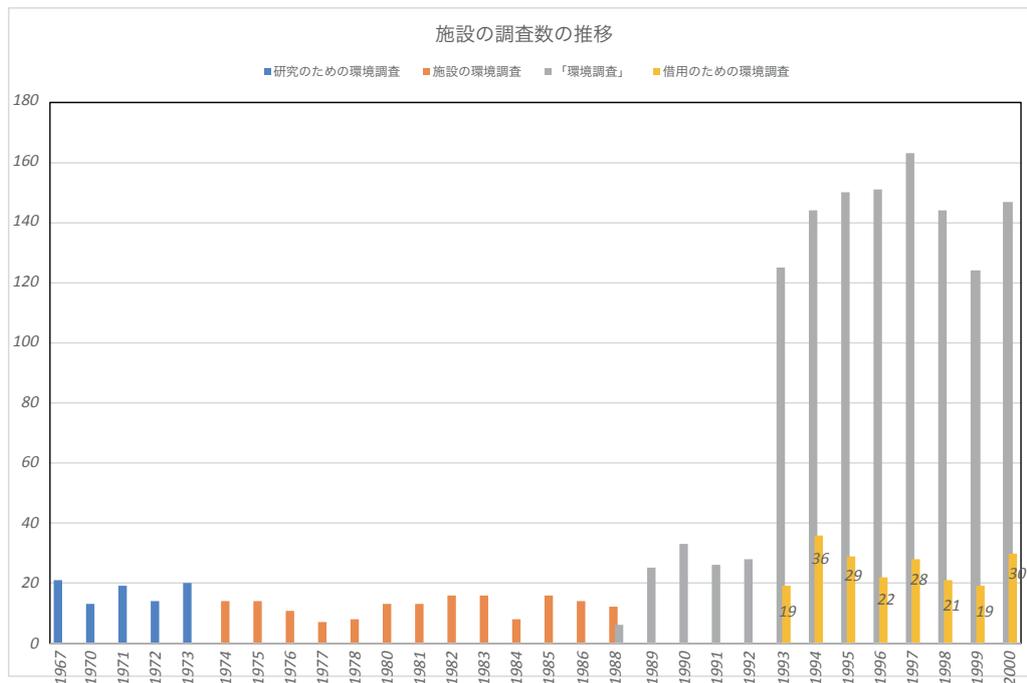
目的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

成果 1. 国指定品の所有者以外による公開、公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査に関わる相談窓口は、令和元年度から文化財活用センターに一本化した。
当所では、公立美術館・博物館、社寺等、23団体から、保存環境に関する相談を受け、対応した。

2. 相談内容は以下の通りであった。

企画展示室の温湿度制御(吹き抜けの影響)、空調改修、空調機の外調機騒音への対応、茶室の酸性物質への対応、美術館ではない場所での作品公開への対応、収蔵庫の温湿度制御の

相談（1～3Fをつなぐ未稼働の空調ダクト影響の把握）、一時保管施設のアルデヒド類発生への対応、フィルム類のガス燻蒸への対応（燻蒸後の保管方法含む）、収蔵庫改修、環境全般、カビへの対応、空気環境清浄化、汚染物質発生源調査、覆屋内の過乾燥、温湿度環境制御、収納箱（保存箱）、高湿度対策、窒素発生装置による低酸素濃度処置の加湿ほか



研究組織 ○佐野千絵、水谷悦子、相馬静乃、小安友里恵（以上、保存科学研究センター）

保存科学研究センター

2-(5)-④-1)

東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進(ホ)

目的 連携大学院教育の推進

東京藝術大学で連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

・東京藝術大学大学院：システム保存学（保存環境学、修復材料学）

成果 1. 令和元年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜1限） 2単位 朽津信明・犬塚将英・佐藤嘉則 18名（聴講3名）

修復計画論（前期、木曜1限） 2単位 安倍雅史・朽津信明 9名

修復材料学特論（前期、木曜2限） 2単位 早川泰弘・早川典子 10名

保存環境学特論（後期、火曜1限） 2単位 犬塚将英・佐藤嘉則 6名

文化財保存学演習

講師：犬塚将英 「石造文化財表面の状態調査のための実測」

日時：6月4日（火）13～17時 18名



保存環境計画論の授業風景

2. 入学試験

令和2年度東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程）入学試験を実施し、2月11日に入学試験及び面接を実施して、合格者1名を決定した。

3. 成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議（11回）、入試合同判定会議（2回）、博士・修士学位審査会への協力

研究組織 ○朽津信明、早川泰弘、犬塚将英、佐藤嘉則、早川典子(以上、保存科学研究センター)、安倍雅史(文化遺産国際協力センター)、貴田啓子(客員研究員・東京藝術大学教育研究助手)

3. 外部資金等による研究活動

| | |
|---------------------------------|-----|
| 1. 科学研究費助成事業 | 79 |
| 2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究 | 109 |
| 3. その他の調査研究 | 132 |
| 4. 成果公開 | 134 |

1. 科学研究費助成事業

| 研究種目 | 研究課題 | 研究代表者 | 頁 |
|------------|--|------------------|-----|
| 基盤研究(B) | 対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に— | 小林公治 | 81 |
| 〃 | 日本美術の記録と評価についての研究—美術作品調書の保存活用 | 江村知子 | 82 |
| 〃 | 絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査 | 早川典子 | 83 |
| 基盤研究(B)海外 | ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立 | 前川佳文 | 84 |
| 基盤研究(C) | 黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現— | 大河原典子 | 85 |
| 〃 | 徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究 | 小野真由美 | 86 |
| 〃 | ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究 | 安倍雅史 | 87 |
| 〃 | 常磐津節の音楽分析のための基盤研究 | 前原恵美 | 88 |
| 〃 | 江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究 | 安永拓世 | 89 |
| 〃 | ポスト1968年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として | 橘川英規 | 90 |
| 〃 | DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築 | 佐藤嘉則 | 91 |
| 〃 | 博物館 IPM への ATP 拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究 | 間淵創 | 92 |
| 〃 | 白色 LED 光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制 | 吉田直人 | 93 |
| 〃 | 鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究 | 朽津信明 | 94 |
| 挑戦的萌芽研究 | 紙本屏風の規格と表現・技法の研究 | 江村知子 | 95 |
| 若手研究(A) | 染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて— | 菊池理予 | 96 |
| 若手研究(B) | 紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発 | 貴田啓子 | 97 |
| 〃 | イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究 | 山田大樹 | 98 |
| 若手研究 | マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究 | 五木田まきは | 99 |
| 〃 | 伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究 | マルティネス アレハンドロ | 100 |
| 〃 | 中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究 | 米沢玲 | 101 |
| 〃 | セルロースナノファイバーによる紙質文化財クリーニング手法の開発 | 貴田啓子 | 102 |
| 〃 | 木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案 | 古田嶋智子 | 103 |
| 〃 | 古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化 | 宇高健太郎 | 104 |
| 研究活動スタート支援 | 近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究 | 金井健 | 105 |
| 〃 | 歴史的煉瓦造建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明 | 水谷悦子 | 106 |
| 研究成果公開促進費 | SAT 大正新脩大藏經 画像データベース | 津田徹英 | 107 |

対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—

目 的 「アジアの特産物」である「螺鈿」は、多源独立的に発生発展したのではなく、中心的・先進的地域の影響や技術・工人の移動を伴いながら消長を繰り返してきたとみられる。本研究ではこの問題を具体的に跡付けることを目的とし、人類が地球的規模で移動を開始した15～17世紀（大航海時代）を中心として、日本本土や朝鮮半島、また沖縄や中国の螺鈿を取り上げ、人文学及び自然科学的方法により、螺鈿器に内包される交流の実態を明らかにしようとするものである。

成 果

- ・2019（令和元）年4月に、韓国国立慶州博物館にて雁鴨池出土平脱漆器類調査及び研究協議を、また国立中央博物館にて研究協議を行った。
- ・同年6月に、茨木市の千提寺・下音羽地区及び同市文化財資料館にて国内伝世のキリスト教器物類、大阪市の南蛮文化館にて南蛮漆器、岬町理智院にて秀吉像厨子の調査を実施した。
- ・同年7月に、カタール、ドーハ市内イスラム美術博物館ほかにて螺鈿に関するイスラム美術作品類調査を、オランダ、ホールン市のWestfries Museum及び各所にて、オランダ東インド会社バタバ総督Jan Coen関連遺物に関する調査と研究協議を、ポルトガル・リスボン市内の古美術店 Jorge Welsh、Museu de Artes Decorativas、MNAA及び個人宅にて南蛮漆器を中心とした調査と研究協議を、スペイン・グアダルルーペ市の Real Monasterio de Santa María de Guadalupe、マドリード市内のD. Álvaro de Bazán財団と Monasterio de las Descalzas Reales及びマドリード宮殿ほかで調査と研究協議を、パンプローナ市内の各所とツデラ市内の Museo de Tudelaにて南蛮漆器及び研究協議を、またバルセロナ市内のMNACにて南蛮漆器や関連作品の調査を行った。
- ・同年9月に、京都市内豊国神社、岬町内理智院、尼崎市内宝樹院にてそれぞれ、桃山時代から江戸時代初期にかけての漆器調査を行った。



オランダ Hoorn での調査

- 論 文**
- ・小林公治：「東アジア螺鈿史の観点から見た高麗螺鈿の成立」『美術資料』95 韓国国立中央博物館 pp.43-195 19.6
 - ・小林公治：「日本螺鈿史試論—覚書として」『保存と復元の世界 螺鈿漆器』 韓国国立中央博物館 pp.154-205 19.12
- 発 表**
- ・KOBAYASHI Koji and NAGAI Akiko: 'Minakuchi Rapier, European Sword produced in Japan', 第25回ICOM (国際博物館会議) 京都大会 2019 19.9.3
 - ・小林公治：「南蛮漆器の成立過程と年代—キリスト教聖龕の検討を中心に—」文化財情報資料部研究会 2019 19.9.24
 - ・小林公治：「日本唯一の伝世洋剣、水口レイピアの調査と研究」第53回オープンレクチャー 19.11.2
 - ・小林公治：「藤栄神社所蔵「十字形洋剣」の謎に挑む—水口レイピア 日本で造られたヨーロッパの剣」水口町郷土史会創立60周年記念講演会 19.11.9

研究組織 ○小林公治(文化財情報資料部)、吉田邦夫(東京大学総合研究博物館)、能城修一(明治大学)、末兼俊彦(京都国立博物館)、鳥越俊行(奈良国立博物館)、早川典子(保存科学研究センター)、城野誠治(文化財情報資料部)

日本美術の記録と評価についての研究—美術作品調書の保存活用

目的 本研究では、田中一松（1895-1983）及び土居次義（1906-1991）の研究資料のデジタル化による保存活用を実施しながら、日本美術の記録のあり方と評価プロセスを明らかにすることを目的とする。田中、土居、さらに相見香雨（1874-1970）の調査記録などとも比較検討を行いながら、この100年間にどのように日本美術は記録され、語られてきたのかを解明する。本研究で主に扱う田中一松と土居次義は、自らの足と、手と、眼の力を駆使して精力的なアナログ調査活動を展開し、目を見張るような質・量の調査を実施し研究基盤を形成した。本研究はこうしたアナログ研究資料をデジタルの特質を活かして保存活用し、未来にも活かすことを目指す。デジタル化作業と各種資料との比較・考察により、田中と土居による半世紀以上に及ぶ文化財関係業務、日本絵画の調査研究の実態を把握することができる。個々の作品研究において有益な情報が集約できるばかりでなく、数多くの作品がどのように評価・位置付けがなされ、日本美術史が語られてきたか、という問題を本研究課題によって明らかにすることを旨とする。

成果 令和元年度は当研究所所蔵の田中一松による大正～昭和期のノート32冊及び個人蔵のノート及び手帳71冊についてデジタル化を行い、データ整理を行った。これまで知られていなかった、田中一松の幼少期～青年期の事績が明らかになり、研究成果の一部は口頭発表で成果公開を行った。土居次義資料について、写真資料等を中心にデジタル化作業を行った。土居次義資料には、調書、写真のほか、江戸時代～近代の実際の絵師による手控えや記録も含まれている。資料価値の高さや研究の進展状況に合わせてデジタル化の作業を進めるとともに、その考察を行った。研究成果の一部は、論文の形で公開した。

また当研究所には今泉雄作（1850-1931）、平子鐸嶺（1877-1911）による調査研究ノートも所蔵されている。田中一松・土居次義のものとともに、4者の調査ノートを中心に、調査対象となった実際の絵画作品も交えながら、令和2年度に東京国立博物館の特集展示として展覧会「日本美術の記録と評価—調査ノートにみる美術史研究のあゆみ—」を開催するための準備を進めた。



今泉雄作の調査記録



平子鐸嶺の調査ノート



田中一松の調査ノート

- 論文** ・多田羅多起子：「近代京都画壇における世代交代について—土居次義氏旧蔵資料を手掛かりに—」『美術研究』428 pp.49-78 19.9
- 発表** ・江村知子：「日本美術の記録と評価についての研究—「田中一松資料」の保存活用」第3回総合研究会、東京文化財研究所 19.1.7

研究組織 ○江村知子（文化財情報資料部）、並木誠士（京都工芸繊維大学）、多田羅多起子（京都造形芸術大学）

絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査

目 的 本研究は、絵画の基底材を科学的に調査し、その情報を美術史的に、あるいは保存修復上で活用することを目的とする。主に絹繊維と自然布を対象とする。

絹については、繊維断面形状の測定を非破壊で行い系統的にデータベース化することで、時代的変遷や産地の同定を可能とし、さらに、修復材料の基礎資料することを目的とする。

自然布については、近年は赤外分光分析による非破壊分析が可能になったが、セルロースとは判定されるがその植物種の識別は不可能とされてきている。本研究では、多変量解析の手法を用いることで植物繊維の非破壊同定を可能とすることを旨とする。

成 果 令和元年度はスタートアップになるため、絹と自然布それぞれについて、基礎データの収集を目的として研究を遂行した。

絹については、製作年代の明らかな作品についてhiroxDigitalマイクロスコープRH8800を用いて、35倍、50倍、200倍、500倍で複数箇所を撮影し、三次元形状の記録を行った。令和元年度調査点数は、現在15点以上になり、令和2年度以降はこの調査を継続するとともに、形状データの統計処理を行う予定である。

自然布については、多変量解析の基礎データベースを作成するために、栽培現地にて調査と試料採取を行った。葛(静岡県)、大麻(群馬)、芭蕉(沖縄)など由来の明瞭な自然布材料の収集と、生産の各工程における抜き取りサンプリングを行った。また、コレクター所有の伝世品資料に関しても多数の測定と解析を行った。

11月には現在までの成果を学会発表した。



灰汁炊きせず作製された芭蕉の苧

発 表 ・八木千尋ほか：「赤外分光法による葛繊維と芭蕉繊維の判別」 第35回近赤外フォーラム 19.11.19

研究組織 ○早川典子(保存科学研究センター)、安永拓世(文化財情報資料部)、菊池理予(無形文化遺産部)、高柳正夫(東京農工大学)

ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立

目的 両遺跡では近年、古代ローマ時代の壁画の特徴のひとつである多層塗り漆喰構造に起因して、複数層間での剥離が発生し、剥落損失の危機を迎えている。しかしながら、これまでに繰り返して行われてきた保存修復の結果、様々な修復材料が表層面を中心に堆積していることにより、従来の壁画保存修復技術では対処できない難しい状況にある。本研究では、当該遺跡に関する先行研究をもとに、作品への負担を最小限に抑えた形での堆積物除去方法の開発と、遺跡保存管理体制の確立を目指す。

成果 4年計画の第4年次にあたる令和元年度は、前年度までに研究開発に取り組んできたクリーニング技法を導入し、ポンペイ遺跡内「アポロの家」(Casa di Apollo) 内壁に描かれた壁画を対象に、広域に及ぶクリーニングを実施した。

1. クリーニングの効果

新たに開発したクリーニング方法では、オリジナルの彩色層を傷付けず過去の修復時に塗布された合成樹脂や蜜蝋を効果的に除去することに成功した。この結果、漆喰層の吸放湿性能を低下させていた要因が取り除かれた事となり、凝集力の低下した漆喰層及び彩色層の補強方法の研究に移行することが可能となった。

2. 壁画保全状態に関連する調査

昨年度に引き続き、目視観察で得られる情報を収集した。ポンペイ遺跡及び周辺に残る同時期に形成された遺跡群を調査する中で、現在もなお引き続き合成樹脂を用いた補強作業が継続されていることが確認できた。漆喰層に一度塗布され内部に浸透した合成樹脂に可逆性はなく、経年劣化により様々な問題へと発展することが確認されている今日、この状況は深刻な問題であることが指摘できる。今後、早急に無機修復材料を用いた補強方法の開発が望まれる。

3. 覆屋がもたらす効果・機能に関する調査

文化財や史跡等を保護する目的で建設された覆屋の効果や機能について日本国内を中心に検証し、そこから得られた知見をアポロの家に反映させながら今後の整備事業を立案した。



クリーニングの途中経過



白く浮かび上がる蜜蝋

報告・Yoshifumi Maekawa, Guido Botticelli, Stefania Franceschini, Monica Martelli Castaldi: Relazione della missione, Parco Archeologico di Pompei 19.10

発表・前川佳文、Guido Botticelli、Stefania Franceschini、Monica Martelli Castaldi：ポンペイ遺跡「アポロの家」における彩色層補強材の除去方法に関する実験研究 日本文化財科学会第36回大会 19.6.1

研究組織 ○前川佳文(文化遺産国際協力センター)、朽津信明(保存科学研究センター)

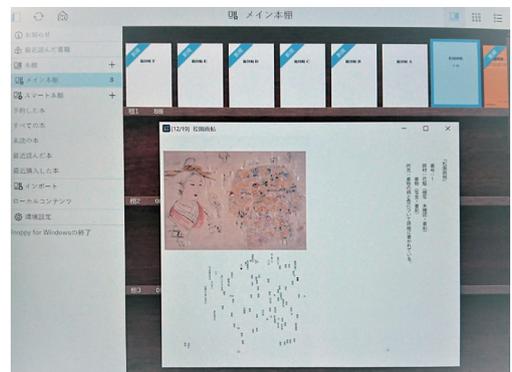
黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—

目 的 上村松園が活躍した近代日本画壇では、西洋絵画の影響と大会場での公募展覧会を発表の場とする新潮流が興り、近世までの絵画と比較して作品が巨大化した。巨大化した画面に対応するように新しい材料、技法、表現が生まれたと考えられる。しかしこれまで、その新しい技法表現に関する学術的な研究はほとんどされてこなかった。

明治から大正期の日本画材について少しずつ新知見が蓄積される中で、同時代の中核となる画家、上村松園の技法材料とその表現を調査分析し、芸術性を技術面から解明する必要性を大きく感じるようになった。また、上村松園作品の多くが制作されてから100年前後を経過し、平成28年度には「序の舞」東京藝術大学大学美術館所蔵(国指定重要文化財)が修復されるなど、作品群が修復時期を迎えつつある。この現状を踏まえ、松園の技法を分析することは作品をよりよいコンディションで修復するために必要不可欠となっている。また、技法や表現を解明するには、画材の科学的な分析に加えて、日本画実技に立脚した技法の実証実験による結果を集積することが重要であると考えられる。

本研究では、スケッチ、模写、下絵、本画作品を調査し、上村松園の使っていた技法とその表現の種類について分析する。それを日本画実技による再現実験によって検証し、松園の技法と表現の特徴を明らかにしたい。さらに、技法材料の同定、絵画構造、表現効果の研究成果は所蔵先の博物館及び美術館と共有して、作品展示や修復に活用できることを期待している。

成 果 令和元年度は、松園画帖、縮図帖A~Fの縮図帖の電子書籍を作成した。縮図帖には、松園のスケッチや模写が墨線描と淡彩を用いて、自由な配置で思いつくままに描かれている。また色彩に関する記録として、図像の中や周囲に日本画顔料の略語が当時の表記を用いて書き込まれている。電子書籍化にあたっては、書き込まれた手書の文字をすべて活字起こしして画像上に重ねて表記するとともに、余白部分に現代語に訳したものを記載した。また描かれたモチーフすべてを分類し、目次上で確認できる仕様にした。右図がPC上での表示例である。全画面表示、部分拡大表示、物理的なページをめくるような展開と、画面スクロールのパターンがあり、閲覧者の嗜好に沿った方法で使用できる。電子書籍にしたことで、縮図帖元来のランダムな内容と膨大な枚数に手軽に閲覧することができ、美術館で保管されていても人の目に触れる機会がなかった資料へのアクセスが容易になった。画家の写生やアイデア帖には、画家がモチーフに最初に触れた時の感動や、何に興味の対象が記載されているので、所蔵先美術館で閲覧可能にすることで、作家研究がより深く進むことを期待している。



松園画帖 電子書籍 PC 画面上的表示例

本研究では、以上のような縮図帖電子化と本画2作品の調査という2軸で行った。絵具成分の特定からは、松園が新しい絵の具を積極的に取り入れていたことや、ほぼ表彩色で描いていることが明らかになった。松園の技法を実技で検証するまでは至らなかったが、顕微鏡写真による分析で、裏彩色の有無、重ね塗り、ぼかし、艶墨の使用などについてかなり細かい部分が観察できた。松園は絵具の塗り際の処理が非常に丁寧で、水を用いてぼかしや薄い重塗をかなり意識的に行っていたことがうかがえた。技法の検証に関して顕微鏡写真で解明できることが想定よりも多く、今後の技法研究にあたっては積極的な利用を推進していきたい。

研究組織 ○大河原典子(客員研究員)、高林弘実(京都市立芸術大学)、宮廻正明(東京藝術大学)

徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究

目 的 古来、由緒ある優れた文物を「名物」と称し、その伝来や格付けを記した「名物記」などが編まれてきた。なかでも朝廷、将軍家の有する名物は、「御物」として特別視され、今日、それらの目録「御物集」は、権力と文物の関わりを知るうえで欠くことのできないものとなっている。慶長8(1603)年に徳川家康が征夷大将軍に任ぜられたことは、徳川将軍家が新たな「御物」を形成することをも意味した。徳川将軍家が所持する名物・道具類は、近代以降「柳営御物」と称されるが、その全貌はいまだ不明なところが多い。

本研究は、柳営御物が形づくられるなかで、「御絵師」すなわち御用絵師の役割がいかなるものであったかを、「柳営御物集」諸本や、現存する鑑定控「探幽縮図」「常信縮図」などから明らかにしようとするものである。献上・下賜という幕府の贈与システムのなかで、「鑑定」及び「下賜品の制作」を行った御用絵師の役割は看過できない。とくに柳営御物のほとんどを焼失することとなった明暦の大火後、献上品によって再構築されていた柳営御物の様相を探ることで、幕府の贈与システムと御用絵師の役割という江戸文化の重要な一側面を明らかにする。

成 果 令和元年度は、4年計画の最終年度であり、研究の総括と調査成果のデジタルデータ化を行った。

1. 徳川将軍家の御物形成においては、家臣からの名物・名品の献上が重要な側面を担っていることに鑑み、『徳川実紀』などから「献上」「下賜」にかかわる記述を抄出し、テキストデータ化を行った。
2. 徳川将軍家が「御絵師」すなわち御用絵師の制度を確立した元禄年間頃の画壇の状況を知ることがりとなる文献や資料について調査をすすめた。なかでも宮廷繪所であった土佐光起が土佐家の画法の秘伝を記した『本朝画法大伝』(東京芸術大学所蔵)について、その意味や意義を考察した。
3. 狩野探幽・常信の鑑定の事例について調査した。とくに東京国立博物館所蔵の「探幽縮図」については、詳細に注記の内容を吟味し、探幽に鑑定を依頼した幕府関連の人物を一覧化した。また、本研究をあしがかりとして今後「常信縮図」の総合的な調査研究をすすめるための基礎研究をすすめた。
4. 寛永寺の根本中堂の障壁画に関する常信の書状を読解し、御用絵師の仕事の一端をしめす資料として、島津家絵師・津曲ト栄などに関する資料とともに考察した。

研究組織 ○小野真由美(文化財情報資料部)

ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究

目 的 西アジアの肥沃な三日月地帯は、地中海式農耕の起源地として知られている。1990年代には、肥沃な三日月地帯のなかでも、とくに西側のレヴァント地域（シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、パレスチナ）で最初に農耕・牧畜が開始されたと考古学界では考えられていた。

しかし、今世紀に入り急速に発展を遂げた遺伝子研究は、対照的に東側のザグロス地域（イラン、イラク）でも独自に農耕・牧畜が誕生した可能性を示している。これまで研究の空白地域であったザグロス地域における農耕・牧畜の起源及び同地域からの農耕・牧畜の拡散の具体的なプロセスを解明するため、イラン・ザグロス地域に入り考古学調査を実施している。

成 果 ザグロスで誕生したザグロス型農耕文化がどのように東方に拡散していったのか、そのプロセスを研究するため、イラン東部の南ホラーサーン州をフィールドに調査を行っている。同州の州都ビールジャンドから北西140kmに所在するカレ・クブ遺跡では、新石器時代の古い時期に特徴的な石器が表採されていた。そのため、この遺跡に古い新石器時代の層があることが予想され、2018（平成30）年に発掘調査を開始した。しかし、発掘の結果、この遺跡の最下層からは新石器時代から銅石器時代への移行期に相当するチャシュメ・アリ文化の土器片が出土し、農耕の拡散プロセスを研究できるような古い新石器時代の層は同遺跡には存在しないことが明らかになった。

一方、この調査では、地表下1mにある厚さ50cmほどの礫層から、大量のベベルド・リム・ボウルと呼ばれる鉢が粗製盆や四耳壺とともに出土した。これらの土器はいずれも、南メソポタミアのウルク文化（前4000～前3100年）を代表する遺物として知られている。ウルク期には現在のイラク南部に世界最古の文明であるメソポタミア文明が誕生したことが知られているが、その後半期にはウルク文化の物質文化が南メソポタミアを超えて、南東アナトリアやシリア、北メソポタミア、イラン高原などの周辺地域へと広がっていった。これまでウルク文化の物質文化が確認された最も北東の地点は、イラン高原のシアルク遺跡やガブリストン遺跡であった。今回のカレ・クブ遺跡におけるウルク文化の土器群の発見は最北東の出土例となり、これによってウルク文化の広がりがさらに東へ600km拡大することとなった。このように、カレ・クブ遺跡はイランの文明形成期を考えるうえで極めて重要な遺跡であることが判明した。

そのため、2019（令和元）年は、このウルク文化の層を対象に発掘を実施した。その結果、遺物だけでなくウルク文化期の遺構も出土した。

報 告・M. H. Azizi Kharanaghi, M. Abe, S. J. Yeganeh, A. Akbari, and S. Najafi: "Second Season of Kaleb Koub Excavation Report" (ペルシア語), Report submitted to ICAR, 19.7

発 表・安倍雅史:「イラン南ホラーサーン州、カレ・クブ遺跡の第1次発掘調査—イランにおける農耕・牧畜の起源そして文明形成—」イラン考古学研究会 2019 19.12.8

研究組織 ○安倍雅史(文化遺産国際協力センター)

常磐津節の音楽分析のための基盤研究

目 的 常磐津節は素浄瑠璃（演奏会形式）のほか、歌舞伎や日本舞踊とも緊密に関連してきた代表的な三味線音楽であるが、音楽そのものの研究は進んでいない。その原因の一つは、公刊譜がほとんどないことにあると考える。そこで本研究では、①常磐津節音楽分析の基礎となる「譜」を五線譜及び文化譜（三味線音楽で最も汎用性のある記譜法）で提示し、②「譜」を用いた音楽分析によって音楽構造を明らかにする手法を確立すること、を目的とする。

成 果 令和元年度、「東京音楽学校の手稿に関しては、引き続き作成された目的や経緯等について調査を進める予定である」として継続課題にしたテーマについて、東京藝術大学附属図書館蔵の邦楽調査掛に関する資料から、1907（明治42）年～1928（昭和3）年に至る邦楽調査掛の作業日誌である『日誌B』（全20冊）、常磐津節を含めた邦楽の五線譜化事業の詳細な記録及び、当該事業による草稿及び浄書としての五線譜を中心に、『東京芸術大学百年史 東京音楽学校篇』第一巻、第二巻、及び『東京芸術大学百年史 東京音楽学校篇 第二巻一人名索引』（財団法人芸術研究振興財団／東京芸術大学百年史編集委員会・編、音楽之友社、1987-2003年）も参照しながら調査・考察をすすめ、「邦楽調査掛による常磐津節五線譜化の考察」（『無形文化遺産研究報告』第14号 pp.51-77）にまとめた。

また、昨年度より進めている対象視聴覚資料から、音声・映像資料が比較的多く残る《子宝三番叟》をサンプルとして取り上げ、視聴覚資料より五線譜に採譜し、「場」及び「芸系」の多様性を前提とした作品の骨格部分（「場」や「芸系」により変わらない共通部分）を抽出して基本的な音楽構造を明らかにする試論を執筆した（令和2年度公表予定）。

論 文・前原恵美：「邦楽調査掛による常磐津節五線譜化の考察」『無形文化遺産研究報告』14 pp.51-77
203

研究組織 ○前原恵美（無形文化遺産部）

江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究

目 的 日本の絵画の基底材(下地になる素材)は、江戸時代以降、中国の書画の影響を受けて、紵や金箋などの特殊な素材も用いられた。日本の文人画(南画)において、紵を使用した早い例としては、与謝蕪村がよく知られるものの、蕪村に師事した呉春が描いた「白梅図屏風」(逸翁美術館蔵)には、より特殊な基底材が用いられている。国の重要文化財指定では、その基底材を絹とみなしているが、明らかに絹とは異なる繊維が確認できる。本研究の目的は、この特殊な基底材を解明し、その時代性や地域性を検討することにある。

成 果 1. 拡大写真に基づく葛布と芭蕉布との識別

前年度の調査で、葛布と芭蕉布が組織や繊維のうえで、かなり類似しており、両者の同定に混乱がみられることが確認できた。その峻別を行う必要から、前年度に調査した鄭嘉訓筆「七言絶句書」、後藤敬臣筆「七言絶句書」(ともに沖縄県立博物館・美術館蔵)は、芭蕉布が基底材であることが確実とみられるため、これらを芭蕉布の基準とみなした。一方、葛布について、前年度実際に現在の葛布工房で制作した葛布や、掛川の画家という地域性から葛布を用いていることが確実な村松以弘の作例の基底材を葛布の基準とみなした。こうした基準資料から、葛布と芭蕉布の相違点や特徴を抽出したうえで、調査した資料20点の拡大写真を比較・検討し、葛布と芭蕉布とに識別した結果、7点が葛布、13点が芭蕉布の可能性が高いことを示した。

2. 科学的な分析手法の開発

前年度、呉春筆「白梅図屏風」の基底材の科学的な分析については、保存科学研究センターの協力を得て、FT-IR(赤外分光分析)の測定器で分析を行ったところ、そのスペクトルが絹とは異なったため、絹ではない植物性の繊維が使われていることが判明した。ただし、同測定器では、麻、葛、芭蕉などの植物性の繊維は類似したスペクトルを示すため、繊維の特定まで至らなかった。そこで、令和元年度からは、保存科学研究センターの早川典子氏の科研とも共同で研究を行い、麻(苧麻、大麻)、葛、芭蕉などの植物性繊維を科学的な分析によって同定するための分析手法の開発を進めている。具体的には、東京農工大学の高柳正夫先生の協力を仰ぎ、これらの植物性繊維の同定分析が可能かどうかの実験を始めつつあり、そのために、無形文化遺産部の菊池理予氏の協力を得て、それぞれの制作地等で基準的なサンプルを収集した。

3. 呉春周辺の作例と芭蕉布との関わりを検討

1で挙げた拡大写真に基づく葛布と芭蕉布との識別によると、呉春筆「白梅図屏風」の基底材は芭蕉布に近いと、呉春や呉春周辺の画家と芭蕉布との関連性についても、さらなる検討を行った。その過程で、呉春の他の作例の表具に用いられている裂に、「白梅図屏風」の基底材ときわめて類似した芭蕉布らしき裂が使われている事例が2件あるのを確認した。今後は、こうした表具裂の中に葛布や芭蕉布が使用されている例なども含め、関連性を広く検討する。

論 文・安永拓世:「江戸時代の絵画における特殊な基底材の使用に関する基礎的研究—呉春筆「白梅図屏風」(逸翁美術館蔵)を中心に—」『鹿島美術研究』年報第36号別冊 pp.114-126 19.11

発 表・安永拓世:「呉春作品に見るテキストとイメージの往還—蕪村・漢詩人・白梅図屏風—」逸翁美術館「2019展示Ⅳ 池田市制施行80周年記念 画家「呉春」—池田で復活(リボン)！」関連イベント「呉春の魅力に迫る、フレッシュ対決講座 ③呉春作品をめぐる絵画vs文学—イメージとテキストのシナジー」 19.11.17

・安永拓世:「京と浪花を歩きつ戻りつ—絵と絵師のはざまで—」中之島香雪美術館 企画展「上方界限、絵師済々」記念講演会 20.02.01

研究組織 ○安永拓世(文化財情報資料部)

ポスト1968年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として

目 的 ベトナム反戦運動が世界的に広がり、アメリカではキング牧師暗殺、フランスでは「五月革命」、社会主義圏では「プラハの春」が起こり《20世紀の転換点》と称される1968(昭和43)年、日本では戦後日本の政治的・経済的枠組みを問う声が高まり、全国で様々な社会運動が広がり、美術では関根伸夫《位相・大地》によって「もの派」が誕生、写真では思想状況を色濃く反映した『プロヴォーク』が創刊されるなど表現活動においても大きな分岐点であった。ただ1960年代末から70年代の日本地域特有の表現活動に関する研究は、個人作家やグループの個別研究が多く、表現者たちの緩やかな人的ネットワーク「表現共同体」を主眼においた研究は少ない。本研究では、国際的なコンセプトチュアル・アートの先駆者で、東洋的な宗教観、宇宙観、現代数学、宇宙物理学等を組み入れ、かつ同時代の人物(美術、建築、音楽、文学、舞踏)との交渉も多岐にわたる作家・松澤宥(1922-2006)のアーカイブズから見出せる「表現共同体」を検証することで、1968年以後を中心とした時代における表現者たちの相互関連性、表現活動のジャンル越境性を明らかにする。

成 果 第2年度である令和元年度は、前年度に構築した本課題遂行のための枠組みに基づいて、一般財団法人松澤宥プサイの部屋、県立長野図書館、研究分担者と連携し調査研究、資料分析を実施、また本課題の成果公開方法を検討した。また2019(令和元)年7月に関連資料分析・調査を踏まえたミニ・シンポジウムで行い、関係者と情報共有を図った。これと並行して松澤宥アーカイブズ及び当研究所所蔵今泉省彦書簡のデータベース化を実施した。詳細は、以下の通り。

- ・5月30日 県立長野図書館デジタルアーカイブ「信州デジくら」連携に関する協議(県立長野図書館)
- ・7月23日 ミニ・シンポジウム「研究会 戦後日本美術アーカイブズの研究活用に向けて—松澤宥アーカイブを例に—」(東京文化財研究所)。発表内容は、「発表」欄参照。
- ・9月5日 下諏訪・松澤宥宅にてアーカイブズ搬出、関係者との研究協議
- ・9月5日 松澤アーカイブズの東文研借用に関する覚書取り交わし
- ・10月16日 研究分担者、研究代表者との研究協議(東京文化財研究所)
- ・2020(令和2)年3月8日 カスヤの森現代美術館にて松澤宥「80年問題」展視察、研究協議

◆データベース化作業進捗状況

- ・細谷修平、斎藤英理、秋葉シスイの各氏の協力を得、以下の資料の分析・整理を完了。第3年次(最終年次)の成果発表に向けた準備を遂行した。

◇松澤宥アーカイブズ

- ・日本概念派関連イベント資料(おもに1960~2007年)約1,400件
- ・Data Center for Contemporary Art 資料(おもに1972~83年)約850件(書籍250、他600)

◇東京文化財研究所所蔵資料

- ・今泉省彦書簡(1953~1969年)約2,100件

発 表・研究会 戦後日本美術アーカイブズの研究活用に向けて—松澤宥アーカイブを例に 19.7.23
 橘川英規「1950年代、60年代の松澤宥宛書簡—その整理と活用」、木内真由美(長野県信濃美術館)「松澤宥アトリエ「プサイの部屋」の調査・記録報告」、宮田有香(国立国際美術館)「松澤宥アーカイブ—内科画廊関連資料を通じて考える利用の可能性」、細谷修平氏(美術・メディア研究者、映像作家)「映像メディアのデジタルサイズと保存—松澤資料を例に」、司会・塩谷純「ディスカッション、質疑応答」

研究組織 ○橘川英規、塩谷純(以上、文化財情報資料部)、三上豊(和光大学)、河合大介(岡山県立大学)

DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築

目 的 文化財の虫害を未然に防ぐ予防的保存の実践において、文化財害虫の発生を早期に把握することは重要である。本研究は、文化財害虫について形態的特徴による同定法では分類が困難な幼虫や脱皮殻あるいは排泄物から遺伝子(DNA)を抽出し、DNA情報に基づき文化財害虫を同定する手法を確立することを目的とする。

- 成 果**
1. 文化財害虫の標本コレクションの整備：さきに選定した日本国内で文化財への加害事例の多い昆虫(8目20科52種)の網羅的な収集を行った。収集した文化財害虫は、DNA塩基配列解析に供し、DNA情報証拠標本として整備を進めた。また、過去に収集し未整理の状態にある文化財害虫の乾燥標本の整備も進めた。
 2. 標本コレクションの形態同定：収集した文化財害虫(DNA情報証拠標本)について、それぞれの文化財害虫が属する分類群ごとに特有の形態学的な特徴を記載し、種の同定を行った。同定の正確さは本研究にとって非常に重要な要素であるため、文化財害虫の分類同定に長く携わっている2名の研究者(小峰幸夫、Ubaldo Cesareo)が担当した。種の同定と併せて害虫の形態写真及び生態学的情報(生息地、食性など)を記録・記載し、データベース構築を進めた。
 3. 標本コレクションのDNA塩基配列解析：形態同定を終えた文化財害虫(DNA情報証拠標本)の同一試料から、形態分類の指標とならない体節の一部を採取しDNA抽出に供した。体長数mmの標本の節足1本からでもDNAを抽出できる標準法を確立した。
 4. DNA塩基配列情報の登録とデータベース構築：本研究で得られたDNA塩基配列情報は、国立遺伝学研究所(DDBJ)への登録を進めた。また、国際的なバーコードオブラيف・イニシアチブにも情報(形態写真、採集データ(採集地、採集年月日、採集者名)、同定データ(分類群名、同定者名、同定年)、DDBJ登録番号、東京文化財研究所での証拠標本番号)を登録し、世界中から検索が可能な基礎情報として公開を行った。
 5. 脱皮殻・排泄物からのDNA解析手法の確立：幼虫や歩脚や翅といった体節の一部及び脱皮殻からのDNA抽出は、試料が微量であるため、常法を小スケールに改良した手法で検討を進めた。排泄物からのDNA抽出については、検討を重ねたが成功には至らず、種特異的なプライマーを開発し、検出感度を向上させる方法へと切り替えることとした。

研究組織 ○佐藤嘉則、小峰幸夫(以上、保存科学研究センター)、二神葉子、小山田智寛(以上、文化財情報資料部)、斎藤明子(千葉県立中央博物館)、Ubaldo Cesareo(Central Institute for the restoration/conservation of archival and library heritage)

博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究

目 的 近年、博物館施設や資料に発生している汚損がカビによるものかの判定や、カビであった場合の活性調査、表面汚染度評価等にATP拭き取り検査が導入されはじめている。博物館IPMでは、このATP拭き取り検査の結果をもとに、その後の処理や管理の方針を決定する。しかし現状では、博物館IPMにおけるATP拭き取り検査についての合理的なATP発光量の基準はなく、測定者の経験によって判断されている。

本研究では、博物館IPMにおけるATP拭き取り検査での合理的な基準を、保存環境や資料表面で許容されうる単位面積当たりのATP発光量の範囲と設定し、この範囲について生理学的、光学的なアプローチによる基礎的な知見を得ることを目的とする。

成 果 本研究では、今後博物館IPMにおけるATP拭き取り検査における合理的なATP発光量の基準を設定していくための基礎的な知見として、博物館の保存環境という特殊な環境に限定したうえで、測定対象となる1. カビについての生理学的特徴の把握と、検出側となる2. 測定機器の光学的特性の比較を行うことで、3. 保存環境や資料表面で許容されうる単位面積当たりのATP発光量の範囲を検討する。

3年計画の第1年次にあたる平成30年度は、博物館の保存環境におけるカビの生理学的特性についての研究を行い、実際の博物館の収蔵庫で保管されている資料や、博物館外部からの借用資料のカビ跡等、災害時の水損資料について採集し単離・培養を行った。

第2年次にあたる令和元年度は、引き続き博物館IPMに関わる環境におけるカビの採集を行うとともに、これまでに採集してきたカビについて、rRNAを用いた遺伝子解析による既近縁種の推定を行った。現在のところ、博物館4館、水損資料1件、寺院(木彫像)1件についてサンプリングを行い、21属56種のカビが検出された。これらのカビをPDA培地上で培養し、ATP拭き取り検査により増殖期の変遷に伴う単位面積当たりのATP発光量の変化を測定した(機器:3M社製Clean-Trace NG、スワブ:Clean-Trace Test UXL100)。経時的な単位面積当たりのATP発光量変化を本手法で検出できることを確認するとともに、今後精査する必要はあるが、カビの活性が低下する減衰期に相当する単位面積当たりのATP発光量の範囲をある程度推定することができた。

第3年次(最終年次)の令和2年度は、測定機器の光学的特性の比較を行うとともに、実際の博物館等において実測を行い、博物館IPMへのATP拭き取り検査の活用について検討を行う予定である。

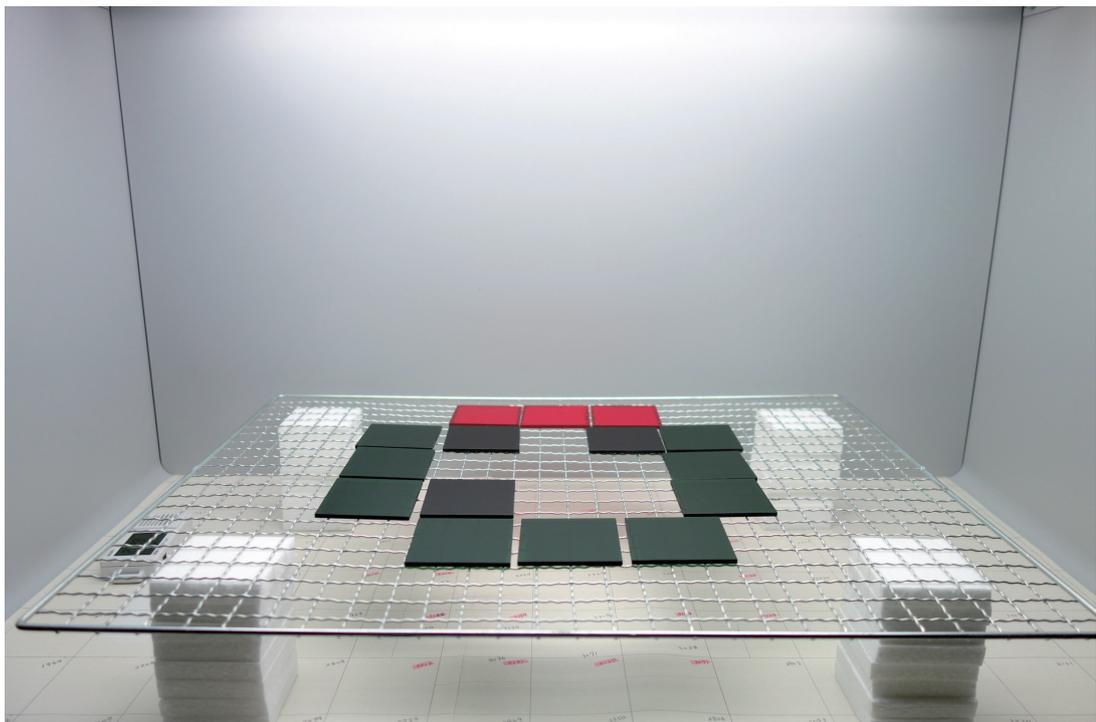
研究組織 ○間瀬創(保存科学研究センター併任、文化財活用センター)

白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制

目的 白色LEDによって、蛍光性有機染料を照射した場合、青色波長帯に発光ピークを有するという特徴から、従来のハロゲンランプや蛍光ランプによる照射と比較し、反射光に対する蛍光の割合が増加し、その結果として、特異的な変退色挙動を示すと予想される。本研究は、その変退色挙動を、長期照射試験を通じて明らかにし、これを抑制するための照射条件を見出し、近年展示照明への導入が進んでいる白色LEDによる、より保存性の高い文化財活用に寄与しようとするものである。

成果 本研究の初年度であった平成30年度は、白色LEDで蛍光性有機染料を照射した場合、相対的に青色発光の大きい低い色温度ほど、色彩への蛍光の影響が大きい傾向があることを、可視反射スペクトル測定によって認める結果を得た。

令和元年度はこの結果を受けて、染色試料の染料や支持体からの蛍光の強さと変退色挙動の関係を明らかにするため、新たに構築した実験システムを使い、可視光領域の中で、複数の単色光で長期照射した際の、可視反射スペクトルと色差の経時変化の測定に着手した。これは、短波長になるほど染料分子の励起と蛍光が増加し、その影響で長波長側とは異なる変退色挙動を示すのではとの想定に基づくものである。これまでに、絹布とこれにカルミン酸を染色した試料では、短波長になるほど、色差の変化が早いことが明らかになりつつあり、今後蛍光強度との関連を検証するにあたって、有意義なデータが得られた。最終年度である令和2年度には、この一連の結果を学会で報告し、さらに取りまとめに向けて検証を継続するものである。



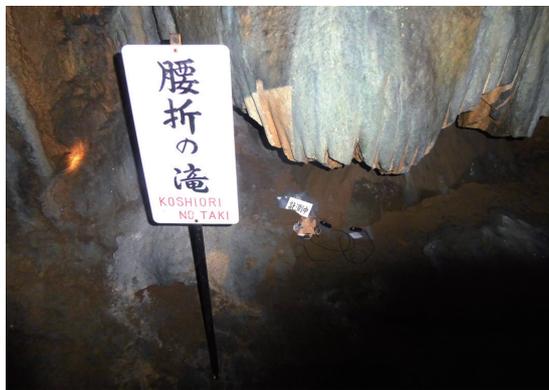
染色資料照射試験の様子

研究組織 ○吉田直人(保存科学研究センター併任、文化財活用センター)、相馬静乃(保存科学研究センター)

鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究

目的 鍾乳洞では、見学者のために人工照明が当てられている場所に藻類や蘚苔類などの緑色生物が繁茂し、鍾乳石などの鑑賞を妨げる場合があり、これらの生物は総称して「照明植生」と呼ばれている。本研究では、照射する照明を工夫することにより、見学者に違和感を与えることのない光源を選定しながら、また見学者の安全性を十分確保する照度を前提とし、その中でなるべく照明植生の繁茂を制御できるような条件を模索することにより、鍾乳洞の保存・活用に寄与することを目標とする。

- 成果**
1. 国指定天然記念物・風連鍾乳洞において、鍾乳石表面に緑色生物が繁茂している箇所としていない箇所とで照度計測を行い、繁茂している箇所において照度が大きい傾向を確認した。
 2. それぞれの地点にデータロガーを設置し、積算照度の計測を開始した。
 3. 繁茂が予想される箇所に、緑色生物が認められない状態の石灰岩のテストピースを設置してその後の経過を観察し、緑色生物の沈着を検知した。
 4. 鍾乳石表面に繁茂する緑色生物が藻類を主体とすることを確認し、その性質を解析している。
 5. 関連洞窟として、秋芳洞、龍河洞、菖蒲洞、球泉洞、戸津井鍾乳洞などの現状を、特に照明と植生との関係を中心に視察し、照明植生が顕著となる条件に関する一般的傾向を把握した。
 6. 過去の文献に基づいて、照明植生を繁茂させにくいと予想される波長特性を持つLED照明を試作した。



画像1 風連鍾乳洞における緑色生物の繁茂
(看板の陰には生えていない)



画像2 画像一地点をフラッシュなしで撮影
(看板の陰の領域が緑色のない領域と一致)

報告・朽津信明ほか：天草市アンモナイト館における緑色生物の制御 文化財保存修復学会第41回大会 19.6.23

発表・黒坂愛美ほか：風連鍾乳洞内に生育する照明植生の微生物叢解析 第14回日本ゲノム微生物学会年会 20.3.6

研究組織 ○朽津信明、佐藤嘉則、犬塚将英、片山葉子（以上、保存科学研究センター）、西山賢一（徳島大学）、西澤智康（茨城大学）

紙本屏風の規格と表現・技法の研究

目 的 本研究では日本の屏風絵について、従来の研究では着目されることが殆どなかった、「紙の規格」という観点からその表現・技法についての考察を行う。国内外の中・近世屏風絵作品約500点についての本紙の情報を含むデータベースを作成し、従来の美術史研究の手法では踏み込めなかった問題や包括的研究における新機軸を打ち出すことを目的とする。絵に何が、どのように描かれているかはもちろん重要なテーマであるが、どのような本紙の上に描かれているのか、という着眼点は従来の研究では看過されることが多かった。しかしながら、本紙はその作品の真正性、制作当初の姿を伝える可能性の高い重要な材料と言える。長い時間を経過した古美術作品の、現在見えている表面には、修理や保存のため、また作品鑑賞上の改変等によって、制作当初からのこの時代に載せられたものが少なからず存在している。制作されてから全く何も手を加えられることがなく現存している古美術作品は存在しない、と言っても過言ではない。

本研究では屏風の用紙の大きさや紙継ぎの方法、紙の材料(雁皮・竹・楮など)、また可能な範囲で、修理の際に得られる情報などを収集する。素材としての情報を蓄積・整理・分析した上で、狩野派・土佐派・琳派などの流派による屏風絵作品を横断的に、紙の規格という観点から概観し、絵画としての表現と技法についての問題を考察する。

本研究の成果は襖や掛軸といった紙本絵画全体の研究にも発展的に応用できると同時に、実技の美術、文化財科学、保存修復、製紙技術史など、より広範な学問領域においての研究においても利用・応用できるように、情報の蓄積と公開を行う。

成 果 平成30年度に引き続き、国立博物館等、公立の美術館・博物館に所蔵されている近世の屏風絵作品についてリスト化し、データの取りまとめを行った。また効率よく研究を推進するため、過去の調査研究報告書やインターネットの高精細画像公開のコンテンツ等も参照し、データの拡充に努めた。

また修理報告書などで報じられる屏風絵作品の本紙の材質分析結果を参照して、雁皮・竹・青檀・楮など、紙の材料による本紙の特徴と、画題や表現様式との関係について考察を行った。

さらに研究遂行上、必要な作品について実見調査を行うとともに、作品所蔵館の学芸員に作品情報の管理についての聞き取り調査および今後の有効な情報共有についての研究協議を行った。

令和元年度は下記の作品の調査を実施した。

- ・ 静嘉堂文庫美術館「四条河原遊楽図屏風」二曲一双
- ・ ライプツィヒ民族学博物館「四条河原遊楽図屏風」二曲一隻
- ・ ハンブルグ美術工芸博物館「日吉山王祭礼図屏風」六曲一双、鈴木其一筆「四季草花図屏風」六曲一双、池田孤村筆「秋草図屏風」二曲一隻

令和元年度は最終年にあたり、これまでに収集したデータは、調査協力を頂いた作品所蔵館と適切な形式や仕様等を協議しながら公開準備を進める。また個々の屏風絵作品についての調査研究成果は、論文や口頭発表などで公開を行った。

論 文・江村知子：「ライプツィヒ民族学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」について」『國華』1490 pp. 7-24 19.12

発 表・江村知子：「河原の風景—ライプツィヒ民族学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」について」美術史学会東支部例会 19.10.6

- ・ EMURA Tomoko : "Japanese Painting Collections in Germany: Focusing on the folding screen of "Scenes Along the Shijo Riverbank" in the Grassi Museum of Ethnology, Leipzig", Heidelberg University, 19.12.2

研究組織 ○江村知子(文化財情報資料部)

染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—

目 的 本研究は染織品の様式変遷や模様の流行に関する従来の染織史研究を踏まえ、中世以降、日本各地に見られる染織技術がどのような伝播経路を辿りそれぞれの産地にもたらされたのか、そして産地に根付いた技法にはいかなる材料や道具が用いられてきたのか、工程はどのように分業され継承されていったのかに着目し研究を行うものである。本研究では特に染織技術をとりにくく材料や道具に着目し、産地間の比較検討や交流の情報を整理することで、染織技術の伝承について検証する。さらに研究対象を現在にも受け継がれる技術を主な対象に据えることで、染織技術を後世に受け継ぐ最善の方策を提示することを目指す。

成 果 本研究は、江戸時代の藩政資料及び地方史、鎌倉時代以降の染織技法書と絵画資料の調査研究、それらの技術に対応する染織品の調査、さらに染織技術の現地調査を基盤に推進した。前年度は、1. 日本における染織技法の分布(平成30年度版)の整理と実地調査、及び2. 中世以降の日本における染織技法の分布の整理を行った。令和元年度は昨年度に引き続き2を中心に分析を行った。

1. 現在の日本における染織技法の分布(平成30年度版)の整理と実地調査：

昨年度整理した染織技法の分布に令和元年度の指定情報・解除情報等の確認を行い更新した。さらに、昨年度までに調査を行った友禅染の道具や材料に関する調査(技術者への聞き取り調査及び友禅染の工程映像)を報告書にまとめた。また、葛布・芭蕉布等の靱皮繊維の工程調査、昨年度、調査・撮影した岡谷蚕糸博物館所蔵の9種の繰糸器(機)について映像の編集作業に着手した。来年度以降、これらの動画は岡谷蚕糸博物館の展示に活用される予定である。

2. 中世・近世・近代の日本における染織技法の分布の整理(染織技法書及び藩政史料等)：

本研究に先立ち、申請者は科学研究費補助金若手研究(B)「染織技法の分業化の展開に関する基礎的研究—技法書・絵画資料・実作品の分析を通して」(平成21年度採択、平成25年度終了)を通じて、室町時代以降の文献資料(227件)に見られる染織技法や、技術の担い手、用いられた道具等に関する情報を整理してきた。その中で、指導を目的として技術者を招く事例等、技術の伝播を考える上でも重要な背景が確認された。そこで、本研究では新たに情報を補完すべく都道府県史を中心に染織技術の関連項目についての情報整理を行ってきた。

令和元年度は、全都道府県史(約250冊)から染織関連の技術交流の記述について、抽出及び整理を進めた。抽出された情報には、江戸時代における岐阜縮緬等の西陣の火災による職工の移転や長井紬のように藩主が特産品となるように職工を招いた事例、明治時代以降の京都府・大阪府ではイギリス・フランスなどの国外ヘジャガード織や綿紡績等を学びに行く事例が見られた。また、山形県や新潟県等の原材料の生産地では、丹後縮緬の生産地へ出荷したというような原材料の出荷先の情報も多くみられた。一方、諏訪の座繰機は上州より購入した、広瀬紘の高機は久留米に寸法を計測に行き作成したなど道具を介しての技術交流も確認できた。

本研究は令和元年度が最終年度であるが、膨大な情報の精査はまだ不十分で多くの課題が残っているが、本研究により抽出された情報は、我が国の染織技術の伝承を考える上で重要な基礎情報である。今後も当該地域によって担っていた職掌なども考慮し残された課題を検討していく。

報 告・菊池理予、半戸文：「青花紙の染織技術への利用」『青花紙制作技術に関する共同調査報告書—染織技術を支える草津のわざ—』 pp.79-106 東京文化財研究所 18.10

発 表・菊池理予：太田記念美術館江戸文化講座「現代に生きる江戸のファッション」 18.12.1, 8, 15

刊 行 物・科学研究費補助金報告書「資料 染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—」 19.6

研究組織 ○菊池理予(無形文化遺産部)

紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発

目 的 日本画などにみられる「緑青焼け」は、銅を含む顔料により基底材の劣化が著しく促進され、変色、脆弱化を伴う深刻な問題である。本研究では、日本の書画における修復処置として、現行の裏打紙取り替え工程、及び水洗工程に着目し、「緑青焼け」に対する処置としての効果を評価する。一方、「緑青焼け」劣化現象の主要因である銅イオンの拡散の影響を検討するため、緑青のみならず銅含有の顔料の焼けについても緑青と比較し調査した。

成 果 真鍮泥塗布和紙の焼け

銅含有の彩色材のひとつに真鍮泥がある。これに由来する紙の焼けが生じているとの報告がある。

紙の色変化：真鍮泥を塗布したる紙試料において、加速劣化後、試料表面の真鍮泥の変化は、目視では認められなかった。一方、試料裏面は、真鍮泥塗布部分に特異的に、茶褐色化が濃くなる経時変化、いわゆる「焼け」が、目視で認められた(図1)。これらの試料について、裏面を測色し ΔE^* を算出した結果、試料無彩色部分の対照に比べ、緑青顔料及び真鍮泥を塗布した3試料で ΔE^* が大きくなり増加し、変色が大きかった。しかし、劣化前の試料において、裏面の測色値は、表面の彩色の影響を受けているため、 ΔE^* を紙の劣化評価に使用することが難しかった。

紙のセルロース分子量の変化：湿熱加速劣化後のろ紙試料について、セルロース分子量を測定し、紙の劣化を評価した。加速劣化4週間後の各試料のセルロース分子量分布を図2に示す。劣化前の対照試料と比較し、劣化4週間後の全ての試料において、分子量分布全体が低分子側にシフトした。ここで真鍮泥及び緑青塗布試料を比較すると、真鍮泥試料は、緑青試料よりも低分子化が進行している。真鍮泥と緑青顔料では、塗布重量を合わせられず、真鍮泥塗布量は緑青顔料塗布量の1/5である(真鍮泥：0.002 g/cm²、緑青顔料：0.01g/cm²)。これより、真鍮泥が紙のセルロース分子量低下を引き起こす影響は、緑青顔料よりもはるかに大きいことが示唆された。銅亜鉛合金の真鍮と、塩基性炭酸銅である緑青では、紙の低分子化を引き起こす銅成分の挙動が異なることが推察される。また、真鍮の銅含有量の異なる本金粉泥(89%銅)と準金泥(85%銅)を比較すると、銅含有量の大きい本金粉泥塗布ろ紙試料のほうが、セルロースの低分子化がわずかに大きかった。

結論

真鍮泥による紙の「真鍮焼け」の劣化現象は、緑青顔料による「緑青焼け」と類似の様子が見られた。紙の劣化現象について、両彩色材による変色及びセルロース分子量低下の影響を比較した結果、変色は、厳密な比較ができなかったが、セルロース分子量低下は、真鍮泥塗布ろ紙のほうが大きく、また銅含有量の大きい本金粉泥による影響が最も大きかった。

発 表・貴田啓子ほか：「真鍮泥が紙の劣化に及ぼす影響」文化財保存修復学会第41回大会 19.6.23

研究組織 ○貴田啓子(客員研究員)

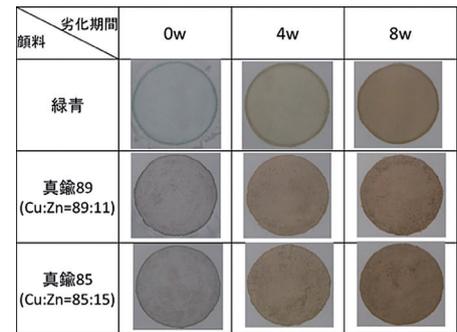


図1 真鍮泥塗布ろ紙(裏面)の経時変化 (80°C、65% rh、8週間)

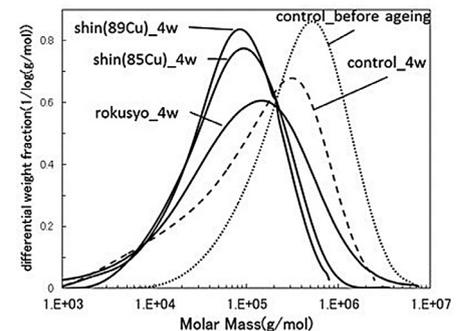


図2 湿熱加速劣化4週後の真鍮泥塗布ろ紙の分子量分布 (80°C、65% rh、4週間)

イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究

目 的 近年、大きく変容しつつあるイランの歴史的都市景観を適切に制御するため、文化遺産としての「真正性」及び「住民意向」を尊重した歴史的市街区における都市再興プロジェクトのあり方を検討し、おもに世界遺産バッファゾーン内の歴史的都市景観を継承するための計画指標を考察することを目的とする。

成 果 1年間研究計画を延長した4年次（最終年度）において、2019（令和元）年8月30日から8月31日にかけて、タブリーズ・イスラーム芸術大学にて開催された「第10回都市の発展と保全のための国際政策フォーラム」に出席し、これまでの研究成果をまとめた英文論文の発表を行った。

発 表・Hiroki YAMADA:「Evaluation of the Revitalization Project of Atiq Aquare in Isfahan: Based on the Interview Survey to Shopkeepers」The 10th International Policy Forum for Urban Growth and Conservation Tabriz Islamic Art University 19.8.30

研究組織 ○山田大樹（客員研究員）

マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究

目的 本研究は、ユネスコ世界文化遺産であり、古代マヤ文明を代表する遺跡の1つであるコパン遺跡を有するホンジュラス共和国コパンルイナス市を対象としている。地域住民と共に実践する博物館を拠点とした活動を通じて地域社会の新たな価値を活用して地域の課題に対峙する文化資源マネジメントの在り方を実践的に検証することを目的とする。対象地の地域資源を掘り起こすためのフィールド調査、博物館を拠点とした教育的活動に加え、その過程における住民の意識変容や活動プロセスを分析するための聞き取り調査や参与観察に基づき、持続可能な社会への発展可能性も視野に入れた保存と発展の共存モデルの提示を目指す。

成果 研究第2年次である令和元年度は、前年度の現地調査において収集したホンジュラスにおける文化遺産保護関連法規等の文書、文化遺産保全や活用に関する新聞記事、アンケート調査や関係者への聞き取り調査の結果分析を行った。また、国内の研究会、国際学会での研究発表と情報収集を行った。

研究発表：2019（令和元）年9月2日から5日にかけて国立京都国際会館をメイン会場として開催された第25回ICOM（国際博物館会議）2019京都大会に参加し、9月3日に地方博物館国際委員会（ICOM-ICR）セッション「Regional museums encouraging sustainable use of cultural and natural heritage II: Best Practice Case Studies 2」において研究発表を行った。

情報収集：以下3つの国内における研究会、学会に参加し、中南米における博物館活動、考古学・文化遺産の調査研究に関する情報収集、関係者との意見交換を行った。

- ・ICOM京都大会2019開催記念「国際シンポジウム 中米地域社会における博物館 part2」（2019（令和元）年9月8日、京都外国語大学）
- ・古代アメリカ学会第24回研究大会（2019（令和元）年11月30日、南山大学）
- ・第3回国際マヤシンポジウム 異分野融合で見える最先端のマヤ考古学（2019（令和元）年12月13日～14日、岡山大学）

論文・Makiha GOKITA: "Los museos y la comunidad local en Copan Ruinas, Honduras", *I Simposio de Arqueología Pública en El Salvador, 2018 "Más allá de la arqueología: Arqueología Pública"*, La Secretaría de Cultura de la Presidencia, San Salvador, 19.10, pp. 65-75

発表・Makiha GOKITA: "Museums and local communities in the Maya area: A case of Copán Ruinas, Honduras" 2019 ICR Annual Conference in ICOM Kyoto, 19.9.3（「マヤ地域における博物館と地域コミュニティ：ホンジュラス・コパンルイナスの事例」第25回国際博物館会議京都大会2019 地方博物館国際委員会年次大会 19.9.3）

研究組織 ○五木田まきは（文化遺産国際協力センター）

伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究

目 的 本研究では、日本と西欧の伝統的木造建築技術の保護対策に注目し、保護されている技術の範囲、保護対策の内容、その導入の背景、変遷と現在の課題を検討する。西欧については、体系的な保護対策が講じられているイギリス、フランス、スペイン、ドイツおよびノルウェーを対象国とする。その上で、比較検討を行うことによって、各国の保護対策の特徴とその理念的背景を浮き彫りにするとともに、各国の伝統的木造建築技術そのものの特質および無形文化遺産としての価値を明らかにすることを最終目的とする。

成 果 令和元年度はバスク地方を対象とし、木造建築遺産に関する現地調査を2回にわたって行い、基準尺など設計手法を明らかにする目的で、3軒の教会建築の木造天井・小屋組についてレーザ測量を行った。さらに、日本建築学会大会に参加し、現時点までの研究成果について発表を行った。

1. 2019(令和元)年12月21日から2020(令和2)年1月3日までバスク地方の木造建築に関する悉皆調査を行った。スペイン側についてはギプスコア県、フランス側についてはピレネー＝アトランティック県を対象とし、現存する木造建築の数や類型、さらに伝統的な木工技術の継承状況に関して現状を把握する目的で調査を行った。
2. 2020(令和2)年2月27日から3月10日までバスク地方の木造建築遺産に関する現地調査を行った。スペイン側のビスカヤ県を対象として、木造建築に関する悉皆調査を行った。その結果、詳細調査の対象としてオロスコ村に所在する3軒の教会建築を選別し、木造天井・小屋組についてレーザスキャナによる測量を行った。
3. 2019(令和元)年9月に金沢工業大学で開催された日本建築学会大会に参加し、「伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究(1): ウェールド・アンド・ダウンランド野外博物館(イギリス)における伝統的木造建築技術に関する研修の事例」のタイトルで現時点までの研究成果について発表を行った。

- 論 文**・マルティネス アレハンドロ:「伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究(1): ウェールド・アンド・ダウンランド野外博物館(イギリス)における伝統的木造建築技術に関する研修の事例」『日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠』pp.59-60 19.9
- ・マルティネス アレハンドロ: "Conservación del patrimonio construido en madera en Japón (I): orígenes y prácticas de conservación tradicionales", *AITIM*, No. 318, pp.26-37 19.4
- 発 表**・マルティネス アレハンドロ:「スペインにおける「コンサベーションアーキテクト」について」第2回日本イコモス国内委員会第16小委員会(コンサベーションアーキテクト)会合 19.8.5
- ・マルティネス アレハンドロ:「伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究(1): ウェールド・アンド・ダウンランド野外博物館(イギリス)における伝統的木造建築技術に関する研修の事例」日本建築学会大会(北陸) 19.9.6
- 刊行物**・マルティネス アレハンドロ:「ヨーロッパの木造建築修理について」『文化財建造物の保存修理を考える—木造建築の理念とあり方』山川出版社(共著) 19.4
- ・マルティネス アレハンドロ:「第4章 ヨーロッパにおけるリコンストラクション—再建建築の世界遺産登録—」『文化遺産と〈復元学〉—遺跡・建築・庭園復元の理論と実践—』吉川弘文館(共著) 19.11

研究組織 ○マルティネス アレハンドロ(9月まで文化遺産国際協力センター、10月以降京都工芸繊維大学)

中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究

目 的 本研究は、中世日本の仏教美術における中国美術の受容について、造形作品の様式的側面と併せて、その信仰背景における儀礼や安置空間を考証し、礼拝対象としての絵画あるいは彫刻の、宗教的意味や機能との関連性を考察するものである。考察の対象とするのは、中世（鎌倉～室町時代）に制作された羅漢（らかん）の造形作品である。羅漢信仰は中世に大陸からの影響を色濃く受けて日本国内でも隆盛し、絵画・彫刻など数多くの造形作品が制作された。それらの制作には大陸からもたらされた造形作品が大きく関わっていると考えられる。南宋時代の代表的な作例に、中世に日本へと伝えられた大徳寺伝来の五百羅漢図がある。本研究では、その図様を継承して制作されたと考えられる国内の作例に関して、実地調査を行ったうえで図様や様式の側面を検討し、さらにそれらの作例が制作された場において、どのような信仰の実態があったのかを考証する。

成 果 令和元年度前半は国内外の作例に関する情報収集を行い、中世に制作された羅漢像の作例についての資料を蓄積、後半からは下記の現地調査を実施した。

1. 江南地域における羅漢信仰の現地調査 (2019 (令和元) 年 9月 19日～26日)

大徳寺に伝来した五百羅漢図が制作された寧波を含む、中国・江南地域 (江蘇省・浙江省) において羅漢の造形作品の現地調査を行った。

2. 大分・羅漢寺の五百羅漢像の調査 (2020 (令和2) 年 3月 16日～17日)

大分県中津市に位置する羅漢寺において、南北朝時代に制作された石造五百羅漢像の調査を行った。

調査を通じて、中国・天台山を中心とした羅漢信仰の日本国内における受容のあり方が、造形作品の図像のみではなく、土地・景観を包括したものであることが確認できた。羅漢寺の信仰背景についての検討を進めている。

発 表・米沢玲「大徳寺伝来五百羅漢図と『禅苑清規』―描かれた僧院生活―」第53回オープンレクチャー 19.11.1
・米沢玲「仏教儀礼と茶」茶の湯文化学会例会 20.2.29

研究組織 ○米沢玲 (文化財情報資料部)

セルロースナノファイバーによる紙質文化財クリーニング手法の開発

目的 紙質文化財の顕著な劣化現象のひとつに、色材由来の金属イオンによる紙の酸化劣化、すなわち「焼け」がある。日本の修復処置現場では、「焼け」に効果的な処置方法が見出されておらず、水による洗浄のみを行う。「緑青焼け」を生じた紙質文化財の洗浄方法として、劣化の原因物質である銅イオンを、植物繊維由来のTEMPO酸化セルロースナノファイバー (TOCN) のゲルにより捕獲し、文化財資料に金属イオンを残さない洗浄処理を検討する。

成果 劣化試料の作製

緑青焼けを生じ劣化した紙質文化財においては、右図に示すように紙中に銅イオンが存在し、水分の存在により移動しやすくとされる。紙の劣化の主要因は銅イオンであるため、洗浄の際には、積極的に除去する必要がある。最初に、緑青焼け劣化試料を作製した。紙質文化財資料をモデルとし、和紙の楮紙に緑青を塗布し、80℃、65%rh、の湿熱条件下、16週間の加速劣化を施した。加速劣化、4週後から緑青焼けが生じたが劣化の進んだ状態の資料を作製するため、16週間後に取り出し、劣化試料とした。

TOCNの作製

一方、紙資料の洗浄に用いる TOCN の調製を試みた。図1に示すように、TOCN中に存在するカルボキシル基量は、銅イオンのトラップ効果に重要なキャラクターゼーションである。調整した TOCN 中のカルボキシル基量を定量するため、図2に示すような pH-導電率滴定曲線を得た。この結果から、試料のカルボキシル基量を計算し、 0.23×10^{-3} mol のカルボキシル基量であることを確認した。したがって、調製したセルロースナノファイバーが銅イオントラップ機能を有することが明らかとなり、今後、上述の試料に洗浄適用し、確認する予定である。

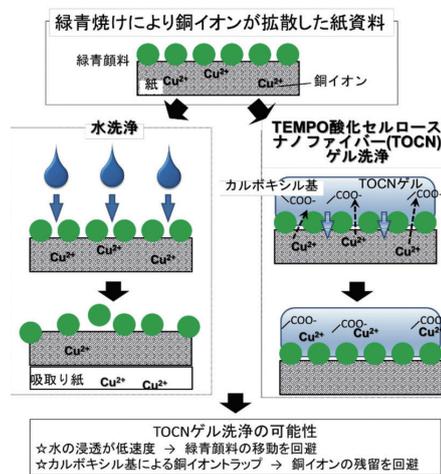


図1 緑青焼け紙文化財資料に対する TEMPO 酸化セルロースナノファイバーゲルによる洗浄の試み

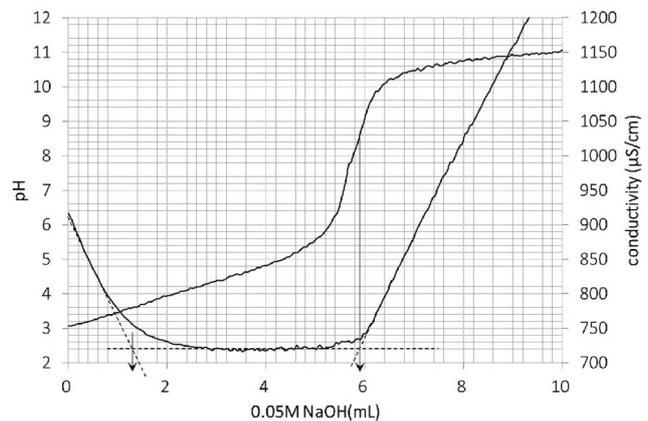


図2 作製した TEMPO 酸化セルロースナノファイバーの pH-導電率滴定曲線

研究組織 ○ 貴田啓子 (客員研究員)

木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案

目 的 博物館では、展示室や展示ケース、収蔵庫や収納箱などに使用される木材からの酢酸やギ酸の放散が、博物館資料に金属腐食などの有害な影響を及ぼすために深刻な問題となっている。資料保全のためには酢酸などの放散が小さい木材を使用するべきだが、木材の種類により放散量やその経時変化が異なり、材の選定を困難にしている。本研究は、博物館で木材を安全に使用するために、木材からの酢酸、ギ酸の放散挙動の解明、及び放散挙動を考慮した木材の選定指標の確立を目指す。

成 果 3年計画の第1年次にあたる令和元年度は、木材からの酢酸、ギ酸の放散挙動を得るための研究を実施した。

1. 木材放散試験

木材試験片における小型チャンバー法を用いた放散試験を実施した。試験では、木材試験片から放散する酢酸、ギ酸の放散初期から減衰し定常化するまでの経時変化を確認した。

2. サンプリングバッグ試験法の検討

箱物などの大きなサイズの試験対象物における化学物質の測定に適するサンプリングバッグ法を、博物館環境に即した試験方法とするための検討を行った。本方法は密閉空間での放散試験方法としても有効であり、今後、本サンプリングバッグ方法を確立し、木材からの化学物質吸着脱離試験の実施を予定している。

3. 木製収納箱からの放散試験

伝製品などの収納箱として用いられる桐箱からの酢酸、ギ酸の放散を確認するために、上記サンプリングバッグ法を用いて放散試験を実施した。

論 文・古田嶋智子、犬塚将英：「文化財分野で用いる放散試験に向けたサンプリングバッグ洗浄効果の検討」『保存科学』59 pp.51-59 20.3

発 表・古田嶋智子ほか：「桐箱やキリ材からの有機酸の放散と金属に及ぼす影響」文化財保存修復学会第41回大会 19.6.23

研究組織 ○古田嶋智子(客員研究員)

古典的膠の製造方法及び各用途適性の体系化

目 的 古典的膠について、各用途適性までを含め広範に体系化する。該材料は、従来の膠製品には見られなかった、淡色かつ不光沢、高浸透性、といったその性状から、多くの文化財修復案件等において活用されている。本研究では、こうした材料の継続的かつ恒常的な利用を可能たらしめるべく、より安定的な製造方法の検討を進める。また膠の応用材料である墨等について、製造条件がその性状等に及ぼす影響を明らかにする。これらの材料の差異が書画表現等に及ぼす影響について検証し、関連知見の一般化とさらなる応用展開を目指す。

成 果 剃毛後表皮除去原料由来、低温長時間単番手抽出による古典的膠の製造及び試験を行った。国産黒毛種成牛の未塩漬生皮を水で洗浄し、皮下脂肪及び肉片等の切除、剃毛を行った。次いで洗浄の後、表皮層の除去を試行した。その後再度洗浄を行い、主に生の真皮層のみからなる組織を得た。該組織を数cm角程度に裁断した後、再度洗浄したものを原料として、軟水(おいしい水六甲, アサヒ飲料(株), 硬度 32 mg/L, pH 7.2)を用いて、75℃及び80℃において所定時間加熱し、膠抽出を行った。抽出後、SUS製策と化繊紙05TH-12(廣瀬製紙(株), PET製不織布, 12g/m²)で濾過し、凝固及び裁断の後、8℃程度で送風乾燥を行い、試料とした。また各試料について、JIS K6503の水分、粘度、ゼリー強度、灰分、油脂分、不溶解分、融点、凝固点、透過率、pHと、PAGI法第10版の等イオン点及び起泡率の試験を行った。

当該実験の結果、企図の通り淡色かつ不透明乃至半透明で低光沢な試料が得られた。過年度研究において示した従来の剃毛処理では除毛後の洗浄等に大きな作業量を要していたが、新規方法ではこれを数分の一程度に抑えられ、さらに成果物への暗色成分溶出も大幅に抑制可能となった。なお生原料比乾燥成果物収率は0.2(w/w)程度で、ロット成果物全量を任意の同一性状にできることから、量産における需給齟齬の解消等も期待される。また当該技術の活用により得られた古典的膠を、複数の書画及び彫刻等文化財の修復に供した。

古墳壁画等、下地層の特に厚い文化財における剥落止めへの活用を想定し、物理化学的諸性状から該用途適性が予想された膠試料の一部を選定し、炭酸Ca基材を用いた貫入試験を行った。その結果、浸透深度と貫入強度の間に弱い負相関が認められた。古典的膠について二次熱処理を行った試料はいずれも浸透深度が大きく、厚い壁画下地層等に対する施工適性が示唆された。

煤製造に関する調査及び関連試料収集を行い、また各膠試料及び煤試料を用いて墨の試作を進めた。原料混練処理を定量的に行うために、定速恒温混練装置を用いて一定の剪断力を加えた。原料及びその配合比と混練条件を段階的に変えて各試料を調製した。

- 発 表**・宇高健太郎ほか：「膠の調製等に関する研究」文化財保存修復学会 第41回大会 研究発表 19.6.22
 ・宇高健太郎：「文化財修復における膠の適性」 膠文化研究会 第12回公開研究会「膠千年」講演 19.9.29
 v 宇高健太郎ほか：膠文化研究会 第12回公開研究会「膠千年」研究発表展示 19.9.29

研究組織 ○宇高健太郎(客員研究員)

近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究

目 的 日本の近現代建造物は世界の文化芸術の一翼を担う重要な存在として評価され、文化財としての理解も進んでいる。しかし、近現代建造物を実際に保存しようとする、従来の文化財の考え方では費用と時間がかかりすぎる、どう保存するのが適切かの物差しがはっきりしない、そもそも所有者が文化財とすることを好まないなど、往々にして様々な障害につきあたる。また、近現代建造物が保存に至る経緯は時々の社会情勢や善意の出資者の登場など偶然によるところが大きく、保存の考え方や方法もまちまちであり、社会が共有する文化財としてのコンセンサスが得られているとはいいがたい。

本研究の目的は、現代社会において近現代建造物が文化財として積極的に捉えられる共通認識として、文化財の保存理念を近現代建造物の関係者（ステークホルダー）間で共有しうるかたちを敷延していくための諸条件を明らかにすることである。

成 果 令和元年度は、資料調査として過去20年以内の近現代建造物の修理や改修に関する書籍、設計資料、建築雑誌等計58冊を収集し、近現代建造物の取扱いに係る最近の動向の分析と整理を進めるとともに、近現代建造物の保存における最新の動向や実態を把握するため、以下の通り情報収集と現地調査を行った。

1. 情報収集

- ・国立近現代建築資料館ギャラリートーク「吉田鉄郎の建築とその現代性」：東京（2019年（令和元）年11月30日）
- ・DOCOMOMOシンポジウム「近現代建築の保存と継承」：札幌（2019（令和元）年12月7日）
- ・京都工芸繊維大学保存再生学シンポジウム「歴史的建築物の保存活用を担う人材と組織を考える」：京都（2019（令和元）年12月22日）
- ・展覧会：代官山ヒルサイドテラス「HILLSIDE TERRACE 1969-2019」(2019（令和元）年12月1日)、江戸東京たてもの園「堀口捨巳と小出邸」(2020（令和2）年2月20日)

2. 現地調査

- ・北海道庁日本庁舎の保存と改修方法に関する調査、札幌及び周辺の近現代建造物の改修事例に関する調査：北菓楼札幌本店（旧北海道立図書館）、サッポロファクトリー（旧サッポロビール札幌第一工場）、同保存活用事例の調査：旧三菱鉱業寮・旧永山邸・旧手宮鉄道施設（2019（令和元）年12月6日～7日）
- ・大分市アートプラザ（旧大分県立図書館）の保存と改修方法に関する調査、磯崎新設計の建築作品等の利活用に関する調査（2019（令和元）年12月13日）
- ・近畿地方の近現代建造物の改修事例に関する調査：ロームシアター京都、大丸心斎橋店、高島屋東別館、（2019（令和元）年12月23日）
- ・国立工芸館（旧第九師団司令部庁舎及び旧金沢偕行社）の保存と改修方法に関する調査、谷口吉郎設計の建築作品等の利活用に関する調査（2020（令和2）年1月31日）

研究組織 ○金井健（文化遺産国際協力センター）

歴史的煉瓦造建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明

目 的 塩類風化は多孔質材料中の塩析出によって材料が物理的に破壊される現象であり、歴史的煉瓦造建造物の劣化要因の一つである。材料中での結晶生成やそれに伴う劣化を再現する数値解析モデルは、異なる環境条件下におかれた煉瓦造建築物の劣化メカニズムやその保存対策を考える上で有効なツールであるといえるが、そもそも実験的に材料内での塩輸送及び塩の析出性状を定量的に把握することの難しさから、その妥当性の検証及び実建造物に対する利用は限定的である。特に煉瓦のように粘土鉱物を含む材料においては、材料表面の電気的特性がイオン輸送に影響する可能性が高いが、この影響は明らかにされていない。そこで本研究は煉瓦における塩溶液の輸送現象と塩析出性状を定量的に明らかにし、将来的に煉瓦造建造物に適応可能な劣化予測モデルの開発につなげることを目的とする。

- 成 果**
1. 国産煉瓦の表面電気的特性の評価
下記の実験で用いる産地の異なる2種類の焼成煉瓦を対象に表面電気的特性を評価するため、材料表面近傍のすべり面の電位に相当するゼータ電位の測定とイオンクロマトグラフによる陽イオン交換容量の測定を行った。煉瓦の焼成過程において鉱物組成が変化することが想定されるが、焼成後の煉瓦も原料である粘土と同程度の負の電荷を保持することが確認された。
 2. 毛管吸水実験による煉瓦における塩溶液の移動特性の評価
煉瓦における塩溶液の移動特性を把握するため、塩化ナトリウムと硫酸ナトリウムの2種類の塩溶液を用いて毛管吸水実験を行った。実験は重量計測による積算吸塩水量の測定とガンマ線含水率計による材料内の含塩水率分布の測定の2種類の測定方法で行った。対象とする煉瓦における塩溶液の移動速度はバルク溶液の特性（密度、粘性、表面張力）から想定されたものより著しく遅くなることが明らかになった。
 3. 放射光X線CTによる煉瓦における塩析出の定量化
煉瓦における塩析出性状及び塩析出に伴う水分の移動性状の変化を解明することを目的に放射光X線CT(CT; BL20B2, SPring-8)を用いて塩化ナトリウム塩溶液を含ませた煉瓦の乾燥過程の三次元画像を撮影した。令和元年度はCT画像から塩の結晶を抽出する画像解析手順を整理し、煉瓦の表面及び内部での塩の結晶生成について定量的な評価が可能になった。

発 表・水谷悦子ほか：「歴史的組積造建築物の塩類風化による劣化メカニズムとその予測（その2）ボルツマン変換による焼成煉瓦の塩溶液拡散係数の同定とその低下要因の考察」2019年度日本建築学会近畿支部 19.6.23 ほか2件

研究組織 ○水谷悦子（保存科学研究センター）

SAT大正新脩大藏經 画像データベース

目 的 『大正新脩大藏經』画像編(全12巻)は、平安・鎌倉時代のさまざまな密教関係を中心とした仏尊の情報をはじめとした関係情報を収載する。しかし、公刊以来、紙媒体で大部に及ぶため、デジタル時代に対応した画像検索、情報検索が要請されてきた。そこで収載の諸尊画像の属性情報(頭髮・面数、臂数、持物、印相〈左右真手各指の屈曲の有無で対応〉、装身具・光背・台座)の入力・集積を行い、尊名の特定や類似尊容の類聚の便をはかる検索システムの構築・公開を目指す。併せて、現在、主要な国際的デジタルアーカイブ公開機関の間で採用が広がりつつある、極めて相互運用性の高い高解像度画像の共有規格であるIIIF (International Image Interoperability Framework) に準拠して公開することで国際的な次元での利用性を高めることを目指したい。

成 果 本プロジェクトは、『大正新脩大藏經』画像編の頁画像上に描かれる仏尊・曼荼羅等の個々の画像等に対して個別にアノテーションを付与するという作業を実施するものである。この作業は、当初よりWeb上で運用されるコラボレーションシステムを通じて遠隔地から行われており、本年度も同様に実施された。

蓄積されたアノテーションデータは、プロジェクト代表者をはじめとする資料の内容の専門家によるデータクリーニングを経た後にIIIF Annotation形式に自動変換され、公開用Webサイトにて公開され検索閲覧が可能となる。

本年度中に作成したデータ総計5,185件はデータクリーニングを経て令和2年度中に公開予定である。

報 告・『大正新脩大藏經』画像部画像データベース」 <https://dzkimgs.l.u-tokyo.ac.jp/SATi/images.php>

研究組織 ○津田徹英、永崎研宣(以上、客員研究員)、下田正弘(東京大学)

2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究

(1) 受託調査研究

| 研究課題 | 研究担当者 | 依頼元 | 頁 |
|--|-------|--------------|-----|
| 文化遺産国際協力コンソーシアム事業 | 友田正彦 | 文化庁 | 111 |
| 文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」 | 友田正彦 | 文化庁 | 112 |
| 文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」 | 金井健 | 文化庁 | 113 |
| 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務 | 佐野千絵 | 文化庁 | 114 |
| 特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務 | 佐野千絵 | 文化庁 | 115 |
| 「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」運営実施業務 | 加藤雅人 | 文化庁 | 116 |
| 「美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業」実施業務 | 早川典子 | 文化庁 | 117 |
| 被災資料有害物質発生状況調査業務 | 佐野千絵 | 陸前高田市 | 118 |
| シルクロードが結ぶ友情プロジェクト シリア人専門家研修（歴史的都市及び建築物の復興に向けた調査計画手法） | 安倍雅史 | 奈良県立橿原考古学研究所 | 119 |
| 遺産影響評価のための世界遺産と開発事案等の関係に関する基礎調査 | 西和彦 | 株式会社三菱総合研究所 | 120 |

(2) 共同研究

| 研究課題 | 研究担当者 | 相手先 | 頁 |
|-----------------------------|-------|-------------------------|-----|
| 文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究 | 早川典子 | 一般社団法人 国宝修理装演師連盟 | 121 |
| 航空資料保存の研究 | 早川泰弘 | 一般財団法人日本航空協会 | 122 |
| ゲッティ・リサーチポータルへのデジタル資料の提供・公開 | 江村知子 | The J. Paul Getty Trust | 123 |

(3) 助成金による研究

| 研究課題 | 研究代表者 | 助成元 | 頁 |
|--|-------|---------------------------|-----|
| 二国間交流事業共同研究・セミナー「浮世絵版画の染料同定と摺り技術解明」 | 貴田啓子 | 独立行政法人日本学術振興会 | 124 |
| バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復 | 前川佳文 | 公益財団法人住友財団 | 125 |
| 日本の伝統的な笛の演奏と竹素材の特性に関する研究 | 前原恵美 | 公益財団法人 花王芸術・科学財団 | 126 |
| 小山真由美著『南蛮漆器考一天正・慶長遣欧使節の時代の遺品と記録』の英訳事業 | 小林公治 | 公益財団法人 東芝国際交流財団 | 127 |
| 文化財修復処置に関するワークショップ「一ゲルやエマルジョンを使用したクリーニング方法」 | 早川典子 | 文化財保護・芸術研究助成財団 | 128 |
| Micro Slurry-jet Erosion 試験による漆塗膜の硬度比較に関する研究 | 倉島玲央 | 京都市・山本文二郎漆科学研究 助成事業委員会 | 129 |

| | | | |
|---------------------------|------|-----------------------|-----|
| 日本の伝統的な管楽器の演奏と竹材の特性に関する研究 | 前原恵美 | 公益財団法人ポーラ伝統文化 振興財団 | 130 |
| 旧和宇慶家墓の人文的調査研究 | 牛窪彩絢 | 琉球大学島嶼地域科学研究所 | 131 |

3. その他の調査研究

| 研究課題 | 頁 |
|------------------------------------|-----|
| 文化財防災ネットワーク推進事業 | 132 |
| 日本美術の魅力（在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展） | 134 |
| インターネット公開 | 頁 |
| 無形文化遺産総合データベース、いんたんじぶる | 134 |

4. 成果公開

| 事業の一部として実施した研究集会・講座等 | 頁 |
|---|-----|
| 第25回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向―世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産―」 | 135 |
| 文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産の意図的な破壊―人はなぜ本を焼くのか―」 | 135 |
| 第26回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs II―世界では、いま何が語られているのか―」 | 136 |
| 受託調査研究の一環として刊行された刊行物 | 頁 |
| 『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書2 特別史跡高松塚古墳生物調査報告』 | 136 |
| 『ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業総括報告書』 | 136 |
| 『ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業―保存候補民家の修理計画及び保存活用計画検討―文化遺産としての民家の価値評価手法の検討―』 | 136 |
| 『第25回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向―世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産―」報告書』 | 136 |
| 『文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産の意図的な破壊―人はなぜ本を焼くのか―」報告書』 | 137 |
| 『第26回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs II―世界では、いま何が語られているのか―」報告書』 | 137 |
| 『文化遺産国際協力コンソーシアム令和元年度国際協力調査（インドネシア）報告書』 | 137 |

文化遺産国際協力コンソーシアム事業

目 的 文化遺産国際協力コンソーシアム（以下、コンソーシアム）が掲げる、「海外の文化遺産保護に関する国内の連携・協力を推進する」という目標のもと、事務局として各種分科会活動や情報データベースの構築、シンポジウム・研究会の開催等を行うことによって日本の文化遺産国際協力を支援・促進する役割を担う。

- 成 果**
- (1) コンソーシアムの会議の開催
- ア) 運営委員会を2回開催し、活動方針を協議したほか、活動報告として、研究会の開催に併せ、総会1回を開催した。
 - イ) 企画分科会、東南アジア・南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米分科会を計16回開催した。また、運営検討ワーキンググループを3回開催した。
- (2) 情報収集と情報発信
- ア) 文化遺産国際協力事業の基礎情報データベースに新たな情報を追補し、データベースの充実を図った。
 - イ) 文化庁と協力し、文化遺産の不法輸出入等防止のための情報収集を行った。
 - ウ) コンソーシアム紹介パンフレットとコンソーシアム事業紹介冊子の配布を通して、コンソーシアム活動のPRを行った。
 - エ) 研究会「文化遺産保護の国際動向—世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産—」、「文化遺産とSDGs II—世界では、いま何が語られているのか—」を開催した。
 - オ) シンポジウム「文化遺産の意図的な破壊—人はなぜ本を焼くのか—」を開催した。（文化庁と共催）
 - カ) 会員向けのメールニュース（コンソーシアムイベント告知、国内外文化遺産関連イベントの案内等）を配信したほか、Twitterアカウントを開設し、関連情報の周知を図った。
 - キ) 会員向けウェブサイトに分科会議事録・配布資料などを掲載し会員との情報共有を図った。
- (3) 文化遺産国際協力の推進に資する調査
- 2018（平成30）年に地震・津波による被害のあったインドネシア・スラウェシ島において、同地の文化遺産の被災・復興状況を把握し、災害後のより効果的な国際協力の在り方を考察することを目的とした現地調査を行った。

刊行物・小冊子『文化遺産の国際協力 2020』 20.3

- ・『第25回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向—世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産—」報告書』 20.3
- ・『第26回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs II—世界では、いま何が語られているのか—」報告書』 20.3
- ・『文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産の意図的な破壊—人はなぜ本を焼くのか—」報告書』 20.3
- ・『文化遺産国際協力コンソーシアム令和元年度国際協力調査（インドネシア）報告書』 20.3

研究組織 ○友田正彦、西和彦、松保小夜子、牧野真理子、五嶋千雪、廣野都未（以上、文化遺産国際協力センター）

備 考 本事業は、文化庁より委託された。

文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」

目 的 2015（平成27）年4月に発生した地震によって被災した世界遺産「カトマンズ盆地」を構成する旧王宮や寺院等の歴史的建造物及び同暫定リストに記載されている盆地内の歴史的集落について、ネパール側の諸機関と協力して保存修復や保全に関する調査や情報収集を行い、同国の文化遺産分野における震災復興を支援するとともに文化遺産保護担当職員の専門的能力の強化に資する。

成 果

(1) ハヌマンドカ王宮・アガンチェン寺及び周辺建造物群の修復に係る支援

1. アガンチェン寺等の修復工事の着手に向けた準備作業：実測調査、破損調査、仕上調査、壁画調査等（2019（令和元）年5月24日～29日、7月14日～26日、9月24日～25日）。
2. ハヌマンドカ王宮内修復事業に関する会議への出席：カトマンズ（2019（令和元）年5月25日、7月6日、9月22日、2020年1月6日）
3. 日本側の専門家会議の開催：東京（2019（令和元）年6月17日、2020年1月9日）。

(2) カトマンズ盆地内の歴史的集落の復興及び保全に係る支援

1. 歴史的集落の復興状況に関する現地調査及び協議：コカナ、ラリトプル、キルティプル、パナウティ、サンクー（2019（令和元）年5月2日～8日、7月24日、8月10日～16日、9月20～21日、11月30日～12月5日、2020年3月8日～10日）。
2. 歴史的集落エンジニアワークショップの開催：キルティプル（2019（令和元）年9月22日）、第3回歴史的集落市長会議の開催：キルティプル（2020（令和2）年1月5日）
3. 無形文化遺産に関する現地調査及びワークショップの開催：コカナ（2019（令和元）年10月22日～23日）
4. 日本側の専門家会議の開催：東京（2019（令和元）年7月10日）。

発 表・NISHIMURA Yukio: "Effective Integration between Methods of Urban Planning and Preservation of Historic Settlements", 3rd Mayor's Forum on Conservation of Historic Settlement of Kathmandu and Kavre Valley, 20.1.5

・KANAI Ken: "Conservation Plan and Administrative Incentive for Protection of Historic District", 3rd Mayor's Forum on Conservation of Historic Settlement of Kathmandu and Kavre Valley, 20.1.5

刊行物・『ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業 事業総括報告書』東京文化財研究所 20.3

・"Investigation Report and Proposal of Rehabilitation Plan for the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu" TNRICP 20.3

・"Detailed Plan for Construction Phase 1, Rehabilitation of the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu" TNRICP 20.3

・"Khokana, the Vernacular Village and Its Mustard-Oil Seed Industrial Heritage, SurveyReport" TNRICP 20.3

・"Intangible Cultural Heritage in Khokana, Festivals and Annual Events in Kathmandu Valley, Nepal" TNRICP 20.3 ほか2冊

研究組織 ○友田正彦、金井健、間舎裕生、浅田なつみ（以上、文化遺産国際協力センター）、久保田裕道、石村智（以上、無形文化遺産部）、黒津高行（日本工業大学）、腰原幹雄（東京大学）、多幾山法子（首都大学東京）、宮本慎宏（香川大学）、西村幸夫（神戸芸術工科大学）、森朋子（札幌市立大学）、奥村俊道、岩瀬英明（以上、JICA派遣専門家）、ラタ・サキャ（立命館大学）、ビジャヤ・K・シュレスト（クオパ工科大学）

備 考 本事業は、文化庁より委託された。

文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」

目 的 これまでに蓄積したブータンとの協力事業の成果と文化遺産保護における我が国の経験をもとに、ブータン政府が成立を目指している文化遺産基本法（新法）によって新たに保護の対象となる民家を含む歴史的建造物全般について、文化遺産としての適切な保存と自立かつ持続的な活用を推進することができるよう、必要な技術的支援及び人材支援を実施する。

成 果 1. ブータン内務文化省文化局遺産保存課（DCHS）の専門職員2名を招へいし、事業実施に係る二国間専門家会合を開催するとともに、我が国の重要文化財や登録有形文化財、伝統的建造物群保存地区における民家の保存活用事例に関する視察研修を行った（2019（令和元）年6月23日～28日）。

2. 新法成立後に民家等の文化遺産指定を円滑に推進していくことを念頭に、ブータン国内のプナカ県及びハー県において、指定候補となりうる民家等を抽出するためのケーススタディを行った。また、これまでの協力事業で見いだされた保存候補民家3件について、所有者や地域コミュニティの意見等を踏まえつつ、文化遺産として適切な保存修理及び活用の方法を検討するための調査を行った（2019（令和元）年8月20日～28日）。

3. DCHSが開催した、ティンプー市近郊カベサのラモ・ペルゾム邸（保存候補民家の一つ）の保存と活用に関するワークショップに参加し、文化遺産として保護するために必要となる保存修理や応急措置に関する提案を行った（2020（令和2）年1月14日～18日）。

発 表 ・KANAI Ken: “Practical Measures of Conservation of Vernacular Dwellings in Japan” Expert Meeting of Bhutan-Japan Binational Cooperation Project 19.6.24
 ・KANAI Ken: “Proposal for Practical Restoration Method of Lham Pelzom House” Workshop on Conservation of Traditional Houses 20.1.16

刊行物 ・『令和元年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点事業 ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業—保存候補民家の修理計画及び保存活用計画の検討—文化遺産としての民家の価値評価手法の検討—』東京文化財研究所 20.3
 ・“Networking Core Centres for International Cooperation on Conservation of Cultural Heritage Project: Conservation and Utilisation of Historic Buildings in Bhutan—Examination of Restoration Plan and Utilisation Plan of Farmhouses—Examination of Value Evaluation of Farmhouses as Cultural Heritage—” TNRICP 20.3

研究組織 ○金井健、友田正彦、西和彦、浅田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ（以上、文化遺産国際協力センター）、前川歩（奈良文化財研究所）、江面嗣人（岡山理科大学）、青木孝義（名古屋市立大学）、津村泰範（長岡造形大学）、海野聡（東京大学）、マルティネス アレハンドロ（京都工芸繊維大学）、菅澤茂、金出ミチル、向井純子（以上、文化財建造物保存修理技術者）

備 考 本事業は、文化庁より委託された。

国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務

目 的 文化庁が行う高松塚古墳壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。

成 果 国宝高松塚古墳壁画の恒久的な保存方針に基づき、壁画の修理、修理環境の保全及び壁画の保存・活用に係る調査・研究業務を実施した。

1. 壁画の修理内容及び修理環境の保全に関連する事項
 - ・壁画の修理方針や内容に関する科学的・学術的助言
壁画表面の安定化を行うため、粗鬆化した漆喰部分の補填方法を検討した。キトラ古墳壁画で用いている補填方法をもとに修理技術者とともに材料の使用方法を確認した。
 - ・高松塚古墳壁画恒久保存対策調査事業の生物調査報告書を出版した。
 - ・修理施設内の温湿度・生物等の調査
高松塚古墳壁画修理施設修理作業室の温湿度モニタリングを実施した。温度は20～23℃で推移、相対湿度は夏季に若干高めであったが、期間を通じて概ね55%台を維持した。歩行性昆虫調査及び除塵清掃を、第1回目の調査（5月14日）、第2回目（8月9日）、第3回目（11月14日）、第4回目及び除塵清掃（2020（令和2）年2月4日）に実施した（委託先：イカリ消毒株式会社）。高松塚古墳壁画仮設修理施設の浮遊菌等調査を、第1回目（8月29日）、第2回目2020（令和2）年2月21日に実施した（委託先：NPO法人カビ相談センター）。
2. 壁画の保存・活用に関連する事項
 - ・壁画面の状態調査及び状態図の作成について
定期的に修理施設で文化庁・国宝修理装演師連盟と研究協議を行った。また使用している修理材料についての材料の物性に関する調査研究を実施した。
 - ・他の古墳壁画にかかる事項の調査研究
史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳の保存環境に関する助言を行った。さらに、南下古墳群、平野塚穴塚古墳では壁面に関する調査及び保存環境に関する助言を行った。
また、他の装飾古墳の微生物と藻類の遺伝子解析研究を進めた。
3. その他
 - ・奈良文化財研究所と共同して、高松塚古墳壁画の材料に関する分析調査を継続的に実施した。またテラヘルツ分光分析により、玄武が描かれている壁画について、下地を形成している漆喰層の状態の調査を行った。
 - ・令和元年度に4回行われた国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（国営飛鳥歴史公園内）の一般公開に際して、延べ13名を派遣し、立会い説明等を行った（5月18日～24日、7月20日～26日、9月21日～27日、2020（令和2）年1月18日～24日）。
 - ・古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、6月5日、2020（令和2）年2月6日の2回にわたり、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を開催した。
 - ・2019（令和元）年7月16日に開催された文化庁の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」（第26回）に、奈良文化財研究所とともに事務局として出席した。
 - ・高松塚古墳壁画の専門家公開に際して、修理の経過の説明を行った。（8月7日）

研究組織 ○佐野千絵、早川泰弘、佐藤嘉則、朽津信明、犬塚将英、早川典子、倉島玲央、小峰幸夫、鴨原由美、藤井佑果（以上、保存科学研究センター）、川野邊渉（特任研究員）、宇高健太郎、大場詩野子（以上、客員研究員）

備 考 本事業は、文化庁より依頼された。

特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務

目的 キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究を行う。

成果 特別史跡キトラ古墳の取り外した壁画の保存修復措置に係る資料整備、古墳・壁画の保存・活用に係る調査・研究の業務を実施した。

○壁画の保存修復措置に関する事項

・最適な保存処置方法の検討

壁画の集中メンテナンスを四神の館で4回行った（6月25日～27日、7月9日～13日、8月28日～30日、10月30日～11月1日、11月27日～29日）。壁画は概ね安定していたが、再構成を行っていた高松塚古墳壁画修理施設との環境設定の差異が若干あるため、国宝修理装演師連盟と協力し、適宜剥落どめ及びクリーニングを行い、安定化を図った。

・保存管理に最適な設備環境の検討

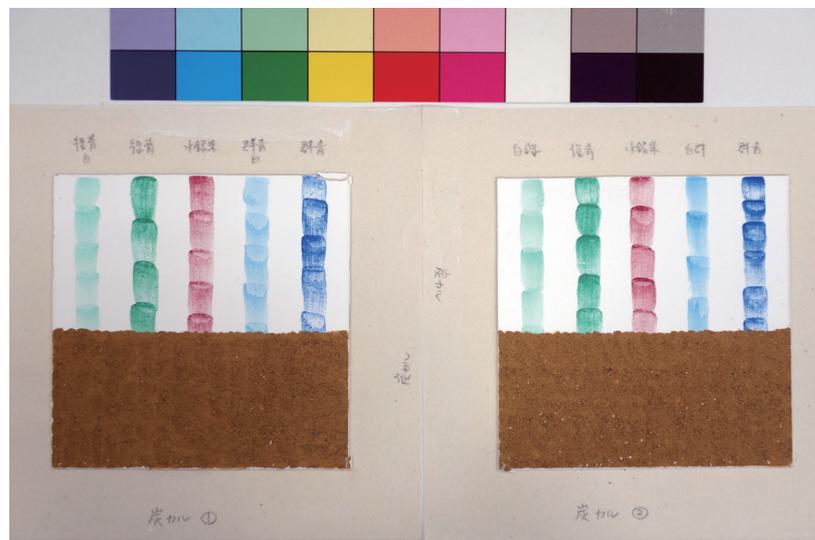
壁画の保管及び展示公開を行っている「四神の館」において、環境調査及び改善に協力した。

・材料調査と保存修復処置方法の検討

奈良文化財研究所との共同により、キトラ古墳の材料に関する分析調査を継続的に実施している。元年度は泥に覆われた部分の下にあると推定される画像について昨年度撮影したX線画像を詳細に検討することを目的とし、壁画表面におけるカルサイトの再結晶に関する基礎実験を実施した。

・他の古墳壁画にかかる事項の調査研究

高松塚古墳壁画の調査と連携して、効率的に実施した。



泥に覆われた漆喰のX線調査のための基礎実験用資料
(カルサイト再結晶の再現実験用)

研究組織 ○佐野千絵、早川泰弘、佐藤嘉則、朽津信明、犬塚将英、早川典子、倉島玲央、小峰幸夫、嶋原由美、藤井佑果(以上、保存科学研究センター)、川野邊渉(特任研究員)、宇高健太郎、大場詩野子(以上、客員研究員)

備考 本事業は、文化庁より委託された。

「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」運営実施業務

目的 「日本における絵画文化財の修復技術」(装演修理技術)に関する情報発信・交流(選定保存技術に関する講演、装演修理技術に関する実演、実際に使用している道具や材料の展示(ビデオ上映を含む)、ワークショップ等を実施する。これにより関係する専門家の国際的なネットワークの構築・促進を図る。また、一般公開を通じて、広く海外に日本の文化及び文化財修復に対する理解の深化を図る。

成果 国際集会「日本絵画の修復」(International Forum “Restoration of Japanese Painting”)(「在外日本古美術品保存修復協力事業コ04」及び「国際研修コ05」との共同事業)を開催した。

期日：2019(令和元)年7月29日～30日

主催：東京文化財研究所、日本美術技術博物館 Manggha、文化庁

会場：日本美術技術博物館 Manggha (ポーランド・クラクフ)

内容：○講演会(7月30日)

「文化財保護法と選定保存技術」 地主智彦(文化庁)

「文化財保存修理「装演修理技術」について」 山本記子(国宝修理装演師連盟)

○展示、実演、体験(7月29日～30日)

- ・装演修理(実資料展示、ポスター展示、パンフレット配布、動画上映)：国宝修理装演師連盟、文化庁、当研究所
- ・刷毛(実資料展示、ポスター展示、実演)：田中宏平(小林刷毛製造所)
- ・金工(実資料展示、ポスター展示、実演)：君嶋真珠(継金属工房)
- ・和紙(実資料展示、ポスター展示、和紙見本帳配布)：文化庁、国宝修理装演師連盟、当研究所
- ・裂(実資料展示、ポスター展示)：山本記子(国宝修理装演師連盟)
- ・装演修理・材料用具製作(実資料展示、パンフレット配布、ポスター展示)：大菅直(伝統技術伝承者協会)
- ・選定保存技術全般(パンフレット配布、ポスター展示)：文化庁、当研究所
- ・宇陀紙抄造(実演、体験)：福西正行(福西和紙本舗)

○装演修理技術ワークショップ(7月29日～30日)

- ・和紙製包み作製：木村暢成、沖本明子、木下陽介(以上、国宝修理装演師連盟)
- ・和綴じ和紙見本帳作製：木村暢成、沖本明子、木下陽介(以上、国宝修理装演師連盟)

研究組織 ○加藤雅人、友田正彦、五木田まきは、後藤里架、小田桃子、堀まなみ(以上、文化遺産国際協力センター)、菊池理予、佐野真規(以上、無形文化遺産部)

備考 本事業は、文化庁より委託された。

「美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業」実施業務

目的 本事業では、美術工芸品の修理材料及びその生産・製造に用いる用具の原材料について、それらを安定的に供給し続ける上で見られる現況の課題（生産量・流通体制・品質など）の調査を行い、調査結果に基づき具体的な支援策を実施するための枠組み作成を検討する。

成果 本事業では美術工芸品の修理材料及びその生産・製造に用いる用具の原材料について、それらを安定的に供給し続ける上で見られる現況の課題（生産量・流通体制・品質など）の調査を行い、調査結果に基づき具体的な支援策を実施するための枠組み作成を検討する。令和元年度は、美術工芸品の修理に使用する原材料・用具のうち、ノリウツギ・トロロアオイ・五箇山和紙・石州半紙・天然砥石・大径木檜・ふすべ革について調査を行った。委員会は4月26日と6月18日、12月25日の計3回行った。

- ・ノリウツギ（北海道）
調査：北海道中頓別・浜頓別森林組合、豊岬木材工業株式会社
調査日：7月7日～8日
- ・五箇山和紙（富山県・石川県）
調査：東中江和紙加工生産組合、石川県文化財保存修復工房
調査日：8月22日～23日
- ・石州和紙（島根県）
調査：西田和紙工房、石州和紙久保田、三隅試験楮畑、酒井清美氏楮畑
調査日：9月4日～5日
- ・トロロアオイ（埼玉県）
調査：小川町トロロアオイ生産組合
調査日：10月15日
- ・天然砥石（京都府）
調査：天然砥石館
調査日：11月18日
- ・大径木檜（長野県）
調査：木曾森林管理署
調査日：11月25日
- ・ふすべ革
調査：中村重男商店
調査日：12月16日
- ・ノリウツギ（漆箆）に関する調査
調査：新潟県
調査日：2020（令和2）年2月12日
- ・ノリウツギの使用状況に関する調査
調査：山形県
調査日：2020（令和2）年3月10日～11日



五箇山和紙の楮畑における調査

研究組織 ○早川典子、岡部迪子（以上、保存科学研究センター）、菊池理予（無形文化遺産部）、江村知子（文化財情報資料部）

備考 本事業は、文化庁より委託された。

被災資料有害物質発生状況調査業務

目 的 これまでに安定化処理を終えた資料、修理した資料に残存する異臭、保管中の諸問題を対象に、作業員や管理者に有害な化学物質の有無や濃度について調査し、今後の保管及び安定化処理等の進め方について、改善方法を提案する。

成 果 1. 保管環境の調査

- 被災資料有害物質発生調査のため、収蔵物、収蔵場所及び作業場所について、文化財安全と労働安全衛生の観点から、温湿度調査と空気環境調査を行った。またこれまでの研究成果から明らかになった被災資料処置工程の改良、特に短縮化について提案した。

- 空気質調査

空気環境調査では以下を実施した。5・6年教室の換気回数を二酸化炭素ガス濃度の減衰を利用して求めたところ、0.21回/時と比較的気密性が良い状態となっていることが分かった。そのためか、5・6年教室内のナフタレンについては、低下したもののWHOの設定した基準値を下回らなかった。ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド濃度をDNPH含侵カートリッジで空気採取して定量分析したところ、問題ない状況であることが分かった。漆工品を保管したケース内で臭気があるとのクレームを受け、検知管で調査したところ、有機酸濃度が非常に高く、異臭の原因は酢酸と推定された。発生したガスを定期的に脱気して清浄空気と入れ替える方法が安全な対処法と思われた。

- 生物生息状況調査

図書館収蔵庫は浮遊菌量がやや高いが、プレハブ収蔵庫と体育館内収蔵庫はいずれも50 cfu/m³を下回り、良好な保存環境であると考えられる。収蔵スペース(旧教室)の床面にある蒸散性薬剤の周辺にはヒメマルカツオブシムシ幼虫の死骸が確認された。巾木の隙間からヒメマルカツオブシムシ幼虫やその脱皮殻が確認された。定期的な清掃が必要であると考えられた。



計測準備の様子

2. 処置作業の改善

処置工程調査ではこれまでの結果から、被災資料に付着した汚れ成分(主にタンパク質)を除去することが重要であること、3時間以内の水浸では微生物繁殖はほとんど生じなかったことから、①洗剤で汚れを除去、②脱塩は3時間以内、③水浸は3回で脱塩終了できる、④脱塩の終了点は絵画資料などと合わせて50ppmとする、⑤できる限り早く乾燥できるように脱水するのが望ましい、など処置法の改良を提案した。再処理が必要になる資料が0になることより、全体の処置を短時間にすることで紙資料へのダメージを減らし、処置のスピードアップを図ったものである。経過観察が重要である。

報 告・被災資料有害物質発生状況調査業務報告書 1件

発 表・Mikiko HAYASHI, Yuka UCHIDA, Chie SANJO: Stabilization processing and microbial control of tsunami damaged documents 第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019 19.9.5

研究組織 ○佐野千絵、佐藤嘉則、小峰幸夫、早川典子、藤井佑果(以上、保存科学研究センター)、古田嶋智子(客員研究員)、林美木子(文化財防災ネットワーク推進事業)

備 考 本事業は、陸前高田市より依頼された。

シルクロードが結ぶ友情プロジェクト シリア人専門家研修 (歴史的都市及び建築物の復興に向けた調査計画手法)

目 的 中東のシリアでは2011（平成23）年3月に内戦が始まり、終結を見ぬまま既に9年もの月日が経過している。内戦下では、古都アレppoなど多くの歴史的都市が戦場となり、数多くの歴史的建造物が被災している。

このような状況に鑑み、奈良県立橿原考古学研究所が中心となって実施する「シルクロードが結ぶ友情プロジェクトーシリア人専門家研修」の一環として、シリアから専門家2名を招聘し、「歴史的都市及び建築物の復興に向けた調査計画手法」に関する研修を実施した。

成 果 日本政府と国連開発計画（UNDP）は、2017（平成29）年から文化遺産分野におけるシリア支援を開始した。2018（平成30）年2月からは、奈良県立橿原考古学研究所を中心に、筑波大学や帝京大学、早稲田大学、中部大学、古代オリエント博物館などの学術機関がシリア人専門家を受け入れ、考古学や保存修復分野において様々な研修を始めている。

東京文化財研究所は、2018（平成30）年5月に「紙文化財の保存修復」研修を実施したのに続き、令和元年度はシリア人専門家2名を招聘して7月24日から8月6日までの約2週間にわたり、「歴史的都市及び建築物の復興に向けた調査計画手法」をテーマとする研修を実施した。

研修の前半では、歴史的建造物の破損状況調査や応急処置、構造安全性診断の方法、ドキュメンテーションやデータベースの作成方法、さらには復興計画の策定方法や復興・保存体制の構築方法に関して、各分野の専門家7名を講師とする座学を行った。これに続く後半では実地研修として、熊本城や新町・古町地区、熊本大学や重文江藤家住宅など、2016（平成28）年の熊本地震で被災した歴史的建造物及び町並みの復興状況を見学するとともに、現場担当者の話を伺った。さらに、京都や奈良の伝統的建造物群保存地区も訪れ、日本の歴史的建造物の修理・活用事例等についても学んでもらった。



熊本の新町・古町地区の復興現場を見学するシリア人専門家

報 告・『*The Silk Road Friendship Project: Training Workshop for the Research Planning for Reconstruction of Damaged Historic Cities and Buildings*』

研究組織 ○安倍雅史、友田正彦、金井健、間舎裕生、浅田なつみ、岡崎未来(以上、文化遺産国際協力センター)

備 考 本事業は、奈良県立橿原考古学研究所より委託された。

遺産影響評価のための世界遺産と開発事案等の関係に関する基礎調査

目的 本調査は、「明治日本の産業革命遺産」等の世界遺産の保全管理に際し、遺産影響評価等の課題に対する対応を着実にを行うことを目的とし、そのための世界遺産委員会等での議論の動向、関連する事例、留意点等について整理することを目的とするものである。

成果

1. 遺産影響評価等に関連する世界遺産委員会での議論などの動向を整理。
2. 参考となるべき世界遺産の保全状況に関する事例を調査。
3. 上記の動向等を踏まえ、「明治日本の産業革命遺産」の保全管理における留意点等を整理。

研究組織 ○西和彦、境野飛鳥（以上、文化遺産国際協力センター）

備考 本事業は、株式会社三菱総合研究所より依頼された。

文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究

目的 文化財修理に使用する膠について調査研究を実施し、その古典的製造方法について技術開発を行う。文化財修理においてより好適な古典的膠の利用と、その製造及び利用の継続性安定化を目指し、国宝修理装飾師連盟への製造技術供与を指導助言等とする。

成果 牛剃毛後表皮除去生皮由来の古典的膠の製造実験を、国宝修理装飾師連盟の複数の修復技術者と共に行った。書画彩色層の剥落止め処置においては、その発色や質感等鑑賞性を維持するうえで淡色不光沢な膠が有用である状況が多く、そうした特性を備えた膠の製造を令和元年度の目的とした。

対象とする材料は『膠の調製等に関する研究（膠製造における諸条件と製品の性状の関連（9））』（宇高健太郎，早川典子，藤井佑果，大場詩野子，岡部迪子，柏谷明美 / 文化財保存修復学会第41回大会研究発表）の試料Aα04-SLLに準拠したものである。

国産黒毛種成牛の未塩漬生皮を水で洗浄し、所定の下処理を経て、主に生の真皮層のみからなる組織を得た。該組織半分を数cm角程度に裁断した後、再度洗浄したものを原料として80℃，48hで膠抽出を行った。抽出後、SUS製筴と化繊紙05TH-12（廣瀬製紙㈱），PET製不織布，12g/m²で濾過を行い、凝固及び裁断の後、10℃程度で送風乾燥を行った。なお同製造条件試料の粘度、ゼリー強度、融点、凝固点等は過年度宇高調製試料A-S3等と概ね近い値を示した。A-S3試料は特に白色の顔料の発色を変化させにくい膠として以前の調査において評価されている。

各試料は国宝修理装飾師連盟各工房の修復技術者による装飾用途適試用評価に供した。



抽出中の膠



作業風景

研究組織 ○早川典子（保存科学研究センター）、宇高健太郎（客員研究員）

備考 本研究は、一般社団法人国宝修理装飾師連盟と共同で実施した。

航空資料保存の研究

目的 航空に関する資料は多様な材料が使用され、活用に重点が置かれてきたこともあり保存状態が悪いものが多く、このままでは貴重な資料の散逸を免れない状況にある。したがって、原資料を損なわずに有効に活用するために、平成30年度に引き続き資料の種類や劣化の状態を調査し保存方法・修復方法の開発を行った。

成果 1. 膨大な個人資料の記録・保存

平成24年度から続いている、以下の資料に関する整理、記録、デジタル化、保存処置を実施した。

ア) 旧文部省奉職時にグライダーの開発に携わった山崎好雄氏が遺した、日本で開発・設計された各種グライダーの図面や文献等各種一式。日本におけるグライダーの歴史を知る上で非常に貴重な資料群である。2019(令和元)年度は継続して整理、選別、保存処置を行った。整理された資料の中からは、昨年度とは別の新たな「DFSオリンピア」型グライダーの青焼き図面や原紙、写真等が確認されたため、青焼き図面に関しては、可能な限り平滑化し現状のデジタル化を実施した後、これ以上劣化するのを防ぐために冷暗所に保存すべく保存環境を整えた。また、原紙に関しても平滑に保管できるように保存環境を整えた。写真に関しては、デジタル化を行った上で中性紙の包材に入れて保管することにした。

イ) 日本の民間航空史の研究をライフワークとした作家・平木國夫氏が遺した資料一式。遺された資料は主として執筆する際に調査、収集した戦前の民間航空の資料からなり、写真や聞き取り調査の記録等多岐にわたる貴重な資料群である。令和元年度は継続して整理、選別を行った。

ウ) これらのうちア)の資料の中から、日本が第1次世界大戦の戦勝国としてドイツから押収した、ジーメンス・シュッケルトD.IVの胴体パネルの実物が発見された。この機体は1921年に日本まで船で輸送され、所沢陸軍飛行場で調査された後、駒場の東京帝国大学航空研究所に研究資料として移されたものである。今後も長く保存するため、木製であることも考慮して、クリーニングした後に現存するパネルの水分含有量などを測定し、温度・湿度を調整した保管環境を設定した。



発見された胴体パネル

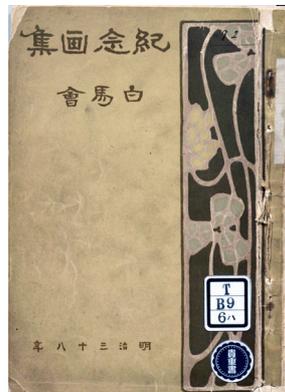
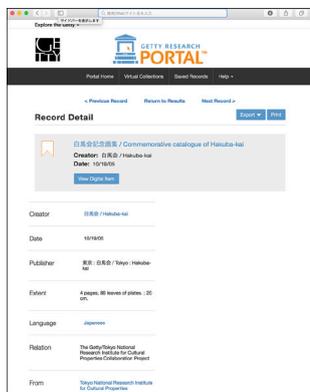
研究組織 ○早川泰弘、中山俊介、石田真弥、鳥海秀実(以上、保存科学研究センター)、荻田重賀(客員研究員：日本航空協会)

備考 本研究は、一般財団法人日本航空協会と共同で実施した。

ゲッティ・リサーチポータルへのデジタル資料の提供・公開

目的 本事業はアメリカのゲッティ研究所との共同研究によって、東京文化財研究所が所蔵する明治・大正・昭和前期の展覧会目録や江戸期の版本などのデジタル化とウェブ公開を行うものである。近代の美術展覧会資料には内国勸業博覧会、万国博覧会、主要美術団体によるものが含まれ、設立から90周年を迎えようとする当研究所ならではの稀有なコレクションである。また本事業はその発展性・効率性が認められたことにより、さらにデジタル化の対象として、江戸時代の版本についても取り上げることにした。いずれも稀覯本であり、これらのデジタル化資料がオープン・アクセスで世界中のインターネット・ユーザーに提供できることの意義は大きい。ゲッティ・リサーチポータルを通じて日本美術に関する情報を国内外に発信することで、日本美術への理解向上に貢献することを目的とする。

成果 2016(平成28)年2月に締結したゲッティ研究所と日本美術の共同研究に関する協定書に基づき、2017(平成29)年2月に当研究所からゲッティ研究所を訪問し、共同研究の内容について協議して、東京文化財研究所が所蔵する明治・大正・昭和前期の美術展覧会目録のデジタル化とメタデータ付与を共同事業として行い、ゲッティ・リサーチポータルに掲載する方針を定めた。令和元年度は、明治・大正・昭和前期に開催された展覧会の図録926件について、デジタル化とウェブ公開を行った。さらに令和元年度後半からは、葛飾北斎による『北斎漫画』など江戸時代の版本類約730件を対象にデジタル化作業を開始した。このデジタル化資料は、ゲッティ研究所との協議により令和2年度前半までに公開作業を完了する計画で作業を進めている。作業を進める際にゲッティ研究所副所長のKathleen Salomon氏、プロジェクト責任者のAnne Rana氏とメタデータの形式について協議し、ゲッティ・リサーチポータルに掲載可能なデータ形式についての情報共有を行った。また今後の共同事業についての研究協議を行った。



ゲッティ・リサーチ・ポータルのサイトから、「白馬会」と検索ワードを入れると、当研究所の電子図書の情報が検索され、全ページのPDFが閲覧できる。この図録は1905年に刊行の『白馬会記念画集』で、その後焼失した作品の画像も掲載されている。

研究組織 ○江村知子、橘川英規、阿部朋絵、田村彩子(以上、文化財情報資料部)、山梨絵美子(副所長)

備考 本研究は、ゲッティ研究所と共同で実施した。

二国間交流事業共同研究・セミナー「浮世絵版画の染料同定と摺り技術説明」

目的 “浮世絵” 版画を研究素材として、18世紀～19世紀の日本と西洋の交流がもたらした材料や技術の変遷について、スペイン・サラゴザ美術館所蔵のフェデリコ・トラルバ浮世絵コレクション(50枚)(18～19世紀)を研究対象とし、一連の浮世絵の材料同定(主に染料)及びパターン分類の結果と、高精細デジタル化データをあわせた処理を行い、材料や技術について詳細な情報を得ることを目的とする。また、実験のリファレンスとなる試料作製のため、日本に現存する材料情報についても共同調査を実施する。

成果 1. 浮世絵に使用される材料、和紙について共同調査(高知県紙産業技術センター、京都大学)
1年目に行った浮世絵色材の各種分光分析結果において、浮世絵版画の基底材である和紙について、その影響を考慮するため、和紙単体についても調べる必要が生じた。高知県紙産業技術センターにおいて、伝統的な和紙の製法、浮世絵に使用された和紙等について多くの情報提供、サンプル提供を受け、フランスチームと共有した。

2. EFEO¹⁾の大津絵コレクション調査(ボルドー・パリ)

浮世絵版画に使用される色材のひとつである青花に着目し分析を進めてきた。青花の特性から、青色が現存する可能性が極めて低く、変色あるいは消失している状態がほとんどであり、分析結果の解析が困難であった。そこで、同時代の民衆絵画のひとつである大津絵に着目した。文献²⁾では、大津絵においても青花の使用の可能性が高いとされる。大津絵では、彩色に型紙を使用し、木版の浮世絵よりも彩色材が画面上に多量に存在する。したがって、青花の情報を得やすいと考え、大津絵の青色部分について追加の調査を行った。

3. フランスチームは高精細赤外画像撮影を、日本チームは赤外線カメラを使用し、その検出波長領域が異なることを利用して(図1)、青色部分の解析に利用することを試みた。ほとんどの青色材料は赤外画像で黒色を示すが、青花の青色は赤外線を反射し、白色を示す(図2)。1点の作品の青色部分が白色であることに着目し、この部分について、日仏チームの結果の比較検討を進めている(図3)。

1) École française d'Extrême-Orient (EFEO-Paris)

2) 参考

上村六郎「大津絵の色彩とその材料について」『民芸手帖』1960年3月号, vol.22, pp.12-17

論文・Carole Biron and others : “Revealing the colours of ukiyo-e prints by short wave infrared range hyperspectral imaging (SWIR)” *Microchemical Journal* 20.2

研究組織 ○貴田啓子(客員研究員)、安藤真理子(奈良国立博物館)、秋山純子(九州国立博物館)、今津節生(奈良大学)、井出亜里(京都大学)、Daniel Floréal, Biron Carole (Bordeaux Montaigne University)、Servant Laurent (University of Bordeaux)

備考 本研究は、日本学術振興会二国間交流事業(日仏交流促進事業・SAKURAプログラム)の助成を得て実施した。

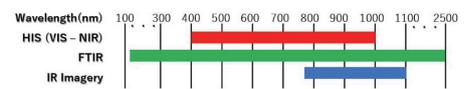


図1 高精細近赤外画像・FT-IR分析・赤外線カメラ画像で得られる検出波長領域

Color Sample - Blue -



図2 青色対照試料の可視光撮影画像及び赤外線撮影画像

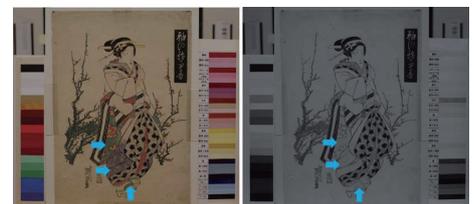


図3 浮世絵版画トラルバコレクション部分の可視光撮影及び赤外線画像

バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復

目的 ミャンマーのバガン遺跡は、11世紀から13世紀にかけて栄えたビルマで初めての統一王朝バガン朝の時代に建てられた仏教遺跡群である。遺跡内には煉瓦造の仏塔や寺院が約3,000基建ち並んでおり、その中のひとつであるローカテイパン（Loka-Hteik-Pan）寺院の内壁は12世紀前半に描かれた仏教壁画で埋め尽くされている。本研究では、このうち南壁に描かれた壁画を対象にその技法材料や損傷傾向の調査を行い、適切な保存修復方法を確立することを目的とする。

成果 1. 保存修復計画作成のための事前調査

①クリーニング

前年度に引き続き、壁画の保存状態と過去に使用された修復材料との関係性に留意しながら、壁画表面の堆積物及び付着物の除去を目的とするクリーニングを実施した。令和元年度は、壁画表面における溶剤の反応時間や施工方法に工夫を加え、より効果的な方法の確立を目指した。

②補強作業

無機修復材料を用いた表面補強を実施した。

③補彩作業

水彩絵具を用いた補彩作業を実施した。近代補彩技法の導入はミャンマーにおいて初の試みとなったが、高い効果が得られることが確認できた。

④保存修復報告書の作成

目的：保存修復手順の記録

2. 現地専門家の育成

考古国立博物館局バガン支局より若手専門家を受け入れ、壁画保存修復に関する技術指導を行った。また、使用する修復材料についても、その目的や効果について理解を深めるために講義を実施した。



補彩作業の実技訓練



水酸化バリウムバック法の技術指導

刊行物 ・ Lokahteikpan Wall Painting Project, pagoda 1580 2018年度成果報告書 住友財団 19.5

研究組織 ○前川佳文（文化遺産国際協力センター）、ダニエラ・マリア・マーフィー（文化協会バスティオーニ）、ステファニア・フランチェスキーニ（壁画保存修復士）、マリア・レティツィア・アマドーリ（ウルビーノ大学）

備考 本研究は、公益財団法人住友財団の助成を得て実施した。

日本の伝統的な笛の演奏と竹素材の特性に関する研究

目的 日本の伝統的な管楽器（箏、龍笛、笙、能管、篠笛、尺八等）の演奏と、竹材の違いや代替・新材料との間の関係性を、音響実験及び演奏者への聞き取り調査により明らかにし、情報を竹生産・販売者、楽器製作者、演奏者の共通課題と共有して、従来の竹材入手が困難になりつつある現状の解決の手がかりとする。

成果 本研究は、1. 煤竹、白竹、及び代替材料・新材料による音響測定、2. での使用感についての聞き取り調査の2方向から実験・検証を行った。

1. 音響測定 龍笛、笙、箏、能管、篠笛、尺八奏者の協力を得て、煤竹（あれば新管と及び古管）、白竹でできた各楽器を中心に、花梨、合竹、合成樹脂、金属などの代替材料の楽器も加えて音響測定を行った。音響測定は、東京藝術大学の亀川徹教授に協力していただき、同大学千住校地のスタジオ A で行った。実験項目は楽器により多少異なるが、基本的に、①指孔を全て塞いだ音（大音量／小音量）、②一般的に使用する音域で最も高い音（大音量／小音量）、③指孔を全て開けた音（大音量／小音量）、④伝統的な奏法を含む定型旋律（低音域／中音域／高音域）で、これらをそれぞれの素材でできた楽器、それぞれのジャンルの楽器で録音し、音響分析を行った。

2. 聞き取り調査 唇、息、指の感覚について、細目を設けた上で5段階で評価してもらい、並行して聞き取り調査を行った。また、演奏者のレパトリー等、普段の演奏活動の傾向についても併せて調査し、音響分析との相似性について検証した。



音響実験の様子（亀川徹教授、前原）



能管の音響測定の様子（能管：松田弘之氏）

以上の成果を報告し、課題整理するため、2020（令和2）年3月26日に研究成果報告会を予定していたが、新型コロナウイルスの感染及び拡散防止の観点から中止することになった。成果報告会ないしそれに替わる情報共有と協議の場を、次年度に予定している。

研究組織 ○前原恵美（無形文化遺産部）、亀川徹（東京藝術大学）、瀬瀬拓也（龍笛奏者）、八槻純子（笙奏者）、中村仁美（箏奏者）、松田弘之（能管奏者）、福原徹（篠笛奏者）、善養寺恵介（尺八奏者）

備考 本研究は、公益財団法人花王芸術・科学財団の研究助成を得て実施した。

小山真由美著『南蛮漆器考一天正・慶長遣欧使節の時代の遺品と記録』の英訳事業

目 的 漆器とは、東方アジアに生育する漆樹の樹液（ウルシオール・ラッコール・チチオール）を接着剤や塗料として利用した器物の総称である。漆器は国内外各地で独自の技術的・様式的発展を遂げたが、材料や手間暇など贅を尽くして制作された漆器は対外的な贈り物や商品として広く流通した。日本製漆器は平安時代の日宋貿易にその輸出が始まるが、16～17世紀の大航海時代（桃山～江戸時代初め）にはヨーロッパ人の注文により京都で造られた南蛮漆器が欧米に向けて数多く輸出された。南蛮漆器は今もなおヨーロッパに多数遺存し、漆器が‘japan’とも呼ばれるきっかけとなったが、東西世界が初めて出会ったこの時代の歴史性を色濃く反映する特徴的な日本製漆器であり、その存在は美術品という域にとどまらず、文献史料とは異なる歴史事実を物語る重要な資料的価値を持っている。

本事業は、イタリアに長年居住し、同国に所在する南蛮漆器について精力的に研究を進めてきた小山真由美氏（2019（令和元）年没）が数十年間にわたり行ってきた、地道ながらもすぐれた実証的研究方法と、それによって得られた卓越した成果の海外との共有、また更なる日本製輸出漆器研究の進展を目的として、小山氏の同意を得た上で、その近著『南蛮漆器考一天正・慶長遣欧使節の時代の遺品と記録』2019年（中央公論美術出版刊）の英訳を行ったものである。

- 成 果**
1. 上記書籍について、翻訳をスムーズに行うための補筆・解説作業を実施の上、専門英訳者に委託して南蛮漆器に関する部分の英訳を行った。
 2. 上記英訳について、アメリカ在住の美術史家クリスティン・グース氏による校閲加除筆作業を実施すると共に、海外読者を念頭に置いた補足も適宜加えた。
 3. 校閲が終了したものについて、再度英訳者により確認を行って成稿とした。
 4. このほか一部グローサリーを加えた。

本成果については、今後英書として発刊する出版社を見つけて同書英訳版として刊行したい。またこれにより、小山氏の研究成果や南蛮漆器への理解とその研究を深化させ、より広い学术交流を実現したいと考えている。

研究組織 ○小林公治（文化財情報資料部）

備 考 本事業は、東芝国際交流財団の調査研究助成を得て実施した。

文化財修復処置に関するワークショップ —ゲルやエマルジョンを使用したクリーニング方法—

目 的 国内での文化財修復において、近年は多様な材料やコンディションに対応する必要が生じており、中でも、少量の水を制御しつつ用いる方法については、様々な事例においてニーズが高まっている。今回、イタリアを中心に活躍する保存科学者でありこのような場面へのゲルを使用した対処を長年研究してきたパオロ・クレモネージ氏を招致し、ゲルに関する基本的かつ科学的な講義と実践的な内容とを連携させたワークショップを開催する。また、最後に国内の専門家も加えて日本及び西洋における文化財のクリーニングについて現場での問題提起と最新の研究の紹介と意見交換を目的とした研究会も開催しお互いの理解を深めるとともに知識の共有を図る。

成 果 1) ワークショップ

3日間の構成で、午前は講義を行い、午後に関連の実習を行った。

10月8日：水および水分環境 —水に関する基礎知識— (pH、塩とキレート剤等)

10月9日：水および水分環境 —ゲルの使い方— (界面活性剤、ゲル化剤等)

10月10日：溶剤の使い方と極性について

定員15名に59名の応募があり、午前の座学は会場変更した上で全員参加とし、午後の実習は定員を20名に増員して開催した。参加者は、西洋絵画、紙資料、東洋絵画・書跡、工芸品、その他(染織品等)の専門であった。

2) 研究会

「文化財修復処置に関する研究会—クリーニングとゲルの利用について—」のタイトルで10月11日に開催した。プログラムは以下の通りである。

東洋絵画とクリーニング

山本記子(国宝修理装演師連盟理事長)

文化財クリーニング手法の開発—近年の研究紹介—

早川典子(東京文化財研究所)

紙及び写真作品の処置におけるゲル利用の可能性

白岩洋子(写真修復家)

西洋絵画におけるクリーニング方法発展の歴史的背景

鳥海秀実(東京文化財研究所)

欧米におけるクリーニング手法—ゲルの適用と最新の事例紹介—

パオロ・クレモネージ

〈達成度・効果・反響等〉

1) ワークショップ

終了後、参加者からは「ゲル化のコンサベーションへの利用について基礎的な知識を得ることができた」「わかりやすく丁寧な解説だった。図解も多く、また具体的な事例もあり良かった。今までいまいち理解できなかったところ、理由がわからなかったことも理解できた。洗浄剤、キレート剤、バッファなど、名前は聞いたことがあるが具体的な違い、使用法を知らなかったものに関して知れて、大変参考になった。」「理解するためのプロセスを丁寧に講義していただけた。復習する際に筋道を追いやさしい構成で講義していただけてありがたく感じた」等の感想が寄せられた。

2) 研究会

参加者は84名であり、事後のアンケートでは73.5%が「とても有意義だった」、26.5%が「有意義だった」との非常に高い満足度であった。

研究組織 早川典子(保存科学研究センター)

備 考 本事業は、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の外国人研究者招致助成を得た。

Micro Slurry-jet Erosion 試験による漆塗膜の硬度比較に関する研究

目的 漆器の保存修復をする上で、その塗料である漆の基礎的な物性の解明は欠かすことができない。本研究では、漆塗膜の基礎的な物性の一つとして硬度に注目し、漆の採取時期や精製法が与える硬度への影響について調査を推進した。

成果 硬度試験の一つである Micro Slurry-jet Erosion (MSE) 試験によって、深さ方向における機械的特性の数値化し、既存の硬度試験では困難であった塗膜間の硬度比較を行った。

採取時期と精製法の異なるミャンマー（シャン州）産の漆塗膜を3種類用意し分析したところ、現地で一級品として使用される漆ほど、硬度の高い塗膜を形成することが判明した。また、精製することによって漆塗膜の色味、光沢だけではなく硬度も変化していることが示唆された。また、紫外光によって強制的に劣化を引き起こした、一部、分析結果を以下に示す。

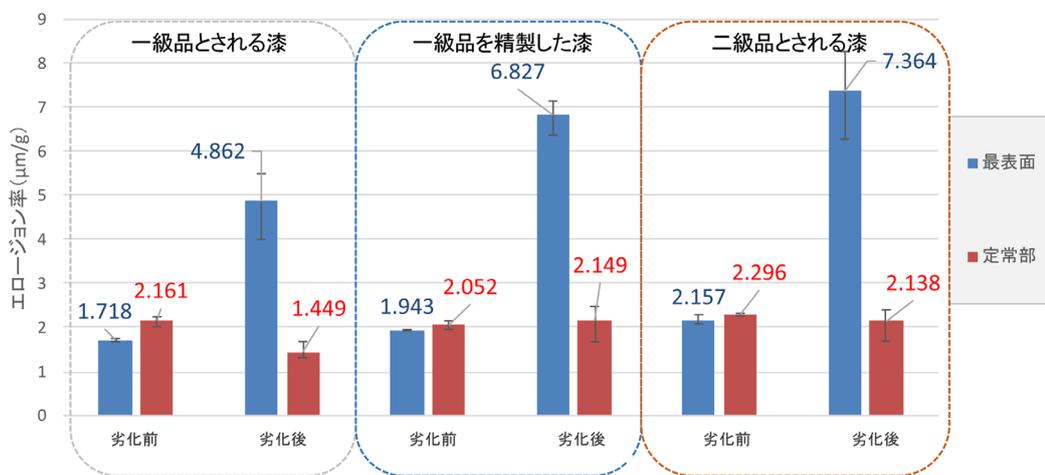


図 各漆塗膜におけるエロージョン率の分布（エロージョン率が小さいほど、硬度が高い）

研究組織 ○倉島玲央、早川典子（以上、保存科学研究センター）

備考 本研究は、第26回京都市・山本文二郎漆科学研究助成基金の助成を得て実施した。

日本の伝統的な管楽器の演奏と竹材の特性に関する研究

目 的 日本の伝統的な管楽器（箏、龍笛、笙、能管、篠笛、尺八等）の材料である竹材が抱える課題を整理し、日本の伝統的な笛に関わる竹の生産・販売者、楽器製作者、演奏家の共通課題を整理し、解決の手がかりとする。

成 果 本研究は、1.「竹材の虫害」、2.「煤竹の再評価と白竹の一次加工」に関する基礎研究及び課題の整理を行った。

1. 京都、群馬を中心に虫害の実態、竹の伐採（兵庫及び群馬）ないし採掘過程、一次加工、保管状況について調査し、虫害の要因となりうる環境・条件を整理した。

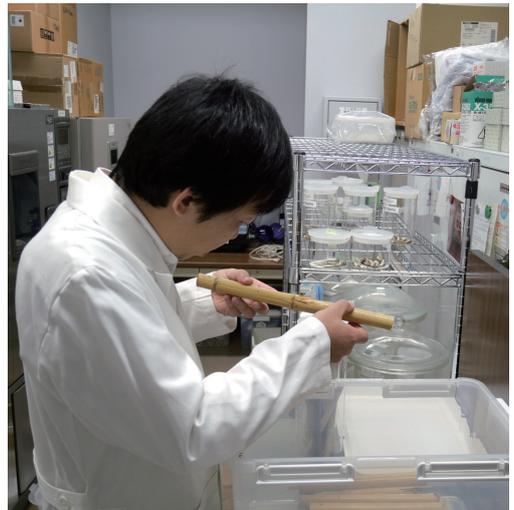
具体的には、竹材店や楽器製作者の竹材保管環境の調査を行い、管楽器の材としての竹と虫害の関係や防虫手段について調査した。また、情報提供による竹についての昆虫の画像や竹材の保管場所にあった昆虫の死骸、被害の見られた竹材を採取して、昆虫の種類の特定を行った。



尺八に適した竹材の選定（北原郁也氏）

2. まず管楽器の竹材はそれぞれのジャンルにより竹の種類、竹の部分、管径・節数・節間の長さ、楽器の全長等の条件が異なるので、それらの情報を整理した上で、煤竹と白竹の物性の違いを検証した。

具体的には、それぞれの楽器に適した径の白竹及び煤竹を用意し、平衡含水率、ひずみ等を計測及び検証し、基本的な物性の違いを整理した。また、楽器製作者自身が行う一次加工（油抜き）が火で炙る乾式法であることから、乾式法で表面にしみ出る成分を同定し、この成分が楽器製作及び楽器の特性に何等かの影響を与えうるものであるか、検証した。



虫害の検証

以上の成果を報告し、課題整理するため、2020（令和2）年3月26日に研究成果報告会を予定していたが新型コロナウイルスの感染及び拡散防止の観点から中止することになった。成果報告会ないしそれに替わる情報共有と協議の機会を、次年度に計画する予定である。

研究組織 ○前原恵美（無形文化遺産部）、犬塚将英、佐藤嘉則、倉島玲央、小峰幸夫（以上、保存科学研究センター）

備 考 本研究は、公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団の助成を得て実施した。

旧和宇慶家墓の人文学的調査研究

目 的 本研究は、沖縄県石垣市の「旧和宇慶家墓」(平成12年重要文化財指定)の不明点を解明し、同墓の文化遺産としての歴史・民俗学的価値を更に明確にすることを目的とする。数年後に石垣市によって同墓の整備事業が計画されているが、これまで人文学的調査は十分に行われたとは言い難く、他に類例を見ない現在の形に築造された経緯や、死者をどう葬ったか等、未だ不明点が多い。葬地は、今や急速に失われつつある風葬や洗骨といった琉球弧の伝統的な風習と密接に関わっていることが予想されるため、それら大事な無形的価値が失われないよう、整備は不明点を解明した上で慎重に行われるべきである。これらの見地から、旧和宇慶家墓の歴史や葬制を、文献調査や関係者からの聞き取り等、人文学的アプローチを以って明らかにすることで、同墓の文化遺産としての価値づけを更に明確にすることを目指す。

成 果 2019(令和元)年11月14日から22日にかけて石垣島、及び沖縄本島を訪問し、旧和宇慶家墓の現場調査と他の近世墓との比較調査、石垣市教育委員会や沖縄在住の研究者との意見交換、ならびに伝承の聞き取り調査を実施した。

1. 旧和宇慶家墓の現場調査にて、同墓の築造手順、築造年代、葬制に関する検討を行った。
2. 石垣島、及び沖縄本島において23か所の近世墓を回り、旧和宇慶家墓との比較研究を行った。その結果、旧和宇慶家墓の形状に対する王陵の影響を見出すとともに、同墓の石棺の特異性を再認識した。また、同墓においてどのように死者を葬ったか、葬制に関する検証材料を得た。
3. 石垣市教育委員会職員や沖縄在住の考古学、史学、民俗学、言語学等の研究者と面会し、旧和宇慶家墓、及び沖縄の葬墓制に関して多角的な視点からの知見を得た。また、近現代にかけて急激に葬墓制が変化する中、現在の沖縄の人々の死生観が変遷している実態を把握することができた。



旧和宇慶家墓



近世墓一例(国場堂中門墓)

発 表・牛窪彩絢：「旧和宇慶家墓の人文学的調査研究」 2019(令和元)年度RIIS個人型共同利用・公募型共同研究合同報告会「島嶼地域研究への多様なアプローチ」 20.3.14(延期)

研究組織 牛窪彩絢(文化遺産国際協力センター)

備 考 本研究は、琉球大学島嶼地域科学研究所の助成を得て実施した。

文化財防災ネットワーク推進事業

目 的 2011(平成23)年3月に発生した東日本大震災における被災文化財等救援委員会の活動を基盤に、災害時の文化財等の防災に関するネットワークの構築を目的とする。(1)体制づくり、(2)調査研究、(3)人材育成と情報発信の観点から、事業を進める。

- 成 果**
1. 地域防災ネットワークの確立促進(北海道・東北地方)

東北六県及び北海道の文化財担当者を講師として、文化財防災に関する研究協議会を2019(令和元)年6月21日に実施した。

以下の各施設を訪問し、ヒアリングや情報収集を実施した。

2019(令和元)年5月8日 福島県文化財センター白河館、6月26~28日 陸前高田市立博物館、9月10~11日 北海道立近代美術館・北海道埋蔵文化財センター・国立アイヌ民族博物館設立準備室、9月26~27日 北海道立北方民族博物館・網走市立郷土博物館、10月8~9日 宮城県美術館・東北歴史博物館、11月6日 岩手県立美術館、2020(令和2)年1月31日 山形県立博物館、2月26日 福島県立美術館、他
 2. 無形文化財の防災のための動態記録作成に関する調査研究

動態記録による防災のためのモデルケースとして、文化財保存に関わる「調べ緒製作技術」(楽器製作技術)、文化財補修用の「補修絹製作技術」、地域所在の民俗技術の災害マネジメントを想定した記録として、「四国山地の発酵茶の製造技術」(平成30年国選択)のうち、徳島県の「阿波晩茶製造技術」の記録撮影を行い、災害に備え伝承に資する記録を目指した記録として各製作者7本の映像記録(非公開)を作成した。また、それらの記録の一部より、地域ごとにまとめた2本の映像を公開用として作成した。民俗技術の災害リスクマネジメントを検討した調査においては、使用される道具や工房などの実測調査も行い、映像に伝承に資する情報(防災項目)を捕捉できるようにし、映像と相互に補完し得るような情報記載の試みも合わせて行った。
 3. 文化財総合データベースの構築とネットワークの確立

下記の6項目に取り組んだ。

 - ①全国文化財等データベースの確立

国(文化庁)及び都道府県の情報提供による全ジャンルにわたる文化財等の総合的なデータベース作成を継続。令和元年度末時点で有形・無形合わせて約11,000件を入力。
 - ②全国文化財保護条例データベースの運用

全国都道府県・市町村の文化財関連条例データベースを維持・管理。
 - ③無形文化遺産総合データベースの確立

国(文化庁)及び都道府県の情報提供による無形文化遺産の総合データベースの作成を継続。令和元年度末時点で約6,300件を試験公開。
 - ④アーカイブスの作成

データベースに連動したアーカイブスに動画・報告書等各種データを収集。併せて地域資料の収集とデジタル化を推進。
 - ⑤都道府県の民俗文化財担当者による連絡会議

京都での会議1回、東京での会議2回の開催で36都道府県1市からの参加があった。またメーリングリスト等を用いた担当者間ネットワークを継続中。
 - ⑥無形文化遺産情報収集ウェブサイトの構築・運用

防災に資する無形文化遺産の情報収集と発信を目的としたウェブサイトを継続的運用。
 4. 阪神・淡路、東日本両大震災の救援委員会記録の整理・分析研究

平成28年熊本地震の際のレスキュー活動の作業日報の分析を昨年度に引き続き実施、その内容を学会で報告した。また、感熱紙が多く含まれるなどその保存が課題となっていた、阪神・淡

路大震災における救援委員会の活動に関する記録を画像データ化するとともに、これらのデータのうち、作業日報等を翻刻した。これにより、同震災でのレスキュー活動について明らかにするための基礎的な材料を整えた。

5. 水損資料の処置方法と臭気発生に関する研究

福島県文化財センター白河館に、屋外に一棟建てで設置された一時保管施設において、保存環境上の問題があるかどうか、庫内及び二重壁内において、東西南北の方位ごとに、温湿度調査、表面温度測定、有機酸・アンモニア・アルデヒド類などの各種の汚染ガス濃度調査を実施した。工期の短い建屋では、工期の長い建屋に比較して断熱材の吹き付けにむらが生じており、室内の温度差が南北、東西方向で生じていた。温湿度データと表面温度から解析すると、梅雨～夏にかけて二重壁内で結露のおそれがあることがわかった。そのため、空気汚染ガスが二重壁内で滞留している様子で、何らかの対策が必要と判断した。

6. 文化財防災に関する研修(博物館・美術館学芸員等)

博物館・美術館における災害発生時の初動に関する情報提供を目的に研修会を開催した。東日本大震災発生直後の宮城県の対応に関する当時の担当者による講演、同震災の記録作成・分析を担当した東京文化財研究所からの報告とともに、平成30年北海道胆振東部地震及びブラックアウトなど関連災害への対応について、北海道各地の博物館・美術館・自治体文化財担当者による報告が行われた。

日 時：2019(令和元)年12月19日

(水) 13:00~16:40

テーマ：北海道における文化財防災を考える

参加者：26名

会 場：北海道立近代美術館



文化財防災に関する研修「北海道における文化財防災を考える」質疑応答

論文・村井源ほか：計量分析による熊本地震と東日本大震災での文化財レスキュー活動の比較『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』 情報処理学会シンポジウムシリーズ, Vol. 2019, No. 1 pp.301-308 19.12

発表・林美木子ほか：吸水した紙試料の水分特性 文化財保存修復学会第41回大会 19.6.22
・ Mikiko HAYASHI et al.: Stabilization processing and microbial control of tsunami damaged documents 第25回ICOM(国際博物館会議) 京都大会2019 19.9.5
・ 林美木子ほか：東日本大震災における被災紙資料の安定化処理の改良と保存科学的研究 2019 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム 19.8.29-30
・ 村井源ほか：計量分析による熊本地震と東日本大震災での文化財レスキュー活動の比較 人文科学とコンピュータシンポジウム2019 19.12.15

刊行物・『長板中形—松原伸生の技』公開用リーフレット 19.5
・『文化財保護のための動態記録作成に関する調査研究事業—民俗技術の記録制作事業報告書2—』 東京文化財研究所 20.3

映像・映像記録DVD『阿波ばん茶』東京文化財研究所 20.3
・映像記録『長板中形—松原伸生の技』を企画展「ゆかた 浴衣 YUKATA」に提供 泉屋博古館分館(19.5.28-7.7) 川越市立美術館(19.7.20-9.8)

研究組織 ○佐野千絵、林美木子、水谷悦子、相馬静乃、小安友利恵(以上、保存科学研究センター)、山梨絵美子(副所長)、二神葉子(文化財情報資料部)、飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予、佐野真規(以上、無形文化遺産部)

「日本美術の魅力(在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展)」

目的 本事業は文化庁および日本芸術文化振興会が主導する日本博の一事業として行うものである。東京文化財研究所では29年間にわたり「在外日本古美術品保存修復協力事業」を行い、欧米をはじめとする15カ国の約60館の美術館・博物館で所蔵する、日本の絵画・工芸品約380点を修復してきた。本事業ではこれまでに修復を行った作品の中から、日本博のテーマである「日本人と自然」という観点で作品を精選し、令和3年度に東京国立博物館平成館企画展示室を会場に展覧会を行う。さらに日本の伝統的修復材料や技術は、海外の文化財修復の分野でもその有用性が評価されていることから、修復材料や道具、技術についても紹介し、日本の伝統文化の理解向上につなげる。

成果 令和元年度は、令和3年度の展覧会開催に向けた準備を行った。ケルン東洋美術館、ハンブルク美術工芸博物館(以上、ドイツ)、ヴィクトリア&アルバート美術館、アシュモリアン美術館(以上、イギリス)、アムステルダム国立美術館(オランダ)、キヨッソーネ東洋美術館(イタリア)、ハーバード大学美術館、ブルックリン美術館、ヒューストン美術館、クリーブランド美術館、シアトル美術館(以上、アメリカ)に、絵画・工芸作品の出品交渉を行った。

また会場とする東京国立博物館の担当者と会場・会期についての協議を重ね、来年度の開催計画を確定させた。

さらに展覧会場では修復に用いられる材料や技術、道具についても、映像を用いてわかりやすく国内外からの観覧者に向けて紹介するため、修復に用いられる和紙の製造工程について、撮影調査を実施し、編集作業を行った。さらに展覧会会期中に行う、ワークショップやシンポジウムについて関係者と協議を行い、準備を進めた。

研究組織 ○中山俊介(保存科学研究センター)、江村知子、安永拓世、米沢玲(以上、文化財情報資料部)、菊池理予、佐野真規(以上、無形文化遺産部)、山梨絵美子(副所長)

インターネット公開



「無形文化遺産総合データベース」

文化庁及び都道府県からの提供を受け、文化財防災を目的とした「全国文化財等データベース」(非公開)を無形文化遺産部・文化財情報資料部とで作成しており、約110,000件のデータが入力済み。その中から無形文化遺産のみ抽出した公開用の「無形文化遺産総合データベース」を作成。画像・映像等関連メディアのアーカイブを併設している。令和元年度は、約7,000件のデータを公開した。

(文化財防災ネットワーク推進事業の一環として実施)

「いんたんじぶる」

防災をはじめとする無形文化遺産の情報収集・情報発信を目的として作成した、一般向けサイト。令和元年

度は、「コレクション」覧に「動画アーカイブ」「ブックス」のページを追加。無形文化遺産関連動画、関連PDFへのアクセスを可能にした。また無形文化遺産に関わるニュースを更新。「無形文化遺産総合データベース」への導入的役割を果たすとともに、伝承者と研究者や関係者とのネットワーク構築を目指す。

(文化財防災ネットワーク推進事業の一環として実施)



事業の一部として実施した研究集会・講座等

第25回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 「文化遺産保護の国際動向—世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産—」

文化遺産保護に係る国際的な最新動向を国内で共有するため、世界文化遺産、無形文化遺産、水中文化遺産を取り上げ、これまでに国際的な場で議論されてきたことやその中で日本の関わり、また今後の課題について、それぞれの分野に詳しい専門家が講演とパネルディスカッションを行った。

日時：2019(令和元)年7月24日(水) 13:00~17:00

会場：東京文化財研究所 セミナー室

主催：文化遺産国際協力コンソーシアム

参加者：122名

講演：・西和彦(東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 国際情報研究室長)

「世界遺産委員会でいま議論されていること」

・岩崎まさみ(北海学園大学 客員教授)

「コミュニティが誇る無形文化遺産」

・禰宜田佳男(大阪府立弥生文化博物館 館長)

「水中文化遺産保護をめぐる世界の動向、日本の現状」

・パネルディスカッション

ファシリテーター：

岡田保良(国士舘大学イラク古代文化研究所 教授/文化遺産国際協力コンソーシアム 副会長)

パネリスト：上記講演者

(受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施)

事業の一部として実施した研究集会・講座等

文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産の意図的な破壊—人はなぜ本を焼くのか—」

本シンポジウムは、歴史上行われてきた焚書や文化遺産の「意図的な」破壊行為を振り返り、文化遺産を破壊する側の「論理」を探ることで、社会にとっての書物や文化遺産の意義を再考することを目的として開催した。それぞれの講演で古代から現代までの事例を紹介し、パネルディスカッションでは、国際社会が直面する課題についても意見交換を行った。

日時：2019(令和元)年12月1日(日) 13:00~17:00

会場：政策研究大学院大学 想海樓ホール

主催：文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁

参加者：214名

- 講演：・山内和也(文化遺産国際協力コンソーシアム西アジア分科会長／帝京大学文化財研究所 教授)
「趣旨説明」
- ・鶴間和幸(学習院大学文学部 教授)
「秦始皇帝の焚書坑儒の真相」
 - ・近藤二郎(早稲田大学文学部 教授)
「エジプトにおける文字記録の抹殺とアレクサンドリア大図書館の消失」
 - ・鐸木道剛(東北学院大学文学部 教授)
「ユーゴ内戦時の文化遺産の破壊—サラエヴォ図書館、コソボの教会堂などを例として—」
 - ・伊東未来(西南学院大学国際文化学部 講師)
「テロと古文書と誇り—マリ北部トンブクトゥにおける事例から—」
 - ・パネルディスカッション「破壊の論理と文化遺産保護」
ファシリテーター：中村雄祐(東京大学大学院人文社会系研究科 教授)
パネリスト：上記講演者

(受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施)

事業の一部として実施した研究集会・講座等

第26回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 「文化遺産とSDGs II—世界では、いま何が語られているのか—」

2015(平成27)年9月に国連総会で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の中では、ゴール11に関連して、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する(ターゲット11.4)」ことが掲げられており、文化遺産が持続可能な開発に果たす役割が認識されている。

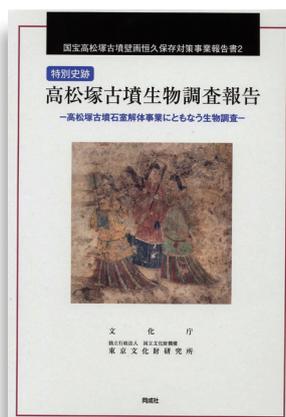
本研究会は、SDGsと文化遺産保護の関係を明確にするとともに、実際に文化遺産を通じてSDGs達成に貢献するために、今後どのような視点や方法が文化遺産分野の国際協力に必要なとされるかを議論するために開催された。

日時：2020(令和2)年1月31日(金) 13:00~17:00
会場：JPタワー ホール&カンファレンス カンファレンスルームA
主催：文化遺産国際協力コンソーシアム
参加者：128名

- 講演：・ジョバンニ・ボッカルディ
「文化遺産と2030アジェンダーユネスコによるアプローチ」
- ・岡橋純子(聖心女子大学 准教授)
「SDGsへ向けてのイコモスの取り組み」
 - ・中村誠一(金沢大学 教授)
「中米における遺跡を活用した国際協力事業：グアテマラとホンジュラスの事例」
 - ・熊久保和宏(みずほ情報総研株式会社 シニアコンサルタント)
「ビジネスの視点から見たSDGsの広がり」
 - ・パネルディスカッション
司会：松田陽(東京大学大学院人文社会系研究科 准教授)
パネリスト：浦野義人(国際協力機構産業開発・公共政策部 民間セクターグループ)、上記講演者

(受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施)

受託調査研究の一環として刊行された刊行物



『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書2 特別史跡高松塚古墳生物調査報告』

文化庁と東京文化財研究所の編集で、国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策調査事業で行われた高松塚古墳壁画の生物被害に関する調査研究の成果を纏めた報告書。本書は壁画が発見されてから現地保存を経て石室解体に至るまでの間に行われた微生物による壁画の劣化原因調査を中心に、学術的な研究成果も含めて報告するものである。2019年9月刊行、同成社、598ページ。

(受託研究 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務の一環として刊行)

『ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業総括報告書』

平成28年度から令和元年度にかけて文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」として実施した調査の成果をまとめた報告書。2015（平成27）年のゴルカ地震で被災した歴史的建造物、歴史的集落ならびに無形文化遺産の復旧、修復及び保全に関する諸調査及び支援事業の内容を収録。日本語。2020年3月刊行、204ページ。

(令和元年度上記受託事業の一環として実施)



『ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業一保存候補民家の修理計画及び保存活用計画検討一文化遺産としての民家の価値評価手法の検討一』

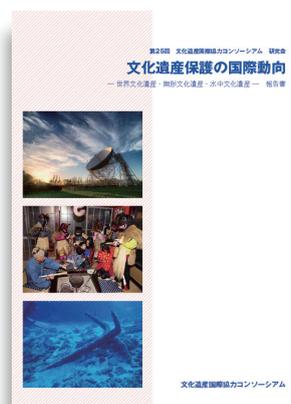
令和元年度の文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業として実施した調査の成果をまとめた報告書。ブータンにおける民家建築等の文化遺産としての評価方法、また保存候補民家の保存技術や活用計画等に関する諸調査の内容を収録。日本語・英語、2020年3月刊行、43ページ。

(令和元年度上記受託事業の一環として実施)

『第25回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向一世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産一」報告書』

本冊子は、2019（令和元）年7月24日に開催された第25回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向一世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産一」の内容をまとめた報告書である。日本語、2020年3月刊行、50ページ。

(文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として実施)





文化遺産国際協力コンソーシアム『シンポジウム「文化遺産の意図的な破壊—一人はなぜ本を焼くのか—」報告書』

本冊子は、2019（令和元）年12月1日に開催された同名のシンポジウムの内容を書き起こしたものである。日本語、2020年3月刊行、76ページ。

（文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行）

『第26回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs II—世界では、いま何が語られているのか—」報告書』

本冊子は、2020（令和2）年1月31日に開催された第26回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs II—世界では、いま何が語られているのか—」の内容をまとめた報告書である。日本語（一部英語）、2020年3月刊行、64ページ。

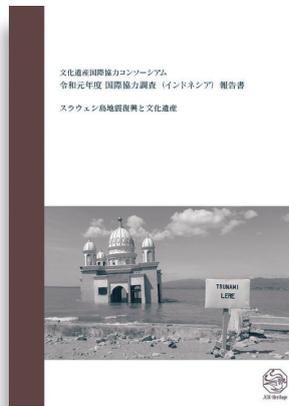
（文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行）



『文化遺産国際協力コンソーシアム令和元年度国際協力調査（インドネシア）報告書』

本冊子は、文化遺産国際協力コンソーシアムが令和元年度に行った、インドネシア・スラウェシ島における国際協力調査の報告書である。2018（平成30）年に起こった地震による被害の概要や、現地の文化遺産に関する聞き取り調査の結果について掲載している。日本語、2020年3月刊行、80ページ。

（文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として実施）



4. 個人の研究業績

凡 例

氏 名

- (1 公刊図書等)
- (2 報告)
- (3 論文)
- (4 解説、翻訳等)
- (5 学会発表)
- (6 講演会、研究会発表等)
- (7 所属学会、委員等)
- (8 教育等)

浅田 なつみ ASADA Natsumi (アソシエイトフェロー)

- (2 報告) Architectural Investigation (KANAI Ken, ASADA Natsumi, VAR Elif Berna, MARTINEZ Alejandro, PROM Titchhopnarith, THAI Yamang, DOY Pichjira) Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor, Progress Report of 2019, pp.5-34 Authority for the Protection and Management of Angkor and Region of Siem Reap/Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 20.3
- (2 報告) 2.1.7. 壁画調査『ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業総括報告書』 pp.61-63 東京文化財研究所 20.3
- (2 報告) 6. Investigation of Mural Painting Investigation Report and Proposal of Rehabilitation Plan for the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu, pp.141-146 Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 20.3
- (4 編集) (友田正彦、金井健、浅田なつみ)『ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業総括報告書』 204p 東京文化財研究所 20.3
- (4 編集) (TOMODA Masahiko, KANAI Ken, ASADA Natsumi, KANSHA Hiroo, Elif Berna VAR) Investigation Report and Proposal of Rehabilitation Plan for the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu, 197p Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 20.3
- (4 編集) (TOMODA Masahiko, ASADA Natsumi) Detailed Plan for Construction Phase 1, Rehabilitation of the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu, 104p Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 20.3
- (4 編集) (NISHIMURA Yukio, TOMODA Masahiko, KANAI Ken, MORI Tomoko, ASADA Natsumi) Khokana, the vernacular village and its mustard-oil seed industrial heritage, Survey Report, 133p Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 20.3
- (4 編集) (Bijaya Krishna Shrestha, TOMODA Masahiko, ASADA Natsumi) The Second Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valleys on 12 March 2019 at Lalitpur Metropolitan City, *Proceedings*, 82p Lalitpur Metropolitan City/Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 20.1
- (4 編集) The Third Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valleys on 5 January 2020 at Kirtipur Municipality, *Proceedings*, 114p Kirtipur Municipality/Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 20.3

安倍 雅史 ABE Masashi (文化遺産国際協力センター)

- (1 刊行図書) (前田耕作 (監修)、安倍雅史、暮田愛、外池明江、西山伸一、日景啓子 (翻訳))『ローマ宗

教文化事典』 原書房 19.10

- (1 刊行図書) (山内和也 (日本語版監修)、安倍雅史、足立拓朗、四角隆二、村上夏季、山内和也 (翻訳))『イラン国立博物館コレクションが語るイランの歴史 (イラン国立博物館展示カタログ日本語版)』 イラン国立博物館 19.12
- (2 報告) Second Season of Kaleh Koub Excavation Report (Report Submitted to ICAR) (Mohammad Hossein Azizi Kharanaghi, Masashi ABE, Sepideh Jamshidi Yeganeh, Afshin Akbari, Shahrzad Najafi) Kaleh Koub Excavation Team 19.6
- (2 報告) 古代ディルムン王国の起源を求めて—バハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト2019— (後藤健、西藤清秀、安倍雅史、上杉彰紀、岡崎健治)『第27回西アジア発掘調査報告会報告集』 pp.80-84 日本西アジア考古学会 20.3
- (2 報告) 南ホラーサーン州、カレ・クブ遺跡の発掘調査 (安倍雅史、ホセイン・アジジ・ハラナギ)『イラン文明を守る—日本とイランの協力の足跡—』 p. 72 帝京大学 20.3
- (2 報告) 東京文化財研究所による文化遺産保護のための国際協力：博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修『イラン文明を守る—日本とイランの協力の足跡—』 p. 73 帝京大学 20.3
- (2 報告) Training Workshops on Environmental Management at Museums for Iranian Specialists by the Japan Center for International Cooperation in Conservation, Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 『イランの考古学調査と文化遺産の保護』 pp.105-107 文化庁 20.3
- (2 報告) Preliminary Results of the First Season of Excavations at Kale Kub in Southern Khorasan, Eastern Iran (Masashi ABE, Hossein Azizi Kharanaghi) 『イランの考古学調査と文化遺産の保護』 pp.101-104 帝京大学 20.3
- (3 論文) カンボジア、アンコール遺跡群タネイ寺院正面参道関連遺構発掘調査 (2017~2018) の速報 (友田正彦、杉山洋、佐藤由似、安倍雅史、間舎裕生)『東南アジア考古学』 39 pp.113-117 東南アジア考古学会 19.12
- (4 解説) 真珠、石油、古墳の国/バハレーンへの国際協力事業 (I) 古墳群の保存・活用・史跡整備に関するスタディー・ツアー 文化遺産のこと (文化遺産国際協力コンソーシアムWebサイト) 19.5
- (4 解説) 真珠、石油、古墳の国/バハレーンへの国際協力事業 (II) 日本隊による学術調査と新発見 (安倍雅史) 文化遺産のこと (文化遺産国際協力コンソーシアムWebサイト) 19.6
- (4 解説) 東京文化財研究所による文化遺産保護のための国際協力：博物館の環境に管理に関するイラン人専門家研修 古代オリエント博物館クローズアップ

展示「日本・イラン60周年の歩み—考古学調査と文化遺産保護の協力—」 20.1-20.2

(4 解説) 南ホラーサーン州、カレ・クブ遺跡の発掘調査 (安倍雅史、ホセイン・アジジ・ハラナギ) 古代オリエント博物館クローズアップ展示「日本・イラン60周年の歩み—考古学調査と文化遺産保護の協力—」 20.1-20.2

(4 解説) International Cooperation with Bahrain — The Land of Pearls, Oil and Burial Mounds (I): A Study Tour on the Preservation and Presentation of Burial Mounds in Japan Japan Consortium for International Cooperation in Cultural Heritage Web Page: Column 19.5

(4 解説) International Cooperation with Bahrain— The Land of Pearls, Oil and Burial Mounds (II): Archaeological Investigation by a Japanese Team and Its Discoveries Japan Consortium for International Cooperation in Cultural Heritage Web Page: Column 19.6

(4 記事) 日本隊が掘る2: 海洋国家 砂漠起源か バハレーンの古墳群 『読売新聞』朝刊文化面 19.8.7

(4 記事) ミイラン緊張 日本の考古学研究者や人道支援関係者に悪影響の懸念強まる 『毎日新聞』デジタル版 20.1.10

(5 学会発表) デイルムン・リファー型古墳の年代の再考 (安倍雅史、上杉彰紀、西藤清秀、後藤健) 日本西アジア考古学会第24回大会 筑波大学 19.6.16

(5 学会発表) バハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト2019 (後藤健、西藤清秀、上杉彰紀、安倍雅史、岡崎健治) 日本西アジア考古学会第24回大会 筑波大学 19.6.16

(5 学会発表) Archaeological Excavations at Wadi as Sail by Japanese Mission, 2015-2019 (Akinori UESUGI, Masashi ABE, Takeshi GOTOH, Kiyohide SAITO) Seminar for Arabian Studies, 2019 Leiden University 19.7.12

(5 学会発表) バハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト第5次調査の報告 (安倍雅史、上杉彰紀、西藤清秀、後藤健) 日本オリエント学会第61回大会 明治大学 19.10.13

(5 学会発表) Return to Hunting and Remicrolithization during the Mushki Phase in Fars, Southern Zagros (Masashi ABE, Saiji ARAI, Morteza Khanipour) The 9th International Conference on the PPN Chipped and Ground Industries of the Near East The University of Tokyo 19.11.14

(6 発表) デイルムンと遊牧民: バハレーン島の考古調査 「中東部族社会の起源: アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究」第1回研究会 金沢大学 19.8.11

(6 発表) 東京文化財研究所による西アジア地域の文化遺産保護事業 (安倍雅史、間舎裕生) 文化遺産国際協力コンソーシアム第34回西アジア分科会 黒田記念館 20.2.14

(6 発表) Towards the Conservation and Sustainable

Development of Ta Nei Temple: Restoration of the East Gate (Elif Berna Var, Ken Kanai, Masashi Abe, Hiroo Kansha, Alejandro Martinez, Natsumi Asada and Masahiko Tomoda) Mekong Cultural Diversity beyond Borders: Southeast Asian Cultural Heritage Studies Today 早稲田大学小野記念講堂 20.1.25

(6 発表) バハレーン、ワーディー・アッ=サイル古墳群の第6次調査 (安倍雅史、上杉彰紀) 「中東部族社会の起源: アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究」第2回研究会 石川四高記念文化交流館 20.2.22

(6 講演) 東京文化財研究所による西アジア文化遺産保護支援事業 国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために—歴史教育を通じた戦後イラクの復興への挑戦」 東京文化財研究所 19.4.13

(6 講演) イラン南ホラーサーン州、カレ・クブ遺跡の第1次調査—イランにおける農耕・牧畜の起源そして文明形成— イラン考古学研究会2019 駐日イラン大使館 19.12.8

(6 講演) Reconsidering the Data of Riffa Type Burial Mounds in Early Dilmun: New Radiocarbon Data from Wadi as Sail, Bahrain 国際シンポジウム「アラビア半島の考古学—オーストリア隊と日本隊の最新の成果から」 東京文化財研究所 20.1.31

(7 所属学会) 日本オリエント学会、日本西アジア考古学会

(8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学研究室連携准教授、金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター客員准教授

飯島 満 IJIMA Mitsuru (特任研究員)

(1 公刊図書) 『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集59 増補大仏殿礎』 137p 玉川大学出版部 20.2

(1 共著) (飯島満、富澤美智子) 『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集54 敵討檻樓錦』 111p 玉川大学出版部 20.2

(4 資料紹介) 東京文化財研究所で実施した講談実演記録の一覧 (2002-2020年) (飯島満、石村智) 『無形文化遺産研究報告』14 pp.191-195 20.3

(6 講演) シンポジウム〈平成の楽劇〉講演〈文楽〉第27回楽劇学会大会 法政大学 19.7.28

(7 所属学会) 楽劇学会、歌舞伎学会、日本演劇学会、日本近世文学会、文化審議会専門委員 (文化財分科会)、「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」協力者会議委員、「伝統芸能用具・原材料に関する調査事業」実施業務に係る技術専門委員、独立行政法人日本芸術文化振興会本館文楽公演専門委員会委員、芸術文化振興基金運営委員会専門委員

(8 教育) 武蔵野美術大学非常勤講師

石井 美恵 ISHII Mie (客員研究員)

- (2 報告) 「Deterioration and damage of textiles and their causes」, 「Identification of dyes 2」, 「Dirt and cleaning」 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2019』 pp.32-35、pp.42-43、pp.44-47 東京文化財研究所 20.3
- (2 報告) 「Conservation report 1」(張元鳳、石井美恵) 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2019』 pp.48-55 東京文化財研究所 20.3
- (2 報告) アルメニア共和国における染織文化財保護の国際協力(間舎裕生、石井美恵、横山翠) 文化財保存修復学会誌, 63 pp.17-25 20.3
- (4 編集)(間舎裕生、石井美恵、横山翠) 『アルメニアにおける染織文化遺産保存修復ワークショップ2017-2019事業報告』 34p 東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 19.12
- (6 講義) 「Deterioration and damage of textiles and their causes」, 「Identification of dyes 2」, 「Dirt and cleaning」 Workshops on the Conservation of the Japanese Textiles 2019 国立台湾師範大学 文物保存維護研究發展中心 19.8.19-20
- (6 講義) 「Conservation and restoration report 1」(張元鳳、石井美恵) Workshops on Conservation of the Japanese Textiles 2019 国立台湾師範大学 文物保存維護研究發展中心 19.8.21
- (6 講義) 「Method for dyeing using natural dye」, 「Preparing reference sample」, 「chemical identification of natural dyes」, 「Method for photographing multi-spectral image」 Workshop for the Conservation of Historic Textiles in the Republic of Armenia Scientific Research Center for the Historical and Cultural Heritage, Museum of Mother See of Holy Echmiadzin, Republic of Armenia 19.10.7-17
- (8 教育) 佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授

石田 真弥 ISHIDA Shinya (アソシエイトフェロー)

- (2 報告) コンクリート造建造物の保存と修復に関する事例集『未来につながる人類の技⑩ コンクリート造建造物の保存と修復』 p.83-113 東京文化財研究所 20.2
- (3 論文) 煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性(石田真弥、中山俊介) 『産業考古学会2019年度全国大会(中間市大会) 研究発表講演論文集』 pp.30-33 産業考古学会・九州産業考古学会 19.11.8
- (4 編集) 『未来につながる人類の技⑩ コンクリート造建造物の保存と修復』 125p 東京文化財研究所 20.2
- (4 編集) 『台湾における近代化遺産活用の最前線』 147p 東京文化財研究所 20.3.
- (4 連載) 近代文化遺産としての森林軌道(第1回) 『洋上アルプス』 291 p.3 林野庁屋久島森林生態系保全センター 19.6.5
- (4 連載) 近代文化遺産としての森林軌道(第2回) 『洋上アルプス』 292 p.3 林野庁屋久島森林生態系保全

センター 19.7.5

- (5 学会発表) 煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性(石田真弥、中山俊介) 産業考古学会2019年度全国大会(中間市大会) なかまハーモニーホール会議室 19.11.9
- (6 司会) 絹遺産を地域づくりに活かす一銘仙のまち、秩父市からー NPO法人 街・建築・文化再生集団 2019年度研究集会 秩父地場産センター 5階研修室 19.10.6
- (7 所属学会) 産業考古学会、日本建築学会、文化財建造物保存修理研究会
- (7 委員会等) 日本建築学会関東支部歴史意匠専門研究委員会委員

石村 智 ISHIMURA Tomo (無形文化遺産部)

- (1 共著) 「第11講 海をめぐる世界/船と港」 『考古学講義』 筑摩書房 pp.247-269 19.5
- (1 共著) 「35 ミクロネシアにおける遺骨収集」 『太平洋諸島の歴史を知るための60章』 明石書店 pp.201-205 19.12
- (1 共著) 「52 文化遺産保護の国際協力」 『太平洋諸島の歴史を知るための60章』 明石書店 pp.287-291 19.12
- (1 共著) 「60 太平洋芸術祭と「カヌーサミット」」 『太平洋諸島の歴史を知るための60章』 明石書店 pp.329-333 19.12
- (1 共著) 「ラピタ人とポリネシア人」 『ヒトはなぜ海を越えたのか』 雄山閣 pp.49-59 20.3
- (1 共著) 「オセアニアの世界文化遺産」 『ヒトはなぜ海を越えたのか』 雄山閣 pp.219-229 20.3
- (3 論文) 「無形文化遺産としての造船技術」 辻尾榮市氏古稀記念『歴史・民族・考古学論攷(II)』 pp.1-14 19.6
- (3 論文) 特集: オセアニア考古学の挑戦 篠遠喜彦の足跡から「世界文化遺産と考古学」 『季刊民族学』 169 pp.76-83 19.7
- (3 論文) A report on the reassessment of navigation stones on Arorae, Kiribati (A. Goto, H. Ohnishi and T. Ishimura) *People and Culture in Oceania*, 35 pp.109-125 20.2
- (3 論文) 無形文化遺産の防災: これまでの東京文化財研究所の取り組みとその位置づけ 『無形文化遺産研究報告』 14 pp.179-190 20.3
- (4 資料紹介) 東京文化財研究所で実施した講談実演記録の一覧(2002-2020年)(飯島満、石村智) 『無形文化遺産研究報告』 14 pp.191-195 20.3
- (4 ラジオ出演) 言葉で探る日本の港の姿かたち(第1~4回) 私の日本語辞典, NHKラジオ第2 19.12.5、12、19、26
- (6 発表) 「無形文化遺産の映像記録をめぐる課題」(石村智、佐野真規) 東京文化財研究所令和元年度第2

回総合研究会 東京文化財研究所 19.6.4

(6 発表)「音と記憶」科学研究費プロジェクト「触察の方法論の体系化と視覚障害者の野外空間のイメージ形成に関する研究」(ユニバーサル・ミュージアム研究会) 滋賀県立陶芸の森 19.7.15

(6 発表)ポスター発表「土器・樹皮布・タトゥー：オセアニア・アートにおける文様とメディアの相互交流」新学術領域研究(研究領域提案型)「出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明」第2回全体会議 南山大学 20.1.11-12

(6 発表)「文化遺産としての青花紙」第13回東京文化財研究所公開学術講座「染織技術を支える草津のわざ・青花紙：花からつくる青色」東京文化財研究所 20.2.6

(6 講演)「アーティストと考古学者は地域のために何ができるのか：福島県南相馬市にて」川村学園女子大学公開講座「アートの文化学入門」川村学園女子大学 19.12.7

(6 講義)「ブリコラージュ的思考について：長良川鵜飼船の船づくりの技術を通して」大阪芸術大学展示空間論特別講義 大阪芸術大学 19.11.26

(6 司会)国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」Session 1,2 東京文化財研究所 19.12.17-18

(6 司会)座談会「染織材料としての青花紙」(石村智、菊池理予) 第13回東京文化財研究所公開学術講座「染織技術を支える草津のわざ・青花紙：花からつくる青色」東京文化財研究所 20.2.6

(6 パネリスト)国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」東京国立博物館 19.11.28-29

(6 パネリスト)国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」Session 3 東京文化財研究所 19.12.17-18

(7 所属学会) ICOMOS、考古学研究会、史学研究会、東南アジア考古学会、日本オセアニア学会

(7 委員会等)文化庁「伝統工芸用具・原材料に関する調査事業」専門家委員、滋賀県草津市「青花紙保存継承懇話会」専門家委員、「世界無形文化遺産フェスティバル」招聘団体選考委員

(8 教育)金沢大学人間社会環境研究科客員准教授

犬塚 将英 INUZUKA Masahide (保存科学研究センター)

(2 報告)X線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査(犬塚将英、早川典子、大場詩野子、早川泰弘、高妻洋成)『保存科学』59 pp.103-114 20.3

(2 報告)文化財分野で用いる放散試験に向けたサンプリングバッグ洗浄効果の検討(古田嶋智子、犬塚将英)『保存科学』59 pp.51-59 20.3

(2 報告)赤外線を利用した文化財の調査『日本赤外線学会誌』29(2) pp.5-9 20.2

(3 論文)虎塚古墳の壁画剥落片の微生物群集構造解析(佐藤嘉則、松野美由樹、犬塚将英、稲田健一、矢島國雄)『保存科学』59 pp.9-21 20.3

(5 学会発表)結露が古墳壁画に及ぼす影響に関する基礎実験(犬塚将英、大迫美月、佐藤嘉則、稲田健一、谷口陽子、矢島國雄)日本文化財科学会第36回大会 東京藝術大学 19.6.1-2

(5 学会発表)煉瓦造建造物に見られる塩類析出の問題と保存環境との関係に関する調査結果(佐々木淑美、犬塚将英)日本文化財科学会第36回大会 東京藝術大学 19.6.1-2

(5 学会発表)琉球漆器 朱漆楼閣山水人物箔絵盆の科学的調査(山府木碧、倉島玲央、犬塚将英、早川泰弘、小林公治)文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22

(5 学会発表)桐箱やキリ材からの有機酸の放散と金属に及ぼす影響(古田嶋智子、犬塚将英)文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23

(5 学会発表)湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除—社寺建築における効果の検証・続報—(藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲)文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23

(5 学会発表)Application of humidified warm-air treatment to entire historic wooden buildings at Nikko World Heritage site to control insect attack. (Yoshihisa Fujii, Masahiko Harada, Hiroyuki Kitahara, Yuko Fujiwara, Rika Kigawa, Yoshinori Sato, Yukio Komine, Masahide Inuzuka, Tomoko Kotajima, Shingo Hidaka, Akiko Saito, Tadashi Fukoka) Integrated Pest Management for Cultural Heritage, 4th international conference Swedish National Heritage Board 19.5.21-23

(6 講習会)科学的方法による材料及び技術の分析 修理技術者講習 文化庁 19.10.24

(7 所属学会) IIC、日本建築学会、日本物理学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等)「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ材料調査班専門委員、ひたちなか市史跡保存対策委員、文化財の保存と公開における熱湿気環境WG委員、日本文化財科学会第36回大会実行委員、岩手県立博物館における文化財への不適切な行為事案に係る調査チームアドバイザー

(8 教育)東京藝術大学大学院連携教授

今石 みぎわ IMAISHI Migiwa (無形文化遺産部)

(2 報告)「塩と砂糖—白い結晶への憧憬—」石垣悟編『日本の食文化5 酒と調味料、保存食』吉川弘文館 pp.110-139 19.4

(2 報告)海を渡ったイナウを追って『Arctic Circle』112

- pp.14-17 北方民族博物館 19.9
- (2 報告) はじめに・那須清一氏所蔵鵜舟製造道具『船大工那須清一と長良川の鵜舟をつくる』 pp.2-5, 93-99 東京文化財研究所 20.3
- (2 報告) 文化財保護のための動態記録作成に関する調査研究事業—鵜舟製造技術映像リスト— pp.1-22 東京文化財研究所 20.3
- (3 論文) 近現代における阿波晩茶—生産のあゆみと利用の広がり『四国山地の発酵茶の製造技術「阿波晩茶製造技術」調査報告書』 pp.52-81 徳島県 20.3
- (4 編集) 船大工那須清一と長良川の鵜舟をつくる 132p 東京文化財研究所 20.3
- (4 編集) (普及版映像記録) 阿波ばん茶—徳島県那賀町 19分44秒 東京文化財研究所 20.3
- (4 編集) (普及版映像記録) 阿波ばん茶—徳島県上勝町 (普及版) 17分8秒 東京文化財研究所 20.3
- (4 編集) (記録版映像記録) 阿波ばん茶 (各家庭別計 7本 約400分) 東京文化財研究所 20.3
- (4 編集) 第14回無形民俗文化財研究協議会報告書 111p 東京文化財研究所 20.3
- (5 学会発表) モノが語る人と自然、社会—「箕」をめぐる民俗学的研究— (今石みぎわ、大山孝正、篠崎行雄、平良宣子) 日本民俗学会 第71回年会 筑波大学 19.10.13
- (7 所属学会) 東北民俗の会、日本民具学会、日本民俗学会
- (7 委員会等) 岐阜市・関市長良川鵜飼総合調査専門委員会、阿波晩茶製造技術調査委員会、石鎚黒茶製造技術調査委員会、文化庁調査員

ヴァル エリフ ベルナ VAR Elif Berna

- (アソシエイトフェロー)
- (2 報告) Outline of Restoration Work of East Gate (TOMODA Masahiko, KANAI Ken, ABE Masashi, KANSHA Hiroo, ASADA Natsumi, VAR Elif Berna) APSARA/TNRICP 2020.3
- (3 論文) "Think Global, Act Local" in the Context of Architectural Conservation (VAR Elif Berna) RSPG 2019 - Revisiting Sir Patrick Geddes Proceedings Book (ISBN: 978-93-89530-12-4), pp.xlix-liz Institute of Engineering & Science, IPS Academy (India) 2019.9
- (3 論文) Towards the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple: Restoration of the East Gate (VAR Elif Berna) Mekong Cultural Diversity Beyond Borders. Proceedings for the International Seminar & Symposium on Southeast Asian Cultural Heritage Studies Today, pp.99-107 Institute for Cultural Heritage, Waseda University 2020.3
- (5 学会発表) Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei: "Restoration Works on the East Gate" (VAR Elif Berna, SEA Sophearun) 33rd Technical Session and the 26th Plenary Session of the International Coordinating

- Committee for the Safeguarding and Development of the Historic Site of Angkor (ICC-Angkor) APSARA National Authority, Bangkong Viillage, Ampil Commune, Siem Reap, Cambodia 19.12.10-11
- (7 所属学会) 日本建築学会、Chamber of Architects of Turkey

牛窪 彩絢 USHIKUBO Saaya (アソシエイトフェロー)

- (3 論文) 『旧和宇慶家墓の保存に向けた調査研究 令和元年度成果報告書』 24 p 東京文化財研究所 20.3
- (4 編集) Capacity Development Project Improvement for the Conservation and Management Systems of Wall Paintings in the Republic of Turkey, 56p 東京文化財研究所 20.3
- (4 編集) Capacity Building Report -Mission N°5-; study, risk assessment and intervention proposal of the wall paintings decorating the southern wall of Lokahteikpan, 50p 東京文化財研究所 20.3
- (6 発表) 旧和宇慶家墓の人文的調査研究 2019年度 RIIS個人型共同利用・公募型共同研究合同報告会「島嶼地域研究への多様なアプローチ」 琉球大学 20.3.14

宇高 健太郎 UDAKA Kentaro (客員研究員)

- (1 公刊図書) (早川典子、宇高健太郎)『イチからつくるのり(接着剤)』一般社団法人農山漁村文化協会 36p 20.1
- (4 編集)『膠文化研究会第12回公開研究会「膠千年」予稿集』(神居文彰、小笠原具子、宇高健太郎、北野信彦、山田卓司、成瀬正和) 膠文化研究会第12回公開研究会「膠千年」予稿集 18p 膠文化研究会 19.9.29
- (5 学会発表) 膠の調製等に関する研究 (宇高健太郎、早川典子、藤井佑果、大場詩野子、岡部迪子、柏谷明美) 文化財保存修復学会 第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22
- (6 講演) 文化財修復における膠の適性 膠文化研究会 第12回公開研究会 龍谷大学 19.9.29
- (6 発表) (宇高健太郎、佐藤千春) 膠文化研究会第12回公開研究会研究発表展示 龍谷大学 19.9.29
- (7 所属学会) 文化財保存修復学会
- (7 委員会等) 膠文化研究会運営委員会
- (8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻保存修復日本画非常勤講師(集中講義)

江村 知子 EMURA Tomoko (文化財情報資料部)

- (1 公刊図書) Ausdrucksform und Ikonographie des Paravents Szenen an der Shijo-straße nahe des Fussufers in GRASSI Museum für Völkerkunde zu Leipzig, Spurenlese 3, pp. 61-75 20.3
- (3 論文) ライプツィヒ民族学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」について 『國華』1490 pp.7-24 19.12

(4 解説) 作品解説『在外日本古美術品保存修復協力事業 般若図 No2015-5. 修復報告』 pp.27-29 東京文化財研究所 20.1

(4 記事)「物故者」廣瀬賢治、菊地貞夫 『日本美術年鑑』平成30年度版 pp.428、429 20.3

(5 学会発表) 河原の風景—ライブツィヒ民族学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」について 美術史学会東支部例会 学習院大学 19.10.6

(6 講演) 日本絵画にみる四季の表現 The Expression of the Four Seasons in Japanese Paintings セインズベリー日本藝術研究所 19.11.21

(6 講演) Japanese Painting Collections in Germany: Focusing on the folding screen of “Scenes Along the Shijo Riverbank” in the Grassi Museum of Ethnology, Leipzig ハイデルベルク大学 19.12.2

(6 発表) 日本美術の記録と評価についての研究—「田中一松資料」の保存活用 第3回総合研究会東京文化財研究所 20.1.7

(6 講義) Rinpa school painting ハイデルベルク大学 19.10.23-12.18

(6 講義) The materials and techniques of Japanese paintings ハイデルベルク大学 19.10.23-12.18

(6 発表) 東京文化財研究所のパブリックドメイン資料: 文化財を知り、守り伝えるための資料蓄積と研究支援(橘川英規、江村知子、小山田智寛) シンポジウム「デジタル知識基盤におけるパブリックドメイン資料の利用条件をめぐって」都市センターホテル 20.1.17

(7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会、美術史学会

(8 教育) ドイツ・ハイデルベルク大学東アジア美術史研究所石橋財団客員教授

大河原 典子 OKAWARA Noriko (客員研究員)

(7 所属学会) 文化財保存修復学会、日本美術院

(8 教育) 鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授

岡田 健 OKADA Ken (客員研究員)

(4 テレビ出演) 被災した美術品を救え! ~文化財レスキュー最前線~ 日曜美術館 20.1.26

(6 発表) 中国の仏教芸術作品の表現に見る「彼岸」と「此岸」—「水」の表現— 平泉の仏教的理想空間に係る国際研究会 岩手県一関市 19.11.23

(6 講義) 栴檀瑞像与木雕佛像 中国・中央美術学院 19.5.13

(6 講義) 災害と文化財レスキュー 多摩美術大学 19.5.19

(6 講義) 文化財の防災における文化財専門家の役割 奈良大学 19.12.2

(6 講習会) 防災ネットワーク推進室の紹介 国宝・重要文化財(美術工芸品) 防災・防犯対策研修会 文化庁 19.6.21

(6 講習会) 文化遺産の防災 JIA文化財修復塾近畿支部講習会「防災・防犯と建築文化遺産」奈良県今井町まちなみ交流センター 19.8.25

(7 所属学会) 東アジア文化遺産保存学会、美術史学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 文化庁文化財等災害対策委員会、静岡県文化財保存活用大綱策定部会、大分県文化財保存活用大綱策定委員会

(8 教育) 中国・西南交通大学世界遺産国際研究センター客員研究員、中国・復旦大学国土と文化資源研究センター客員教授

小野 真由美 ONO Mayumi (文化財情報資料部)

(5 学会発表) 至高の気品—土佐光起撰『本朝画法大伝』の意義、そして意図するもの 美術史学会東支部例会 東京藝術大学 19.11.23

(6 講演) シリーズ江戸期の日本美術 狩野探幽と江戸の再生 日本セカンドライフ協会(JASS) 千早地域文化創造館 19.10.25

(7 所属学会) 美術史学会

小山田 智寛 OYAMADA Tomohiro (文化財情報資料部)

(2 報告) 文化財データベースの作成とその意義について 『美術研究』429 pp.65-74 20.1

(4 記事) 東京文化財研究所の公開データベースについて 『びぶろす-Biblos』85・86合併号 19.10

(5 学会発表) Two solutions for orthographical variants problem (OYAMADA Tomohiro, FUTAGAMI Yoko, MISHIMA Taiki) 2019 CIDOC annual conference (第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019) 稲盛記念会館 19.9.3

(6 発表) 「東京文化財研究所のパブリックドメイン資料: 文化財を知り、守り伝えるための資料蓄積と研究支援」(橘川英規、江村知子、小山田智寛) シンポジウム「デジタル知識基盤におけるパブリックドメイン資料の利用条件をめぐって」都市センターホテル 20.1.17

(6 講習会) 文化財情報のデータベース化 およびその活用について 文化財の記録作成とデータベースに関するセミナー 東京文化財研究所 19.12.2

(6 講習会) 情報発信の意義 令和元年度第1回情報システム部会研修会 東京文化財研究所 19.10.1

(7 所属学会) デジタルアーカイブ学会、美学会

片淵 奈美香 KATAFUCHI Namika (アソシエイトフェロー)

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

片山 葉子 KATAYAMA Yoko (客員研究員)

(3 論文) Stratification of sulfur species and microbial community in launched marine sediment by an improved sulfur-fractionation method and 16S rRNA gene sequencing.

(Ihara H, Aoyagi T, Hosono H, Takasaki M, Katayama Y.) *Microbes & Environments*, 34(2) pp.199-205 19.2
 (5 学会発表) Chemolithoautotrophic sulfur oxidation in *Fusarium solani* f.sp. Pisi NBRC9425 indicates a novel strategy of sulfur metabolism (X. Haibo, Y. Katayama) Asian Mycological Congress 2019 Mie Center for the Arts, Tsu, Japan 19.10.1-4
 (6 講演) アンコール遺跡の石材劣化と微生物 日本女子大学楯の会見学会 東京文化財研究所 19.10.3
 (6 講演) バイオンにおける微生物学研究と遺跡保存 アンコール遺跡保存修復事業協力隊 JSA 結成25周年記念シンポジウム 早稲田大学 19.12.21
 (6 講義) 環境科学の中の微生物 東京工業大学社会人アカデミー 2019年度環境科学 東京工業大学 19.5.18
 (7 所属学会) 日本微生物生態学会、日本水環境学会、日本環境科学会、日本生化学会、日本微生物資源学会、日本農芸化学会、環境バイオテクノロジー学会、ASM、ISME
 (7 委員会等) 経済産業省産業構造審議会臨時委員、公益財団法人日本水環境学会監事、公益財団法人環境科学会監事、公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団理事・選考委員、富士山測候所を活用する会理事
 (8 教育) 法政大学理工学部・生命科学部非常勤講師、早稲田大学理工学術院先進理工学部非常勤講師、早稲田大学理工学術院創造理工学部非常勤講師

加藤 雅人 KATO Masato (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) Materials and technique -Paper- 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』東京文化財研究所 20.3
 (2 報告) Systems for the protection of cultural properties in Japan 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』東京文化財研究所 20.3
 (2 報告) General Information for Experiment 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』東京文化財研究所 20.3
 (2 報告) 1. 修復報告(小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 般若図 No2015-5. 修復報告』 pp.1-26 東京文化財研究所 20.1
 (2 報告) 付録(小田桃子、元喜載、増淵麻里耶、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 般若図 No2015-5. 修復報告』 pp.30-60 東京文化財研究所 20.1
 (5 学会発表) ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア所蔵 佐々木泉玄筆『般若図』(絹本着色 掛軸装) 修復事例報告(小田桃子、元喜載、加藤雅人、君嶋隆幸、白井啓太) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22
 (5 学会発表) 知覧特攻平和会館における近現代紙資料の書誌学的分類と劣化の傾向(坂元恒太、八巻聡、加

藤雅人、大林賢太郎、有吉正明、本田光子、松尾かおる) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22
 (6 講演) The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas, International Forum "Restoration of Japanese Painting International Forum "Restoration of Japanese Painting" Muzeum Sztuki i Techniki Japońskiej Manggha 19.7.29
 (6 講義) System for protection of cultural properties in Japan Workshops on Conservation of the Japanese Textiles 国立台湾師範大学文物保存維護研究發展中心 19.8.14
 (6 講義) General Information for Experiment Workshops on Conservation of the Japanese Textiles 国立台湾師範大学文物保存維護研究發展中心 19.8.20
 (6 講義) Paper conservation in Japan 国際研修「紙の保存と修復」2019 東京文化財研究所 19.9.9
 (6 講義) Paper basics International Course on Conservation of Japanese Paper 国際研修「紙の保存と修復」2019 東京文化財研究所 19.9.11
 (7 所属学会) 日本文化財科学会、日本木材学会、文化財保存修復学会
 (8 教育) 東洋美術学校保存修復科非常勤講師

金井 健 KANAI Ken (文化遺産国際協力センター)

(1 共著)「神社と霊廟」(佐藤信、青木達司、浅野啓介、新井重行、伊東哲夫、井上大樹、岡本公秀、川畑純、黒坂貴裕、筒井忠仁、西和彦、西岡聡、山川均、山下信一郎、湯川紅美)『新版図説歴史散歩事典』山川出版社 pp.165-191 19.8
 (2 報告)「ラモ・ペルゾム邸(カベサ)の修理計画」(金井健、向井純子、菅澤茂)『ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業一保存候補民家の修理計画及び保存活用計画の検討一文化遺産としての民家の価値評価手法の検討一』 pp.15-22 東京文化財研究所 20.3
 (2 報告)「タンディン・ザム邸(プナカ)の保存活用計画」『ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業一保存候補民家の修理計画及び保存活用計画の検討一文化遺産としての民家の価値評価手法の検討一』 pp.23-25 東京文化財研究所 20.3
 (2 報告)「プナカでのケーススタディ(ソプソッカ、ユワカ、チャンジョカ)」『ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業一保存候補民家の修理計画及び保存活用計画の検討一文化遺産としての民家の価値評価手法の検討一』 pp.27-34 東京文化財研究所 20.3
 (2 報告) Restoration Plan for Lham Pelzom house (Kabesa) (KANAI Ken, MUKAI Junko, SUGASAWA Shigeru) *Conservation and Utilisation of Historic Buildings in*

Bhutan—Examination of Restoration Plan and Utilisation Plan of Farmhouses—Examination of Value Evaluation of Farmhouses as Cultural Heritage— pp.15-21 TNRICP 20.3
 (2 報告) Conservation and Utilisation Plan for Tandin Zam house (Punakha) *Conservation and Utilisation of Historic Buildings in Bhutan—Examination of Restoration Plan and Utilisation Plan of Farmhouses—Examination of Value Evaluation of Farmhouses as Cultural Heritage—* pp.22-24 TNRICP 20.3
 (2 報告) Case Study in Punakha (Sopsokha, Yuwakha, Changjokha) *Conservation and Utilisation of Historic Buildings in Bhutan—Examination of Restoration Plan and Utilisation Plan of Farmhouses—Examination of Value Evaluation of Farmhouses as Cultural Heritage—* pp.26-34 TNRICP 20.3
 (2 報告) Overview of Ta Nei and the East Gate *Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor, Progress Report 2019* TNRICP 20.3
 (2 報告) Outline of Restoration Work *Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor, Progress Report 2019* TNRICP 20.3
 (4 編集) 『ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業—保存候補民家の修理計画及び保存活用計画の検討—文化遺産としての民家の価値評価手法の検討—』 43p 東京文化財研究所 20.3
 (4 編集) *Conservation and Utilisation of Historic Buildings in Bhutan—Examination of Restoration Plan and Utilisation Plan of Farmhouses—Examination of Value Evaluation of Farmhouses as Cultural Heritage—* 43p TNRICP 20.3
 (6 発表) 建造物にみる文化財保護のいま、これから—文化財建造物保存の理念と実際— 令和元年度第1回総合研究会 東京文化財研究所 19.5.14
 (6 発表) Practical Measures of Conservation of Vernacular Dwellings in Japan Expert Meeting of Bhutan-Japan Binational Cooperation Project TNRICP 19.6.24
 (6 発表) Conservation Plan and Administrative Incentive for Protection of Historic District 3rd Mayor's Forum on Conservation of Historic Settlement of Kathmandu and Kavre Valley Kirtipur Hotel Hillside and Resort, NEPAL20.1.5
 (6 発表) Proposal for Practical Restoration Method of Lham Pelzom House Workshop on Conservation of Traditional Houses Department of Culture, BHUTAN 20.1.16
 (7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、日本遺跡学会 (7 委員会等) 旧長崎英国領事館修理委員会、長崎市本河内水源地水道施設保存・整備委員会、長崎市伝統的建造物群保存地区保存審議会、旧佐世保無線電信所(針尾送信所) 施設整備検討委員会、常願寺川砂防

施設(本宮堰堤) 保存管理計画検討委員会

川野邊 渉 KAWANOBE Wataru (特任研究員)

(6 講演) 有機化学者から見た文化財修理技術者 国宝修理装演師連盟定期研修会 京都府民総合交流プラザ京都テルサ 19.11.15

(6 講演) 文化財修理における有機化学の役割 全国国宝重要文化財所有者連盟 日枝神社 19.12.5

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会 (7 委員会等) 国宝白杵磨崖仏修理委員会委員長、史跡備前陶器窯跡整備委員会委員、ICCROM (文化財保存修復研究国際センター) 理事、田川市世界記憶遺産保存事業等指導委員会委員、法隆寺金堂壁画保存活用調査委員会専門委員、日本航空協会評議員

(8 教育) 東京学芸大学非常勤講師

間舎 裕生 KANSHA Hiroo (アソシエイトフェロー)

(2 報告) Archaeological Investigation (ABE Masashi, KANSHA Hiroo) *Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor—Progress Report 2019—* pp.25-60

Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap, Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 20.3
 (2 報告) ハヌマンドカ王宮シヴァ寺に関する調査：発掘調査 『2019 (令和元) 年度ネパール事業報告書』 pp.107-112 東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 20.3

(2 報告) アルメニア共和国における染織文化財保護の国際協力(間舎裕生、石井美恵、横山翠) 『文化財保存修復学会誌』63 pp.17-25 20.3

(3 論文) ニ〇一八年度ベイティン遺跡(パレスチナ自治区)における考古学的発掘調査(杉本智俊、菊池実、渡部展也、稲野裕介、間舎裕生) 『史学』88(29) pp.217-242 19.4

(3 論文) アナハラトの歴史解明へ向けて—イスラエル、テル・レヘシュ第12次発掘調査(2019年)(桑原久男、間舎裕生、橋本英将) 『第27回西アジア発掘報告会報告集』 pp.31-34 日本西アジア考古学会 20.3

(4 編集)(間舎裕生、石井美恵、横山翠) 『アルメニアにおける染織文化遺産保存修復ワークショップ2017-2019事業報告』 34p 東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 19.12

(4 解説) カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内シヴァ寺院の発掘調査 TOBUNKEN NEWS 70 pp.33-35 東京文化財研究所 19.9

(6 発表) 東京文化財研究所による西アジア地域における文化遺産保護事業について(安倍雅史、間舎裕生) 文化遺産国際協力コンソーシアム第34回西アジア分科会 黒田記念館セミナー室 20.2.14

(7 所属学会) 日本オリエント学会、日本建築学会、日本西アジア考古学会、文化財保存修復学会、三田史学会

(8 教育) 金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学術研究センター客員研究員、金沢大学大学院人間社会環境研究科招へい講師

苅田 重賀 KANDA Shigeyoshi (客員研究員)

(2 報告) 『武蔵野の森公園から出土したプロペラの調査報告書』 8p 東京都西部公園緑地事務所 20.1.15

(2 報告) 東京大学駒場IIキャンパス1号館(旧東京帝国大学航空研究所風洞建物) 3米風洞を重要航空遺産として認定 日本航空協会機関誌『航空と文化』119 pp.31-32 日本航空協会 19.7.15

(4 解説) 航空図書館について(苅田重賀、藤倉匠、廣嶋京子) 専門図書館協議会機関誌『専門図書館』298 pp.2-8 専門図書館協議会 19.11.1

(7 所属学会) 日本航空協会

(7 委員会等) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館令和元年度宇宙博企画展「スピードを追い求めた幻の翼 研三-KENSAN-」研三資料調査委員会委員、南九州市知覧特攻平和会館陸軍四式戦闘機疾風調査委員会委員

菊池 理予 KIKUCHI Riyo (無形文化遺産部)

(2 報告) 都道府県史から見る近世日本染織技術の伝播(中間報告)(菊池理予、中村弥生) 『無形文化遺産研究報告』14 pp.101-138 20.3

(3 論文) 文化財の視点からみたトロロアオイ生産技術の現状—茨城県小美玉市の事例を通じて—(菊池理予、林圭史、渡瀬綾乃) 『無形文化遺産研究報告』14 pp.79-100 20.3

(4 資料紹介) (資料紹介) 東北大学史料館所蔵 大正・昭和 大礼関係資料について(大原理恵、早川典子、菊池理予) 『東北大学史料館研究報告(紀要)』15 pp.49-60 20.3

(4 エッセイ) The Kimono as Japan's "Cultural Property" (菊池理予、Yukio Lippit(翻訳)) pp.23-29 Worcester Art Museum 20.3

(6 講義) Protection of textile techniques in Japan-present conditions and transitions / Thread Production in Japan / Structure of Kimono Workshop "Conservation of the Japanese Textiles 2019" 国立台湾師範大学 文物保存維護研究発展中心 19.8.15

(6 講義) Protection of Craft Techniques: Present Condition and Transitions 国際研修「紙の保存と修復」2019 東京文化財研究所 19.9.24

(6 講義) Structure of Kimono 「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」国際シンポジウム関連ワークショップ 東京国立博物館 20.2.3

(6 講演) 【対談】浴衣 ゆかた YUKATA (松原伸生、菊池理予) 「特別展 ゆかた 浴衣 YUKATA すずしさのデザ

イン、いまむかし」 泉屋博古館分館 19.6.29

(6 発表) 青花紙利用の現状—染織技術者への聞き取り調査を通じて— 第13回無形文化遺産部公開学術講座 東京文化財研究所 20.2.6

(6 司会) 【座談会】「染織材料としての青花紙」 第13回無形文化遺産部公開学術講座 東京文化財研究所 20.2.6

(6 司会) 【趣旨説明】 草津市との共同事業について 第13回無形文化遺産部公開学術講座 東京文化財研究所 20.2.6

(7 所属学会) 国際服飾学会、美術史学会、服飾文化学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 工芸技術記録映画製作監修委員、文化ファッション研究機構運営委員会委員

貴田 啓子 KIDA Keiko (客員研究員)

(5 学会発表) 真鍮泥が紙の劣化に及ぼす影響(貴田啓子、柏谷明美、早川典子、稲葉政満) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23

(7 所属学会) セルロース学会、日本文化財科学会、東アジア文化遺産保存学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会

(8 教育) 帝京大学宇都宮キャンパス非常勤講師、東京藝術大学美術研究科教育研究助手

橘川 英規 KIKKAWA Hideki (文化財情報資料部)

(1 共著) 「森田恒友書誌」 橘川英規、田所泰 『森田恒友展』 埼玉県立近代美術館・福島県立美術館 pp.210-229 19.11

(2 報告) 日本戦後美術に関するアーカイブズの整理・活用のあり方—UCLA図書館所蔵ヨシダ・ヨシエ・コレクションを例に 『美術研究』430 pp.41-48 20.3

(4 記事) 「物故者」高崎元尚、岩田信市 『日本美術年鑑』平成30年版 pp.446-447、450-451 20.3

(6 発表) 東京文化財研究所のパブリックドメイン資料: 文化財を知り、守り伝えるための資料蓄積と研究支援(橘川英規、江村知子、小山田智寛) シンポジウム「デジタル知識基盤におけるパブリックドメイン資料の利用条件をめぐって」 都市センターホテル 20.1.17

(6 発表) Japanese Artists: Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (Tobunken) ITWG (International Terminology Working Group) Meeting ゲッティセンター 20.2.6

(7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会

(7 委員会等) 国立アイヌ民族博物館仕様策定委員(積層式書架の調達)、国立新美術館アトライブラリー委託業者公募外部審査員

朽津 信明 KUCHITSU Nobuaki (保存科学研究センター)

(3 論文) 新宮市万歳の一遍上人名号碑の補修史に関

する三次元計測に基づく検討(朽津信明、柳沼由可子、後誠介、西山賢一)『保存科学』59 pp.23-34 20.3
 (3 論文) 資料保存施設としての経塚の保存科学的評価『保存科学』59 pp.35-50 20.3
 (5 学会発表) 新宮市万歳の一遍上人名号碑と江戸時代に行われたその補修について(朽津信明、柳沼由可子、後誠介、西山賢一) 日本文化財科学会第36回大会 東京藝術大学 19.6.1
 (5 学会発表) 天草市アンモナイト館における緑色生物の制御(朽津信明、森井順之、柳沼由可子、廣瀬浩司) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23
 (5 学会発表) 過去の写真と現状の三次元計測に基づく荒島石の侵蝕速度の検証(朽津信明、柳沼由可子) 日本応用地質学会2019年度研究発表会 アオーレ長岡 19.10.24, 25
 (5 学会発表) 石人山古墳石棺表面から分離した藻類のメタゲノム解析(小沼奈那美、加藤徳子、郭永、佐藤嘉則、朽津信明、西澤智康) 第14回日本ゲノム微生物学会年会 ウィンクあいち 20.3.6
 (5 学会発表) 風連鍾乳洞内に生育する照明植生の微生物叢解析(黒坂愛美、佐藤嘉則、片山葉子、朽津信明、西澤智康) 第14回日本ゲノム微生物学会年会 ウィンクあいち 20.3.6
 (6 講義) 材料及び技術: 絵具 第9回文化財(美術工芸品) 修理技術者講習会 経済産業省別館 19.10.25
 (7 所属学会) 日本応用地質学会、日本地形学連合、日本地質学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
 (7 委員会等) 特別史跡王塚古墳保存活用計画策定委員会委員、清戸迫横穴保存委員会委員、白杵磨崖仏保存修理査査委員、白杵市内キリシタン遺跡調査指導委員会委員、大悲山石仏保存修理指導委員会委員、「通潤橋」保存活用検討委員会委員、大野窟古墳の復旧方法等に対する意見聴取委員会、屋形古墳群整備基本計画策定委員会委員、竹原古墳整備計画策定委員会委員、小豆島町「世界遺産化」運営委員会委員、史跡原城跡、日野江城跡専門委員会委員、歴史遺産の地盤工学研究に関する研究委員、嘉島町史跡保存整備検討委員会委員、長崎市出島史跡整備審議会委員、高島炭鉱整備活用委員会委員、金沢市石製文化財保存検討委員会委員、熊野磨崖仏 附 本宮磨崖仏及び鍋山磨崖仏保存活用計画策定検討委員会委員、日本文化財科学会将来構想委員会委員
 (8 教育) 東京藝術大学大学院併任教授、東京大学非常勤講師

久保田 裕道 KUBOTA Hiromichi (無形文化遺産部)

(2 書評) 依木悟著『文化財/文化遺産としての民俗芸能—無形文化遺産時代の研究と保護』『民俗芸能研究』67 pp.18-33 19.9
 (2 報告) Rehabilitation of Intangible Cultural Heritage

(ICH) in Japan and the Festivals of Khokana *Intangible Cultural Heritage in Khokana* pp.4-6 東京文化財研究所 20.3

(2 報告) 無形文化遺産と災害復興 『中部スラウェシ地震復興と文化遺産報告書』 pp.54-64 東京文化財研究所 20.3

(3 論文) Intangible Cultural Heritage contributing to Japanese Post-disaster Rehabilitation *Intangible Heritage Studies* 4(2) pp.7-17 19.11

(4 解説) 横須賀の虎踊り 『文部科学教育通信』460 pp.24-25 19.5

(4 解説) 保呂羽山の霜月神楽 『文部科学教育通信』470 pp.24-25 19.10

(4 解説) 『東京シシマイコレクションガイドブック2020』 pp.2-27 東京文化財研究所 20.1

(6 発表) 鹿と獅子の民俗芸能競演～岩手の鹿踊り×讃岐獅子舞～ 一般社団法人儀礼文化学会平成31年度春季大会 明治記念館 19.4.21

(6 発表) Intangible Cultural Heritage in Khokana A Workshop on Cultural Heritage of Khokana Town コカナ(ネパール) 19.10

(6 講演) 変容の危機にある無形の民俗文化財 京都府教育委員会シンポジウム「これからの地域の文化財の保存・活用」宇治市産業振興センター/舞鶴西公民館 19.10.19, 26

(6 趣旨説明・討議司会) 第14回無形民俗文化財研究協議会 東京文化財研究所 19.12.20

(6 講演) 日本のシシマイ文化 シシマイフォーラム2020 東京文化財研究所 20.1.21

(7 所属学会) 静岡県民俗学会、日本宗教民俗学会、日本民俗学会、民俗芸能学会、儀礼文化学会

(7 委員会等) 文化審議会無形文化遺産部臨時委員、文化庁非常勤調査員、山梨県文化財保護審議会委員、神奈川県民俗芸能記録保存調査企画調整委員会委員、千葉県博物館資料審査委員会委員、東京都民俗芸能大会実行委員会委員、島根県古代文化センター客員研究員、静岡市文化財保護審議会委員、武蔵野市文化財保護委員、京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議委員、箱根町箱根湯立獅子舞調査委員、公益社団法人全日本郷土芸能協会理事、「世界無形文化遺産フェスティバル」招聘団体選考委員、一般財団法人日本青年館第68回全国民俗芸能大会企画委員

倉島 玲央 KURASHIMA Reo (保存科学研究センター)

(2 報告) 『岡山県指定重要文化財高野神社本殿保存修理工事報告書』(文化財保存計画協会、津山市教育委員会) pp.33-34 宗教法人 高野神社 20.3

(4 編集) 『保存科学』59 151p 東京文化財研究所 20.3

(5 学会発表) ミャンマー産漆塗膜の強度試験(倉島玲

央、早川典子) 日本文化財科学会第36回大会 東京藝術大学 19.6.1

(5 学会発表) 琉球漆器 朱漆楼閣山水人物箔絵盆の科学的調査 (山府木碧、倉島玲央、犬塚将英、早川泰弘、小林公治) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22

(7 所属学会) 高分子学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、漆を科学する会

五木田 まきは GOKITA Makiha (アソシエイトフェロー)

(1 公刊図書) Los museos y la comunidad local en Copan Ruinas, Honduras | Simposio de Arqueología Pública en El Salvador, 2018 "Más allá de la arqueología: Arqueología Pública" La Secretaría de Cultura de la Presidencia pp.65-75 19.10

(4 編集) 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2019』 53p 東京文化財研究所 20.3

(4 翻訳) アンケート結果 (日本班) 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2019』 pp.52-53 東京文化財研究所 20.3

(4 エッセイ) 古代マヤのゲーム「パトリ」①② 『文化遺産の世界』 <https://www.isan-no-sekai.jp/column/6412> 19.5

(5 学会発表) Museums and local communities in the Maya area: A case of Copán Ruinas, Honduras 2019 ICR Annual Conference in Kyoto (第25回ICOM (国際博物館会議) 京都大会2019) 国立京都国際会館 19.9.3

(7 所属学会) 文化財保存修復学会、古代アメリカ学会、日本ラテンアメリカ学会

五嶋千雪 GOSHIMA Chiyuki (アソシエイトフェロー)

(4 記事) 文化遺産の意図的な破壊一人はなぜ本を焼くのか—〈報告〉『カレントアウェアネス-E』 387 <http://current.ndl.go.jp/e2238> 国立国会図書館 20.3.12

(4 編集) 『文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産の意図的な破壊一人はなぜ本を焼くのか—」報告書』 76p 文化遺産国際協力コンソーシアム 20.3

(7 所属学会) ICOM

古田嶋 智子 KOTAJIMA Tomoko (客員研究員)

(2 報告) 文化財分野で用いる放散試験に向けたサンプリングバッグ洗浄効果の検討 (古田嶋智子、犬塚将英) 『保存科学』 59 pp.51-59 20.3

(4 解説) 博物館空気環境における化学物質の現状と対策 『化学物質と環境』 155 pp.4-6 19.5

(5 学会発表) 桐箱やキリ材からの有機酸の放散と金属に及ぼす影響 (古田嶋智子、犬塚将英) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23

(5 学会発表) 湿度制御した温風処理による甲虫類の駆

除 一社寺建築における効果の検証・続報— (藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23

(5 学会発表) Application of humidified warm-air treatment to entire historic wooden buildings at Nikko World Heritage site to control insect attack. (Yoshihisa Fujii, Masahiko Harada, Hiroyuki Kitahara, Yuko Fujiwara, Rika Kigawa, Yoshinori Sato, Yukio Komine, Masahide Inuzuka, Tomoko Kotajima, Shingo Hidaka, Akiko Saito, Tadashi Fukoka) Integrated Pest Management for Cultural Heritage, 4th international conference Swedish National Heritage Board 19.5.21-23

(7 所属学会) ICOM-CC、室内環境学会、日本建築学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 室内環境学会 出版委員会

(8 教育) 和光大学表現学部芸術学科非常勤講師、武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程非常勤講師、上智大学文学部史学科

後藤 里架 GOTO Rika (アソシエイトフェロー)

(4 編集) 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2019』 76p 東京文化財研究所 19.3

(4 翻訳) 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2019』 93p 東京文化財研究所 19.3

(4 編集) 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2019』 93p 東京文化財研究所 19.3

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

小林 公治 KOBAYASHI Koji (文化財情報資料部)

(1 共著) 日本螺鈿史試論一覽書として— 『保存と復元の世界 螺鈿漆器 (韓国語)』 韓国国立中央博物館保存科学部 pp.154-205 19.12

(3 論文) 東アジア螺鈿史の観点から見た高麗螺鈿の成立 『美術資料』 95 pp.43-195 韓国国立中央博物館美術部 19.6

(5 学会発表) 琉球漆器 朱漆楼閣山水人物箔絵盆の科学的調査 (山府木碧、倉島玲央、犬塚将英、早川泰弘、小林公治) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22

(5 学会発表) The Minakuchi Rapier, European Sword produced in Japan (KOBAYASHI Koji, NAGAI Akiko) Kyoto 2019, ICFSA Independent Sessions (第25回ICOM (国際博物館会議) 京都大会2019) 国立京都国際会館 19.9.3

(6 発表) 南蛮漆器の成立過程と年代—キリスト教聖龕の検討を中心に— 文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 19.9.24

(6 講演) 日本唯一の伝世洋剣、水口レイピアの調査と研究 第53回オープンレクチャー 東京文化財研究所 19.11.2

(6 講演) 藤栄神社所蔵「十字形洋剣」の謎に挑む一水口レイピア 日本で造られたヨーロッパの剣 水口町郷土史会創立60周年記念講演会 甲賀市水口中央公民館 19.11.9
(7 所属学会) 考古学研究会、東南アジア考古学会、日本考古学協会、早稲田大学考古学会

小堀 信幸 KOBORI Nobuyuki (客員研究員)

(6 講演) 「江戸海運を支えた船一弁財船の復元と保存」 「船が育んだ江戸一船・舟・船番所」 東京海洋大学 19.12.7
(6 講演) 「船舶の保存と活用—日本、ヨーロッパ、アメリカの状況」 「摩周丸とクルーズ船 保存船のある港—その価値と活用」 函館市青函連絡船記念館摩周丸 19.8.1
(7 所属学会) 日本海事史学会
(7 委員会等) 宮城県慶長使節船ミュージアム企画運営委員会、明治丸シンポジウム実行委員会、江東区文化財保護推進協力員

小峰 幸夫 KOMINE Yukio (アソシエイトフェロー)

(1 共著) 「第4章 建材・家具・額縁から発生する害虫 (シバンムシ類)」 『アレルゲン害虫のはなし—アレルギーを引き起こす虫たち—』 朝倉書店 pp.91-95 19.12
(1 共著) 「第5章 書籍や紙資料を加害する害虫 (シバンムシ類・シミ類)」 『アレルゲン害虫のはなし—アレルギーを引き起こす虫たち—』 朝倉書店 pp.102-107 19.12
(3 論文) 湿度制御温風処理における殺虫効果判定法の開発 (小峰幸夫、佐藤嘉則、原田正彦、北原博幸、木川りか、藤井義久) 『保存科学』59 pp.1-8 20.3
(5 学会発表) 湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除—社寺建築における効果の検証—続報— (藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23
(5 学会発表) 湿度制御温風処理における殺虫効果の検証 (小峰幸夫、佐藤嘉則、原田正彦、北原博幸、木川りか、藤井義久) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23
(6 講義) Species and its characteristics of insects that harm to cultural properties in Japan 令和元年度博物館に環境管理に関するイラン人専門家研修 東京文化財研究所 19.11.26
(7 所属学会) 都市有害生物管理学会、日本環境動物昆虫学会、文化財保存修復学会

齊藤 孝正 SAITO Takamasa (所長)

(4 記事) 巻頭言 文化遺産の国際協力 『絲綢之路』91

3 文化財保護・芸術研究助成財団 19.10

(6 講義) Paper conservation in Japan International Course on Paper Conservation in Latin America メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復調整機関 19.10.30

(7 所属学会) 東洋陶磁学会

(7 委員会等) 東洋陶磁学会常任委員、法隆寺金堂壁画保存活用委員会委員、芸術文化振興基金運営委員会運営委員、公益財団法人文化財虫害研究所評議員、文化審議会無形文化遺産部会作業部会構成員、文化庁無形文化財工芸技術資料買取協議員

齋藤 達也 SAITO Tatsuya (客員研究員)

(3 論文) "Ernest Chesneau, critique de l'impressionisme" *Critique(s) d'art : nouveaux corpus, nouvelles méthodes* HiCSA pp.312-334 19.4

(6 発表) Histoire des expositions d'estampes japonaises à Paris, 1887-1894 Formation et circulation des collections artistiques modernes : études historiques et sur la base de données 東京大学 19.12.17

(7 所属学会) ジャポニズム学会、日仏美術学会、美術史学会、明治美術学会

(8 教育) 首都大学東京人文社会学部非常勤講師

境野 飛鳥 SAKAINO Asuka (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 第43回世界遺産委員会の報告 『世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か」』 pp.9-15 東京文化財研究所 20.3

(2 報告) 『遺産影響評価のための世界遺産と開発事案等の関係に関する基礎調査』 pp.11-18、pp.29-45、pp.52-74 20.1

(4 編集) 『各国の文化財保護法令シリーズ[24] 中国【中華人民共和国文化財保護法、中華人民共和国無形文化遺産法】』 111p 東京文化財研究所 20.3

(6 発表) 第43回世界遺産委員会の報告 『世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か」』 東京文化財研究所 19.9.20

(7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、日本歴史学会
(8 教育) 金沢大学国際文化資源学センター客員研究員

佐藤 嘉則 SATO Yoshinori (保存科学研究センター)

(1 共著) 「第2節 空間環境の抗菌・防臭 第12項 屋外環境にある文化財の微生物制御」 『最新の抗菌・防臭・空気質制御技術』テクノシステム pp.437-441 19.7

(1 共著) 「第32章 高松塚・キトラ古墳壁画の微生物汚損の酵素処理」 (佐藤嘉則、早川典子) 『酵素トランスデューサーと酵素技術展開』シーエムシー出版 pp.300-304 20.3

(2 報告) 油絵具を構成する各種材料のカビ抵抗性試験

(相馬静乃、佐藤嘉則、米村祥央) 『保存科学』59 pp.61-71 20.3

(2 報告) 平等院阿弥陀如来坐像胎内月輪および保存箱の生物被害防除対策(佐藤嘉則、早川泰弘) 『鳳翔学叢』16 20.3.2

(3 論文) 虎塚古墳の壁画剥落片の微生物群集構造解析(佐藤嘉則、松野美由樹、犬塚将英、稲田健一、矢島國雄) 『保存科学』59 pp.9-20 20.3

(3 論文) 湿度制御温風処理における殺虫効果判定法の開発(小峰幸夫、佐藤嘉則、原田正彦、北原博幸、木川りか、藤井義久) 『保存科学』59 pp.1-8 東京文化財研究所 20.3

(4 解説) 文化財の微生物被害 『かびと生活』12(1) pp.17-21 NPO法人カビ相談センター 19.6

(4 解説) 文化財IPMとカビの制御 『文化財の虫菌害』78 pp.16-24 文化財虫菌害研究所 19.12

(4 編集) 『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書2 特別史跡高松塚古墳生物調査報告—高松塚古墳石室解体事業にともなう生物調査—』598p 同成社 19.9.30

(5 学会発表) Application of humidified warm-air treatment to entire historic wooden buildings at Nikko World Heritage site to control insect attack (Yoshihisa Fujii, Masahiko Harada, Hiroyuki Kitahara, Yuko Fujiwara, Rika Kigawa, Yoshinori Sato, Yukio Komine, Masahide Inuzuka, Tomoko Kotajima, Shingo Hidaka, Akiko Saito, Tadashi Fukoka) Integrated Pest Management for Cultural Heritage 4th international conference IVA Conference Centre, Stockholm 19.5.23

(5 学会発表) Mortierella 属糸状菌に内生する Mycoavidus 属細菌のゲノム縮小化(郭永、高島勇介、Dilruba Sharmin、佐藤嘉則、成澤才彦、太田寛行、西澤智康) 日本土壤微生物学会2019年度大会 北海道大学農学部 19.6.15

(5 学会発表) 湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除—社寺建築における効果の検証・続報—(藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23

(5 学会発表) 湿度制御温風処理における殺虫効果の検証(小峰幸夫、佐藤嘉則、原田正彦、北原博幸、木川りか、藤井義久) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23

(5 学会発表) 高松塚・キトラ両古墳壁画の微生物汚れを除去する酵素(佐藤嘉則、木川りか、貴田啓子、川野邊渉、早川典子) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23

(5 学会発表) リアルタイム浮遊菌数測定と生態解析によって室内浮遊菌の実態に迫る(中村孝道、谷口恵梨、佐藤嘉則) 日本微生物生態学会第33回大会 山梨大学 19.9.11

(5 学会発表) 風連鍾乳洞内に生育する照明植生の微生物叢解析(黒坂愛美、佐藤嘉則、片山葉子、朽津信明、西澤智康) 第14回日本ゲノム微生物学会年会 ウィンクあいち 20.3.6

(5 学会発表) 石人山古墳石棺表面から分離した藻類のメタゲノム解析(小沼奈那美、加藤徳子、郭永、佐藤嘉則、朽津信明、西澤智康) 第14回日本ゲノム微生物学会年会 ウィンクあいち 20.3.6

(6 講習会) 文化財IPMとカビの制御 第41回文化財の虫菌害・保存対策研修会 国立オリンピック記念青少年総合センター 19.7.4

(6 講義) 環境制御(虫菌害対策) 令和元年度アーカイブズ・カレッジ 史料管理学研修会 国文学研究資料館 19.9.10

(6 講義) 有害生物対策 令和元年度 アーカイブズ研修III/公文書管理研修III 国立公文書館 19.9.11

(6 講義) 文化財の微生物被害の現状と対策について 令和元年度 IPM セミナー 九州国立博物館 19.10.23

(6 講義) 害虫及びカビの予防・防除 第9回文化財(美術工芸品) 修理技術者講習会 経済産業省別館 19.10.25

(6 講義) 水損紙資料の微生物被害と応急処置 令和元年度 文化財等防災ネットワーク研修 奈良文化財研究所 19.11.6

(6 講義) Activities for preventing biological deterioration to cultural properties in Japan 令和元年度 博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修 東京文化財研究所 19.11.26

(7 所属学会) International Biodeterioration & Biodegradation Society、日本土壤微生物学会、日本微生物生態学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会(7 委員会等) ひたちなか市史跡保存対策委員会、日本文化財科学会編集委員、国立民族学博物館共同研究員、日本土壤微生物学会事務局企画幹事、公益財団法人文化財虫菌害研究所文化財IPMコーディネータ委員会委員、AIを利用した文化財建造物の見守りシステム事業に係る有識者会議委員、文化財保存修復学会第42回大会プログラム作成委員会委員

(8 教育) 東京芸術大学大学院文化財保存学専攻連携准教授

佐野 千絵 SANO Chie (保存科学研究センター)

(1 共著) 第4章4節 微生物分離株による有機酸の産生について 佐野千絵、西島美由紀、喜友名朝彦、木川りか、杉山純多 『国宝高松塚古墳壁画高級保存対策事業報告書2 特別史跡高松塚古墳生物調査報告—高松塚古墳石室解体事業にともなう生物調査—』同成社 pp.269-290 19.9

(1 共著) 第4章10節 目地漆喰の組成等の分析から得られた目地ごとの微生物被害状況の差異 『国宝高松塚古墳壁画高級保存対策事業報告書2 特別史跡高松

塚古墳生物調査報告—高松塚古墳石室解体事業にともなう生物調査—』同成社 pp.418-447 19.9

(4 解説) 博物館・美術館の文化財の保存環境に関する現状や課題について 『エコケミストリー』2019年5月号 pp.1-2 エコケミストリー研究会 19.5

(5 学会発表) 有機酸発生源探索のための簡易調査法(佐野千絵、呂俊民、吉田直人) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.23

(5 学会発表) 吸水した紙試料の水分特性(林美木子、佐野千絵) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22

(5 学会発表) 有機溶剤を含んだゲルの文化財クリーニングへの適用(藤井佑果、早川典子、山本記子、佐野千絵) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22

(5 学会発表) 法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究—数値解析による小屋裏の送気ファンによる環境調整方法の検討—(和田拓也、小椋大輔、佐野千絵、木川りか、和田浩、吉田直人、鉾井修一、伊庭千恵美) 日本文化財科学会第36回大会 東京藝術大学 19.6.1

(6 発表) The applications of color quality metrics in Japan including museum lighting (MIZOKAMI Yoko, YOSHIZAWA, Nozomu, SANO Chie, YOSHIDA Naoto) Asia Lighting Conference (ALC2019) Hotel Inter-Burgo (Daegu, Korea) 19.8.23

(6 発表) 東日本大震災における被災紙資料の安定化処理の改良と保存科学的研究(林美木子、佐野千絵) 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム 大田KT人材開発院(大田(韓国)) 8.29-30

(6 発表) Stabilization processing and microbial control of tsunami damaged documents (Mikiko HAYASHI, Yuka UCHIDA, Chie SANO) ICOM NATHIST 2019 (第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019) 大阪市立自然史博物館 19.9.5

(6 講演) 文化財の修復材料開発への電子線照射利用 第72回UV/EB研究会 一般社団法人大阪ニュークリアサイエンス協会 19.9.27

(6 講習会) 文化財の保存と環境 第9回文化財(美術工芸品)修理技術者講習会 経済産業省別館 19.10.25

(6 講習会) IPMから見た博物館等の施設管理 IPMコーディネータ資格取得のための講習会と試験 東京文化財研究所 19.12.11

(6 講演) 適切な資料保管環境整備 —一時保管施設と新築博物館の違い— 平成30年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域と共働した美術館・歴史博物館想像活動支援事業) 大津波被災文化財保存修復連携プロジェクト第1回ワークショップ(支援ワークショップ)—陸前高田会場— 陸前高田市博物館 19.11.7

(6 講演) 防災の技術—防災・減災の技術と被害への対

応 令和元年度千葉県文化財管理指導講習会 千葉県立現代産業科学館 20.1.15

(7 所属学会) ICOM、ICOM-CC、IIC、IIC-Japan、室内環境学会、照明学会、繊維学会、大気環境学会、日本化学会、日本文化財科学会、日本防菌防黴学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会

(8 教育) 国際基督教大学非常勤講師

佐野 真規 SANO Masaki (アソシエイトフェロー)

(2 報告) はじめに(佐野真規、今石みぎわ) 文化財保護のための動態記録作成に関する調査研究事業—民俗技術の記録制作事業報告書2 p.1 東京文化財研究所 20.3

(4 記事) 「物故者」中川邦彦、松本俊夫 『日本美術年鑑』平成30年版 pp.433-434、pp.440-441 東京文化財研究所 20.3

(4 撮影・映像編集) 文化財防災ネットワーク 文化財防災マニュアルDVD 『被災自然史標本の処置例と減災対策』 国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室 20.3

(4 撮影・映像編集) 『阿波ばん茶』DVD(佐野真規、黒川仁美) 東京文化財研究所 20.3

(4 撮影・映像編集) 長板中形—松原伸生の技 企画展「ゆかた 浴衣 YUKATA」 泉屋博古館分館 19.5.28-7.7 川越市立美術館 19.7.20-9.8

(4 撮影・映像編集) Manual for Cultural Heritage Disaster Risk Mitigation – Examples for Treating Damaged Natural History Specimens and Disaster Reduction Measures—(WEB公開) 国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室 20.3

(4 撮影・映像編集) (普及版映像記録) 阿波ばん茶—徳島県那賀町(今石みぎわ、竹内友彦) 19分44秒 東京文化財研究所 20.3

(4 撮影・映像編集) (普及版映像記録) 阿波ばん茶—徳島県上勝町(今石みぎわ、竹内友彦) 17分8秒 東京文化財研究所 20.3

(4 撮影・映像編集) (普及版映像記録) 阿波ばん茶(各家庭7本) 東京文化財研究所 20.3

(6 発表) 動画 文化財レスキュー活動について 無形文化遺産の防災連絡会議 東京文化財研究所 20.2

(8 教育) 特定非営利活動法人映画美学校 映画・演劇を横断し活躍する俳優養成講座2019 ゲスト講師

塩谷 純 SHIOYA Jun (文化財情報資料部)

(3 論文) 「描く」絵画から「塗る」絵画へ」再考 『日本画の所在 東アジアの視点から』 勉誠出版 20.3

(4 記事) Museum Blog 黒田清輝先生のアトリエから 『新美術新聞』1500 p.2 19.4.1

(4 解説) 黒田清輝—身边を描く画家として 『島田卓二、黒田清輝とその周辺』展図録 pp.6-8 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 19.8

(6 発表) 黒田清輝・久米桂一郎の書簡を読む (塩谷純、伊藤史湖) 文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 19.12.10

(6 講演) 黒田清輝、その画業と影響 「島田卓二、黒田清輝とその周辺」展記念講演会 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 19.8.24

(7 所属学会) 美術史学会、明治美術学会

(8 教育) 明治学院大学大学院非常勤講師、学習院大学文学部非常勤講師、金沢美術工芸大学芸術学専攻非常勤講師

嶋原 由美 SHIGIHARA Yumi (アソシエイトフェロー)

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会

城野 誠治 SHIRONO Seiji (文化財情報資料部)

(2 報告) 春日権現験記絵の彩色材料調査 (巻七・巻八) (早川泰弘、城野誠治) 『春日権現験記絵 巻七・巻八 光学調査報告書』 pp.4-38 東京文化財研究所 20.2

(2 報告) 平等院鳳凰堂東面中央旧扉絵画面に関する光学調査 (早川泰弘、城野誠治) 『鳳翔学叢』16 20.3

(4 解説) 国宝日月四季山水図の彩色材料調査 (早川泰弘、城野誠治) 『国宝日月四季山水図 光学調査報告書』 東京文化財研究所 19.10

(4 解説) 特集2018年の写真の進歩 10 科学写真 10-1 文化財 『日本写真学会誌』82 (3) pp.29-30 19.8

(5 学会発表) 国宝日月四季山水図の蛍光X線分析 (早川泰弘、城野誠治) 日本文化財科学会第36回大会 東京藝術大学 19.6.1

(6 講演) 文化財情報の記録—文化財の写真について—文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー 東京文化財研究所 19.12.2

(7 所属学会) 日本光学会、日本写真家協会、日本写真学会、日本法科学技術学会

杉山 恵助 SUGIYAMA Keisuke (客員研究員)

(2 報告) 「7. 新糊・古糊—小麦デンプン糊—」『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2019』 pp.36-39 東京文化財研究所 20.3

(2 報告) 「9. 紙の種類と特徴」、「11. 評価」(中村隆博、杉山恵助) 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2019』 p.46、p.51 東京文化財研究所 20.3

(6 講義) 「Wheat Starch Paste」 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2019 メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復調整機関 19.11.4

(6 講義) 「Summary and evaluation」、「Variety of washi and those characteristics」(中村隆博、杉山恵助) 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2019 メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保

存修復調整機関 19.11.6

(7 所属学会) American Institute for Conservation、Institute of Conservation、文化財保存修復学会

(8 教育) 東北芸術工科大学 文化財保存修復学科 准教授 (文化財保存修復研究センター研究員兼務)

高桑 いづみ TAKAKUWA Izumi (特任研究員)

(2 報告) 公開講座記録「小鼓之巻」(成田達志) 『武蔵野大学能楽資料センター紀要』31 pp.69-86 武蔵野大学能楽資料センター 20.3

(3 論文) 長唄「クルイ」考序説 『楽劇学』26 pp.1-20 楽劇学会 19.5

(3 論文) 井筒一物着と三段ノ一声— 『鍬仙』696 pp.4-6 鍬仙会 19.11

(4 連載) 能・狂言 演出の萃点 『花もよ』43-48 ぶんがく社 19.5~20.3

(4 テレビ出演) 同時解説で味わう能の名作「隅田川」(いとうせいこう、高桑いづみ) にっぽんの芸能 NHK 20.1.24

(4 ラジオ出演) FM能楽堂 NHKFM 19.8.4 8.11 8.25 20.3.1 3.8 3.15 3.29

(4 エッセイ) 批評と感想 米寿の〈三番叟〉ほか 『能楽タイムス』809 pp.4-7 能楽書林 19.8

(4 エッセイ) 批評と感想 「井筒」「野宮」「浮舟」など 『能楽タイムス』814 pp.6-7 能楽書林 20.1

(4 記事) 能楽対談 師の思いを伝えたい (香川靖嗣) 『能楽タイムス』808 pp.2-3 能楽書林 19.7

(4 エッセイ) 長唄を愛した大名家と能楽師 『橘香』64.9 p2 梅若研能会 19.9

(6 講演) 囃す 能楽カルテット小鼓之巻 (成田達志、佐々木多門) 令和元年度武蔵野大学能楽資料センター主催 公開講座 武蔵野大学雪鳥講堂 19.8.2

(7 所属学会) 楽劇学会、能楽学会

(8 教育) 東京藝術大学非常勤講師

田所 泰 TADOKORO Tai (客員研究員)

(3 論文) 近代日本における女性画家の活動・交流およびその展開に関する研究—武村耕靄の旅行と制作の関係を中心に— 『鹿島美術研究』36 pp.224-235 19.11

(3 論文) 「美人画」としての子どもたち 『美人画ラプソディ 近代の女性表現』展図録 pp.100-106 海の見える杜美術館 20.3

(4 解説) 栗原玉葉《聴鶯図》 『紫陽花』1 pp.20-24 美人画研究会 19.6

(4 解説) 石川丹麗筆《華水汲図》(山形美術館蔵) 『紫陽花』2 pp.23-28 美人画研究会 19.12

(4 記事) コラム「美人画とよそおい」1点、作品解説9点、章解説2点 『美人画ラプソディ 近代の女性表現』展図録 p.84 海の見える杜美術館 20.3

(4 記事) 「物故者」木村重信、鎌倉秀雄、儀間比呂志

『日本美術年鑑』平成30年版 pp.429-430、435-436、439-440 東京文化財研究所 20.3
(所属学会) 美術史学会、早稲田大学美術史学会

田中 淳 TANAKA Atsushi (客員研究員)

(4 解説) 岸田劉生と寒山拾得図 『「國華清和会」会報』33 pp.16-17 國華社 19.5
(7 所属学会) 美術史学会、明治美術学会

田中 潤 TANAKA Jun (客員研究員)

(4 解説) 春日権現験記絵 巻七・巻八にみられる装束表現—束帯を中心に— 『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵春日権現験記絵 巻七・巻八 光学調査報告書』 pp.182-188 東京文化財研究所 20.2
(4 テレビ出演) 黄櫨染御袍の装束について 日本テレビ スッキリ 19.5.8
(4 連載) 宮廷装束と臨濟宗の法衣・袈裟の文様(上) 『法光』279 pp.13-16 臨濟会 19.7
(4 連載) 宮廷装束と臨濟宗の法衣・袈裟の文様(下) 『法光』280 pp.14-16 臨濟会 19.9
(4 連載) 有職故実の世界 第一回 葵祭と有職故実 茶道雑誌 83(5) pp.24-29 河原書店 19.5
(4 連載) 有職故実の世界 第二回 即位の大札と有職意匠のお道具 茶道雑誌 83(9) pp.26-31 河原書店 19.9
(4 連載) 有職故実の世界 第三回 即位の礼に伝えられた公家・女房装束の伝統① 茶道雑誌 83(10) pp.34-39 河原書店 19.10
(4 連載) 有職故実の世界 第四回 即位の礼に伝えられた公家・女房装束の伝統② 茶道雑誌 83(11) pp.13-21 河原書店 19.11
(6 講演) 明治宮廷と染織の美 華ひらく皇室文化展関連講座 泉屋博古館分館 19.4.13
(6 講演) 『装束』の世界～即位の礼に向けて～ 心游舎感謝祭 大人心游舎 リッツ・カールトン大阪 19.4.21
(6 講演) 近代皇室と染織・装束の文化 企画展 即位記念 雅を伝える—宮廷と文化—関連講演会 徳川美術館 19.5.26
(6 講演) 御大札を彩る装束の歴史について 双京構想推進検討会議主催宮廷文化に触れ・感じる 装束の世界 京都産業会館ホール 19.8.24
(6 講演) 皇室の儀式と装束 夏季集中セミナー「2019 きもの学」大学コンソーシアム京都 19.9.5
(6 講演) 近代の御大札と装束 春日大社 御大札講座② 春日大社 19.9.15
(7 所属学会) 東洋陶磁学会、衣紋道研究会
(8 教育) 学習院大学及び同大学大学院人文科学研究科非常勤講師、お茶の水女子大学生活科学部非常勤講師、杉野服飾大学非常勤講師、学習院大学史料館EF共同研究員、國學院大學校史・学術資料センター客員研究

員、公益財団法人徳川記念財団特別研究員

簡 佑丞 CHIEN Yuchen (客員研究員)

(1 共著) (Chun-Ming Huang, Yu-Chen Chien) *The Introduction of Taiwan's Water System Heritage* Bureau of Culture Heritage, MOC 19.5
(2 報告) 台湾における近代化遺産の保存と活用について 『台湾における近代化遺産活用の最前線』 pp.20-91 20.3
(7 所属学会) 中国土木水利学会(台湾)、中国水利史学会(中国)
(7 委員会等) 土木文化資産委員会

津田 徹英 TSUDA Tetsuei (客員研究員)

(4 資料紹介) 東寺観智院金剛藏本(建武二年写)『諸説不同記』巻第九(下) 解題・翻刻・校註・影印(津田徹英、石井千紘、中野智博) 『パラゴネ』7 pp.1-38 青山学院大学比較芸術学会 20.3.20
(6 発表) 資料紹介 東京文化財研究所架蔵 平子鐸嶺自筆ノート類について—文化財情報資料部研究会東京文化財研究所 19.5.31
(6 講演) 詞書の筆跡から「遊行上人縁起絵」の制作年代を考える シンポジウム「真教と時衆を絵巻から読み解く」 藤沢市ふじさわ宿交流館 19.10.20
(7 所属学会) 密教図像学会常任委員、美術史学会常任委員
(7 委員会等) 東京都台東区文化財審議委員
(8 教育) 青山学院大学文学部教授

堤 一郎 TSUTSUMI Ichiro (客員研究員)

(1 共著) 「1.報告書作成の背景と意義、4.現地調査の結果と考察、5.調査のまとめ」 青木栄一、堤一郎、大島登志彦『新大牟田市史—テーマ特講編』VIII 近現代、2 近現代遺跡・文化財の調査成果 (1) 旧三池炭鉱専用鉄道電気機関車大牟田市/大牟田市市史編さん委員会 pp.356-385 19.3.31
(3 論文) 理科との関連性を考慮した中学校技術科教育での指導方法の設計—レディネス構築に向けた科目関連事項の事前調査—(櫻井光弥、堤一郎) 『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』69 pp.479-493 20.3
(3 論文) 基盤教育における「地域産業技術史」の講義—2018年度における講義実施結果から—(玉川里子、堤一郎) 『茨城大学全学教育機構論集(大学教育研究)』3 pp.1-16 20.3
(4 解説) 時代を紡ぐ機械遺産⑩—機械記念物 工作機械編— 『交通新聞』文化欄 4 交通新聞社 19.4.26
(4 解説) 時代を紡ぐ機械遺産⑪—機械記念物 鉄道編(上)— 『交通新聞』文化欄 4 交通新聞社 19.5.30
(4 解説) 時代を紡ぐ機械遺産⑫—機械記念物 鉄道編(下)— 『交通新聞』文化欄 4 交通新聞社 19.6.28
(4 解説) 時代を紡ぐ機械遺産⑬—過去、現在、そして

て未来へー 『交通新聞』文化欄 4 交通新聞社
19.7.25

(4 解説) 時代を紡ぐ機械遺産⑭ーさらなる充実への期待ー 『交通新聞』文化欄 4 交通新聞社 19.8.30

(5 学会発表) 茨城県の産業技術史に関する基盤・基礎教育の内容と学生からの反応ー地域産業及び河川交通・鉄道の授業からー(堤一郎、玉川里子) 日本技術史教育学会関西支部2019年度総会・講演会 大阪産業大学 20.3.14

(7 所属学会) 日本機械学会、日本技術史教育学会

(8 教育) 「茨城大学特任教授、中央大学理工学部兼任講師、神奈川工科大学工学部非常勤講師、武蔵野美術大学造形学部非常勤講師、サレジオ工業高等専門学校専攻科非常勤講師

友田 正彦 TOMODA Masahiko (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) カンボジア、アンコール遺跡群タネイ寺院正面参道関連遺構発掘調査(2017~2018)の速報(友田正彦、杉山洋、佐藤由似、安倍雅史、間舎裕生)『東南アジア考古学』39 pp.113-117 東南アジア考古学会 19.12

(2 報告) バイヨン北経蔵の修復工事 『アンコールから世界へ アンコール遺跡保存修復事業協力隊JSA(日本国政府アンコール遺跡救済チーム)結成25周年記念シンポジウム寄稿文集』 pp.9-12 19.12

(2 報告) Cooperation Projects in Southeast Asian Countries by Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOMODA Masahiko) Mekong Cultural Diversity Beyond Borders. Proceedings for the International Seminar & Symposium on Southeast Asian Cultural Heritage Studies Today pp.141-158 Institute for Cultural Heritage, Waseda University 20.3

(2 報告) ハーでのケーススタディ(ロンロ、ツェンカル)、文化財としての価値評価手法(指定調査支援) 『ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業ー保存候補民家の修理計画及び保存活用計画の検討ー文化遺産としての民家の価値評価手法の検討ー』 pp.34-40,42-43 東京文化財研究所 20.3

(2 報告) Case Study in Haa (Longlo, Tshenkar), Value Evaluation Method as Cultural Heritage (Developing Survey Methods for Designation) (TOMODA Masahiko) *Conservation and Utilisation of Historic Buildings in Bhutan—Examination of Restoration Plan and Utilisation Plan of Farmhouses—Examination of Value Evaluation of Farmhouses as Cultural Heritage—* pp.35-40, 42-43 TNRICP 20.3

(2 報告) 1.事業概要、2.ハヌマンドカ王宮アガンチェン寺院周辺建造物の保存修復に関する調査、7.事業の総括 『ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業事業総括報告書』 pp.1-20, 23-30, 35-41, 55-56, 74-77, 96-97, 199-204 TNRICP 20.3

(2 報告) 1. Outline of Project, 2. Outline of target Buildings,

3. Transition of Target Buildings, 9. Summary of Operations and Future Outlook Investigation Report and Proposal of Rehabilitation Plan for the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu pp.1-8, 9-35, 69-91, 193-197 TNRICP 20.3

(3 論文) ミャンマー・バガン遺跡群の煉瓦造建築技法に関する研究 (その1) 煉瓦の寸法と製作技法(金善旭、友田正彦、マルティネス・アレハンドロ) 『2019年度大会(北陸)学術講演梗概集』 pp.389-390 日本建築学会 19.7

(3 論文) ミャンマー・バガン遺跡群の煉瓦造建築技法に関する研究 (その2) 煉瓦壁体の特徴的組積技法について(友田正彦、金善旭、マルティネス・アレハンドロ) 『2019年度大会(北陸)学術講演梗概集』 pp.391-392 日本建築学会 19.7

(4 編集) (Bijaya K. SHRESTHA, Masahiko TOMODA, Natsumi ASADA) The Second Mayor's Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Katre Valley on 12 March 2019 at Lalitpur Metropolitan City, Proceedings 82p Lalitpur Metropolitan City/TNRICP 20.1

(4 編集) (Bijaya Krishna SHRESTHA, TOMODA Masahiko, ASADA Natsumi) The Third Mayor's Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Katre Valley, 05 January 2020 at Kirtipur Municipality, Proceedings 114p Kirtipur Municipality/TNRICP 20.3

(4 編集) (NISHIMURA Yukio, TOMODA Masahiko, KANAI Ken, MORI Tomoko, ASADA Natsumi) Khokana, the vernacular village and its mustard-oil seed industrial heritage, Survey Report 133p TNRICP 20.3

(4 編集) (友田正彦、金井健、浅田なつみ) 『ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業 事業総括報告書』 204 p 東京文化財研究所 20.3

(4 編集) (TOMODA Masahiko, KANAI Ken, ASADA Natsumi, KANSHA Hiroo, VAR Elif Berna) Investigation Report and Proposal of Rehabilitation Plan for the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu 197p TNRICP 20.3

(4 編集) (TOMODA Masahiko, ASADA Natsumi) Detailed Plan for Construction Phase I, Rehabilitation of the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu 104p TNRICP 20.3

(4 編集) (友田正彦、金井健、マルティネス・アレハンドロ、ヴァル・エリフ・ベルナ) 『大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係』 91p 東京文化財研究所 20.3

(4 編集) (TOMODA Masahiko, KANAI Ken, KIM Sothin) Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor—Progress Report of 2019— 49p APSARA/TNRICP 20.3

(5 学会発表) バガンにおける歴史的モルタルの有機分析(渡邊緩子、友田正彦、マルティネス・アレハンドロ)

日本文化財科学会第36回大会 東京藝術大学 196.1-2
(5 学会発表) ミャンマー・バガン遺跡群の煉瓦造建築技法に関する研究 (その1) 煉瓦の寸法と製作技法 (金善旭、友田正彦、マルティネス・アレハンドロ) 2019年度日本建築学会大会 (北陸) 金沢工業大学扇が丘キャンパス 19.9.6

(5 学会発表) ミャンマー・バガン遺跡群の煉瓦造建築技法に関する研究 (その2) 煉瓦壁体の特徴的組積技法について (友田正彦、金善旭、マルティネス・アレハンドロ) 2019年度日本建築学会大会 (北陸) 金沢工業大学扇が丘キャンパス 19.9.6

(6 発表) The Japanese Approach to Wooden Heritage Conservation 1st ICOMOS International Wood Committee Course on Wooden Heritage Conservation Miramar Palace, San Sebastian 19.10.4

(6 発表) Some Consideration on The Superstructure of Ancient Vietnamese Wooden Buildings International Seminar "Identifying The Ancient Architecture of The Tran Dynasty (Vietnam) through Historical and Archaeological Data" Vietnam Academy of Social Sciences 19.10.18

(6 発表) アンコール遺跡保存修復の歴史と現状 文化遺産国際協力コンソーシアム第36回東南アジア・南アジア分科会「ICC25周年アンコール遺跡と日本の文化遺産保存国際協力」東京文化財研究所 19.11.29

(6 発表) バイヨン北経蔵修復工事 JSA結成、アンコール遺跡修復事業25周年記念シンポジウム 早稲田大学大久保キャンパス 19.12.21

(6 講演) 東南アジアにおける東京文化財研究所の文化遺産国際協力 国際シンポジウム「文化遺産を知り、そして伝える。ーメコンがつなぐ文化多様性ー」早稲田大学小野記念講堂 20.1.25

(6 講義) 海外における文化財保護の歴史 第9回文化財 (美術工芸品) 修理技術者講習会 経済産業省別館 19.10.21

(6 司会) ミャンマー/ラオスセッション総合討議モデレーター 国際研究会「メコンがつなぐ文化多様性ー東南アジア文化遺産研究の現在ー」早稲田大学戸山キャンパス 20.1.23

(7 所属学会) ICOMOS、東南アジア考古学会、日本建築学会、文化遺産国際協力コンソーシアム事務局長、一般社団法人日本イコモス国内委員会理事

中山 俊介 NAKAYAMA Shunsuke (特任研究員)

(3 論文) 煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性 (石田真弥、中山俊介) 『産業考古学会2019年度全国大会 (中間市大会) 研究発表講演論文集』 pp.30-33 産業考古学会 19.11.9

(5 学会発表) 煉瓦造建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性 (石田真弥、中山俊介) 産業考古学会2019年度全国大会 (中間市大会) なかまハーモニーホール会議室 19.11.9

(7 所属学会) 日本船舶海洋工学会、文化財建造物保存修理研究会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 高島炭坑整備活用委員会、伊豆の国市史跡等整備調査委員会 韮山反射炉部会、佐渡市建造物保存活用に関する専門家会議、史跡原爆ドーム保存技術委員会、国立科学博物館重要科学技術史資料登録委員会、第五福竜丸船体等保存検討委員会

(8 教育) 公立大学法人長岡造形大学非常勤講師

西和彦 NISHI Kazuhiko (文化遺産国際協力センター)

(1 共著) 「寺院」「城郭」佐藤信 (編著)、青木達司、浅野敬介、新井重行、伊東哲夫、井上大樹、岡本公秀、金井健、川畑純、黒坂貴裕、筒井忠仁、西和彦、西岡聡、山川均、山下信一郎、湯川紅美『新編 図説歴史散歩事典』山川出版社 pp.118-164, pp.192-224 19.8

(2 報告) HIA 参考指針、および「価値の属性」についての考え方 『世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か』』 pp.17-25 東京文化財研究所 20.3

(4 編集) 『各国の文化財保護法令シリーズ[24] 中国【中華人民共和国文化財保護法、中華人民共和国無形文化遺産法】』 111p 東京文化財研究所 20.3

(2 報告) 『遺産影響評価のための世界遺産と開発事業等の関係に関する基礎調査』 pp.3-10, pp.19-28, pp.46-51, pp.75-78 20.1

(2 報告) 「プブ・ラム邸 (ハー) の修理計画及び保存活用計画 (居住)」 『ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業ー保存候補民家の修理計画及び保存活用計画の検討ー文化遺産としての民家の価値評価手法の検討ー』 pp.25-27 東京文化財研究所 20.3

(2 報告) Conservation and Utilisation Plan for Phub Lham house (Haa) *Conservation and Utilisation of Historic Buildings in Bhutan—Examination of Restoration Plan and Utilisation Plan of Farmhouses—Examination of Value Evaluation of Farmhouses as Cultural Heritage—* pp.24-25 TNRICP 20.3

(4 記事) 亀井伸雄さんの功績と文化財保護の進展 『建築史学 第74号』 pp.163-168 建築史学会 30.3

(6 講義) 建築空間における文化遺産の考え方 東京大学 19.5.31

(6 講義) 文化遺産を守るための取り組みを学ぶ (西和彦、牧野真理子) 帝京大学八王子キャンパス 19.7.16

(6 発表) 世界遺産委員会でいま議論されていること 第25回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 東京文化財研究所 19.7.24

(6 パネリスト) パネルディスカッション (岡田保良、西和彦、岩崎まさみ、禰宜田佳男) 第25回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 東京文化財研究所 19.7.24

(6 発表) HIA 参考指針、および「価値の属性」について

の考え方 『世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か」』 東京文化財研究所 19.9.20
 (6 司会) 全体討論 『世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か」』 東京文化財研究所 19.9.20
 (6 講義) 日本における町並み保存の取り組み、People's participation/participatory process in conservation/heritage management and related international documents 文化遺産の保護に資する研修2019(集団研修) 一木造建造物の保存と修復 ACCU奈良事務所 19.9.26-27
 (6 司会) 総合討議 文化遺産の保護に資する研修2019(集団研修) 一木造建造物の保存と修復 ホテルフジタ奈良 19.10.3
 (6 講義) 国宝・重文に学ぶ日本建築 NHK文化センター NHK文化センター 青山 19.10.4, 11.8, 12.6
 (6 講演) 文化財建造物の防災 第46回千葉県史跡整備市町村協議会大会研修会 長南町中央公民館 19.10.7
 (6 発表) Community-centred approaches to the conservation of cultural heritage 国際会議「文化遺産保護と地域コミュニティ」 ホテルフジタ奈良 19.10.26
 (6 発表) 世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業について 日本ICOMOS第8小委員会 岩波書店一ツ橋ビル 19.11.8
 (6 発表) HIAに関する新ガイダンスについて 日本ICOMOS第8小委員会 岩波書店一ツ橋ビル 20.1.24
 (6 講演) 給水塔をどのように後世に伝えるか 駒沢給水塔風景資産保存会セミナー 鶴巻区民センター 20.2.2
 (7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、建築史学会
 (7 委員会等) 彦根城世界遺産登録にかかる学術検討委員会、平泉の文化遺産世界遺産拡張登録検討委員会、「平泉一仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群一」の遺産影響評価基準等策定検討委員会、(公財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所文化遺産保護協力事業委員会、国立西洋美術館活用・公開方針検討委員会、東京国立博物館本館保存活用計画検討WG、独立行政法人国立文化財機構重要文化財保存活用計画策定WG
 (8 教育) 東京理科大学理工学部非常勤講師、筑波大学大学院人間総合科学研究科非常勤講師

早川典子 HAYAKAWA Noriko (保存科学研究センター)

(1 刊行図書) (早川典子、宇高健太郎)『イチからつくる のり(接着剤)』 一般社団法人農山漁村文化協会 20.1
 (1 共著) 第32章 高松塚・キトラ古墳壁画の微生物汚損の酵素処理(佐藤嘉則、早川典子)『酵素トランスデューサーと酵素技術展開』 シーエムシー出版 pp.300-304 20.3
 (3 論文) 紙に付着した天然ゴム系粘着テープ除去方法

の検討(内田優花、早川典子)『文化財保存修復学会誌』62 pp.1-13 20.3
 (3 論文) X線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査(犬塚将英、早川典子、大場詩野子、早川泰弘、高妻洋成)『保存科学』59 pp.103-114 20.3
 (5 学会発表) ミャンマー産漆塗膜の硬度試験(倉島玲央、早川典子) 日本文化財科学会第36回大会 東京藝術大学 19.6.1
 (5 学会発表) 画絹の物性に及ぼす断面形状・殺蛹方法の影響 一大和文華館所蔵作品調査データ含めて一(早川典子、岡部迪子、濱田翠、山府木碧、菊池理予、古川攝一、秋本賀子、志村明) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22
 (5 学会発表) 五島列島産マフノリの抽出条件に対する粘度変化(相澤真凜、早川典子、本多貴之) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22
 (5 学会発表) 真鍮泥が紙の劣化に及ぼす影響(貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22
 (5 学会発表) 膠の調製等に関する研究(宇高健太郎、早川典子、藤井佑果、大場詩野子、岡部迪子、柏谷明美) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22
 (5 学会発表) 「まめのり」の脂質、タンパク質、糖質成分の反応熱分解GC/MSによる検討(大橋有佳、稲葉政満、塚田全彦、早川典子) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22
 (5 学会発表) 有機溶媒を含んだゲルの文化財クリーニングへの適用(藤井佑果、早川典子、山本記子、佐野千絵) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22
 (5 学会発表) 高松塚・キトラ両古墳壁画の微生物汚れを除去する酵素(佐藤嘉則、木川りか、貴田啓子、川野邊 渉、早川典子) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22
 (6 講演) 文化財の保存修復現場における化学—高分子材料の利用を中心に— 第116回東海技術サロン 今池ガスビル(名古屋市) 19.9.3
 (6 講演) 科学的知識と装演技術の展開—近年の事例紹介— 第25回国宝修理装演師連盟定期研修会 京都府民総合交流プラザ京都テルサ 19.11.15
 (6 講演) 文化財修理の技法と材料に関する科学研究—近年の事例 第2回関東地区博物館協会研究会 千葉県立現代産業科学館 19.11.1
 (6 講演) 文化財クリーニング手法の開発—近年の研究紹介— 文化財修復処置に関する研究会—クリーニングとゲルの利用について— 東京文化財研究所 19.10.11
 (6 講義) 修理技術者に必要な科学 国宝修理演師連盟

新任者研修 京都国立博物館 19.4.18
 (6 講義) 修理技術者に必要な科学 (中・上級) 国宝
 修理装演師連盟中級上級者研修 京都国立博物館
 19.7.26
 (6 講義) 保存科学 文化財建造物修理主任技術者講習
 会普通コース 旧醸造試験所 第一工場 19.8.28
 (6 講義) On Adhesives Used in the Restoration of Japanese
 Paintings 国際研修「紙の保存と修復」2019 東京文化
 財研究所 19.9.10
 (6 講義) 材料及び技術: 漆、膠等 第9回文化財 (美
 術工芸品) 修理技術者講習会 経済産業省別館
 19.10.24
 (6 講義) Chemistry of Urushi-1- Workshop on Conservation
 and Restoration of Urushi Objects 2019 ケルン東洋美術
 館 19.12.3
 (6 講義) Chemistry of Urushi-2- Workshop on Conservation
 and Restoration of Urushi Objects 2020 ケルン東洋美術
 館 19.12.4
 (6 司会) 膠文化研究会第12回公開研究会「膠千年」
 龍谷大学 19.9.29
 (7 所属学会) IIC、高分子学会、日本文化財科学会、
 文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会
 (7 委員会等)「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画
 ワーキング・グループ 材料調査班専門委員、国宝修
 理装演師連盟修理技術者資格制度委員会委員、厳島神
 社修理委員会委員、鎌倉芳太郎資料修理委員会委員
 (8 教育) 東京藝術大学大学院併任教授

早川 泰弘 HAYAKAWA Yasuhiro (保存科学研究センター)
 (2 報告) 国宝日月四季山水図の彩色材料調査 (早川泰
 弘、城野誠治) 『国宝日月四季山水図 光学調査報
 告書』 東京文化財研究所 19.10
 (2 報告) 春日権現験記絵の彩色材料調査 (巻七・巻八)
 (早川泰弘、城野誠治) 『春日権現験記絵 巻七・巻
 八 光学調査報告書』 東京文化財研究所 20.2
 (2 報告) 綿貫観音山古墳出土金属製品の材料調査
 『保存科学』59 pp.133-151 東京文化財研究所 20.3
 (2 報告) 平等院阿弥陀如来坐像胎内月輪および保存箱
 の生物被害防除対策 (佐藤嘉則、早川泰弘) 『鳳翔学
 叢』16 20.3
 (2 報告) 平等院鳳凰堂東面中央旧扉絵画面に関する光
 学調査 (早川泰弘、城野誠治) 『鳳翔学叢』16 20.3
 (3 論文) X線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳
 壁画の調査 (犬塚将英、早川典子、大場詩野子、早川
 泰弘、高妻洋成) 『保存科学』59 pp.103-114 20.3
 (5 学会発表) 国宝日月四季山水図の蛍光X線分析 (早
 川泰弘、城野誠治) 日本文化財科学会第36回大会
 東京藝術大学 19.6.1
 (5 学会発表) 琉球漆器 朱漆楼閣山水人物箔絵盆の科
 学的調査 (山府木碧、倉島玲央、犬塚将英、早川泰弘、
 小林公治) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大

学八王子キャンパス 19.6.22
 (6 講演) 琉球王国文化遺産の科学分析 琉球王国文化
 遺産集積・再興事業報告会 沖縄県立博物館・美術
 館 20.2.16
 (7 所属学会) 日本文化財科学会、日本分析化学会、文
 化財保存修復学会
 (7 委員会等) 琉球王国文化遺産集積・再興事業実施計
 画に係る監修委員、首里城美術工芸品等管理委員会
 委員、法隆寺金堂壁画保存活用委員会壁画ワーキン
 ググループ材料調査班専門委員、岩手県立博物館に
 おける文化財への不適切行為事案に係る調査チーム
 アドバイザー
 (8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科連携教授、金
 沢美術工芸大学非常勤講師

林 美木子 HAYASHI Mikiko (アソシエイトフェロー)
 (3 論文) 計量分析による熊本地震と東日本大震災での
 文化財レスキュー活動の比較 (村井源、二神葉子、内
 藤百合子、林美木子、山梨絵美子、岡田健) 『人文科
 学とコンピュータシンポジウム論文集 情報処理学会
 シンポジウムシリーズ』Vol. 2019, No. 1 pp. 301-308
 19.12
 (5 学会発表) 吸水した紙試料の水分特性 (林美木子、
 佐野千絵) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大
 学八王子キャンパス 19.6.22
 (5 学会発表) 気候変動による日本の木質文化財への影
 響 (Mikiko HAYASHI, Peter BRIMBLECOMBE) 日本文化
 財科学会第36回大会 東京藝術大学 19.6.1-2
 (5 学会発表) 東日本大震災における被災紙資料の安定
 化処理の改良と保存科学的研究 (Mikiko HAYASHI, Chie
 SANO) 2019東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
 大田KT人材開発院 (大田 (韓国)) 19.8.29-30
 (5 学会発表) Stabilization processing and microbial control
 of tsunami damaged documents (Mikiko HAYASHI, Yuka
 UCHIDA, Chie SANO) ICOMNATHIST 2019 (第25回ICOM
 (国際博物館会議) 京都大会 2019) 大阪市立自然史博物
 館 19.9.5
 (5 学会発表) 計量分析による熊本地震と東日本大震災
 での文化財レスキュー活動の比較 (村井源、二神葉子、
 内藤百合子、林美木子、山梨絵美子、岡田健) 人文
 科学とコンピュータシンポジウム2019 立命館大学大
 阪いばらきキャンパス 19.12.15
 (6 司会) 令和元年度防災ネットワーク推進事業研修
 会「北海道における文化財防災を考える」北海道立近
 代美術館 19.12.19
 (7 所属学会) 空気調和・衛生工学会、日本建築学会、
 日本文化財科学会、文化財保存修復学会

藤井 佑果 FUJII Yuka (アソシエイトフェロー)
 (5 学会発表) 有機溶媒を含んだゲルの文化財クリーニ
 ングへの適用 (藤井佑果、早川典子、山本記子、佐野

千絵) 文化財保存修復学会 第41回大会 帝京大学
八王子キャンパス 19.6.22

(5 学会発表) 膠の調整等に関する研究 (宇高健太郎、
早川典子、藤井佑果、大場詩野子、岡部迪子、柏谷明美)
文化財保存修復学会 第41回大会 帝京大学八王子キ
ャンパス 19.6.22

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

二神 葉子 FUTAGAMI Yoko (文化財情報資料部)

(1 公刊図書) 石村智、宮田繁幸、二神葉子、岩崎まさ
み『無形文化遺産用語集』東京文化財研究所 20.3

(3 論文) 計量分析による熊本地震と東日本大震災での
文化財レスキュー活動の比較 (村井源、二神葉子、内
藤百合子、林美木子、山梨絵美子、岡田健) 『人文科
学とコンピュータシンポジウム論文集 情報処理学会
シンポジウムシリーズ』Vol. 2019, No. 1 pp.301-308
19.12

(3 論文) 無形文化遺産の保護に関する第14回政府間委
員会の概要と課題『無形文化遺産研究報告』14 pp.1-
21 20.3

(5 学会発表) Two solutions for orthographical variants
problem (OYAMADA Tomohiro, FUTAGAMI Yoko, MISHIMA
Taiki) 2019 CIDOC annual conference (第25回 ICOM (国
際博物館会議) 京都大会 2019) 稲盛記念会館 19.9.3

(5 学会発表) 計量分析による熊本地震と東日本大震災
での文化財レスキュー活動の比較 (村井源、二神葉子、
内藤百合子、林美木子、山梨絵美子、岡田健) じん
もんこん2019 人文科学とコンピュータシンポジウム
立命館大学大阪いばらきキャンパス 19.12.15

(6 発表) 文化財の記録作成、データベース化の意義
文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー
東京文化財研究所 19.12.2

(6 講演) 文化財レスキューについて—記録の側面から
— 令和元年度防災ネットワーク推進事業研修会「北
海道における文化財防災を考える」北海道立近代美
術館 19.12.19

(6 講演) 近年の世界文化遺産の保全と遺産影響評価に
ついて「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産保存
活用連絡会議 青森国際ホテル 20.2.17

(7 所属学会) ICOMOS、地理情報システム学会、日本
第四紀学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
(7 委員会等) 文化審議会世界文化遺産部会臨時委員

米沢 玲 MAIZAWA Rei (文化財情報資料部)

(3 論文) 二幅の不動明王画像—禅林寺本と高貴寺本—
『美術研究』430 pp.27-40 東京文化財研究所
20.3

(4 記事) 「物故者」内田啓一、高田良信 『日本美術年
鑑』平成30年版 pp.430-431、441 東京文化財研究
所 20.3

(6 講演) 大徳寺伝来五百羅漢図と『禅苑清規』—描か

れた僧院生活— 第53回オープンレクチャー 東京
文化財研究所 19.11.1

(6 発表) 仏教儀礼と茶 茶の湯文化学会例会 五島美
術館 20.2.29

(7 所属学会) 美学会、美術史学会、仏教芸術学会、三
田芸術学会

(8 教育) 清泉女子大学学芸員課程非常勤講師

前川 佳文 MAEKAWA Yoshifumi (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) Capacity Development Project Improvement
for the Conservation and Management Systems of Wall
Paintings in the Republic of Turkey 56p 東京文化財
研究所 20.3

(2 報告) Capacity Building Report -Mission N°5-; study,
risk assessment and intervention proposal of the wall
paintings decorating the southern wall of Lokahteikpan
50p 東京文化財研究所 20.3

(2 報告) Conservation of Turkish Wall Paintings; a
guideline for emergency treatments 2017-2020 (Daniela
Murphy, Guido Botticelli, Fabrizio Bandini, Alberto Felici,
Stefania Franceschini, Yoshifumi Maekawa) 136p 東
京文化財研究所 19.6

(2 報告) Conservation Treatments at Khonsuemheb
Tomb, Wall Paintings 2020 (Yoshifumi Maekawa, Daniela
Murphy, Stefania Franceschini, Asmaa Saeed) 15p
Parco Archeologico di Pompei 20.1

(2 報告) Me-taw-ya Pagoda Project Capacity Building; a
Conservation Project for the Repair, Strengthening and
Recovery of temple 1205a, Mission report No.8 (Daniele
Angello, Yoshifumi Maekawa) 15p 東京文化財研究
所 20.1

(4 資料紹介) 世界遺産 バガン遺跡の壁画保存修復
林先生の初耳学 毎日放送 20.1.13

(4 テレビ出演) ミャンマー 日本の技術をバガン遺跡
修復に NHKワールド News Room Tokyo NHK
19.9.30

(4 ラジオ出演) 日本が技術支援するミャンマー・バガ
ン遺跡の壁画修復 マイあさ! ワールドリポート
NHK 19.8.5

(5 学会発表) ポンペイ遺跡「アポロの家」における彩
色層補強材の除去方法に関する実験研究 (前川佳文、
モニカ・マルテッリ・カスタルディ、ガイド・ボッテ
ィチェリ、ステファニア・フランチェスキーニ)

日本文化財科学会第36回大会 東京藝術大学 19.6.1
(5 学会発表) コンスウエムヘブ墓壁画の保存修復に
向けた事前調査研究 (前川佳文、ダニエラ・マーフィ
ー、ステファニア・フランチェスキーニ、近藤二郎、
河合望) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学
八王子キャンパス 19.6.22

(5 学会発表) ミャンマー・バガン考古遺跡群における
壁画保存修復に向けた調査研究—バガン王朝と復

興期における壁画の比較研究—(嶋原由美、前川佳文) 文化財保存修復学会第41回大会 帝京大学八王子キャンパス 19.6.22

(6 発表) The field course - Challenges and Issues to Wall Painting Conservation Conservation of Turkish Wall Paintings: a guideline for emergency treatments Cappadocia University 19.6.15

(6 発表) Lokahteikpan Wall Painting Project, pagoda 1580 (Yoshifumi Maekawa, Daniela Murphy) Current and future project reports of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties Bagan branch of the Department of Archaeology, National Museum and Library 20.1.23

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会、Associazione Bastioni, Associazione Amici dell'Opificio (7 委員会等) 金沢市石製文化財保存検討委員会委員

前原 恵美 MAEHARA Megumi (無形文化遺産部)

(2 報告) 楽器を中心とした文化財保存技術の調査報告 3 (前原恵美、橋本かおる) 『無形文化遺産研究報告』14 pp.23-50 20.3

(3 論文) 邦楽調査掛による常磐津節五線譜化の考察 『無形文化遺産研究報告』14 pp.51-78 20.3

(2 報告) 芸能を支えるもう一つの技—楽器製作をめぐる— 『武蔵野大学 能楽資料センター紀要』31 pp.125-138 20.3

(4 解説) 国立劇場主催・令和元年10月邦楽公演「浮世絵の音風景」プログラム曲目解説(長唄、常磐津節、義太夫節、一中節、新内節) 国立劇場主催・令和元年10月邦楽公演「浮世絵の音風景」プログラム 19.10

(4 連載) 音の浮世絵第11回 宮城會々報 232 巻頭見開きカラー 箏曲宮城會 19.7

(4 連載) 音の浮世絵第12回 宮城會々報 233 巻頭見開きカラー 箏曲宮城會 20.1

(5 学会発表) もう一つの及川コレクション—及川尊雄氏収集紙媒体資料—について (前原恵美、橋本かおる、鎌田紗弓、曾村みづき) 東洋音楽学会東日本支部 第113回定例研究会 共立女子大学 20.2.1

(6 発表) 韓国における国家無形文化財(楽器匠)の保存・活用とその周辺 研究成果発表会 無形遺産院(韓国) 19.7.18

(6 講演) 芸能を支えるもう一つの技—楽器製作をめぐる— 武蔵野大学公開講座関連講座 武蔵野大学 19.7.25

(7 所属学会) 楽劇学会、文化財保存修復学会、東洋音楽学会

(7 委員会等) 教科用図書検定調査審議会第6部会音楽小委員会委員、文化庁調査員(文化財第一課 非常勤)、伝統芸能用具・原材料に関する調査委員

(8 教育) 桐朋学園大学非常勤講師

牧野 真理子 MAKINO Mariko (アソシエイトフェロー)

(4 編集) 『第26回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs II—世界では、いま何が語られているのか—」報告書』64p 文化遺産国際協力コンソーシアム 20.3

(6 講義) 文化遺産を守るための取組みを学ぶ(西和彦、牧野真理子) 帝京大学八王子キャンパス 19.7.16

松保 小夜子 MATSUHO Sayoko (アソシエイトフェロー)

(4 編集) 『第25回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向—世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産—」報告書』50p 文化遺産国際協力コンソーシアム 20.3

(4 編集) 『文化遺産国際協力コンソーシアム令和元年度国際協力調査(インドネシア)報告書』80p 文化遺産国際協力コンソーシアム 20.3

(7 所属学会) 日本生活学会

丸川 雄三 MARUKAWA Yuzo (客員研究員)

(3 論文) Creation of the "Japanese Animated Film Classics" Database *Senri Ethnological Studies*, 102 pp.145-156 19.12

(4 エッセイ) 「知の世界」への入り口をつくる 『鴨東通信』108 pp.16-17 思文閣出版 19.4

(5 学会発表) 文化財デジタルアーカイブズの活用を目的としたメタデータ自動付与の研究—文化遺産オンラインにおける過去の取組みを例に— 2019年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会 成安造形大学 19.8-9

(7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会

(8 教育) 総合研究大学院大学比較文化学専攻担当教員

マルティネス・アレハンドロ MARTINEZ Alejandro

(アソシエイトフェロー)

(1 共著) 「ヨーロッパの木造建築修理について」(浜島正士、村上昶一、平井俊行、高品正行、近藤光雄、山岸常人、村田健一、藤井恵介、益田兼房、西川英佑、マルティネス・アレハンドロ) 『文化財建造物の保存修理を考える—木造建築の理念とあり方』山川出版社 pp.160-172 19.4

(1 共著) 「第4章 ヨーロッパにおけるリコンストラクション—再建建築の世界遺産登録—」(海野聡、児島大輔、マルティネス・アレハンドロ、加藤悠希、青柳憲昌、エマニュエル・マレス、川本悠紀子、高田和徳、田中弘志、前川歩) 『文化遺産と〈復元学〉—遺跡・建築・庭園復元の理論と実践—』吉川弘文館 pp.65-80 19.11

(3 論文) Conservación del patrimonio construido en madera en Japón (I): orígenes y prácticas de conservación tradicionales *AITM*, 318 pp.26-37 19.4

(3 論文) 伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧

比較研究 (1)：ウェールド・アンド・ダウンランド野外博物館 (イギリス) における伝統的木造建築技術に関する研修の事例 『日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠』 pp.59-60 19.9

(3 論文) ミャンマー・バガン遺跡群の煉瓦造建築技法に関する研究 その1 煉瓦の寸法と製作技法 (金善旭、友田正彦、マルティネス・アレハンドロ) 『日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠』 pp.389-390 19.9

(3 論文) ミャンマー・バガン遺跡群の煉瓦造建築技法に関する研究 その2 煉瓦壁体の特徴的組積技法について (友田正彦、金善旭、マルティネス・アレハンドロ) 『日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠』 pp.391-392 19.9

(5 学会発表) 伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究 (1)：ウェールド・アンド・ダウンランド野外博物館 (イギリス) における伝統的木造建築技術に関する研修の事例 日本建築学会2018年度大会 (北陸) 金沢工業大学 19.9.6

(5 学会発表) ミャンマー・バガン遺跡群の煉瓦造建築技法に関する研究 その1 煉瓦の寸法と製作技法 (金善旭、友田正彦、マルティネス・アレハンドロ) 日本建築学会2018年度大会 (北陸) 金沢工業大学 19.9.6

(5 学会発表) ミャンマー・バガン遺跡群の煉瓦造建築技法に関する研究 その2 煉瓦壁体の特徴的組積技法について (友田正彦、金善旭、マルティネス・アレハンドロ) 日本建築学会2018年度大会 (北陸) 金沢工業大学 19.9.6

(6 発表) スペインにおける「コンサベーションアーキテクト」について 第2回日本イコモス国内委員会第16小委員会 (コンサベーションアーキテクト) 会合文化財保存計画協会 19.8.5

(6 講義) 木造建築遺産保存の考え方と技法 東京芸術大学大学院講義 修復計画論 東京文化財研究所 19.5.16

(6 司会) 建築歴史・意匠 保存：海外事例 (2) 日本建築学会2018年度大会 (北陸) 金沢工業大学 19.9.6

(7 所属学会) 日本建築学会、建築史学会

三上 豊 MIKAMI Yutaka (客員研究員)

(4 映像) 『名井萬龜アトリエ 5分』 豊島区 19.9.27

(4 映像) 『難波田龍起作品史 1928-1996 アトリエに遺された作品による (作品篇、解説篇)』 『ときの忘れもの』 19.9.30

(4 映像) 『紙片現代美術視 篠原佳尾旧蔵資料より』 121p 19.6.20

(4 映像) 『生尾慶太郎旧蔵資料から ある美術資料覚え』 102p 19.9.25

(6 講演) 第1回概論「ひとはなぜ絵を描くのか？」 町田市市民提案型事業「ひとはなぜ絵を描くのか？」

町田市生涯学習センター 20.1.19

(6 講演) 第5回ワークショップ「絵の外側を描く」 町田市市民提案型事業「ひとはなぜ絵を描くのか？」

町田市生涯学習センター 20.3.16

(7 委員会等) 町田市立国際版画美術館運営協議会委員、独立行政法人国立美術館の評価等に関する有識者会議委員、埼玉県立近代美術館協議会委員

(8 教育) 和光大学表現学部芸術学科教授

三島 大暉 MISHIMA Taiki (アソシエイトフェロー)

(4 エッセイ) 文化財情報をつなげる 『TOBUNKEN NEWS』71 pp.37-39

(5 学会発表) Two solutions for orthographical variants problem (OYAMADA Tomohiro, FUTAGAMI Yoko, MISHIMA Taiki) 2019 CIDOC annual conference (第25回ICOM (国際博物館会議) 京都大会2019) 稲盛記念会館 19.9.3

(5 学会発表) Aggregation of Regional Cultural Heritage Information in Japan Dublin Core Metadata Initiative Annual International Conference in 2019 National Library of Korea 19.9.23

(6 発表) Linked Dataを用いた地域文化遺産情報の集約 令和元年度第3回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 19.6.25

(6 講習会) 情報セキュリティの最新動向 令和元年度第1回情報システム部会研修会 東京文化財研究所 19.10.1

(7 所属学会) デジタルアーカイブ学会、情報処理学会

水谷 悦子 MIZUTANI Etsuko (保存科学研究センター)

(2 報告) ハギア・ソフィア大聖堂の屋内外環境が壁画劣化に及ぼす影響—相図による塩析出環境条件の検討— (水谷悦子、小椋大輔、石崎武志、佐々木淑美、安福勝) 『保存科学』59 pp.89-102 20.3

(5 学会発表) マイクロフォーカスX線CTによるレンガの乾燥過程における塩析出性状に関する検討 (水谷悦子、小椋大輔、安福勝) 日本文化財科学会第36回大会 東京藝術大学 19.6.1

(5 学会発表) 歴史的組積造建築物の塩類風化による劣化メカニズムとその予測 (その2) ボルツマン変換による焼成煉瓦の塩溶液拡散係数の同定とその低下要因の考察 (水谷悦子、小椋大輔、安福勝) 2019年度日本建築学会近畿支部 大阪工業技術専門学校 19.6.23

(5 学会発表) 歴史的煉瓦造建築物の塩類風化に関する研究—塩析出環境条件についての検討および現地材料の吸水実験— (西村奏香、小椋大輔、水谷悦子) 2019年度日本建築学会近畿支部 大阪工業技術専門学校 19.6.23

(5 学会発表) 歴史的組積造建築物の塩類風化メカニズムとその予測—NaCl塩溶液を含ませたレンガの乾燥過

程のマイクロフォーカスX線CTによる非定常塩析出性状の分析(水谷悦子、小椋大輔、安福勝) 2019年度日本建築学会大会(北陸) 金沢工業大学 19.9.3
(5 学会発表) 歴史的煉瓦造建築物の塩類風化に関する研究—現地建物のレンガ及びモルタルのX線撮影による吸水実験—(西村奏香、小椋大輔、水谷悦子) 2019年度日本建築学会大会(北陸) 金沢工業大学 19.9.3
(7 所属学会) 日本建築学会、日本文化財科学会

野城 今日子 YASHIRO Kyoko (アソシエイトフェロー)

(4 記事) 間島秀徳 アースダイビング—Earth Diving—展 展覧会評「『日本』画家、間島秀徳」『SaTetsu +』9 pp.18-19 19.5
(4 記事) 小田原のどか編著『彫刻1』書評『屋外彫刻調査保存研究会会報』6 pp.118-119 20.1
(6 発表) 「彫刻家・小室達 基礎研究」文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 19.8.26
(7 所属学会) 美術史学会、成城美学美術史学会

安永 拓世 YASUNAGA Takuyo (文化財情報資料部)

(1 共著) 「第4章 近世から近代の薬師寺」「大黒天図 明誉古礪筆」「薬師浄土曼荼羅図 明誉古礪筆」「特集4 薬師寺に残る「長沢蘆雪」京都画壇の異彩が描いた傑作」(藤岡穰、金子隆之、安永拓世) 『アート・ビギナーズ・コレクション もっと知りたい 薬師寺の歴史』東京美術 pp.56-61 20.3
(3 論文) 伝祇園南海筆「山水図巻」(東京国立博物館蔵) について 『美術研究』428 pp.19-48 19.9
(3 論文) 江戸時代の絵画における特殊な基底材の使用に関する基礎的研究—呉春筆「白梅図屏風」(逸翁美術館蔵) を中心に— 『鹿島美術研究』年報第36号別冊 pp.114-126 19.11
(4 解説) 「3 猿・鹿図」「4 騎馬狩獵図 江村北海賛」「5 龍山落帽・桃李園図屏風」「10 酔杜馬上図 中井竹山賛」「16 羅漢図 雨森章迪賛」「18 羅漢図 雨森章迪賛」「21 平家物語大原小鹿画賛」「27 芭蕉幻住庵記画賛」「28 芭蕉像」「32 五月雨図 高井几董賛」「34 白梅図屏風」「コラム 呉春の謎多き最高傑作」 「2019展示Ⅳ 池田市制施行80周年記念 画家「呉春」—池田で復活(リボーン)！」 逸翁美術館 19.9
(4 記事) 売立目録から見える真の玉堂作品 『玉堂清韻社報』9 pp.1 浦上家史編纂委員会 19.10
(4 記事) 「物故者」鬼原俊枝 『日本美術年鑑』平成30年版 pp.452-453 東京文化財研究所 20.3
(6 発表) 売立目録デジタルアーカイブについて 東京文化財研究所 文化財情報資料部 研究会「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望—売立目録の新たな活用を目指して—」 東京文化財研究所 セミナー室 20.2.25

(6 発表) 売立目録デジタルアーカイブから浮かび上がる近世絵画の諸問題 東京文化財研究所 文化財情報資料部 研究会「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望—売立目録の新たな活用を目指して—」 東京文化財研究所 セミナー室 20.2.25
(6 講演) 呉春作品に見るテキストとイメージの往還—蕪村・漢詩人・白梅図屏風— 逸翁美術館「2019展示Ⅳ 池田市制施行80周年記念 画家「呉春」—池田で復活(リボーン)！」関連イベント「呉春の魅力に迫る、フレッシュ対決講座 ③呉春作品をめぐる絵画vs文学—イメージとテキストのシナジー」 池田文庫 多目的室 19.11.17
(6 講演) 京と浪花をいきつ戻りつ—絵と絵師のはざままで— 中之島香雪美術館 企画展「上方界限、絵師済々」記念講演会 中之島会館 20.2.1
(6 司会) 「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望—売立目録の新たな活用を目指して—」(山口隆介、山下真由美、月村紀乃、安永拓世) 東京文化財研究所 文化財情報資料部 研究会 東京文化財研究所 セミナー室 20.2.25
(6 パネリスト) 「呉春の魅力に迫る、フレッシュ対決講座 ③呉春作品をめぐる絵画vs文学—イメージとテキストのシナジー」(仙海義之、馬淵美帆、安永拓世) 逸翁美術館「2019展示Ⅳ 池田市制施行80周年記念 画家「呉春」—池田で復活(リボーン)！」関連イベント 池田文庫 多目的室 19.11.17
(7 所属学会) 美術史学会、和歌山地方史研究会
(7 委員会等) 八尾市史専門部会員
(8 教育) 慶應義塾大学文学部非常勤講師

山田 大樹 YAMADA Hiroki (客員研究員)

(2 報告) EPWG主催によるウェビナーの報告 日本イコモス国内委員会インフォメーション誌, 11-2号 pp.21-22 20.9
(2 報告) 2.1.3.建物の変遷に関する調査、5.3.歴史的集落保全に関する行政ネットワーク支援 『ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業』 pp.37-41, pp.185-188 20.3
(2 報告) 3.3. Investigation of Finishing Layers on Wall Surface Investigation Report and Proposal of Rehabilitation Plan for the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu, pp.92-108 20.3
(2 報告) 2.6.Townscape, 4.2.Analysis for Damaged Houses Khokana, the vernacular village and its mastard-oil seed industrial heritage:Survey Report, pp.39-50, pp.94-99 20.3
(6 講義) ペルシャ建築とその伝播 明治大学 19.4.26
(6 発表) Evaluation of the Revitalization Project of Atiq Aquare in Isfahan:Based on the Interview Survey to Shopkeepers The 10th International Policy Forum for Urban

Growth and Conservation Tabriz Islamic Art University, Tabriz 198.30

(6 発表) Meaning and Purpose of Engineers' Workshop Learning Sharing Program on Conservation of Historic Settlement Krishna Catering, Kirtipur 19.9.21

(6 発表) Report on the case of Kathmandu International research project to develop methodologies to develop integrated governance policies to protect cultural heritage ICOMOS headquarter, Paris 20.03.05

(6 講演) Japan's Support program and challenges to post-disaster reconstruction of Heritage and Historic settlements A Seminar on Post-disaster Heritage Reconstruction and Resilient Society - Perception of Japanese experts/contributors- 東京都市大学 19.11.2

(6 講演) Sustainable Development For Historical-Cultural Heritage: Preservation & Conservation The United Architects of the Philippines Makati Chapter 42nd Anniversary Celebration Mayuree I Dusit Thani Hotel, Manilla 19.11.21

(7 所属学会) ICOMOS、日本第四紀学会

(7 委員会等) イコモス若手専門家作業部会日本代表幹事

山梨 絵美子 YAMANASHI Emiko (副所長)

(2 報告) 池袋、パリのモンパルナスと東アジアの美術交流 『池袋モンパルナス回遊美術館講演録』 pp.28-48 立教大学 19.8

(3 論文) 日本近代洋画における自画像の変遷 『「自身への眼差し 自画像」展図録』 pp.6-13 都城市立美術館 19.10

(3 論文) 藤田嗣治と黒田清輝をつなぐもの 『師・黒田清輝 妻・鴫田とみ 藤田嗣治 東京美術学校から渡仏へ』展図録 pp.6-11 秋田県立美術館 19.11

(4 解説) 日本の暮らしの美を伝えた画家一笠木治郎吉「おかえり「美しき明治」」展図録 府中市美術館 19.9

(4 解説) 作家・作品解説 『「自身への眼差し 自画像」展図録』pp.71-111 都城市立美術館 19.10

(4 解説) 藤田嗣治と黒田清輝をつなぐもの 『秋田魁新報』 秋田魁新報社 19.12.10

(4 解説) 春日権現験記絵巻の光学調査 『春日権現験記絵巻巻七・巻八 光学調査報告書』 pp.6-9 東京文化財研究所 20.2

(4 解説) Optical Research on the Hand scroll of Kasuga Gongen Genki 『春日権現験記絵巻巻七・巻八 光学調査報告書』 pp.10-13 東京文化財研究所 20.2

(4 記事) 「物故者」松樹路人 『日本美術年鑑』平成30年版 p.459 東京文化財研究所 20.3

(6 講演) 池袋、パリのモンパルナスと東アジアの美術交流 池袋モンパルナス回遊美術館講演会 立教大学 19.5.16

(6 講演) 矢代幸雄の東洋美術総目録構想とデジタル時代の美術アーカイヴ 国際シンポジウム「カタログ・レゾネ デジタル時代のアーカイブとドキュメンテーション」 国立西洋美術館 19.7.10

(6 講演) 明治期の美術における日英交流 「おかえり美しき明治」展講演会 府中市美術館 19.10.26

(6 講演) 自画像を見るいくつかの視点 「自画像 キャンバスの中の画家たち」展講演会 都城市立美術館 19.11.10

(6 講演) 藤田嗣治と黒田清輝―裸婦と構想画という視点から 「師・黒田清輝、妻・鴫田とみ 藤田嗣治 東京美術学校から渡仏へ」展講演会 秋田県立美術館 19.12.15

(6 パネリスト) Modern Art History of East Asia in the Digital Age: Collaborations beyond National Borders The Asian Studies Conference Japan 埼玉大学 19.7.1

(7 委員会等) 秋田市千秋美術館協議会美術作品等評価審査委員会委員、江戸東京博物館資料収蔵委員会委員、大分市美術館美術品収集委員会委員、迎賓館の改修に関する懇談会委員、東京都美術館運営委員会委員、千葉県文化財保護審議会委員日光市美術作品等収集審査会委員、文化庁文化審議会美術品補償制度部会委員、文化庁文化審議会文化財分科会委員、静岡県立美術館専門委員、横須賀市美術館美術品選定評議委員

5. 研究交流

| | |
|---------------|-----|
| 1. 職員の海外渡航 | 169 |
| 2. 招へい研究員等 | 176 |
| 3. 海外研究者等の来訪 | 177 |
| 4. 主要来訪者、施設見学 | 178 |

1. 職員の海外渡航

| 氏名 | 渡航先 | 期間 | 目的 | 経費 |
|------------------|----------------------------------|--------------|---|--------------------------|
| 小林公治 | 韓国 | R1.4.21～4.24 | 韓国内での調査及び打ち合わせ | 科研費、シ07 |
| 前川佳文 | イタリア | R1.5.11～5.23 | ボンペイにおける壁画の調査研究 | 科研費 |
| 友田正彦 | カンボジア、 ネパール | R1.5.19～5.29 | タネイ寺院遺跡東門の建築調査(カンボジア)／ハヌマンドカ王宮修復事業に関する会議ほか(ネパール) | コ02、受託(文化庁ネパール) |
| 浅田なつみ | カンボジア | R1.5.19～6.3 | タネイ寺院遺跡東門の建築調査、タネイ寺院遺跡東門の修復工事に関する協議、ICC技術会合への出席及び発表 | コ02 |
| マルティネス アレハンドロ | | R1.5.27～6.13 | | |
| 友田正彦 | | R1.6.1～6.3 | | |
| 金井 健 | | R1.6.1～6.13 | | |
| 安倍雅史 | イラン | R1.6.1～6.10 | カレ・クブ遺跡の出土資料の整理と分析 | 科研費 |
| 前川佳文 | トルコ | R1.6.8～6.18 | カッパドキアにおける壁画の保存管理に関する研修の実施 | コ03 |
| 加藤雅人 | カナダ | R1.6.10～6.14 | 在外日本古美術品保存修復協力事業における現地作品調査 | コ04 |
| 間舎裕生 | カンボジア | R1.6.19～6.29 | タネイ寺院遺跡東門の修復工事に係る発掘調査 | コ02 |
| 西 和彦 | アゼルバイジャン | R1.6.28～7.11 | 第43回世界遺産委員会への参加 | コ01 |
| 二神葉子 | | | | |
| 境野飛鳥 | | | | |
| 前原恵美 | 韓国 | R1.7.1～7.19 | 韓・日研究交流・研修 | △05 |
| 友田正彦 | ネパール | R1.7.5～7.10 | カトマンズ・ハヌマンドカ王宮修復事業に係る建築調査 | 受託(文化庁ネパール) |
| 安倍雅史 | オランダ | R1.7.9～7.15 | Seminar for Arabian Studiesへの出席及び口頭発表 | 科研費 |
| 牛窪彩絢 | ミャンマー | R1.7.10～7.18 | ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査 | コ03 |
| 前川佳文 | | R1.7.10～7.30 | | |
| 浅田なつみ | ネパール | R1.7.14～7.26 | ハヌマンドカ王宮修復事業に係る建築調査 | 受託(文化庁ネパール) |
| 小林公治 | カタール、 オランダ、 ポルトガル、 スペイン | R1.7.15～8.6 | カタール、ヨーロッパでの螺鈿器等の調査 | 科研費 |
| 山梨絵美子 | 韓国 | R1.7.17～7.20 | 韓・日研究交流・研修 | 一般管理費 |
| 加藤雅人 | ポーランド | R1.7.26～8.1 | 国際集会「日本絵画の修復」の開催 | コ04、コ05、 受託(文化庁ポーランド) |
| 小田桃子 | | R1.7.26～8.2 | | |
| 五木田まきは | | | | |
| 後藤里架 | | | | |
| 堀まなみ | | | | |
| 友田正彦 | R1.7.28～8.2 | | | |
| 石村 智 | ミクロネシア 連邦 | R1.8.8～8.18 | スカイスケープ科研の調査 | 先方負担(南山大学) |
| 間舎裕生 | イスラエル | R1.8.8～8.31 | テル・ヘレシュ遺跡の発掘調査 | 先方負担(天理大学) |

| 氏名 | 渡航先 | 期間 | 目的 | 経費 |
|------------------|----------------|----------------|--|---------------------------|
| 久保田裕道 | ネパール | R1.8.9~8.15 | コカナ無形文化遺産調査 | 受託（文化庁ネパール） |
| 金井 健 | カンボジア | R1.8.10~8.17 | タネイ寺院遺跡東門の修復工事に関する協議 | コ02 |
| 加藤雅人 | 台湾 | R1.8.12~8.15 | ワークショップ「染織品の保存と修復」の開催 | コ05 |
| 後藤里架 | | R1.8.12~8.23 | | |
| 菊池理予 | | R1.8.13~8.16 | | |
| 加藤雅人 | | R1.8.19~8.23 | | |
| 友田正彦 | ブータン | R1.8.20~8.28 | 民家等歴史的建造物の保存活用に関する調査 | 受託（文化庁ブータン） |
| 金井 健 | | | | |
| 西 和彦 | | | | |
| 浅田なつみ | | | | |
| マルティネス アレハンドロ | | | | |
| 齊藤孝正 | 台湾 | R1.8.21~8.24 | ワークショップ「染織品の保存と修復」、市内文化施設等視察 | 一般管理費 |
| 久保田裕道 | ブータン | R1.8.26~9.7 | 招聘芸能調査 | 先方負担（全日本郷土芸能協会） |
| 林美木子 | 韓国 | R1.8.28~8.31 | 東アジア文化遺産保存国際シンポジウムへの出席 | 先方負担（防災⑩） |
| 浅田なつみ | カンボジア、 ネパール | R1.9.7~9.26 | タネイ寺院遺跡東門の修復工事に係る建築調査（カンボジア）／ハヌマンドカ王宮修復事業に係る建築調査、集落復興保全事業に関するワークショップへの出席（ネパール） | コ02、受託（文化庁ネパール） |
| ヴァル エリフ ベルナ | カンボジア | R1.9.13~9.21 | タネイ寺院遺跡東門の修復工事に係る建築調査 | コ02 |
| 米沢 玲 | 中国 | R1.9.19~9.26 | 江南地域における羅漢信仰の現地調査 | 科研費 |
| 友田正彦 | ネパール | R1.9.20~9.24 | ハヌマンドカ王宮修復事業に係る会議への出席及び建築調査 | 受託（文化庁ネパール） |
| 金井 健 | | R1.9.20~9.25 | 集落復興保存事業に係るワークショップへの出席 | |
| 西 和彦 | ドイツ | R1.9.22 ~ 9.25 | 世界遺産「ル・コルビュジエの建築遺産」にかかる第5回国際常設会議への出席 | 先方負担 （国立西洋美術館） |
| ヴァル エリフ ベルナ | インド | R1.9.24 ~ 9.29 | Ratrick Geddes国際会議への論文発表 | 先方負担（IPS Academy） |
| 友田正彦 | スペイン | R1.10.1~10.7 | ICOMOS木の小委員会主催木造遺産保存シンポジウム及び研修コース参加 | 先方負担 （ICOMOS ISC Wood） |
| 間舎裕生 | アルメニア | R1.10.1~10.19 | 「染織文化遺産保存修復ワークショップ」の開催 | コ02 |
| 齋藤孝正 | | R1.10.14~10.19 | | 一般管理費 |
| 金井 健 | | | | コ02 |
| ヴァル エリフ ベルナ | カンボジア | R1.10.6~10.26 | タネイ寺院遺跡東門の修復行為に係る建築調査 | コ02 |
| 前川佳文 | イタリア | R1.10.9~10.27 | イタリア考古遺跡・地震被災地での視察調査、ミャンマー共同研究打ち合わせ | コ03 |
| 西 和彦 | 中国 | R1.10.10~10.11 | HIAに係る国際研修の実施についての打ち合わせ | コ01 |
| 境野飛鳥 | | | | |
| 友田正彦 | カンボジア、 ベトナム | R1.10.13~10.19 | タネイ寺院遺跡東門の修復工事の実施及び建築調査（カンボジア）／ハノイにおける社会科学院都城研究所主催セミナー参加（ベトナム） | コ02、先方負担 （ベトナム社会科学院） |

| 氏名 | 渡航先 | 期間 | 目的 | 経費 |
|----------------|-----------|--------------------------------|--|-------------------------|
| 石村 智 久保田裕道 | ネパール | R1.10.20～10.25 | 無形文化遺産ワークショップへの参加 | 受託（文化庁ネパール） |
| 江村知子 | ドイツ、イギリス | R1.10.21～12.20 | 講義及び研究交流 | 先方負担（ハイデルベルク大学）、シ01、里帰り |
| 小田桃子 | 中国 | R1.10.22～10.27 | 中国竹紙抄造調査・撮影 | 先方負担（文化庁） |
| 金井 健 | カンボジア | R1.10.24～11.5 | タネイ寺院遺跡東門の修復工事に係る建築調査 | コ02 |
| 川野邊 渉 | イタリア | R1.10.27～11.2 | ICCROMの理事会と総会への参加 | 先方負担（文化庁） コ01 |
| 西 和彦 | | R1.10.27～11.3 | | |
| 境野飛鳥 | | | | |
| 齊藤孝正 五木田まきは | メキシコ | R1.10.28～11.4 R1.10.28～11.8 | 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催 | 一般管理費 コ05 |
| 間舎裕生 | バーレーン | R1.10.28～11.5 | バハレーン・マカバ古墳群の発掘調査への参加 | 先方負担（檀原考古学研究所） |
| 林 美木子 | イタリア | R1.11.8～12.8 | ICCROMの海外研修への参加 | 先方負担（防災⑧） |
| 石村 智 | トンガ | R1.11.18～11.23 | 世界無形文化遺産フェスティバルの事前打合せ | 先方負担（全日本郷土芸能協会） |
| 米沢 玲 | イギリス | R1.11.18～11.25 | 共同研究の協議・作品調査 | シ01 |
| 浅田なつみ | ネパール | R1.11.29～12.6 | 歴史的集落保全に関するワークショップ運営 | 受託（文化庁ネパール） |
| 三本松俊徳 | カンボジア | R1.11.30～12.4 | タネイ寺院遺跡東門の修復工事に関する協議及び奈文研カンボジア事業25周年記念式典への参加 | 一般管理費 |
| 友田正彦 | カンボジア、ドイツ | R1.11.30～12.8 | タネイ寺院遺跡東門の修復工事に関する協議及び奈文研カンボジア事業25周年記念式典参加（カンボジア）／ワークショップ「漆工品の保存と修復」の開催（ドイツ） | コ02、コ05 一般管理費 |
| 齊藤孝正 | | R1.11.30～12.9 | | |
| 後藤里架 早川典子 | ドイツ | R1.11.30～12.9 R1.12.1～12.7 | ワークショップ「漆工品の保存と修復」の開催 | コ05 |
| 間舎裕生 | カンボジア | R1.12.1～12.12 | タネイ寺院遺跡東門の修復工事に係る発掘調査、ICC技術会合への出席及び発表 | コ02 |
| ヴァル エルフ ベルナ | | R1.12.9～12.12 | | |
| 安倍雅史 | | R1.12.9～12.21 | | |
| 石村 智 二神葉子 | コロンビア | R1.12.8～12.15 R1.12.8～12.16 | ユネスコ無形文化遺産政府間委員会出席 | ム05 |
| 前川佳文 | エジプト | R1.12.22～1.8 | 新王国時代石窟墓内に描かれた壁画の保存修復事前調査及び壁画損傷個所の応急処置 | 科研費 |
| 水谷悦子 | トルコ | R1.12.24～12.30 | ハギア・ソフィア大聖堂の保存修復に関する調査 | 科研費、先方負担（京都大学） |
| 石村 智 | ドイツ | R1.12.24～12.31 | ドイツ所在のオセアニア資料の調査 | 科研費 |
| 浅田なつみ | ネパール | R2.1.2～1.8 | 集落復興保全事業に係る第3回市長会議への出席及び発表 | 受託（文化庁ネパール） |
| 友田正彦 | | R2.1.4～1.7 | | |
| 金井 健 | | R2.1.4～1.8 | | |
| 安倍雅史 間舎裕生 | バーレーン | R2.1.5～1.29 R2.1.25～2.11 | ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査 | 科研費 |

| 氏名 | 渡航先 | 期間 | 目的 | 経費 |
|------------------------------|----------------|--|--|-------------------|
| 間舎裕生 | パレスチナ | R2.1.11~1.24 | 国際協力機構の依頼による、ヒシャム宮殿遺跡展示施設公開に先立つサイトマネジメントプラン策定のための事前調査 | 先方負担 (JICA) |
| 二神葉子 城野誠治 | タイ | R2.1.12~1.18 | タイ所在日本製伏彩色螺鈿に関する調査 | シ 02 |
| 貴田啓子 | フランス | R2.1.12~1.18 | 日仏各チームの研究報告会、ナノセルロース研究の情報収集 | 受託 (二国間交流事業) |
| ヴァル エリフ ベルナ 金井 健 | ブータン | R2.1.12~1.18 R2.1.14~1.18 | 民家の保存活用に関するワークショップへの出席及び発表 | 受託 (文化庁ブータン) |
| 友田正彦 | カンボジア、 ブータン | R2.1.13~1.18 | タネイ寺院遺跡東門の修復工事に関する協議(カンボジア) / 民家の保存活用に関するワークショップへの出席(ブータン) | コ 02、受託 (文化庁ブータン) |
| 牛窪彩絢 | ミャンマー | R2.1.15~1.26 | ミャンマー・バガン寺院壁画の保存修復に係る現地調査 | コ 03 |
| 前川佳文 小峰幸夫 | ミャンマー | R2.1.15~1.31 R2.1.26~1.31 | ミャンマー・バガン寺院壁画の保存修復に係る現地調査 | コ 03 |
| 松保小夜子 久保田裕道 | インドネシア | R2.1.18~1.26 R2.1.19~1.24 | インドネシア国際協力調査 | 受託 (文化庁コンソーシアム) |
| 安倍雅史 | バーレーン | R2.2.3~2.11 | ワーディー・アッ=サイル古墳群の発掘調査 | 科研費 |
| 橘川英規 | アメリカ | R2.2.5~2.10 | International Terminology Working Group (ITWG) meetingへの参加 | シ 01 |
| 金井 健 | 台湾 | R2.2.11~2.14 | 旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設の保存修理に係る建築調査 | 先方負担 (佐世保市) |
| 片渕奈美香 五木田まきは 後藤里架 | ドイツ | R2.2.16~3.2 | ドイツ技術博物館、ケルン東洋美術館に保管していた資料の梱包・日本への輸送 | コ 05 |
| 石村 智 | ニュージーランド | R2.2.24~3.1 | 先住民マオリの文化遺産に関する調査 | 先方負担 (金沢大学) |
| 浅田なつみ ヴァル エリフ ベルナ 友田正彦 | カンボジア | R2.2.25~3.8 R2.3.3~3.19 R2.3.16~3.19 | タネイ寺院遺跡東門の修復工事に係る建築調査 | コ 02 |

令和元年度における国内から国外への派遣申請については、下記のとおりである。

| 氏名 | 所属 | 派遣期間 | 渡航先 | 経費 |
|---------------------------------|--------------------------|--------------|------|--------------|
| 派遣理由：集落復興保全事業に関する集落調査及び協議等 | | | | |
| 森 朋子 | 札幌市立大学 デザイン学部 准教授 | R1.5.1~5.8 | ネパール | 受託 (文化庁ネパール) |
| 派遣理由：トルコ共和国人材育成事業における招待講演 | | | | |
| 菅原裕文 | 金沢大学 人間社会研究域歴史言語文化学系 准教授 | R1.5.1~5.8 | トルコ | コ03 |
| 派遣理由：在外日本古美術品保存修復協力事業における現地作品調査 | | | | |
| 宇都宮正紀 | 株式会社修美 代表取締役 | R1.6.10~6.14 | カナダ | コ04 |
| 市宮景子 | 株式会社修美 | | | |

| 氏名 | 所属 | 派遣期間 | 渡航先 | 経費 |
|----|----|------|-----|----|
|----|----|------|-----|----|

派遣理由：国際集会「日本絵画の修復」における講演、実演等

| | | | | |
|------|----------------|--------------|-------|-------------------------------|
| 福西正行 | 福西和紙本舗 代表 | R1.7.25～8.2 | ポーランド | コ04、コ05、 受託（文化 庁 ポーランド） |
| 山本記子 | 国宝修理装演師連盟 代表理事 | | | |
| 木村暢成 | 国宝修理装演師連盟 主任技師 | | | |
| 沖本明子 | 国宝修理装演師連盟 主任技師 | | | |
| 木下陽介 | 国宝修理装演師連盟 主任技師 | | | |
| 大菅 直 | 伝統技術伝承者協会 理事 | R1.7.26～8.1 | | |
| 池田和彦 | 株式会社修護 代表取締役 | | | |
| 君嶋隆幸 | 株式会社修護 | R1.7.26～8.2 | | |
| 田中宏平 | 小林刷毛製造所 | R1.7.26～8.2 | | |
| 君嶋真珠 | 継 金属工房 | R1.7.27～7.31 | | |

派遣理由：集落復興保全事業に関する集落調査

| | | | | |
|------|-------------------|-------------|------|----------|
| 森 朋子 | 札幌市立大学 デザイン学部 准教授 | R1.8.9～8.17 | ネパール | 受託（ネパール） |
|------|-------------------|-------------|------|----------|

派遣理由：ワークショップ「染織品の保存と修復」における講師

| | | | | |
|-------|-------------------------------|--------------|----|-----|
| 濱田仁美 | 東京家政大学 家政学部 服飾美術学科 准教授 | R1.8.13～8.15 | 台湾 | コ05 |
| 小山弓弦葉 | 東京国立博物館 学芸研究部 調査研究課 工芸室長 | | | |
| 石井美恵 | 佐賀大学 芸術地域デザイン学部 地域デザインコース 准教授 | R1.8.18～8.22 | | |

派遣理由：民家等歴史的建造物の保存活用に関する調査

| | | | | |
|-------|----------------------------|--------------|------|------------------|
| 海野 聡 | 東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻 准教授 | R1.8.20～8.24 | ブータン | 受託（文化 庁 ブータン） |
| 江面嗣人 | 岡山理科大学 工学部建築学科 教授 | R1.8.20～8.27 | | |
| 菅澤 茂 | 元京都府教育庁文化財保護課 技術職員 | R1.8.20～8.28 | | |
| 金出ミチル | 元文化財建造物保存技術協会 技術職員 | | | |
| 向井純子 | 元ブータン内務文化省文化局 遺産保存課 主任建築技士 | R1.8.21～8.28 | | |
| 津村泰範 | 長岡造形大学 建築・環境デザイン学科 准教授 | | | |

派遣理由：集落復興保全事業に関するワークショップへの出席

| | | | | |
|------|-------------------|--------------|------|------------------|
| 森 朋子 | 札幌市立大学 デザイン学部 准教授 | R1.9.18～9.24 | ネパール | 受託（文化 庁 ネパール） |
| 山田大樹 | 株式会社 都市環境研究所 研究員 | R1.9.20～9.24 | | |

派遣理由：国際研修「染織文化遺産保存修復ワークショップ」における講義及び実習

| | | | | |
|------|-----------------------------|---------------|-------|-----|
| 横山 翠 | 刺繍作家、NHK文化センター講師 | R1.10.3～10.19 | アルメニア | コ02 |
| 石井美恵 | 佐賀大学 芸術地域デザイン学 地域デザインコース准教授 | R1.10.3～10.22 | | |

派遣理由：タネイ寺院遺跡東門の修復工事に係る三次元計測調査

| | | | | |
|------|-----------------|---------------|-------|-----|
| 大石岳史 | 東京大学生産技術研究所 准教授 | R1.10.6～10.10 | カンボジア | コ02 |
| 平田篤己 | 東京大学大学院工学系研究科 | | | |

派遣理由：国際研修事業における国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の講師

| | | | | |
|------|---|---------------|------|-----|
| 四本広樹 | 国宝修理装演師連盟 技師 | R1.10.28～11.3 | メキシコ | コ05 |
| 中村隆博 | 国宝修理装演師連盟 技師長 | R1.10.28～11.8 | | |
| 杉山恵助 | 東北芸術工科大学 芸術学部 文化財保存修復学科 准教授 (東洋絵画修復) 兼 文化財保存修復研究センター 研究員 | R1.11.2～11.8 | | |

| 氏名 | 所属 | 派遣期間 | 渡航先 | 経費 |
|---|----------------------------------|----------------|--------|----------------|
| 派遣理由：集落復興保全事業に関する集落調査 | | | | |
| 森 朋子 | 札幌市立大学 デザイン学部 准教授 | R1.11.30～12.5 | ネパール | 受託（文化庁ネパール） |
| 派遣理由：タネイ寺院東門の修復工事に係る地質調査 | | | | |
| 桑野玲子 | 東京大学生産技術研究所 教授 | R1.12.16～12.19 | カンボジア | コ02 |
| 大坪正英 | 東京大学生産技術研究所 助教 | | | |
| 派遣理由：集落復興保全事業に関する第3回市長会議への出席及び発表 | | | | |
| 山田大樹 | 株式会社 都市環境研究所 研究員 | R2.1.3～1.6 | ネパール | 受託（文化庁ネパール） |
| 西村幸夫 | 神戸芸術工科大学 芸術工学機構長 | R2.1.3～1.7 | | |
| 森 朋子 | 札幌市立大学 デザイン学部 准教授 | R2.1.3～1.8 | | |
| 派遣理由：バーレーンの水中考古遺産の調査 | | | | |
| 佐々木蘭貞 | 九州国立博物館 学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー | R2.1.5～1.12 | バーレーン | 科研費 |
| 派遣理由：報告会・調査 | | | | |
| 秋山純子 | 九州国立博物館 学芸部 博物館科学科 環境保全室 主任研究員 | R1.1.11～1.18 | フランス | 受託（二国間交流事業） |
| 安藤真理子 | 奈良大学 総合研究所 アソシエイトフェロー | R1.1.12～1.19 | | |
| 派遣理由：民家の保存活用に関するワークショップへの出席 | | | | |
| 向井純子 | 元ブータン内務文化省文化局 遺産保存課 主任建築技士 | R2.1.12～1.18 | ブータン | 受託（文化庁ブータン） |
| 青木孝義 | 名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 教授 | R2.1.14～1.18 | | |
| マルティネスアレハンドロ | 京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系 助教 | | | |
| 派遣理由：タイ所在日本製伏彩色螺鈿に関する調査 | | | | |
| 勝盛典子 | 公益財団法人香雪美術館 中之島香雪美術館 館長 | R2.1.12～1.18 | タイ | シ02 |
| 山下好彦 | 漆芸修復家（フリーランス） | | | |
| 派遣理由：インドネシア国際協力調査 | | | | |
| 齋藤里香 | 東日本大震災津波伝承館いわて TSUNAMI メモリアル 学芸員 | R2.1.17～1.26 | インドネシア | 受託（文化庁コンソーシアム） |
| 布野修司 | 日本大学 生産工学部建築工学科 特任教授 | R2.1.18～1.26 | | |
| 田代垂紀子 | 北海道大学 大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授 | R2.1.22～1.26 | | |
| 派遣理由：ワーディー・アツ＝サイル古墳群から出土する古人骨調査 | | | | |
| 岡崎健治 | 鳥取大学 医学部解剖学講座助教 | R2.2.8～2.14 | バーレーン | 科研費 |
| 派遣理由：タネイ寺院遺跡東門の修復工事に係る三次元計測調査 | | | | |
| 川上大智 | 東京大学 工学系研究科 電気系工学専攻 修士課程 | R2.2.26～3.5 | カンボジア | コ02 |
| 派遣理由：ネパール集落調査および集落復興保存事業に関するワークショップへの出席 | | | | |
| 森 朋子 | 札幌市立大学 デザイン学部 准教授 | R2.3.8～3.11 | ネパール | 受託（文化庁ネパール） |

令和元年度における国外から国外への派遣申請については下記のとおりである。

| 派遣期間 | 氏名 | 所属 | 用務地 | 経費 |
|--------------------------------|-----------------------|-------------------------------|-----------------|---------------|
| 派遣理由：壁画関連調査と研修での講義 | | | | |
| R1.6.9～R1.6.13 | Leonardo Borgioli | C.T.S. SRL FIRENZE | カッパドキア大学ほか | コ03 |
| R1.6.9～R1.6.16 | Alberto Felici | フィレンツェ国立修復研究所 | | |
| | Denis Zanetti | 有限会社メッサドリンジェニェリア | | |
| R1.6.9～R1.6.18 | Guido Botticelli | フィレンツェ国立修復研究所 | | |
| | Fabrizio Bandini | | | |
| | Daniela Maria Murphy | Associazione Bastioni | | |
| | Stefania Franceschini | | | |
| 派遣理由：壁画関連研修における指導助言 | | | | |
| R1.6.10～R1.6.15 | Yasar Selcuk Sener | ガーズィ大学 | カッパドキア大学ほか | コ03 |
| | Bekir Eskici | | | |
| 派遣理由：ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査 | | | | |
| R1.7.11～R1.7.30 | Daiele Angellotto | フィレンツェ国立修復研究所 | バガン考古遺跡群 | 助成金 (住友財団) |
| | Daniela Maria Murphy | Associazione Bastioni | | |
| | Stefania Franceschini | | | |
| 派遣理由：アンコール遺跡の石造構造物の微生物劣化に関する調査 | | | | |
| R1.8.20～R1.8.31 | Ji-Dong Gu | The University of Hong Kong | シェムリアップ及びコンボントム | 科研費 |
| 派遣理由：ワークショップ「漆工品の保存と修復」の運営補助 | | | | |
| R1.12.1～R1.12.8 | Magdalena Kozar | Dresden State Art Collections | ケルン市博物館東洋美術館 | コ05 |
| 派遣理由：ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査 | | | | |
| R2.1.14～R2.1.26 | Daniela Maria Murphy | Associazione Bastioni | バガン考古遺跡群 | 助成金 (住友財団) |
| | Daniele Angellotto | フィレンツェ国立修復研究所 | | コ03 |
| R2.1.17～R2.1.26 | Stefania Franceschini | Associazione Bastioni | | 助成金 (住友財団) |

2. 招へい研究員等

令和元年度における海外からの招へいは、下記のとおりである。

| 派遣期間 | 氏名 | 国籍 | 所属 | 経費 |
|--|----------------------------|------------------|--|---------------------|
| 招へい理由：「ブータンの歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」に係る専門家会合への出席及び発表、民家の保存活用事例に関する視察研修加 | | | | |
| 1.6.23～6.28 | Yeshi Samdrup | ブータン | ブータン内務文化省文化局 遺産保存課 主任建築技士 | 受託（文化庁ブータン） |
| | Pema Wangchuk | | | |
| 招へい理由：シリア人専門家研修「歴史的都市及び建築物の復興に向けた調査計画手法」への参加 | | | | |
| 1.7.23～8.6 | Firas Dadoukh | シリア | 古物博物館総局 土木工学技士 | 受託（奈良県立橿原考古学研究所シリア） |
| | Muad Ghanem | | | |
| 招へい理由：「DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築」の研究遂行のための研究協力 | | | | |
| 1.7.30～8.12 | Ubaldo Cesareo | イタリア | アーカイブズ・書籍資料保存修復中央研究所 客員研究員 | 科研費 |
| 招へい理由：ICCROM国際研修「紙の保存と修復」への参加 | | | | |
| 1.9.8～9.27 | Aranzazu Blat Burgues | スペイン | カタール博物館イスラム美術館 紙及び本保存修復技術者 | コ05 |
| 1.9.8～9.28 | Mariia Borysenko | ウクライナ | 国立保存修復所 "St. Sophia of Kiev" 科学修復部 芸術家・修復技術者 | |
| | Claudia Giostrella | イタリア | 文化財・文化活動省 ピサ及びリヴォルノ県考古学・美術・景観監督局 修復技術補佐 | |
| | Rosaleen Hill | カナダ | クイーンズ大学 紙及び写真保存修復部長・教授 | |
| | Lindsey Hobbs | アメリカ | ニューヨーク市立公文書館 保存修復担当責任者 | |
| | Kate Hughes | オーストラリア | ニューサウスウェールズ州立図書館 紙及び写真保存修復技術者 | |
| | Yuyang Liu | 香港 | 香港大学図書館 司書補 | |
| | Clodagh Neligan | アイルランド | ダブリン大学トリニティカレッジ図書館 上級紙保存修復技術者 | |
| | Matthias Sotiras | フランス | 大英博物館 東洋絵画保存修復技術者 | |
| Kristina Virro | エストニア | タルトゥ大学図書館 保存修復部長 | | |
| 1.9.21～9.28 | José Luiz Pedersoli Júnior | ブラジル | 文化遺産国際協力センター（ICCROM）プロジェクト先方負担マネージャー | 先方負担 |
| 招へい理由：クリーニング材料・方法のワークショップ」参加 | | | | |
| 1.10.5～10.12 | Paolo Cremonesi | イタリア | 文化遺産保存科学者 アムステルダム大学・リュブリャナ大学客員講師 | ホ05 |
| 招へい理由：「博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修」への参加 | | | | |
| 1.11.24～11.30 | Manijeh Hadian Dehkordi | イラン | 文化遺産観光研究所 研究員 | コ02 |
| | Parastou Naeimi Taraei | | イラン国立博物館 印章・貨幣部門長 | |
| | Fereshteh Zokaei | | イラン国立博物館 金属製品修復部門長 | |
| | Maryam Ahmadi | | | |

| 派遣期間 | 氏名 | 国籍 | 所属 | 経費 |
|------|----|----|----|----|
|------|----|----|----|----|

招へい理由：文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs II—世界では、いま何が語られているのか—」での講演

| | | | | |
|------------|-------------------|------|----------------|----------------|
| 2.1.29～2.1 | Giovanni Boccardi | イタリア | ユネスコ文化局 防災担当主任 | 受託（文化庁コンソーシアム） |
|------------|-------------------|------|----------------|----------------|

3. 海外研究者等の来訪

(1) 来訪研究員

| 来訪期間 | 氏名 | 国籍 | 所属 | 備考 |
|-------------|-----------|--------|---------------------|----------------------------|
| 1.8.1～10.31 | Cindy Lau | シンガポール | 国立文化遺産局 文化遺産センター | 文化財の強化処置とメンテナンスに関する最新技術の調査 |
| 1.9.18～10.5 | 姜敬恵 | 韓国 | 国立無形遺産院 | 日韓研究交流にかかる調査 |

(2) 表敬訪問ほか

| 日程 | 来訪者 | 国籍 | 所属等 | 目的 |
|---------|-----------------------|-------|-------------------------------------|-----------|
| 19.5.24 | Ritirong Jiwakanon | タイ | チューラーロンコーン大学タイ研究所長 | 表敬訪問 |
| | Arthit Tongtak | | チューラーロンコーン大学タイ研究所 管理副局長 | |
| 19.5.24 | Suebpong Changboonchu | タイ | チューラーロンコーン大学タイ研究所 外交副局長 | 表敬訪問 |
| | Pram Sounsamut | | チューラーロンコーン大学タイ研究所 研究副局長 | |
| 19.9.6 | Nguyen Thanh Quang | ベトナム | ハノイ遺産保存センター副センター長 | 表敬訪問、施設見学 |
| | Nguyen Hong Chi | | ハノイ遺産保存センター展示保存課長 | |
| | Hoang Thu Thui | | ハノイ遺産保存センター管理課副長 | |
| 19.10.3 | Webber Ngoro | ジンバブエ | 文化財保存修復研究国際センター (ICCROM) 所長 | 表敬訪問 |
| 19.10.7 | Paolo Cremonesi | イタリア | 文化遺産保存科学者 アムステルダム大学・リュブリャナ大学客員講師 | 表敬訪問、施設見学 |
| 19.11.5 | Tristram Hunt | イギリス | ヴィクトリア&アルバート博物館長 | 表敬訪問 |

4. 主要来訪者、施設見学

| 日程 | 来訪者及び視察者等 | 備考 |
|---------|-------------------------------------|---------|
| 31.4.16 | ズィー・カール大学 2名 | 視察 |
| 1.6.26 | 韓国国立文化財研究所 文化財保存科学センター 3名 | 施設見学 |
| 1.7.25 | シリア古物博物館総局 2名 | 視察 |
| 1.9.2 | 青山学院大学 11名 | 施設見学 |
| 1.9.12 | 東北芸術工科大学 25名 | 施設見学 |
| 1.9.13 | 国際研修「紙の保存と修復」 10名 | 研修・施設見学 |
| 1.9.18 | 青山学院大学 26名 | 施設見学 |
| 1.9.20 | 韓国文化財庁 文化財活用局 世界遺産チーム 3名 | 研究交流 |
| 1.9.30 | 国立台湾歴史博物館 3名 | 施設見学 |
| 1.10.3 | 日本女子大学 物質生物縦の会 21名 | 施設見学 |
| 1.10.7 | インドネシア バンドン工科大学 芸術デザイン学部 工業デザイン課 5名 | 施設見学 |
| 1.10.21 | 中国貴州省関係者 13名 | 施設見学 |
| 1.10.29 | 帝京大学文化財研究所 文化財科学研究センター 7名 | 視察 |
| 1.11.20 | 文化庁（研修生） 10名 | 視察 |
| 1.11.25 | イラン人研修生 4名 | 研修・施設見学 |
| 1.11.28 | 熊谷市文化財保護審議会 9名 | 施設見学 |
| 1.12.10 | スレイマニヤ博物館 3名 | 視察 |
| 1.12.10 | 復旦大学 中華古籍保護研究院 18名 | 施設見学 |
| 1.12.18 | アジア太平洋無形文化遺産研究センター 21名 | 視察 |
| 2.2.17 | 公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 12名 | 施設見学 |
| 2.2.20 | 東京学芸大学 15名 | 施設見学 |

6. 資料

| | |
|---------------------------|-----|
| 1. 主な所蔵資料 | 181 |
| 1. 図書資料 | 181 |
| 2. その他 | 182 |
| 2. 研究所関係資料 | 183 |
| 1. 設立の経緯 | 183 |
| 2. 年代別重要事項 | 183 |
| 3. 歴代所長（昭和5年～令和元年度） | 186 |
| 4. 名誉研究員 | 187 |
| 5. 令和元年度予算等 | 188 |
| 3. 東京文化財研究所関係事業索引 | 193 |

1. 主な所蔵資料

1. 図書資料

(1) 美術関係図書

日本・東洋・欧米の美術に関するものを中心に、各地方公共団体刊行の文化財関係調査報告書、展覧会の図録・目録類、売立目録など欧文合わせて約 170,398 冊の図書に加え、和文 5,471 種、韓文 54 種、中文 153 種、欧文 507 種に及ぶ美術関係雑誌約 166,976 冊を所蔵している。

その他江戸期の写本版本をはじめ、明治大正期刊行の大型美術図録や美術雑誌、また明治から昭和初期に開催された各種博覧会展覧会資料など、多くの貴重書を所蔵している。

(2) 無形文化遺産関係図書

古典芸能・民俗芸能・寺事・伝統的な技術、その他我が国の無形文化遺産の研究に必要な図書 18,481 冊を所蔵している。そのなかには、雅楽画報・演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎（第 1 次）・テアトロ（第 1 次）・新劇・上方・民俗芸能・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説など現在では入手しにくい雑誌、国立劇場ほかで行われる芸能公演の上演資料や声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本など、多くの貴重書を含んでいる。令和元年度は 594 冊を登録し、現在進行中である。

(3) 保存科学・修復技術関係図書

伝統的生産及び工芸技術書、技術史またはそれらの科学的究明を試みたもの、修理工事報告書及び化学・物理学・生物学部門の保存科学の関連和洋書、合わせて約 10,100 冊を所蔵している。

(4) 日本国外の文化遺産関係図書

外国の文化財や文化財保存、文化財保存国際協力や文化財保護制度に関する国内外の図書資料を約 14,000 点所蔵している。また、文化財保護関連機関のパンフレットなど図書以外の文献資料の収集、さらに国内外の文化財保護関連法令資料の収集を実施している。2016（平成 28）年 1 月の施設改修に伴い、従来の国際資料室蔵書は資料閲覧室書庫に移動した。

令和元年度における収集数（韓文・中文図書は、和漢書として計上）

| 区分 | 美術関係 | 無形文化遺産関係 | 保存修復関係 | 日本国外の文化遺産関係 | 計 |
|-----|---------|----------|--------|-------------|---------|
| 和漢書 | 1,853 冊 | 589 冊 | 290 冊 | 90 冊 | 2,822 冊 |
| 洋書 | 770 冊 | 5 冊 | 11 冊 | 12 冊 | 798 冊 |
| 合計 | 2,623 冊 | 594 冊 | 301 冊 | 102 冊 | 3,620 冊 |

2. その他

(1) 美術関係資料

文化財情報資料部が管理している写真資料は、絵画・彫刻・工芸・建築等の台紙貼写真、売立目録カードなど総数約 26 万点である。写真原板は、モノクロ 4×5 フィルム約 49,740 点、カラー 4×5 フィルム約 8,980 点、半切ほかガラス乾板約 21,000 点をはじめとして、各種サイズのモノクロフィルム約 3,450 点、X線フィルム・赤外線フィルム約 3,300 点などを所蔵している。また、当研究所旧職員梅津次郎、秋山光和、田中一松、久野健、中村傳三郎各氏寄贈研究資料の公開に向けた整理のほか、鈴木敬氏旧蔵写真資料の整理を行っている。このほか、拓本類、作家伝記資料、落款印章資料、近現代作家・団体・画廊・作品資料、資料スクラップ等と図版カード、各種索引類などを管理している。

(2) 無形文化遺産関係資料

無形文化遺産部では、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能の技法を、録音・録画、写真撮影等の形で記録することを重要な業務としてきた。これまでに、現地での実況や所内の実演記録室等での演奏を記録したオープンリールテープ約 2,300 点、ビデオ 1,191 点、スチル写真は関連する文書の記録写真等も含め約 19 万点、CD はオープンリールテープをデジタル化した物を中心に 1,976 点、DVD 3,839 点、BD 752 点を作成してきた。令和元年度は、DVD 20 点、BD 32 点を登録した。また、市販された伝統芸能関係の資料の収集も進めている。ことに、昭和 35 年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションは、明治・大正・昭和 3 代にわたって発売された各種邦楽の SP レコードを網羅した約 6,000 枚の一大コレクションで、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。レコードの収集枚数は現在約 7,300 枚に及んでいる。その他これまでに、市販のビデオ 530 点、CD 1,884 点、DVD 1,486 点、BD 7 点を収集してきた。うち令和元年度は、市販の CD 30 点、DVD 103 点、BD 2 点を登録した。なお SP レコードコレクションの詳細は『音盤目録Ⅰ～Ⅴ』（東京国立文化財研究所刊 1966～1996）で公表している。

(3) 保存科学・修復技術関係資料

保存科学研究センターでは、考古遺物や美術工芸品など、諸部門の文化財を撮影した X 線フィルムを多数所蔵する。X 線透過撮影は昭和 20 年代から力を注いで行っており、近年それらのデータをデジタル化し、整理する作業を進めている。

(4) 国際関係資料

文化遺産国際協力センターでは、日本の文化財保護に関する国際協力の分野で活躍した専門家の資料を受け入れている。関野克氏旧蔵資料には、国際機関での会議や、個別の文化遺産保存に関わる記録が含まれている。特に、UNESCO の条約や勧告に関わる資料には、草案や日本政府の意見書なども含まれ、その成立の経緯や日本政府の関与なども知ることができる。また、千原大五郎氏旧蔵資料には、ポロブドゥール修復事業関連の会議録、書簡類、修復案、図面、オランダ統治時代の研究書や、その他の東南アジア諸国の遺跡に関する文献や図面、写真も数多く含まれる。さらに、野口英雄氏が収集した、文化財の危機管理やユネスコ日本信託基金による保存修復事業などに関する資料を受け入れている。

2. 研究所関係資料

1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001（平成13）年4月1日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となり、さらに2007（平成19）年4月1日に国立文化財機構東京文化財研究所となり、現在に至っている。その前身である東京国立文化財研究所は、1952（昭和27）年4月1日に発足し、その母体となったものは、1930（昭和5）年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924（大正13）年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鐸二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

2. 年代別重要事項

| 期 日 | 事 項 |
|------------------------------------|--|
| 昭和元年12月25日 | 前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。 |
| 昭和2年 2月 1日 同年10月28日 | 美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。 |
| 昭和3年 9月 | 前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。 |
| 昭和4年 5月29日 | 遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。 |
| 昭和5年 6月28日 同年10月17日 | 勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行了た。 |
| 昭和7年 1月 1日 同年 4月18日 同年 5月26日 | 美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。 帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。 |
| 昭和9年10月18日 昭和10年 1月28日 | 毎年10月18日を開所記念日と定めた。 鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。 |

| 期 日 | 事 項 |
|--|---|
| 昭和10年 4月 同年 6月 1日 | 『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。 勅令第 148 号により美術研究所官制が公布された。 研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。 |
| 昭和12年 6月 24日 同年 11月 29日 | 勅令第 281 号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。 美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。 |
| 昭和13年 2月 12日 | 木造、平屋建、延面積 97㎡の写真室 1 棟が竣工した。 |
| 昭和19年 8月 10日 | 黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。 |
| 昭和20年 5月 28日 同年 7～8月 | 美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町 1 丁目本間家倉庫 3 棟に疎開した。 酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。 |
| 昭和21年 3月 29日 同年 4月 4日 同年 4月 16日 | 酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。 酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。 東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。 |
| 昭和22年 5月 3日 | 美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。 国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和 23 年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66㎡）に設けた。 |
| 昭和25年 8月 29日 | 文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。 |
| 昭和26年 1月 31日 | 美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。 |
| 昭和27年 4月 1日 同年 7月 1日 | 文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の 3 部 1 室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。 芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室 2 室を同大学から借用し、研究を開始した。 |
| 昭和28年 4月 26日 | 保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫 132㎡を改造のうえ移転した。 |
| 昭和29年 7月 1日 | 東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。 |
| 昭和32年 3月 22日 同年 11月 30日 | 東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8 ㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。 従来の 2 階建書庫の上にさらに 1 階を増築 3 階建とし、増築分延面積 71㎡が竣工した。 |
| 昭和34年 4月 30日 | 東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。 |
| 昭和36年 9月 16日 | 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。 |
| 昭和37年 3月 31日 同年 7月 1日 同年 7月 20日 | 東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2 階建、延面積 663㎡の建物 1 棟が竣工した。 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。 芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。 |
| 昭和43年 6月 15日 | 文部省設置法の一部が改正され、本研究は文化庁附属機関となった。 |
| 昭和44年 8月 23日 | 保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延 1,950.41㎡）の起工式が行われた。 |
| 昭和45年 3月 25日 同年 5月 8日 同年 6月 29日 同年 11月 2日 | 前記の別館が竣工したので、同年 5 月 26 日竣工式が行われた。芸能部は、別館 3 階に移転した。 保存科学部は別館の地階～2 階に実験用機械類の移転据付を完了した。 保存科学部庁舎の 1 階の模様替工事に着手し、同年 10 月 15 日工事が完了した。 所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の 1 階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12 番 53 号」から「13 番 27 号」に変更された。 |

| 期 日 | 事 項 |
|-------------|--|
| 昭和46年 4月 1日 | 保存科学部庁舎及び別館の敷地 2,658㎡を東京国立博物館から所管換えされた。 |
| 昭和48年 4月12日 | 文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。 |
| 昭和52年 4月18日 | 文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。 |
| 昭和53年 3月20日 | 本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積 144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積 569.95㎡の建物が竣工した。 |
| 同年 4月 5日 | 文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。 |
| 昭和59年 6月28日 | 文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。 |
| 平成 2年10月 1日 | 文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。 |
| 平成 5年 4月 1日 | 文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。 |
| 平成 7年 4月 1日 | 文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。 |
| 平成 9年10月 1日 | 東京藝術大学と「東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。 |
| 平成 9年10月 1日 | 文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。 |
| 平成12年 2月 4日 | 新当庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積 10,557.99㎡（建築面積 2,258.48㎡）が竣工した。 |
| 同年 2月21日 | 新当庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。 |
| 同年 3月 6日 | 新当庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。 |
| 同年 3月22日 | 建設省関東地方建設局営繕部より、新当庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新当庁舎関係の工事が完了した。 |
| 同年 5月11日 | 新当庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了。この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。 |
| 平成13年 3月29日 | 黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。 |
| 同年 4月 1日 | 東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。この独立行政法人化にともない、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官—情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官—情報調整室となった。 |
| 平成15年 9月19日 | 黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事を行った。 |
| 平成18年 4月 1日 | 文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官—情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。 |
| 平成19年 4月 1日 | 独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。この統合にともない、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。 |
| 平成22年 4月 1日 | 国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。 |
| 平成28年 4月 1日 | 国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、企画情報部は文化財情報資料部に、保存修復科学センターは保存科学研究センターとなった。 |

3. 歴代所長（昭和5年～令和元年度）

| 役 職 | 氏 名 | 期 間 |
|-----------------------------|-------|-------------------------|
| 主 事 | 正木直彦 | 昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24 |
| 主 事 | 矢代幸雄 | 昭和 6.11.25～昭和 10. 5.31 |
| 所長事務取扱 | 和田英作 | 昭和 10. 6. 1～昭和 11. 6.21 |
| 所 長 | 矢代幸雄 | 昭和 11. 6.22～昭和 17. 6.28 |
| 所長事務取扱 | 田中豊蔵 | 昭和 17. 6.29～昭和 22. 8.15 |
| 所 長 | 田中豊蔵 | 昭和 22. 8.16～昭和 23. 5.10 |
| 所 長 代 理 | 福山敏男 | 昭和 23. 5.11～昭和 24. 8.30 |
| 所 長 | 松本栄一 | 昭和 24. 8.31～昭和 27. 3.31 |
| 所長事務代理 | 矢代幸雄 | 昭和 27. 4. 1～昭和 28.10.31 |
| 所 長 | 田中一松 | 昭和 28.11. 1～昭和 40. 3.31 |
| 所 長 | 関野 克 | 昭和 40. 4. 1～昭和 53. 3.31 |
| 所 長 | 伊藤延男 | 昭和 53. 4. 1～昭和 62. 3.31 |
| 所 長 | 濱田 隆 | 昭和 62. 4. 1～平成 3. 3.31 |
| 所 長 | 西川杏太郎 | 平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31 |
| 所 長 | 渡邊明義 | 平成 8. 4. 1～平成 13. 3.31 |
| (独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行) | | |
| 所 長 | 渡邊明義 | 平成 13. 4. 1～平成 16. 3.31 |
| 所 長 | 鈴木規夫 | 平成 16. 4. 1～平成 19. 3.31 |
| (独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行) | | |
| 所 長 | 鈴木規夫 | 平成 19. 4. 1～平成 22. 3.31 |
| 所 長 | 亀井伸雄 | 平成 22. 4. 1～平成 30. 7.17 |
| 所長事務代理 | 山梨絵美子 | 平成 30. 7.18～平成 30.12.31 |
| 所 長 | 齊藤孝正 | 平成 31. 1. 1～現在 |

4. 名誉研究員

| 氏名 | 退職時官職名 | 在所期間 | 名誉研究員 発令年月日 |
|-------|------------------|---------------------------|----------------|
| 江上 綏 | 情報資料部主任研究官 | 昭和 38. 5. 18～昭和 59. 3. 31 | 昭和 59. 10. 18 |
| 猪川和子 | 情報資料部文献資料研究室長 | 昭和 22. 6. 27～昭和 60. 3. 31 | 昭和 60. 10. 18 |
| 三隅治雄 | 芸能部長 | 昭和 27. 10. 1～昭和 63. 3. 31 | 昭和 63. 10. 18 |
| 濱田 隆 | 所長 | 昭和 62. 4. 1～平成 3. 3. 31 | 平成 3. 10. 18 |
| 関口正之 | 美術部長 | 昭和 42. 2. 1～平成 3. 3. 31 | 平成 3. 10. 18 |
| 佐藤道子 | 芸能部長 | 昭和 34. 4. 1～平成 4. 3. 31 | 平成 4. 10. 18 |
| 馬淵久夫 | 保存科学部長 | 昭和 50. 10. 1～平成 4. 3. 31 | 平成 4. 10. 18 |
| 新井英夫 | 保存科学部長 | 昭和 45. 9. 1～平成 5. 3. 31 | 平成 5. 4. 1 |
| 西川杏太郎 | 所長 | 平成 3. 4. 1～平成 8. 3. 31 | 平成 8. 4. 1 |
| 三輪英夫 | 美術部第二研究室長 | 昭和 53. 8. 1～平成 8. 3. 31 | 平成 8. 4. 1 |
| 蒲生郷昭 | 芸能部長 | 昭和 56. 4. 1～平成 10. 3. 31 | 平成 10. 4. 1 |
| 中里壽克 | 修復技術部第一修復技術研究室長 | 昭和 39. 4. 1～平成 10. 3. 31 | 平成 10. 4. 1 |
| 宮本長二郎 | 国際文化財保存修復協力センター長 | 平成 6. 4. 1～平成 11. 3. 31 | 平成 11. 4. 1 |
| 羽田 昶 | 芸能部音楽舞踊研究室長 | 昭和 51. 4. 1～平成 12. 3. 31 | 平成 12. 4. 1 |
| 中村茂子 | 芸能部民俗芸能研究室長 | 昭和 39. 7. 1～平成 13. 3. 31 | 平成 13. 4. 1 |
| 増田勝彦 | 修復技術部長 | 昭和 48. 8. 1～平成 13. 3. 31 | 平成 13. 4. 1 |
| 米倉迪夫 | 情報資料部長 | 昭和 50. 9. 1～平成 13. 3. 31 | 平成 13. 4. 1 |
| 星野 紘 | 芸能部長 | 平成 10. 4. 1～平成 14. 3. 31 | 平成 14. 4. 1 |
| 平尾良光 | 保存科学部化学研究室長 | 昭和 62. 4. 1～平成 15. 3. 31 | 平成 15. 4. 1 |
| 井手誠之輔 | 協力調整官一情報調整室長 | 昭和 62. 7. 1～平成 16. 3. 29 | 平成 16. 3. 30 |
| 斎藤英俊 | 国際文化財保存修復協力センター長 | 平成 11. 4. 1～平成 16. 3. 30 | 平成 16. 3. 31 |
| 西浦忠輝 | 保存科学部長 | 昭和 50. 7. 1～平成 16. 3. 31 | 平成 16. 4. 1 |
| 鈴木廣之 | 美術部日本東洋美術研究室長 | 昭和 54. 9. 1～平成 17. 11. 30 | 平成 17. 12. 1 |
| 青木繁夫 | 文化遺産国際協力センター長 | 昭和 49. 7. 1～平成 19. 3. 31 | 平成 19. 3. 31 |
| 三浦定俊 | 副所長 | 昭和 48. 8. 1～平成 20. 3. 31 | 平成 20. 4. 1 |
| 鎌倉恵子 | 無形文化遺産部無形文化財研究室長 | 昭和 63. 4. 1～平成 20. 3. 31 | 平成 20. 4. 1 |
| 鈴木規夫 | 所長 | 平成 16. 4. 1～平成 22. 3. 31 | 平成 22. 4. 1 |
| 中野照男 | 副所長 | 平成 4. 4. 1～平成 23. 3. 31 | 平成 23. 4. 1 |
| 清水真一 | 文化遺産国際協力センター長 | 平成 19. 4. 1～平成 23. 3. 31 | 平成 23. 4. 1 |
| 石崎武志 | 副所長 | 平成 8. 12. 1～平成 26. 9. 30 | 平成 26. 10. 1 |
| 田中 淳 | 副所長 | 平成 6. 11. 1～平成 28. 3. 31 | 平成 28. 4. 1 |
| 川野邊涉 | 文化遺産国際協力センター長 | 昭和 63. 10. 1～平成 28. 3. 31 | 平成 28. 4. 1 |
| 岡田 健 | 保存科学研究センター長 | 平成 4. 4. 1～平成 29. 3. 31 | 平成 29. 4. 1 |
| 津田徹英 | 文化財情報資料部長 | 平成 11. 1. 1～平成 30. 3. 31 | 平成 30. 4. 1 |
| 飯島 満 | 無形文化遺産部長 | 平成 16. 4. 16～平成 31. 3. 31 | 平成 31. 4. 1 |
| 中山俊介 | 文化遺産国際協力センター長 | 平成 18. 2. 1～平成 31. 3. 31 | 平成 31. 4. 1 |
| 佐野千絵 | 保存科学研究センター長 | 平成 1. 4. 1～令和 2. 3. 31 | 令和 2. 4. 1 |

5. 2019（令和元）年度予算等

(1) 予算

(単位：千円)

| 事 項 | 予算額 |
|-----------|---------|
| 一般管理費 | 96,274 |
| 基礎研究事業費 | 63,349 |
| 応用研究事業費 | 105,922 |
| 国際遺産保護事業費 | 102,574 |
| 情報公開事業費 | 87,478 |
| 研修協力事業費 | 3,229 |
| 合 計 | 458,826 |

予算とプロジェクトとの対応

文化財情報資料部

| 略番 | 分類項目 | プロジェクト名 | 事業区分 |
|------|----------------------|----------------------------------|---------|
| シ 01 | ①有形・無形の文化財に関する調査研究事業 | 文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究 | 情報公開事業費 |
| シ 02 | ①有形・無形の文化財に関する調査研究事業 | 日本東洋美術史の資料学的研究 | 基礎研究事業費 |
| シ 03 | ①有形・無形の文化財に関する調査研究事業 | 近・現代美術に関する調査研究と資料集成 | 基礎研究事業費 |
| シ 04 | ①有形・無形の文化財に関する調査研究事業 | 美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開 | 基礎研究事業費 |
| シ 05 | ④情報収集・成果公開に関する事業 | 文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 | 情報公開事業費 |
| シ 06 | ④情報収集・成果公開に関する事業 | 専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充 | 情報公開事業費 |
| シ 07 | ⑤刊行物に関する事業 | 平成29年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』 | 情報公開事業費 |
| シ 08 | ④情報収集・成果公開に関する事業 | 平成30年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開） | 情報公開事業費 |

無形文化遺産部

| 略番 | 分類項目 | プロジェクト名 | 事業区分 |
|------|----------------------|----------------------------|-----------|
| ム 01 | ①有形・無形の文化財に関する調査研究事業 | 無形文化財の保存・継承に関する調査研究 | 基礎研究事業費 |
| ム 02 | ①有形・無形の文化財に関する調査研究事業 | 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 | 基礎研究事業費 |
| ム 03 | ③国際協力・交流等に関する事業 | 無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 | 情報公開事業費 |
| ム 04 | ⑤刊行物に関する事業 | 無形文化遺産部出版関係事業 | 情報公開事業費 |
| ム 05 | ③国際協力・交流等に関する事業 | 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集 | 国際遺産保護事業費 |

保存科学研究センター

| 略番 | 分類項目 | プロジェクト名 | 事業区分 |
|------|-----------------|-------------------------|---------|
| ホ 01 | ②保存修復に関する調査研究事業 | 文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究 | 応用研究事業費 |
| ホ 02 | ②保存修復に関する調査研究事業 | 保存と活用のための展示環境の研究 | 応用研究事業費 |
| ホ 03 | ②保存修復に関する調査研究事業 | 文化財の材質・構造・状態調査に関する研究 | 応用研究事業費 |
| ホ 04 | ②保存修復に関する調査研究事業 | 屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究 | 応用研究事業費 |
| ホ 05 | ②保存修復に関する調査研究事業 | 文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究 | 応用研究事業費 |
| ホ 06 | ②保存修復に関する調査研究事業 | 近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究 | 応用研究事業費 |
| ホ 07 | ⑤刊行物に関する事業 | 『保存科学』第58号の出版 | 情報公開事業費 |
| ホ 08 | ⑥指導助言・研修等に関する事業 | 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 | 研修協力事業費 |

文化遺産国際協力センター

| 略番 | 分類項目 | プロジェクト名 | 事業区分 |
|-----|------------------|-------------------------|-----------|
| コ01 | ④情報収集・成果公開に関する事業 | 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 | 情報公開事業費 |
| コ02 | ③国際協力・交流等に関する事業 | アジア諸国等文化遺産保存修復協力 | 国際遺産保護事業費 |
| コ03 | ③国際協力・交流等に関する事業 | 保存修復技術の国際的応用に関する研究 | 国際遺産保護事業費 |
| コ04 | ③国際協力・交流等に関する事業 | 在外日本古美術品保存修復協力事業 | 国際遺産保護事業費 |
| コ05 | ③国際協力・交流等に関する事業 | 国際研修 | 国際遺産保護事業費 |

(2) 科学研究費助成事業交付一覧

(単位：千円)

| 研究課題 | 研究代表者 | 交付額 |
|--|-----------------|---------|
| 基盤研究 (B) | | |
| 対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に— | 小林公治 | 2,730 |
| 日本美術の記録と評価についての研究—美術作品調書の保存活用 | 江村知子 | 8,840 |
| 絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査 | 早川典子 | 10,270 |
| 基盤研究 (B) 海外 | | |
| ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立 | 前川佳文 | 3,120 |
| 基盤研究 (C) | | |
| 黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現— | 大河原典子 | (589) |
| 徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究 | 小野真由美 | (1,019) |
| ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究 | 安倍雅史 | 1,430 |
| 常磐津節の音楽分析のための基盤研究 | 前原恵美 | 1,170 |
| 江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究 | 安永拓世 | 1,300 |
| ポスト1968年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として | 橘川英規 | 1,690 |
| DNA 塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築 | 佐藤嘉則 | 1,170 |
| 博物館 IPM への ATP 拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究 | 間渕創 | 1,300 |
| 白色 LED 光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制 | 吉田直人 | 650 |
| 鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究 | 朽津信明 | 1,950 |
| 挑戦的研究 (萌芽) | | |
| 紙本屏風の規格と表現・技法の研究 | 江村知子 | 1,430 |
| 若手研究 (B) | | |
| 紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発 | 貴田啓子 | (460) |
| イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究 | 山田大樹 | (163) |
| 若手研究 | | |
| マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究 | 五木田まきは | 1,040 |
| 伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究 | マルチネス アレハンドロ | 910 |
| 中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究 | 米沢玲 | 780 |
| セルロースナノファイバーによる紙質文化財クリーニング手法の開発 | 貴田啓子 | 2,470 |
| 木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案 | 古田嶋智子 | 1,950 |
| 古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化 | 宇高健太郎 | 1,560 |
| 研究活動スタート支援 | | |
| 近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究 | 金井健 | 1,040 |
| 歴史的煉瓦造建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明 | 水谷悦子 | 1,430 |

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

| 研究課題 | 研究代表者 | 交付額 |
|----------------------|-------|-------|
| 研究成果公開促進費 | | |
| SAT 大正新脩大藏經 画像データベース | 津田徹英 | 4,500 |

(3) 受託調査研究一覧

(単位：千円)

| 研究課題 | 依頼元 | 研究担当者 | 契約総額 |
|--|------------------|-------|--------|
| 文化遺産国際協力コンソーシアム事業 | 文化庁 | 友田正彦 | 43,989 |
| 文化遺産国際協力拠点交流事業 「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」 | 文化庁 | 友田正彦 | 19,329 |
| 文化遺産国際協力拠点交流事業 「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」 | 文化庁 | 金井健 | 9,341 |
| 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務 | 文化庁 | 佐野千絵 | 35,625 |
| 特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務 | 文化庁 | 佐野千絵 | 18,671 |
| 「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」 運営実施業務 | 文化庁 | 加藤雅人 | 24,316 |
| 「美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業」実施業務 | 文化庁 | 早川典子 | 4,039 |
| 被災資料有害物質発生状況調査業務 | 陸前高田市 | 佐野千絵 | 3,521 |
| シルクロードが結ぶ友情プロジェクト シリア人専門家研修 (歴史的都市及び建築物の復興に向けた調査計画手法) | 奈良県立 橿原考古学研究所 | 安倍雅史 | 3,000 |
| 遺産影響評価のための世界遺産と開発事案等の関係に関する基 礎調査 | 株式会社 三菱総合研究所 | 西和彦 | 1,500 |

(4) 共同研究等一覧

(単位：千円)

| 研究課題 | 相手先 | 研究担当者 | 金額 |
|---|-------------------------|-------|---------|
| 文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究 | 一般社団法人国宝修理装飾師連盟 | 早川典子 | 150 |
| 二国間交流事業共同研究・セミナー「浮世絵版画の染料 同定と摺り技術解明」 | 独立行政法人日本学術振興会 | 貴田啓子 | 980 |
| 航空資料保存の研究 | 一般財団法人日本航空協会 | 早川泰弘 | 400 |
| Getty・リサーチポータルへのデジタル資料の提供・ 公開 | The J. Paul Getty Trust | 江村知子 | 4,741 |
| | | | (9,919) |

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

(5) 助成金一覧

(単位：千円)

| 研究課題 | 助成元 | 研究代表者 | 助成額 |
|---|--------------------------|-------|-------|
| バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復 | 公益財団法人住友財団 | 前川佳文 | 3,500 |
| 日本の伝統的な笛の演奏と竹素材の特性に関する研究 | 公益財団法人 花王芸術・科学財団 | 前原恵美 | 500 |
| 小山真由美著『南蛮漆器考一時代の遺品と記録一 天正・慶長 遣欧使節の時代』の英訳事業 | 公益財団法人 東芝国際交流財団 | 小林公治 | 1,500 |
| 外国人研究者招致 (2019年10月6日～10月12日 パオロ・クレモネージ氏) | 公益財団法人文化財保 護・芸術研究助成財団 | 早川典子 | 350 |

| | | | |
|--|----------------------------|------|-----|
| Micro Slurry-jet Erosion 試験による漆塗膜の硬度比較に関する研究 | 京都市・山本文二郎漆科学 学研究助成事業委員会 | 倉島玲央 | 250 |
| 日本の伝統的な管楽器の演奏と竹材の特性に関する研究 | 公益財団法人ポーラ伝統 文化振興財団 | 前原恵美 | 300 |
| 旧和宇慶家墓の人文学的調査研究 | 琉球大学島嶼地域科学研 究所個人型共同利用 | 牛窪彩絢 | 150 |

(6) 寄付金一覧

(単位：千円)

| 研究課題 | 寄付者 | 担当部局 | 受入額 |
|---|---------------|------------------|-------|
| 東京文化財研究所における研究事業の助成 | 株式会社東京美術倶楽部 | 文化財情報資料部 | 1,000 |
| 東京文化財研究所における研究成果の公表(出版事業) | 東京美術商協同組合 | 文化財情報資料部 | 1,000 |
| 「各国の文化財保護法法令シリーズ [23] ポーランド」 の出版への助成 | ポーランド広報文化センター | 文化遺産国際協力 センター | 149 |

年度内主要事業一覧

| 期 日 | 事 業 名 |
|------------------------|---|
| 31年4月13日 | 国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるためにー歴史教育を通じた戦後イラクの復興への挑戦」 |
| 31年4月22日 | 独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会 |
| 1年5月9日 | 湿度制御温風殺虫処理に関する専門家研究集会 |
| 1年5月11日~12日 | 東京シシマイコレクション2020プレ(東京国立博物館) |
| 1年5月30日 | 独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会(東京国立博物館) |
| 1年6月11日~15日 | 研修「壁画保存に向けた応急処置方法の検討と実施」(トルコ・聖テオドラ(タガール)教会) |
| 1年6月21日 | 文化財防災に関する研究協議会 |
| 1年6月24日 | 「ブータンの歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」に係る専門家会合 |
| 1年7月8日~19日 | 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 |
| 1年7月11日~27日 | ワークショップ「壁画を有する煉瓦造寺院外壁の保存修復」「壁画保存修復」(ミャンマー宗教文化省考古・国立博物館局バガン支局) |
| 1年7月23日 | ミニシンポジウム「戦後日本美術アーカイブズの研究活用に向けてー松澤宥アーカイブを例に」 |
| 1年7月24日 | 文化遺産国際協力コンソーシアム第25回研究会「文化遺産保護の国際動向ー世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産ー」 |
| 1年7月24日 ~8月6日 | シリア人専門家研修「歴史的都市および建造物の復興に向けた調査計画手法」 |
| 1年7月29日~30日 | 国際集会「日本絵画の修復」(ポーランド・日本美術技術博物館 Manggha) |
| 1年8月14日~16日 19日~23日 | ワークショップ「染織品の保存と修復」(国立臺灣師範大學文物保存維護研究發展中心) |
| 1年9月8日 | 第4回箕の研究会 |
| 1年9月9日~27日 | 国際研修「紙の保存と修復」 |
| 1年9月10日 | 国際シンポジウム「博物館とその周辺のエジプト学研究的の最前線」 |
| 1年9月20日 | 世界遺産研究協議会「遺産影響評価とは何か」 |
| 1年10月7日~10日 | 国際研修「染織文化遺産保存修復ワークショップ」(アルメニア・エチミアジン大聖堂、同国歴史文化遺産科学研究センター) |
| 1年10月8日~10日 | 文化財修復処置に関するワークショップ ーゲルを使用した修復処置ー |

| 期 日 | 事 業 名 |
|---------------------|---|
| 1年10月11日 | 文化財修復処置に関する研究会 ークリーニングとゲルの利用についてー |
| 1年10月30日 ～11月13日 | 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」(メキシコ・CNCPC-INAH) |
| 1年11月1日～2日 | 第53回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」 |
| 1年11月25日～29日 | 博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修 |
| 1年12月1日 | 文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産の意図的な破壊一人はなぜ本を焼くのか」(政策研究大学院大学 想海樓ホール) |
| 1年12月2日 | 文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー |
| 1年12月2日～6日 | ワークショップ「漆工品の保存と修復」(ドイツ・ケルン市博物館東洋美術館) |
| 1年12月17日～18日 | 国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望ー持続可能な社会にむけて |
| 1年12月19日 | 令和元年度防災ネットワーク推進事業研修会「北海道における文化財防災を考える」(北海道立近代美術館) |
| 1年12月20日 | 第14回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産の新たな活用を求めて」 |
| 2年1月5日 | カトマンズ及びカブレ盆地の歴史的集落保全に関する第3回市長会議 (ネパール・キルティプル市) |
| 2年1月16日 | 「伝統民家の保存と活用に関するワークショップ」(ブータン内務文化省文化局) |
| 2年1月18日 | 東京シシマイフォーラム (東京シシマイコレクション2020プレ) |
| 2年1月31日 | 国際シンポジウム「アラビア半島の考古学ーオーストリア隊と日本隊の最新の成果から」 |
| 2年1月31日 | 文化遺産国際協力コンソーシアム第26回研究会「文化遺産とSDGs IIー世界では、いま何が語られているのか」(JPタワー ホール&カンファレンス) |
| 2年2月6日 | 第13回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「染織技術を支える草津のわざ 青花紙ー花からつくる青色ー」 |
| 2年2月6、14、21日 | 「無形文化遺産の防災」連絡会議 |

※東京文化財研究所での開催の場合、開催場所の表記を省略

3. 東京文化財研究所関係事業索引

凡 例

- (1) この索引は、令和元年度に東京文化財研究所が実施したすべての事業を、財源の種類を問わず網羅している。
 (2) 事業は五十音順に配列し、各事業名称の末尾に次の略号を付すとともに、掲載頁を示した。

| | |
|-----------------|-------|
| 運営費交付金によるプロジェクト | 【交付】 |
| 科学研究費助成事業 | 【科研】 |
| 受託調査研究 | 【受託】 |
| 共同研究 | 【共同】 |
| 助成金 | 【助成】 |
| その他の調査研究 | 【その他】 |

| | | | |
|---|---|-------------------|-----|
| あ | アジア諸国等文化遺産保存修復協力 | 【交付】 | 49 |
| | 遺産影響評価のための世界遺産と開発事案等の関係に関する基礎調査 | 【受託】 | 120 |
| | イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究 | 【科研】 | 98 |
| | 江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究 | 【科研】 | 89 |
| | 屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究 | 【交付】 | 44 |
| か | 絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査 | 【科研】 | 83 |
| | 外部資金等による研究活動の成果公開 | 【科研・受託・共同・助成・その他】 | 134 |
| | 旧和宇慶家墓の人文的調査研究 | 【助成】 | 131 |
| | 近現代建造物に適應した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究 | 【科研】 | 105 |
| | 近・現代美術に関する調査研究と資料集成 | 【交付】 | 37 |
| | 近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究 | 【交付】 | 46 |
| | 黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現— | 【科研】 | 85 |
| | ゲッティ・リサーチポータルへのデジタル資料の提供・公開 | 【共同】 | 123 |
| | 航空資料保存の研究 | 【共同】 | 122 |
| | 国際研修 | 【交付】 | 52 |
| | 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務 | 【受託】 | 114 |
| | 古典的膠の製造方法及と各用途適性の体系化 | 【科研】 | 104 |
| | 小山真由美著『南蛮漆器考—天正・慶長遣欧使節の時代の遺品と記録』の英訳事業 | 【助成】 | 127 |
| さ | SAT大正新脩大藏經 圖像データベース | 【科研】 | 107 |
| | 在外日本古美術品保存修復協力事業 | 【交付】 | 51 |
| | ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究 | 【科研】 | 87 |
| | 紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発 | 【科研】 | 97 |
| | 鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究 | 【科研】 | 94 |
| | 紙本屏風の規格と表現・技法の研究 | 【科研】 | 95 |
| | シルクロードが結ぶ友情プロジェクト シリア人専門家研修 | 【受託】 | 119 |
| | セルロースナノファイバーによる紙質文化財クリーニング手法の開発 | 【科研】 | 102 |
| | 専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充 | 【交付】 | 55 |
| た | 対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に— | 【科研】 | 81 |
| | 中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究 | 【科研】 | 101 |
| | DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築 | 【科研】 | 91 |
| | 伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究 | 【科研】 | 100 |
| | 東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進 | 【交付】 | 75 |
| | 『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』 | 【交付】 | 68 |
| | 常磐津節の音楽分析のための基盤研究 | 【科研】 | 88 |
| | 徳川將軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究 | 【科研】 | 86 |

| | | | |
|---|--|-------|-----|
| | 特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務 | 【受託】 | 115 |
| な | 二国間交流事業共同研究・セミナー「浮世絵版画の染料同定と摺り技術解明」 | 【共同】 | 124 |
| | 日本東洋美術史の資料学的研究 | 【交付】 | 36 |
| | 日本美術の記録と評価についての研究－美術作品調書の保存活用 | 【科研】 | 82 |
| | 日本美術の魅力（在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展） | 【その他】 | 134 |
| | 日本の伝統的な管楽器の演奏と竹材の特性に関する研究 | 【助成】 | 130 |
| | 日本の伝統的な笛の演奏と竹素材の特性に関する研究 | 【助成】 | 126 |
| は | バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復 | 【助成】 | 125 |
| | 白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制 | 【科研】 | 93 |
| | 博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究 | 【科研】 | 92 |
| | 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 | 【交付】 | 71 |
| | 被災資料有害物質発生状況調査業務 | 【受託】 | 118 |
| | 美術館・博物館等の環境調査と援助・助言 | 【交付】 | 74 |
| | 「美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業」運営実施業務 | 【受託】 | 117 |
| | 美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開 | 【交付】 | 38 |
| | プロジェクトの一環として刊行された刊行物 | 【交付】 | 68 |
| | プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等 | 【交付】 | 59 |
| | 文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」 | 【受託】 | 112 |
| | 文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」 | 【受託】 | 113 |
| | 文化遺産国際協力コンソーシアム事業 | 【受託】 | 111 |
| | 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 | 【交付】 | 58 |
| | 文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究 | 【共同】 | 121 |
| | 文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究 | 【交付】 | 45 |
| | 文化財修復処置に関するワークショップ－ゲルやエマルジョンを使用したクリーニング方法－ | 【助成】 | 128 |
| | 文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 | 【交付】 | 53 |
| | 文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究 | 【交付】 | 35 |
| | 文化財の材質・構造・状態調査に関する研究 | 【交付】 | 43 |
| | 文化財の材質・構造に関する調査・助言 | 【交付】 | 74 |
| | 文化財の収集・保管に関する指導助言 | 【交付】 | 71 |
| | 文化財の修復及び整備に関する調査・助言 | 【交付】 | 73 |
| | 文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究 | 【交付】 | 41 |
| | 文化財の虫菌害に関する調査・助言 | 【交付】 | 72 |
| | 文化財防災ネットワーク推進事業 | 【その他】 | 132 |
| | 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 【交付】 | 47 |
| | 平成31年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開） | 【交付】 | 56 |
| | 平成30年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』 | 【交付】 | 67 |
| | ポスト1968年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として | 【科研】 | 90 |
| | 『保存科学』第59号の出版 | 【交付】 | 67 |
| | 保存修復技術の国際的応用に関する研究 | 【交付】 | 50 |
| | 保存と活用のための展示環境の研究 | 【交付】 | 42 |
| | ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立 | 【科研】 | 84 |
| | 「ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業」運営実施業務 | 【受託】 | 116 |
| ま | Micro Slurry-jet Erosion 試験による漆塗膜の硬度比較に関する研究 | 【助成】 | 129 |
| | マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究 | 【科研】 | 99 |
| | 無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 | 【交付】 | 57 |
| | 無形文化遺産に関する助言 | 【交付】 | 72 |
| | 無形文化遺産部出版関係事業 | 【交付】 | 67 |
| | 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集 | 【交付】 | 48 |
| | 無形文化財の保存・継承に関する調査研究 | 【交付】 | 39 |
| | 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 | 【交付】 | 40 |
| | 木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案 | 【科研】 | 103 |
| ら | 歴史的煉瓦造建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明 | 【科研】 | 106 |

独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所年報 2019

発行日：2020年9月30日

発行所：独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所

〒110-8713
東京都台東区上野公園13-43

TEL 03-3823-2241 (番号案内)
FAX 03-3828-2434
<https://www.tobunken.go.jp/>
info@tobunken.go.jp

編集：文化財情報資料部

制作：CURIO EDITORS STUDIO (柴田 卓)

印刷：よしみ工産株式会社

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage
Tokyo National Research Institute for Cultural Properties

ANNUAL REPORT 2019

Issued on 30 September, 2020

Published by Tokyo National Research Institute for Cultural Properties
13-43, Uenokoen, Taito-ku, Tokyo 110-8713, JAPAN

Edited by Department of Art Research, Archives and Information Systems

Designed and DTP by Curio Editors Studio (SHIBATA Takashi)

Printed by Yoshimi Kohsan Corporation

© Tokyo National Research Institute for Cultural Properties, 2020